

大和郡山市
誰もが暮らしやすい社会づくりに向けた
アンケート

報告書

令和7年2月

大和郡山市

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収結果	1
4. 報告書の見方	1
5. 標本誤差について	2
II 調査結果	3
1. 回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) 職業	4
2. 社会についての考え方	7
3. 自己イメージ	12
4. 人権が身近に感じる程度	17
5. 人権や差別をめぐる考え方について	19
6. ここ5～6年の間の日本での人権侵害における変化	28
7. 人権侵害の経験	30
7-1. 人権侵害された事由	32
7-2. 人権侵害への対応	37
7-3. 人権侵害された時の相談相手	40
7-4. 人権侵害されたときに無視、我慢、逃げた理由	42
8. 住宅を選ぶ際にさける条件	45
9. 子どもの結婚相手として重視するもの	50
10. 子どもの結婚相手や親が次のような人であった場合の態度	58
11. 入居拒否に対する意見	66
12. 人権に関する条約・法律・制度の認知	71
13. 人権に対する考え方	81
14. 有名人が在日外国人であると暴露する書き込みについて	92
15. 同和地区の所在地リストの掲載について	94
16. インターネットでの人権が守られるために必要なこと	96
17. 同和問題や人権問題の学習経験	100
18. 人権問題に関するイベント等参加経験	103
18-1. 人権問題に関するイベント等に参加した感想	105
18-2. 人権問題に関するイベント等に参加していない理由	107
19. 人権問題についての情報収集や学習のために利用するもの	109
20. 人権尊重社会をつくるための取り組みについて	112

I 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、平成18年(2006年)3月に策定した「大和郡山市人権施策に関する基本計画」(以下、「現計画」という)に基づいた取組の状況を踏まえ、現計画の課題等を整理し、本市の人権問題に関する市民の意識の状況や変化などを把握し、新計画「大和郡山市人権施策に関する基本計画(第2次)」策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

2. 調査設計

- (1) 調査対象者 : 市内在住の18歳以上の市民3,000人
- (2) 標本抽出法 : 住民基本台帳より無作為抽出法
- (3) 調査方法 : 郵送配布・郵送・WEB回収
- (4) 調査期間 : 令和6年(2024年)10月11日(金)～11月11日(月)

3. 回収結果

発送数	返送数 ^{※1}	有効回収数 ^{※2}		有効回収率
		郵送回答	WEB回答	
3,000	10	1,069	237	35.6%

※1 返送数は、転居先不明などにより返ってきた件数です。

※2 有効回収数は、無効票(白票等)を除いた回収数です。

4. 報告書の見方

- 回答は、各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示し、小数点第2位を四捨五入しました。(比率の合計が100.0%にならない場合があります。)
- 図表上の「MA%」という表記は複数回答(Multiple Answerの略)の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答(Limited Answerの略)の意味です。
- コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合があります。
- 選択肢「その他」については比較の対象から除外しています。
- 回答者数(n)が30人未満の場合、母数が少ないことから一概に適正な比率とは言えないため注意が必要です。
- 文章中またはグラフ内の凡例で「奈良県」「奈良県調査」とあるのは、平成29年度(2017年度)に奈良県が実施した「人権に関する県民意識調査」のことです。

対象者	配布数	有効回答数	有効回答率
奈良県在住の満18歳以上の男女	3,000	1,219	40.6%

5. 標本誤差について

本調査は、標本調査（層化無作為抽出）であるため、統計上の誤差「標本誤差」が生じます。この標本誤差は、有効回答数と得られた結果の比率によって異なりますが、信頼度95%における誤差は次表のとおりです。

≪信頼度95%の場合≫

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \times \sqrt{\frac{p(100-p)}{n}}$$

n = 有効回答者数 (1,069人)、p = 回答比率

【表 信頼度95%における主要な%の信頼区間1 / 2幅】

	n \ p(%)	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50
		95	90	85	80	75	70	65	60	55	50
総数	1,069	1.3	1.8	2.2	2.4	2.6	2.8	2.9	3.0	3.0	3.1
<性別>											
男性	447	2.1	2.8	3.4	3.8	4.1	4.3	4.5	4.6	4.7	4.7
女性	545	1.9	2.6	3.1	3.4	3.7	3.9	4.1	4.2	4.3	4.3
<年齢別>											
10・20歳代	96	4.4	6.1	7.3	8.2	8.8	9.4	9.7	10.0	10.2	10.2
30・40歳代	248	2.8	3.8	4.5	5.1	5.5	5.8	6.1	6.2	6.3	6.4
50・60歳代	339	2.4	3.3	3.9	4.3	4.7	5.0	5.2	5.3	5.4	5.4
70歳以上	341	2.4	3.2	3.9	4.3	4.7	5.0	5.2	5.3	5.4	5.4

※属性別の「無回答」は数表から除いているため、合計は総数と一致しません。

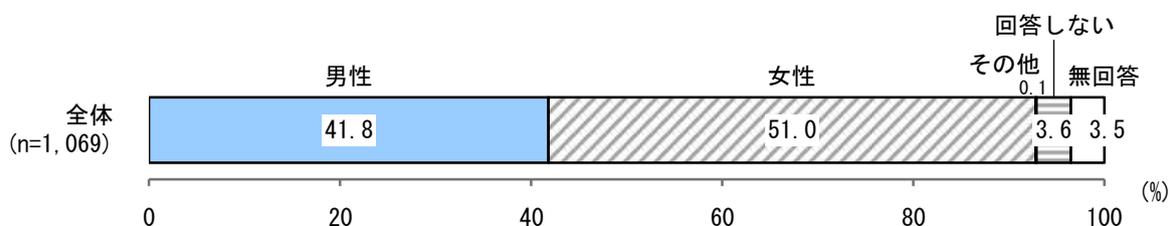
標本誤差の利用法について例示すると、たとえば、「A」という選択肢を選んだ回答者が20.0%だったとすると、「20（または80）」の列と「総数」の行が交差する欄をみると“2.4”となっています。このことから「A」と答える人の母集団値は20.0%±2.4%、すなわち17.6%から22.4%の間であることが信頼度95%（この種の調査を100回行えば95回はこの範囲に収まるという精度）と推定できます。

Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

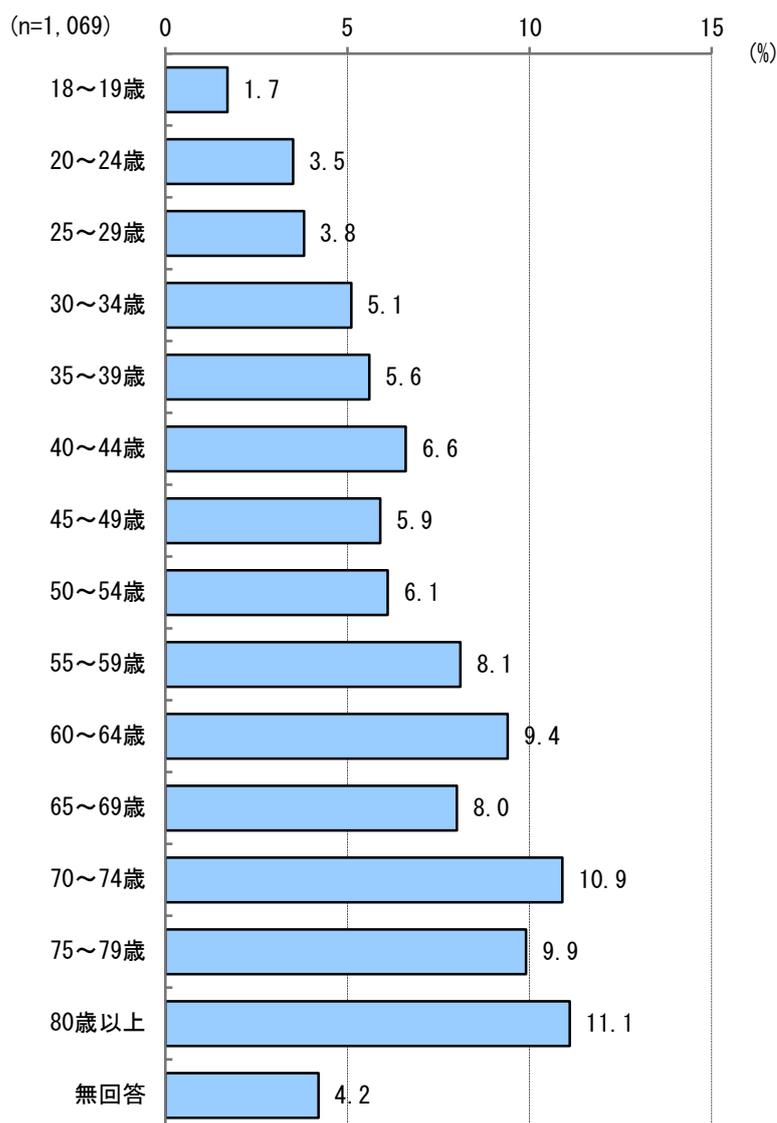
(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が41.8%、「女性」が51.0%となっています。



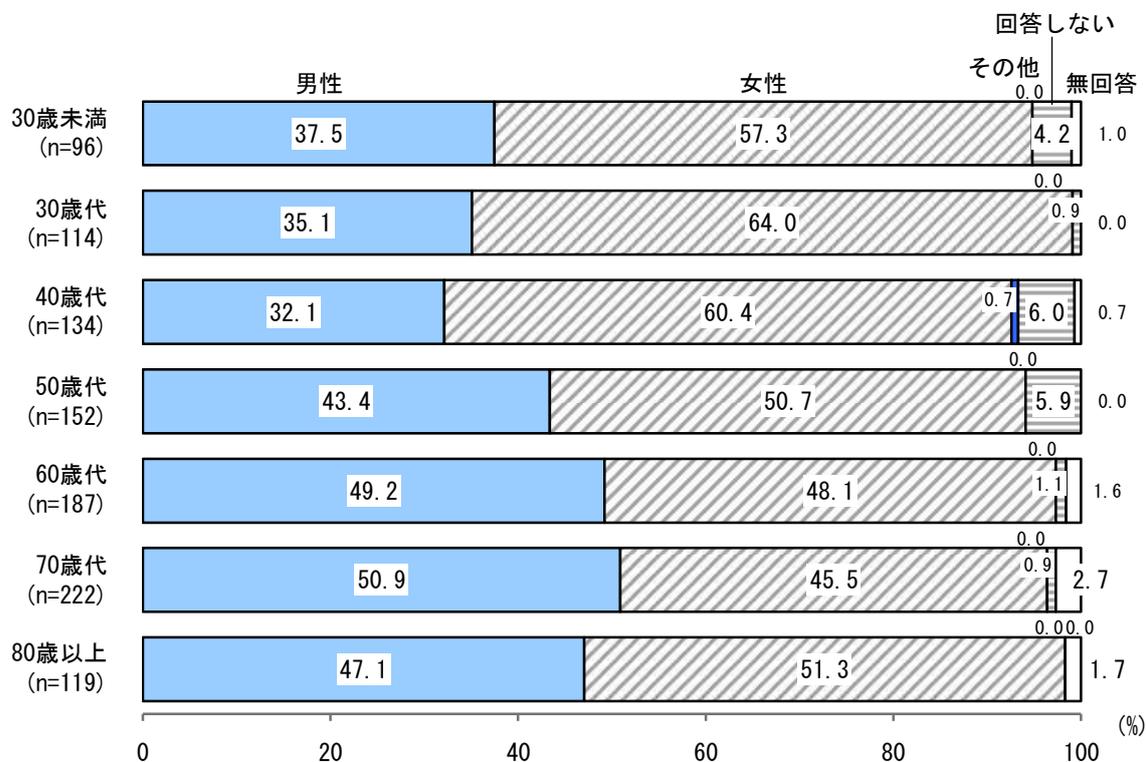
(2) 年齢

回答者の年齢は、「80歳以上」が11.1%で最も多く、次いで「70～74歳」が10.9%、「75～79歳」が9.9%となっています。



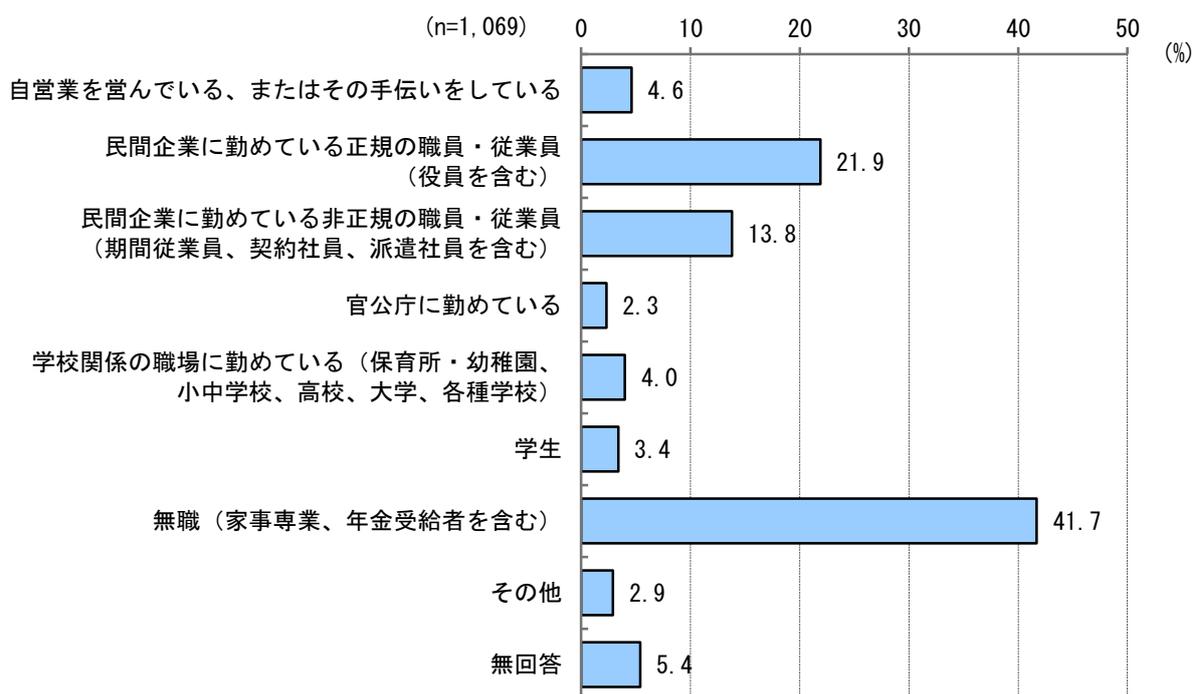
【年齢別 性別】

年齢別に性別をみると、60歳代、70歳代は「女性」より「男性」のほうが多くなっていますが、それ以外の年齢は「女性」のほうが多くなっています。



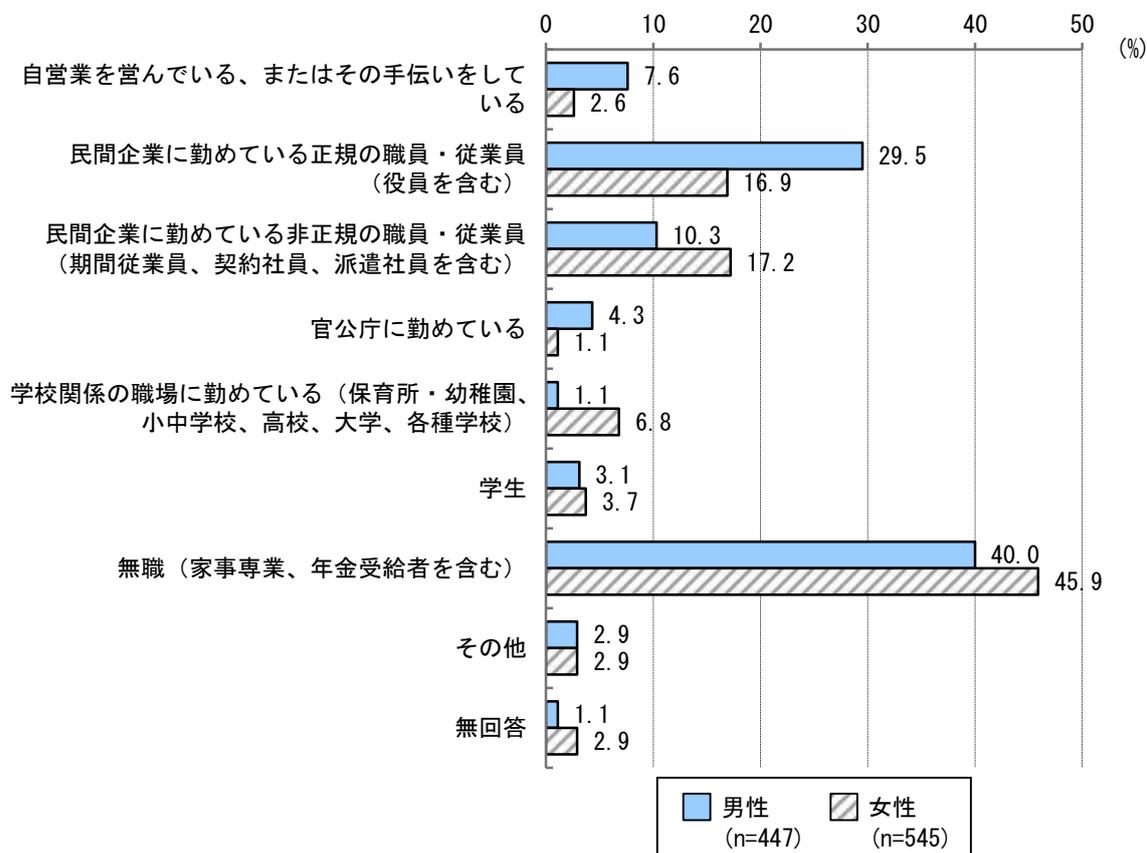
(3) 職業

職業は、「無職（家事専業、年金受給者を含む）」が41.7%で最も多く、次いで「民間企業に勤めている正規の職員・従業員（役員を含む）」が21.9%、「民間企業に勤めている非正規の職員・従業員（期間従業員、契約社員、派遣社員を含む）」が13.8%となっています。



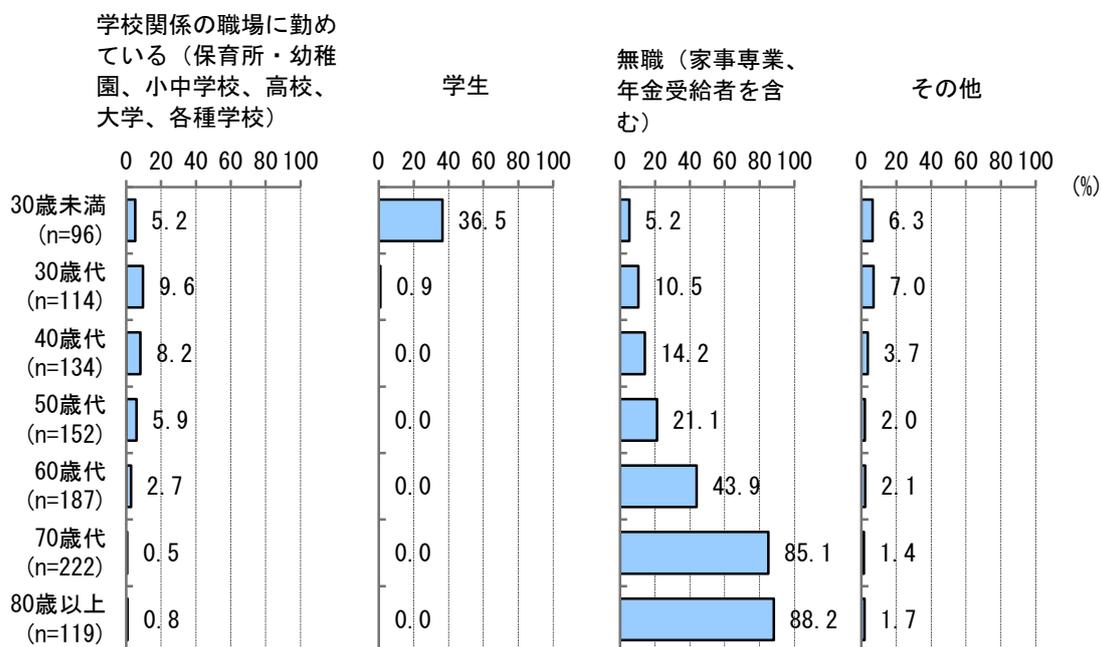
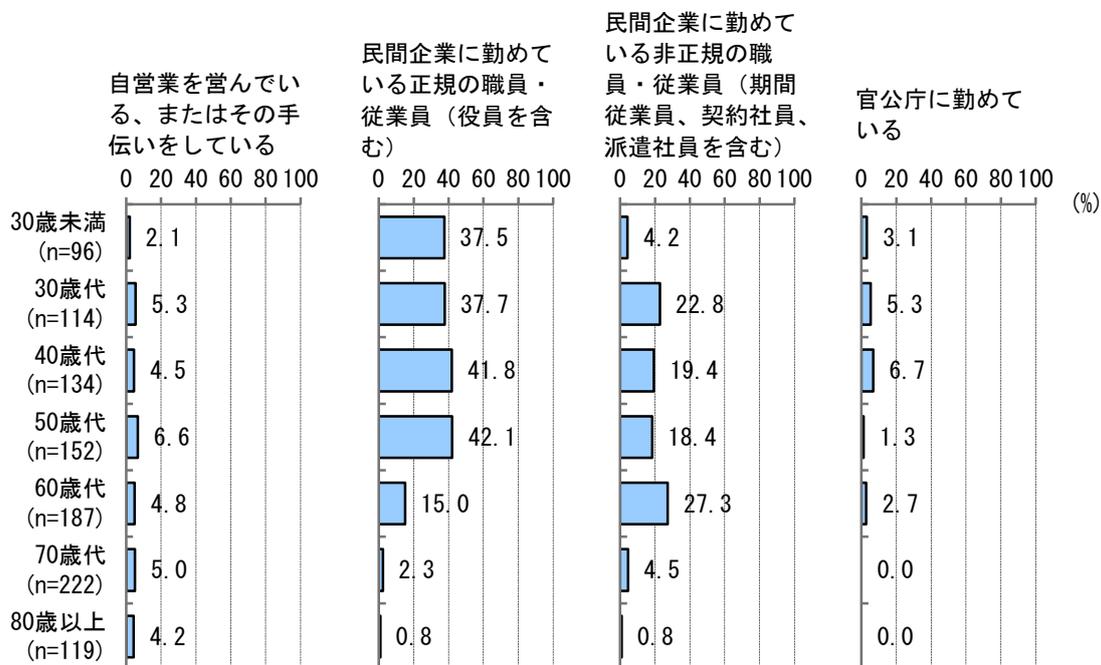
【性別】

性別でみると、男女とも「無職（家事専業、年金受給者を含む）」が最も多く、「民間企業に勤めている正規の職員・従業員（役員を含む）」は女性（16.9%）より男性（29.5%）のほうが12.6ポイント高くなっています。



【年齢別】

年齢別でみると、50歳代までの年代は「民間企業に勤めている正規の職員・従業員（役員を含む）」が4割前後で最も多く、60歳代以上の年代は「無職（家事専業、年金受給者を含む）」が4割以上で最も多くなっています。

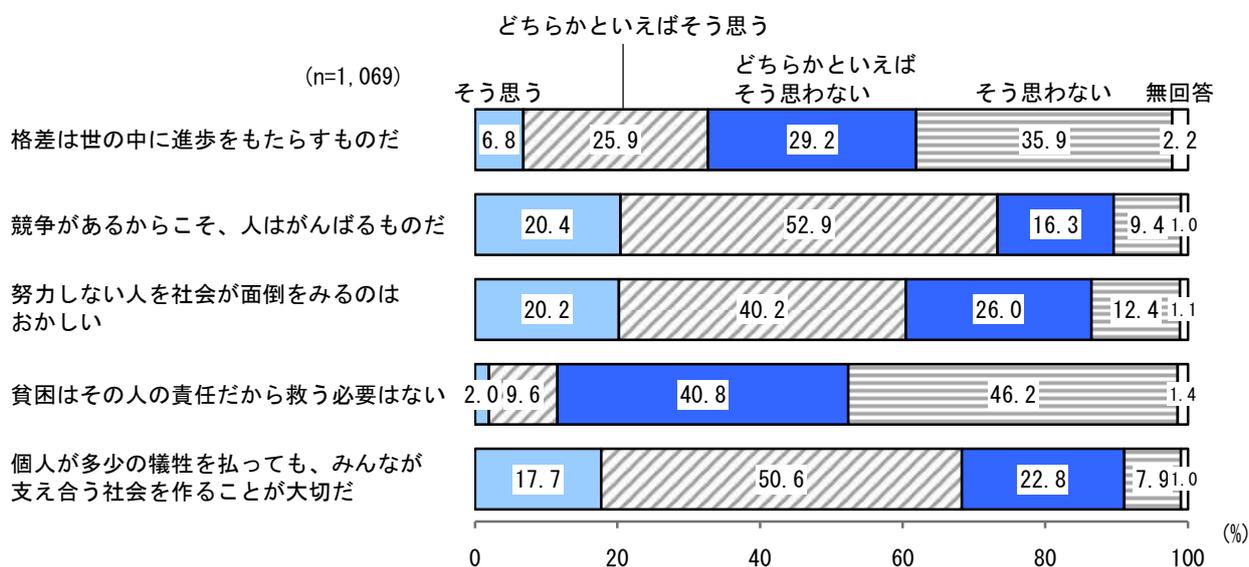


2. 社会についての考え方

問1 今の社会について次のような意見がありますが、あなたはどのように思いますか。
あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

今の社会についての考えをたずねたところ、「そう思う」は“競争があるからこそ、人はがんばるものだ”が20.4%で最も割合が高く、次いで“努力しない人を社会が面倒をみるのはおかしい”が20.2%となっており、「どちらかといえばそう思う」をあわせた『そう思う』は、“競争があるからこそ、人はがんばるものだ”が73.3%で最も高く、次いで“個人が多少の犠牲を払っても、みんなが支え合う社会を作ることが大切だ”が68.3%となっています。

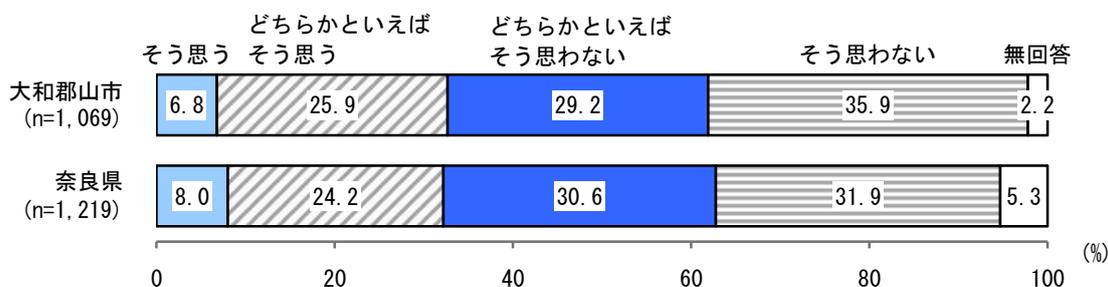
一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた『そう思わない』は“貧困はその人の責任だから救う必要はない”が87.0%で最も高く、次いで“格差は世の中に進歩をもたらすものだ”が65.1%となっています。



【奈良県との比較】

■ 格差は世の中に進歩をもたらすものだ

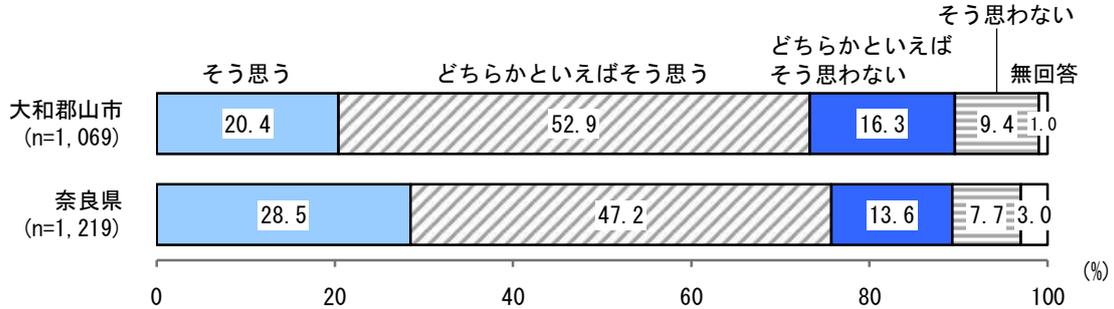
『そう思わない』の割合は、奈良県（62.5%）より2.6ポイント高くなっています。



【奈良県との比較】

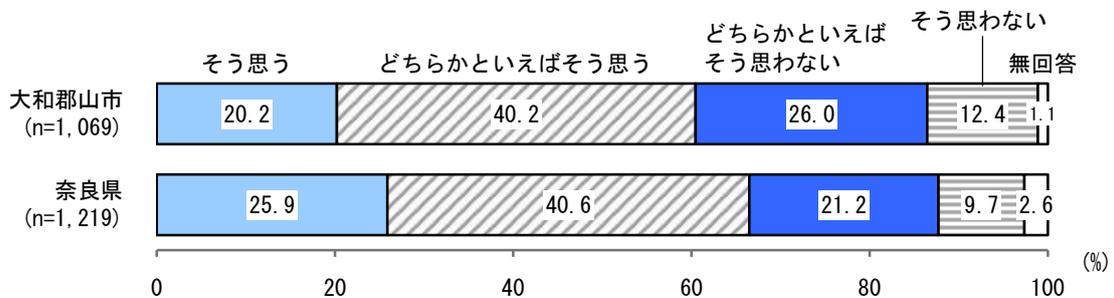
■競争があるからこそ、人はがんばるものだ

『そう思わない』の割合は、奈良県（21.3%）より4.4ポイント高くなっています。



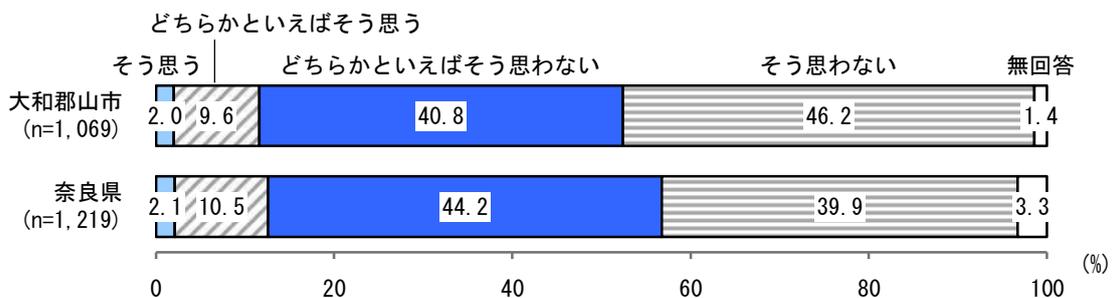
■努力しない人を社会が面倒をみるのはおかしい

『そう思う』の割合は、奈良県（66.5%）より6.1ポイント低くなっています。



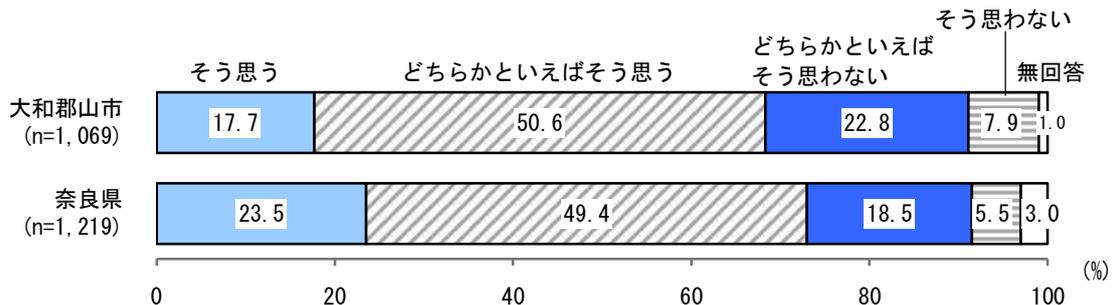
■貧困はその人の責任だから救う必要はない

『そう思わない』の割合は、奈良県（84.1%）より2.9ポイント高くなっています。



■個人が多少の犠牲を払っても、みんなが支え合う社会を作ることが大切だ

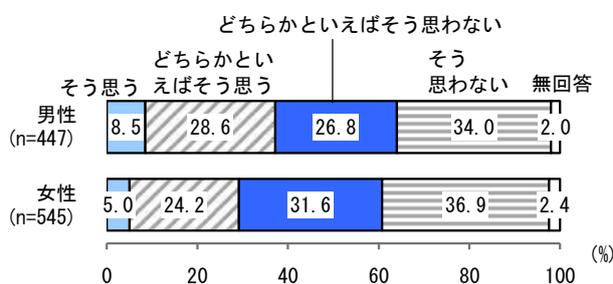
『そう思わない』の割合は、奈良県（24.0%）より6.7ポイント高くなっています。



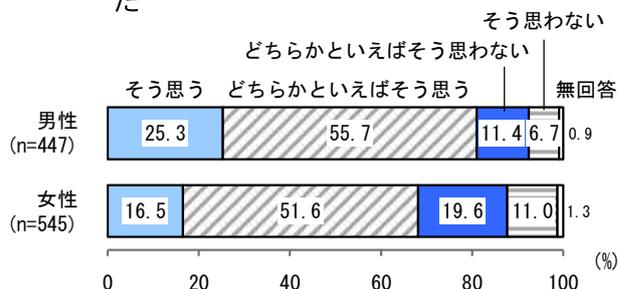
【性別】

性別でみると、『そう思う』の割合は、いずれも女性より男性のほうが高くなっています。

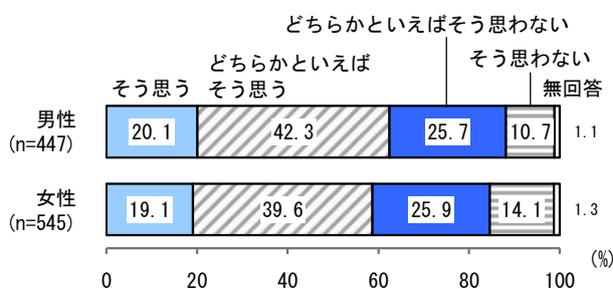
■格差は世の中に進歩をもたらすものだ



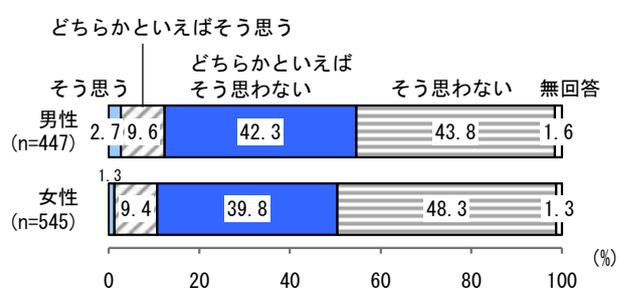
■競争があるからこそ、人はがんばるものだ



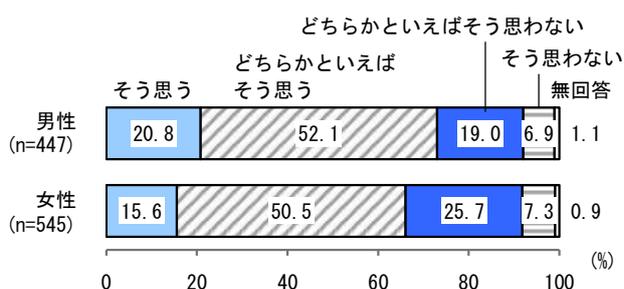
■努力しない人を社会が面倒をみるのはおかしい



■貧困はその人の責任だから救う必要はない



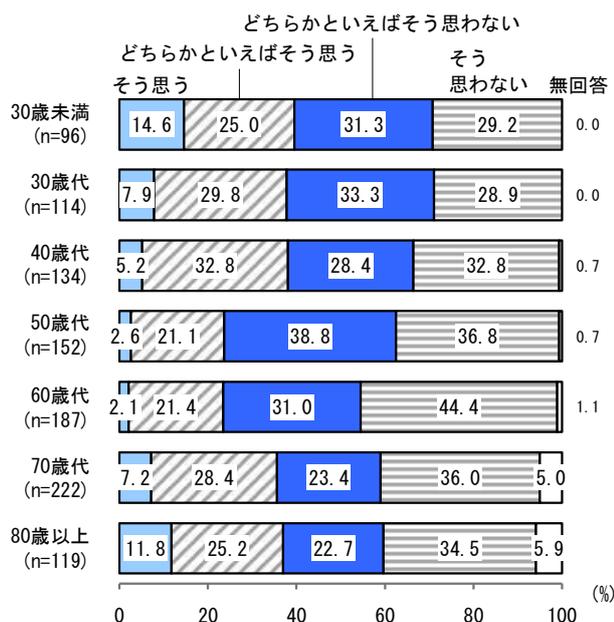
■個人が多少の犠牲を払っても、みんなが支え合う社会を作ることが大切だ



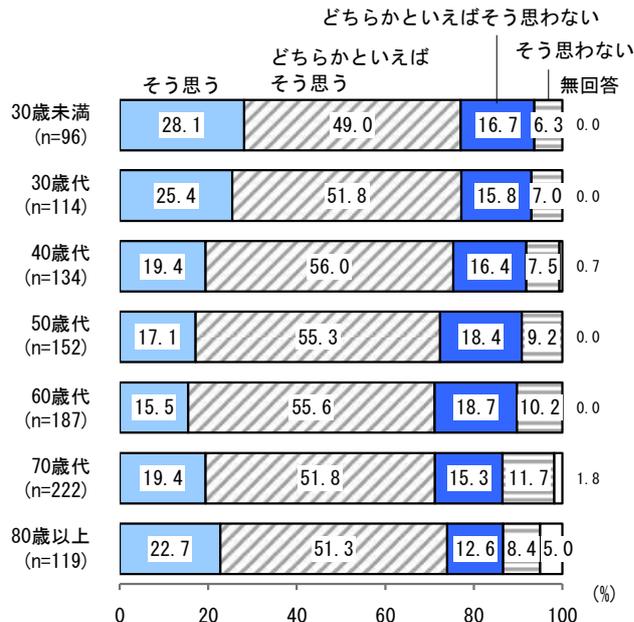
【年齢別①】

年齢別でみると、『そう思う』の割合は、“格差は世の中に進歩をもたらすものだ”、“努力しない人を社会が面倒をみるのはおかしい”では30歳未満で最も高く、“個人が多少の犠牲を払っても、みんなが支え合う社会を作ることが大切だ”では70歳代、80歳以上で7割台と高くなっています。

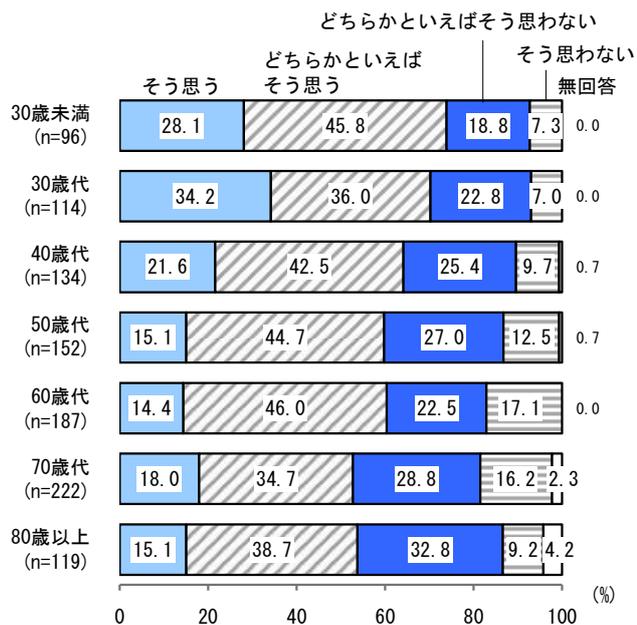
■格差は世の中に進歩をもたらすものだ



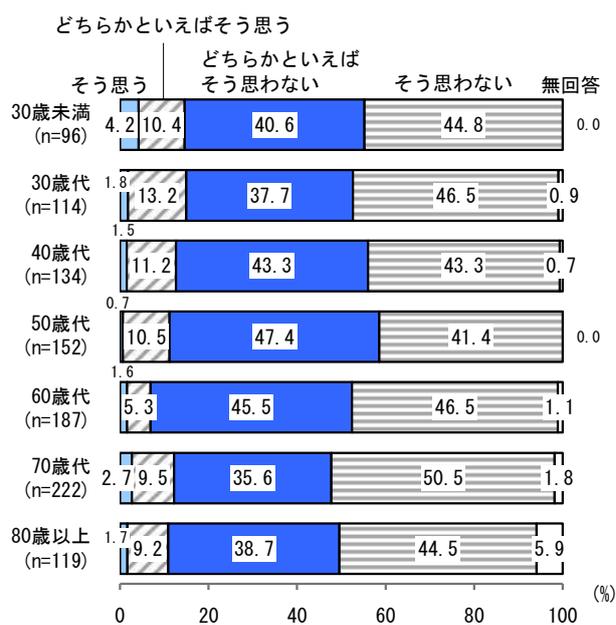
■競争があるからこそ、人はがんばるものだ



■努力しない人を社会が面倒をみるのはおかしい

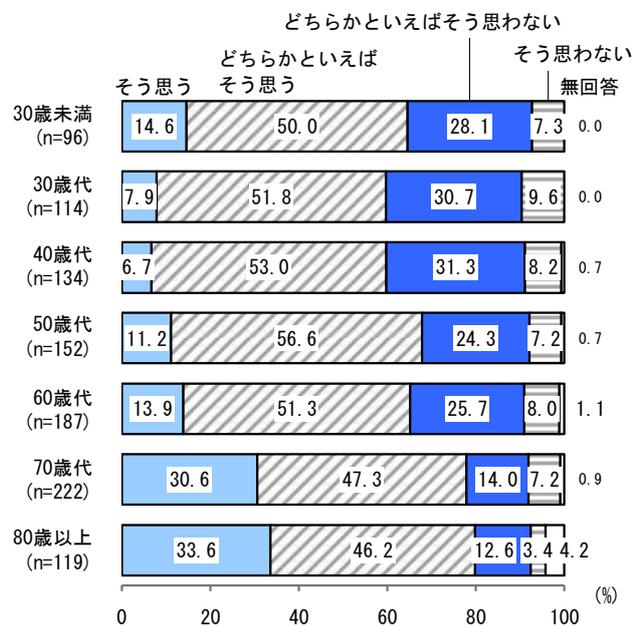


■貧困はその人の責任だから救う必要はない



【年齢別②】

■個人が多少の犠牲を払っても、みんなが
支え合う社会を作ることが大切だ



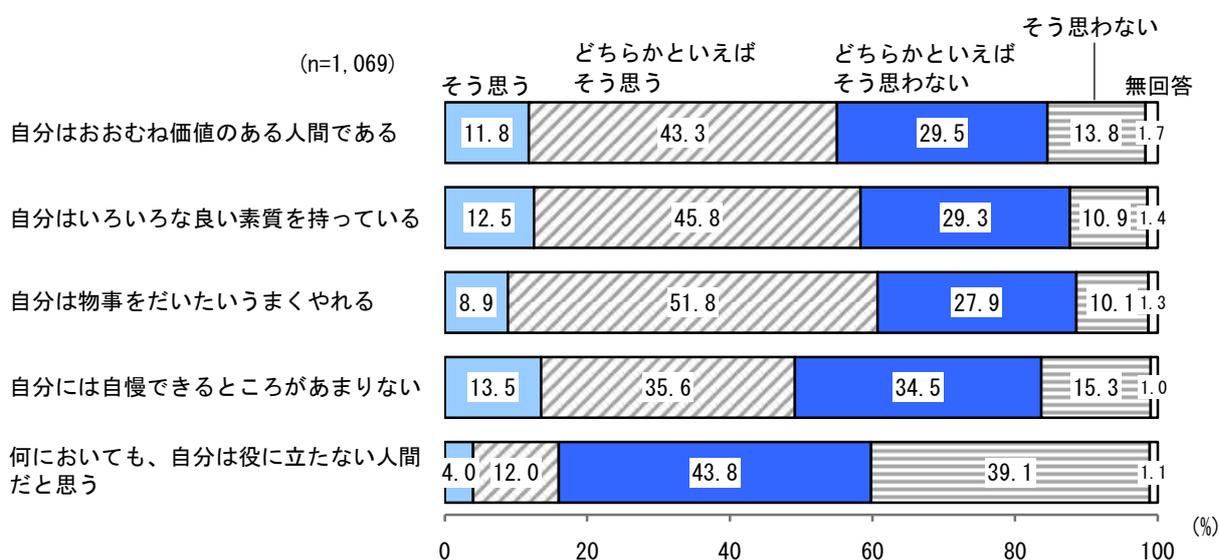
3. 自己イメージ

問2 あなたは、自分自身をどのような人間だと思いますか。

あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

自分自身をどのような人間だと思うかについてたずねたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『そう思う』は“自分は物事をだいたいうまくやれる”が60.7%で最も高く、次いで“自分はいろいろな良い素質を持っている”が58.3%、“自分はおおむね価値のある人間である”が55.1%となっています。

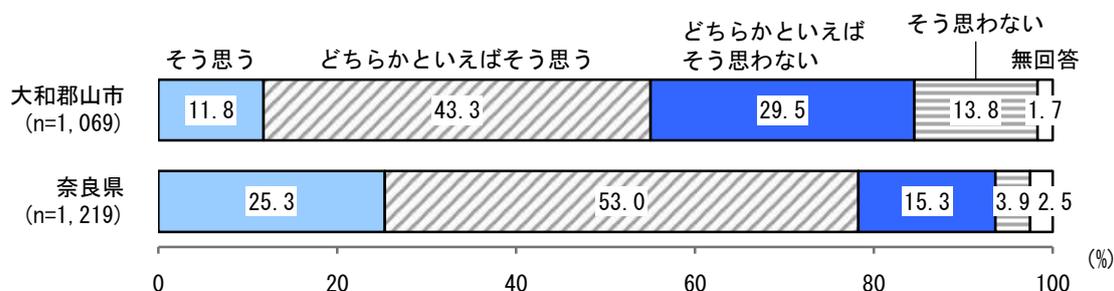
一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた『そう思わない』は“何においても、自分は役に立たない人間だと思う”が82.9%で最も高く、次いで“自分には自慢できるところがあまりない”が49.8%となっています。



【奈良県との比較】

■自分はおおむね価値のある人間である

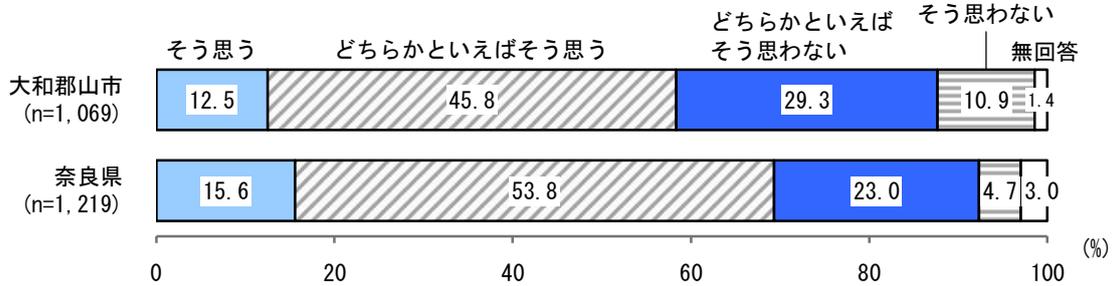
『そう思う』の割合は、奈良県（78.3%）より23.2ポイント低くなっています。



【奈良県との比較】

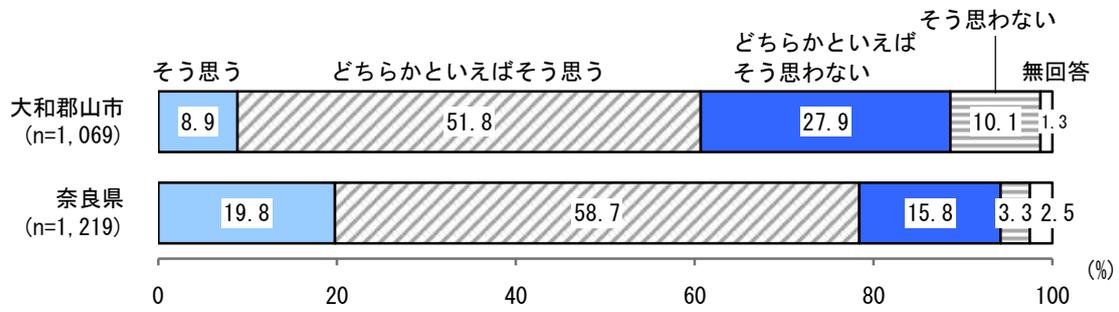
■自分はいろいろな良い素質を持っている

『そう思う』の割合は、奈良県（69.4%）より11.1ポイント低くなっています。



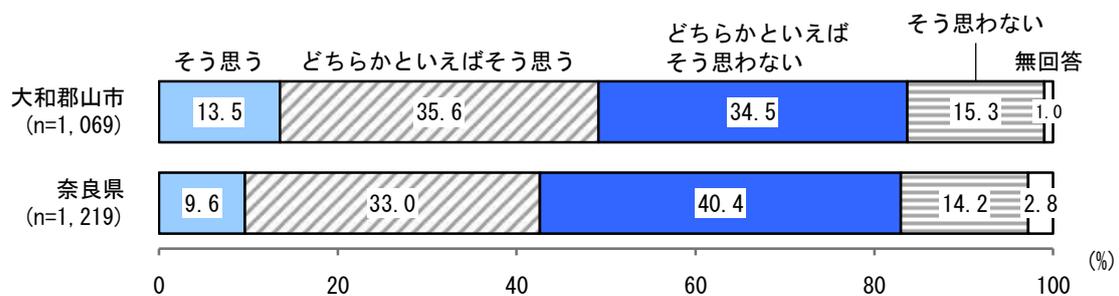
■自分は物事をだいたいうまくやれる

『そう思う』の割合は、奈良県（78.5%）より17.8ポイント低くなっています。



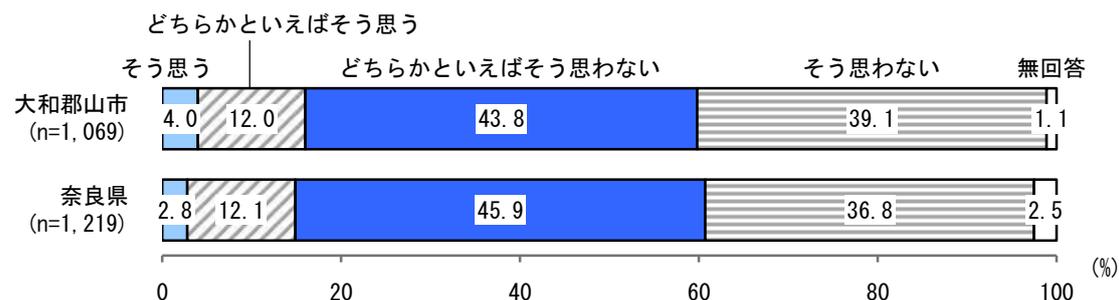
■自分には自慢できるところがあまりない

『そう思う』の割合は、奈良県（42.6%）より6.5ポイント高くなっています。



■何においても、自分は役に立たない人間だと思う

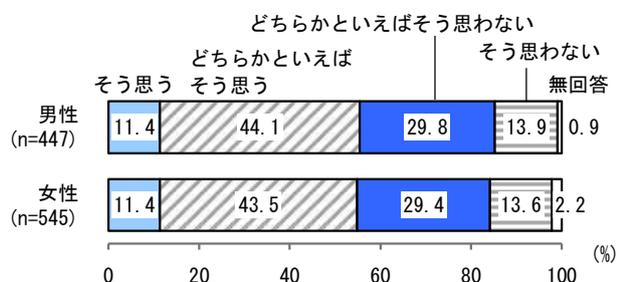
奈良県と比較しても大きな差はみられません。



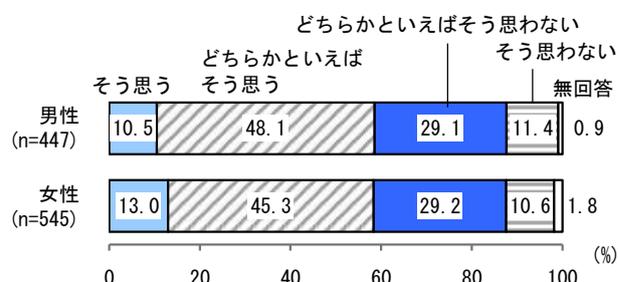
【性別】

性別でみると、『そう思う』の割合は、いずれも女性より男性のほうがやや高くなっていますが、大きな差はみられません。

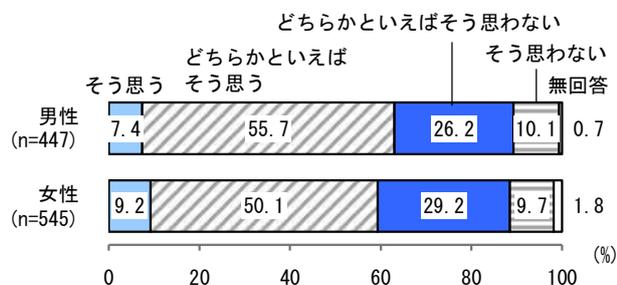
■自分はおおむね価値のある人間である



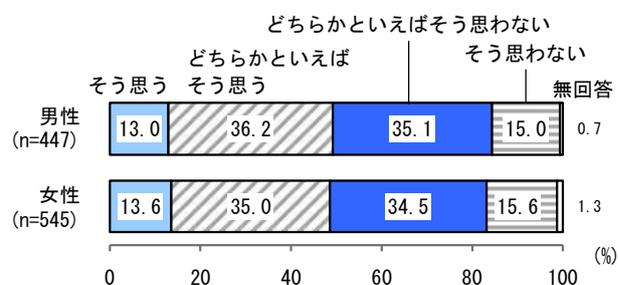
■自分はいろいろな良い素質を持っている



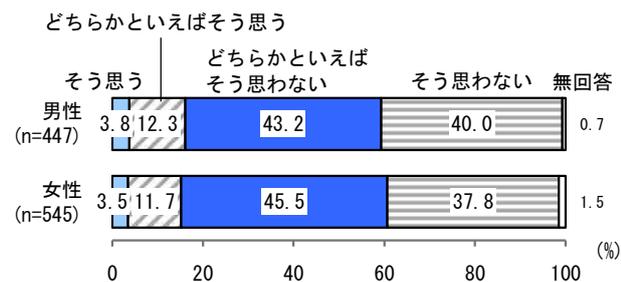
■自分は物事をだいたいうまくやれる



■自分には自慢できるところがあまりない



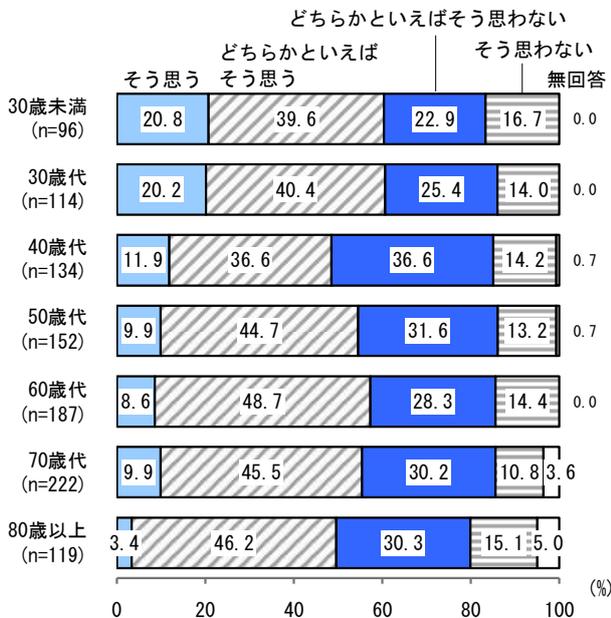
■何においても、自分は役に立たない人間 だと思う



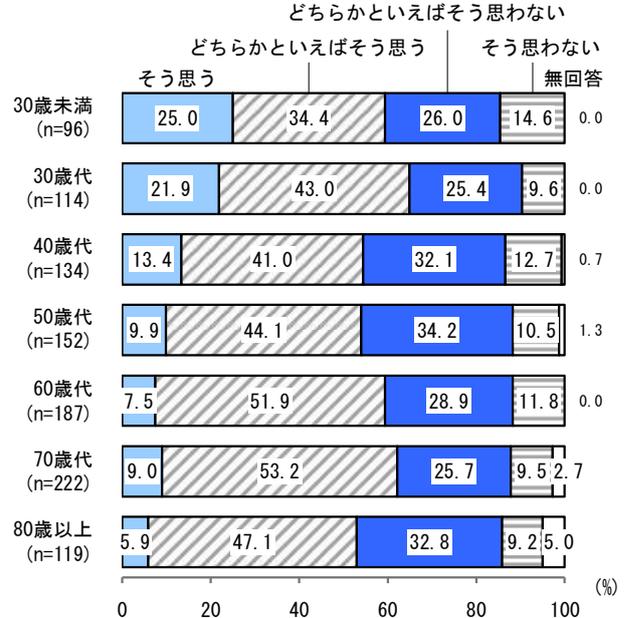
【年齢別①】

年齢別でみると、『そう思う』の割合は、“自分はおおむね価値のある人間である”と“自分はいろいろな良い素質を持っている”では30歳代、“何においても、自分は役に立たない人間だと思う”では40歳代が最も高い割合となっています。

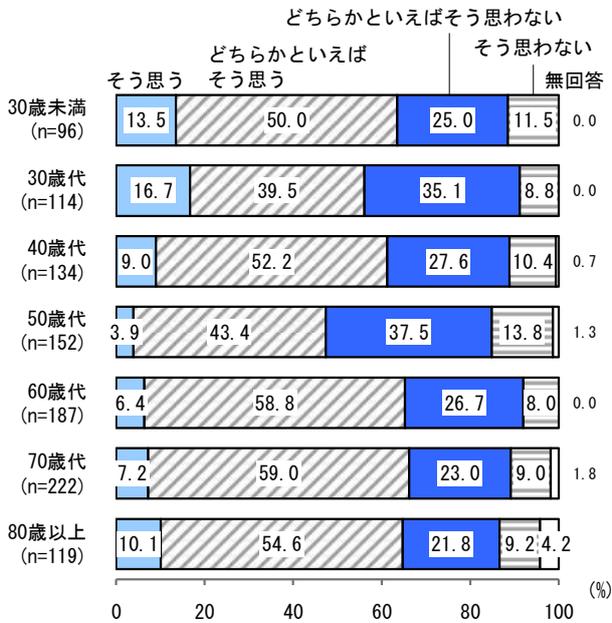
■自分はおおむね価値のある人間である



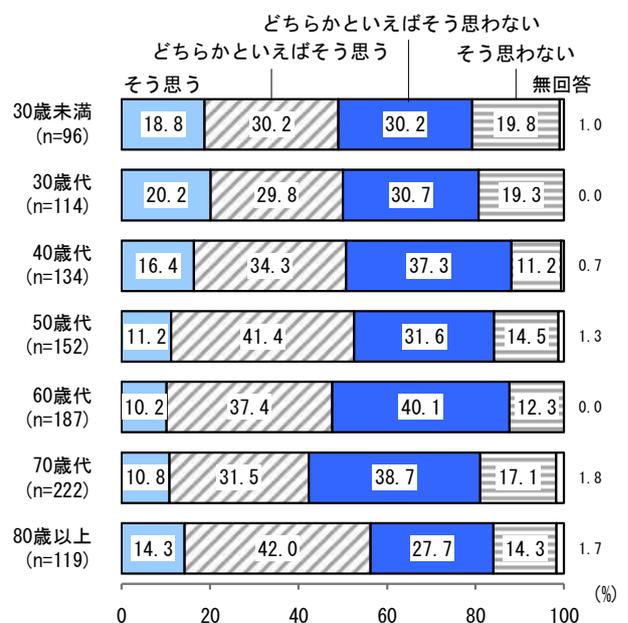
■自分はいろいろな良い素質を持っている



■自分は物事をだいたいうまくやれる

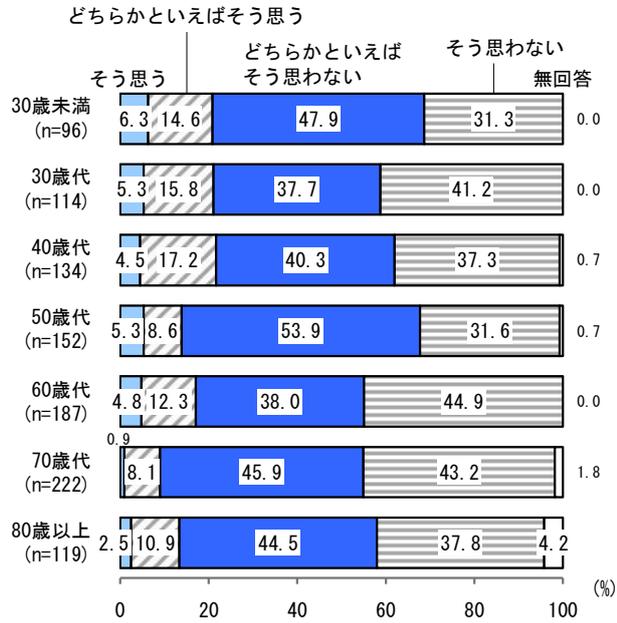


■自分には自慢できるところがあまりない



【年齢別②】

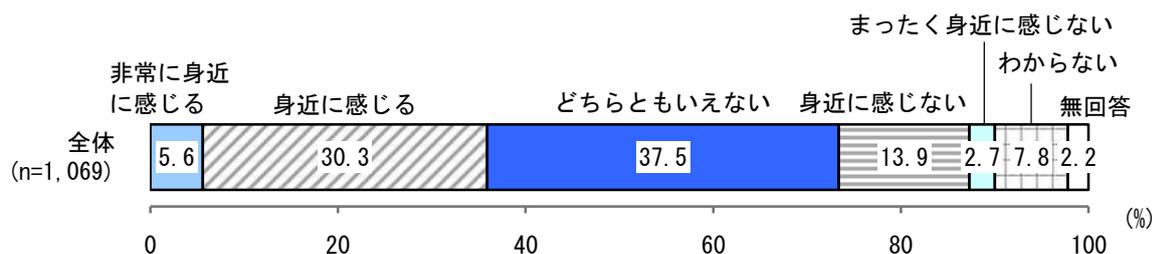
■何においても、自分は役に立たない人間
 だと思う



4. 人権が身近に感じる程度

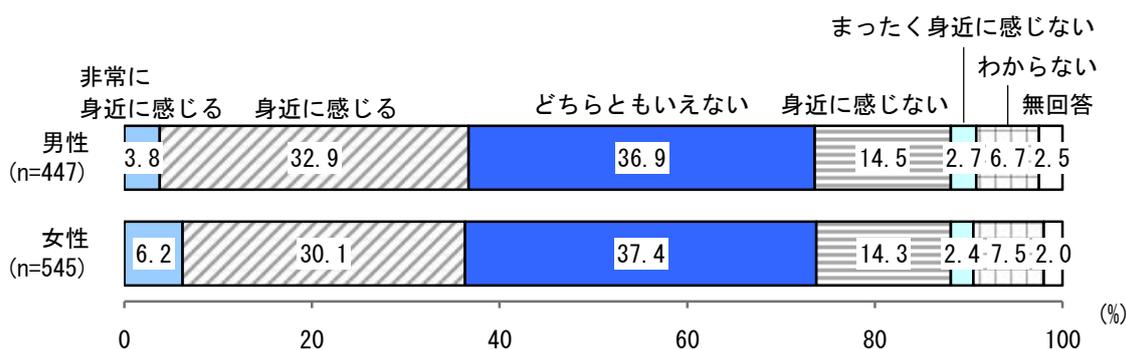
問3 あなたは、「人権」について、どの程度身近に感じていますか。
あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。(○は1つ)

人権がどの程度身近に感じるかについては、「どちらともいえない」が37.5%で最も多く、次いで「身近に感じる」が30.3%、「身近に感じない」が13.9%となっており、「非常に身近に感じる」と「身近に感じる」をあわせた『身近に感じる』は35.9%で、「身近に感じない」と「まったく身近に感じない」をあわせた『身近に感じない』は16.6%となっています。



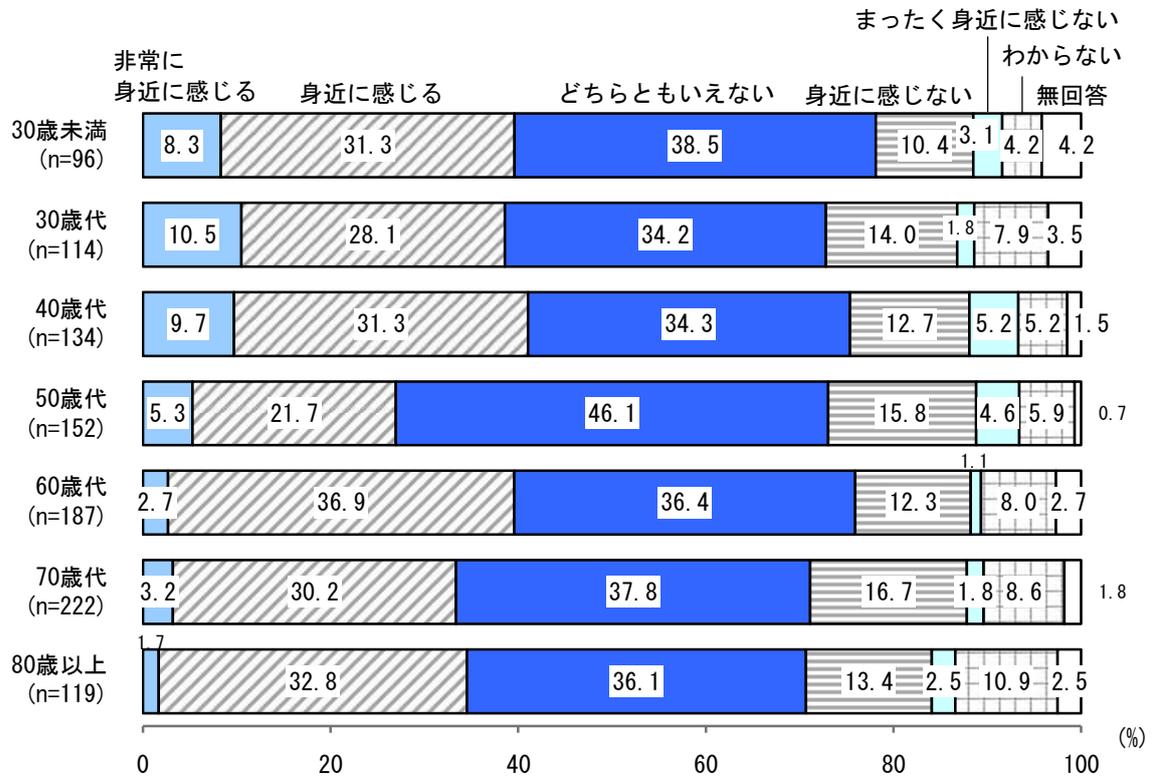
【性別】

性別でも、大きな差はみられません。



【年齢別】

年齢別でみると、『身近に感じる』の割合は、40歳代が41.0%で最も高く、次いで30歳未満と60歳代が39.6%となっています。

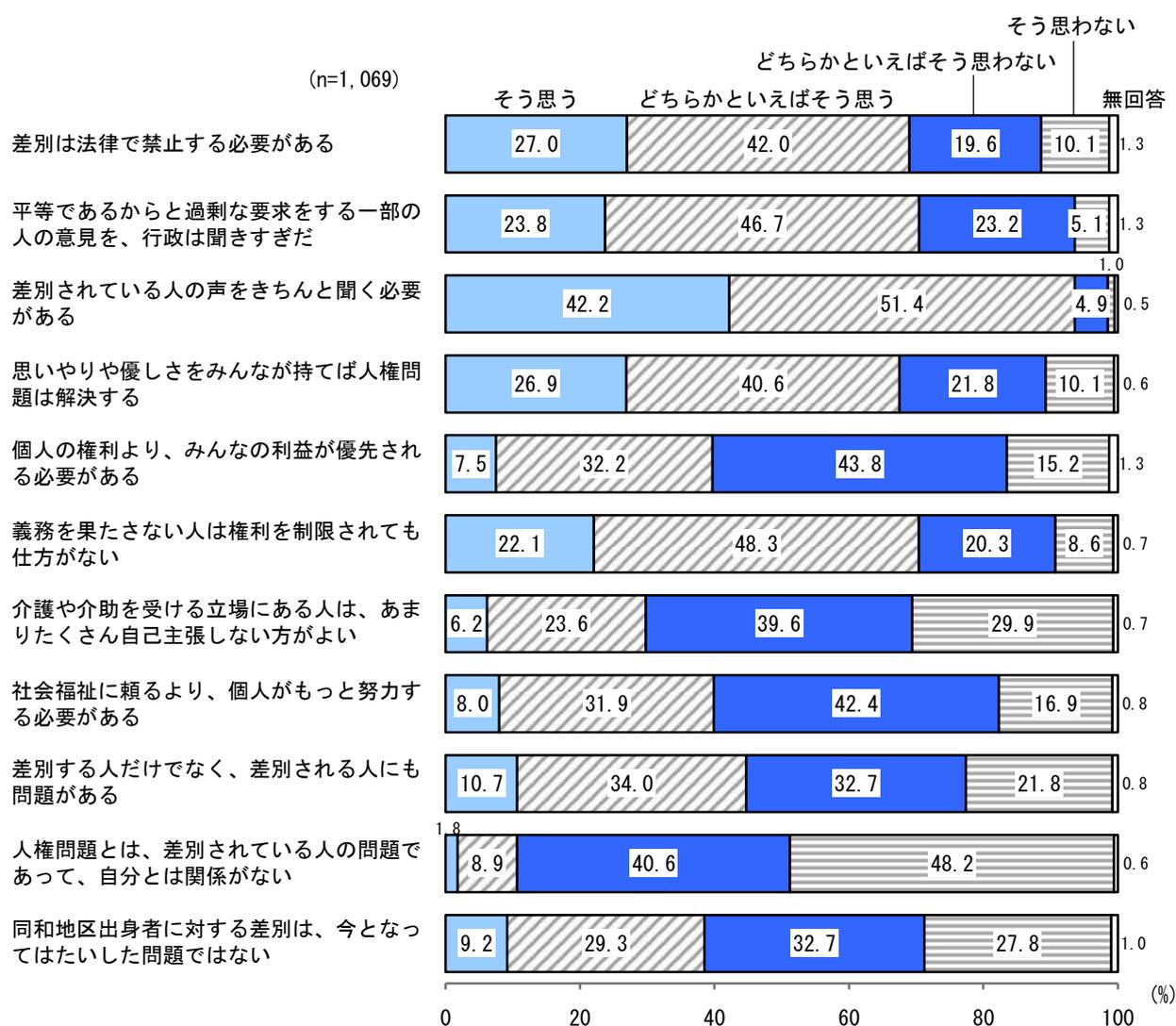


5. 人権や差別をめぐる考え方について

問4 人権や差別をめぐるいろいろな考え方がありますが、次のことについて、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

人権や差別をめぐる考え方についてたずねたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『そう思う』の割合は、“差別されている人の声をきちんと聞く必要がある”が93.6%で最も高く、次いで“平等であるからと過剰な要求をする一部の人の意見を、行政は聞きすぎだ”が70.5%、“義務を果たさない人は権利を制限されても仕方がない”が70.4%となっています。

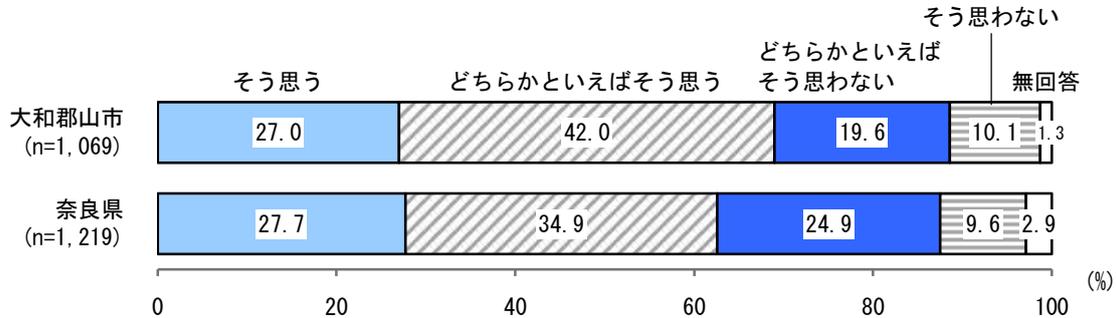
一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた『そう思わない』は“人権問題とは、差別されている人の問題であって、自分とは関係がない”が88.8%で最も高く、次いで“介護や介助を受ける立場にある人は、あまりたくさん自己主張しない方がよい”が69.5%、“同和地区出身者に対する差別は、今となってはたいした問題ではない”が60.5%となっています。



【奈良県との比較】

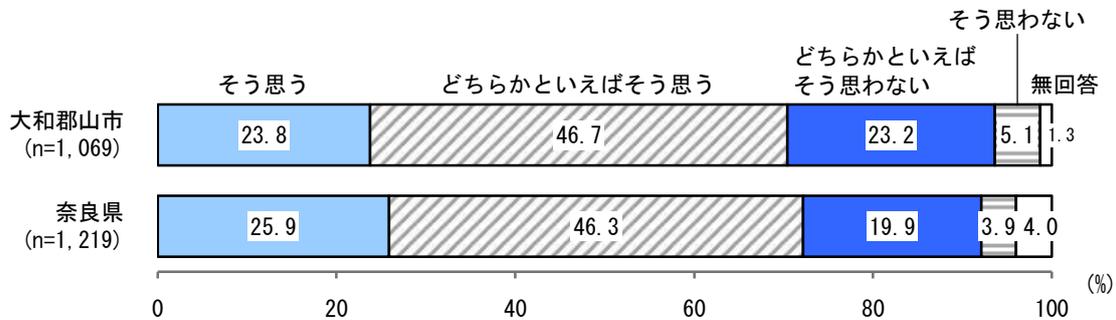
■差別は法律で禁止する必要がある

『そう思う』の割合は、奈良県（62.6%）より6.4ポイント高くなっています。



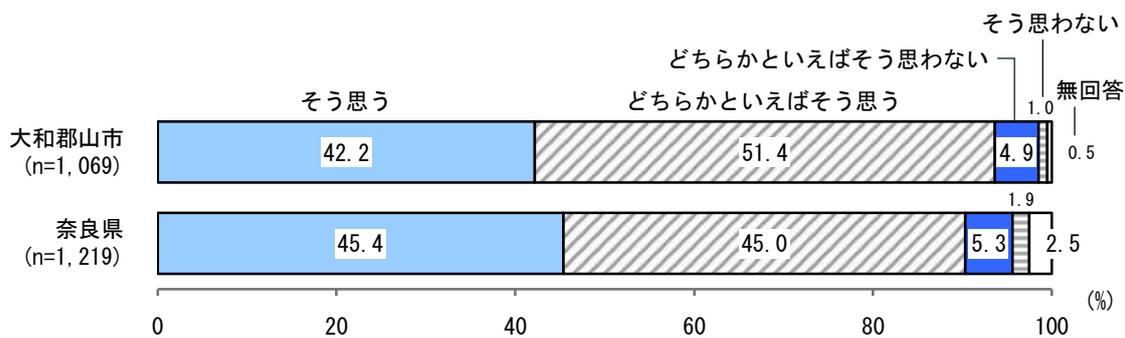
■平等であるからと過剰な要求をする一部の人の意見を、行政は聞きすぎだ

『そう思わない』の割合は、奈良県（23.8%）より4.5ポイント高くなっています。



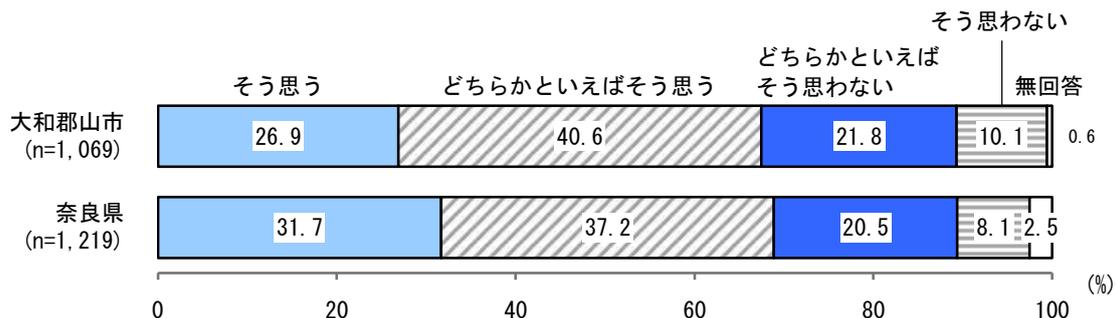
■差別されている人の声をきちんと聞く必要がある

『そう思う』の割合は、奈良県（90.4%）より3.2ポイント高くなっています。



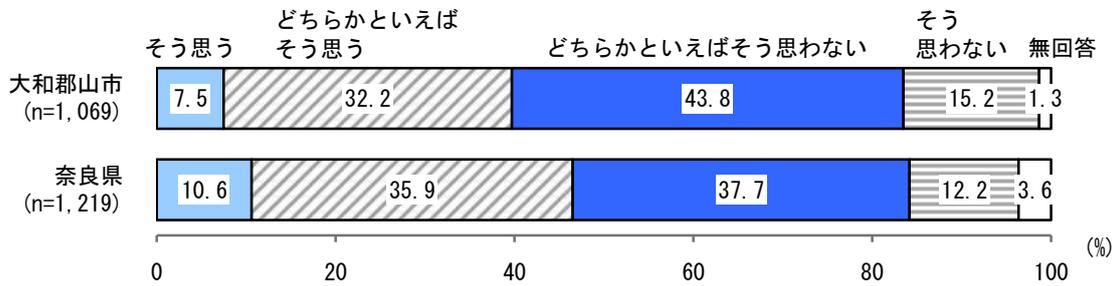
■思いやりや優しさをみんなが持てば人権問題は解決する

『そう思わない』の割合は、奈良県（28.6%）より3.3ポイント高くなっています。



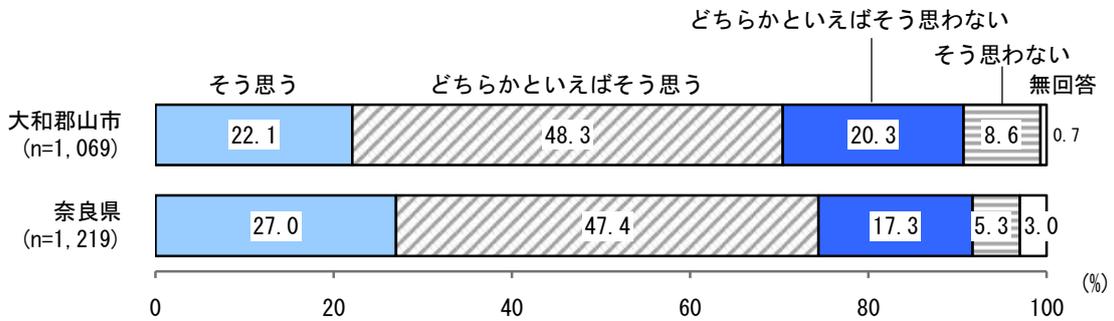
■個人の権利より、みんなの利益が優先される必要がある

『そう思う』の割合は、奈良県（46.5%）より6.8ポイント低くなっています。



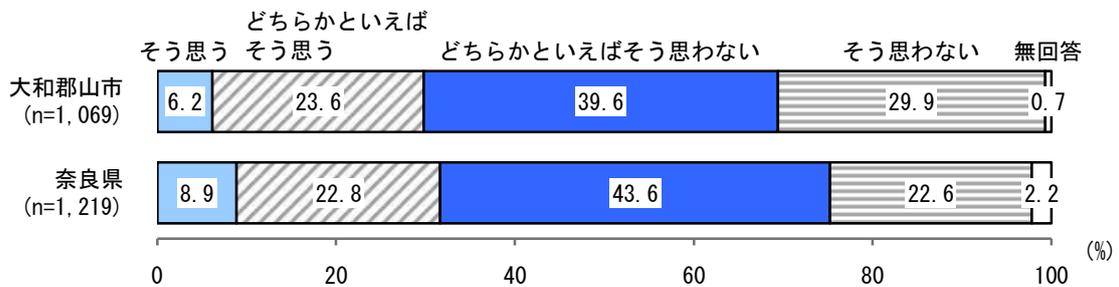
■義務を果たさない人は権利を制限されても仕方がない

『そう思う』の割合は、奈良県（74.4%）より4.0ポイント低くなっています。



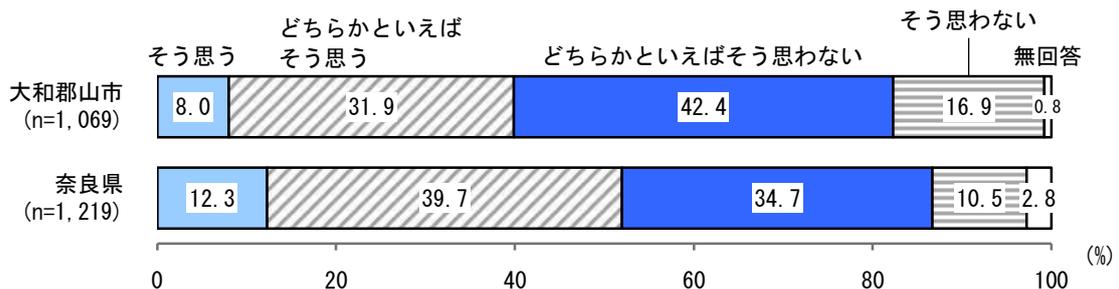
■介護や介助を受ける立場にある人は、あまりたくさん自己主張しない方がよい

『そう思わない』の割合は、奈良県（66.2%）より3.3ポイント高くなっています。



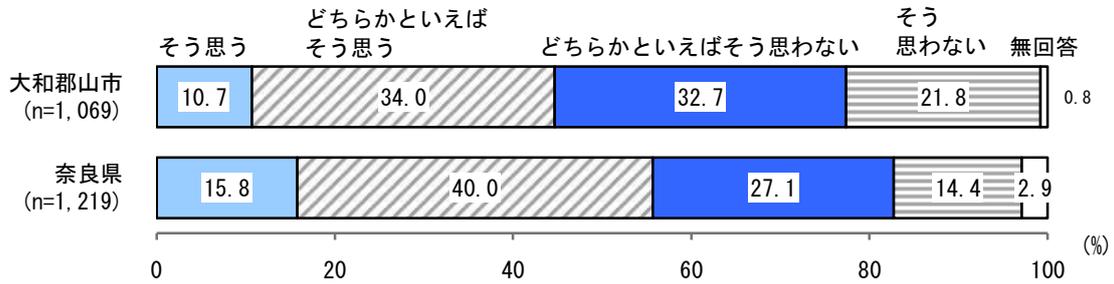
■社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある

『そう思う』の割合は、奈良県（52.0%）より12.1ポイント低くなっています。



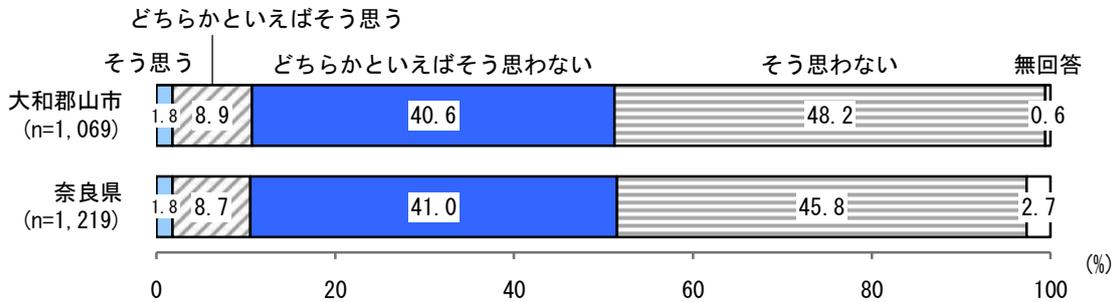
■差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある

『そう思う』の割合は、奈良県（55.8%）より11.1ポイント低くなっています。



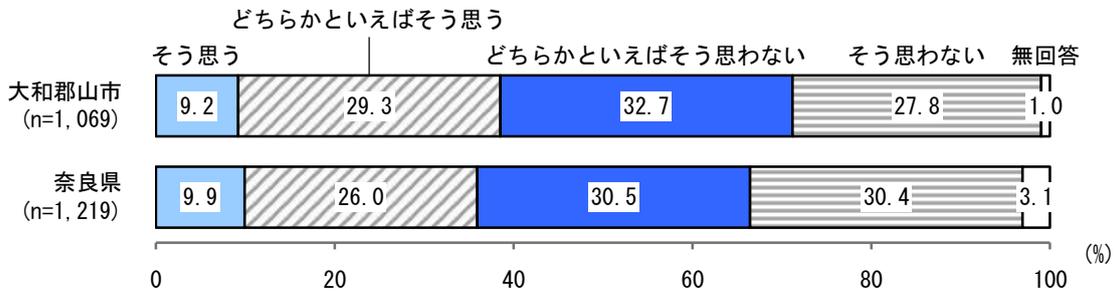
■人権問題とは、差別されている人の問題であって、自分とは関係がない

奈良県と比較しても、大きな差はみられません。



■同和地区出身者に対する差別は、今はたいした問題ではない

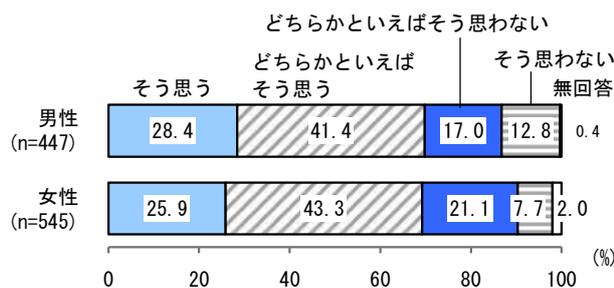
奈良県と比較しても、大きな差はみられません。



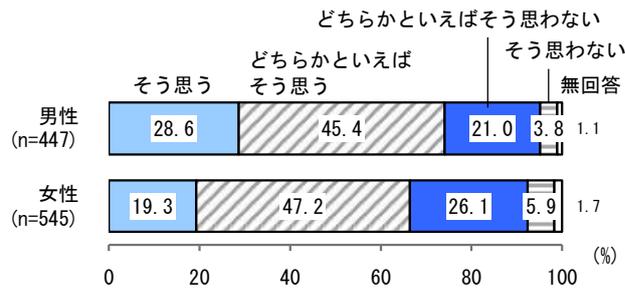
【性別①】

性別でみると、『そう思う』の割合は、“差別されている人の声をきちんと聞く必要がある”と“思いやりや優しさをみんなが持てば人権問題は解決する”、“同和地区出身者に対する差別は、今となってはたいした問題ではない”は男性より女性のほうが高いですが、それ以外の項目ではいずれも男性のほうが高い割合となっています。

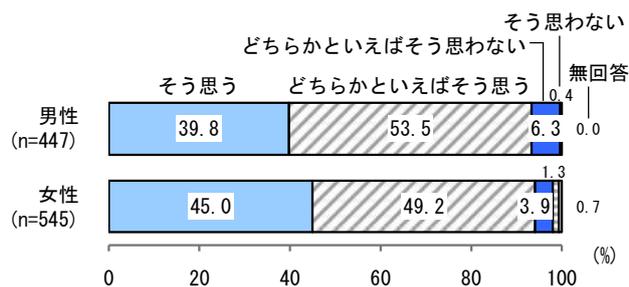
■差別は法律で禁止する必要がある



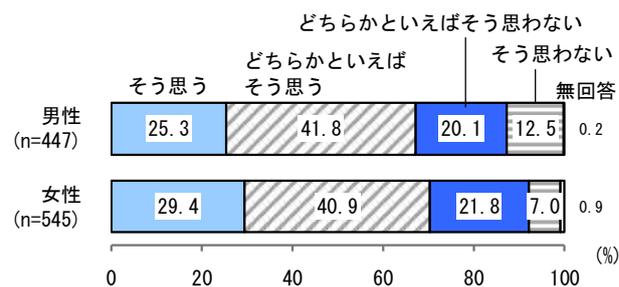
■平等であるからと過剰な要求をする一部の人の意見を、行政は聞きすぎだ



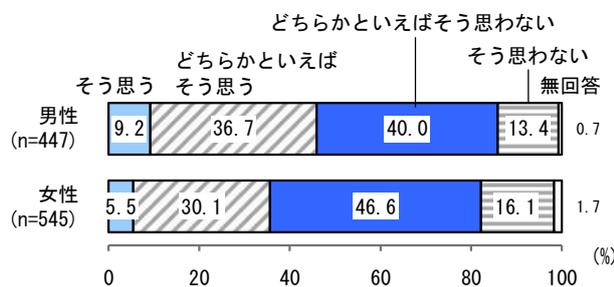
■差別されている人の声をきちんと聞く必要がある



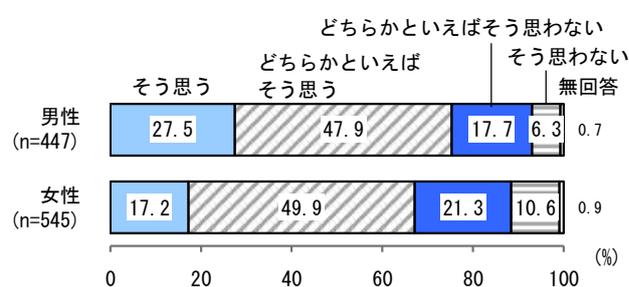
■思いやりや優しさをみんなが持てば人権問題は解決する



■個人の権利より、みんなの利益が優先される必要がある

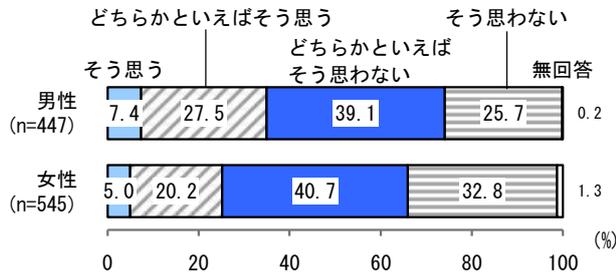


■義務を果たさない人は権利を制限されても仕方がない

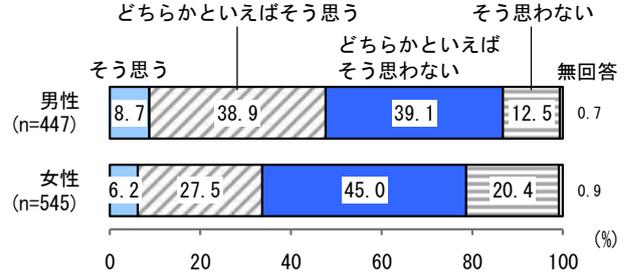


【性別②】

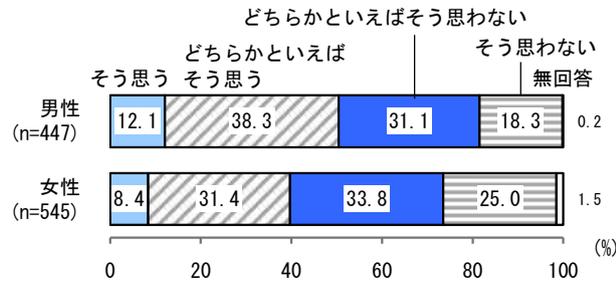
■ 介護や介助を受ける立場にある人は、あまりたくさん自己主張しない方がよい



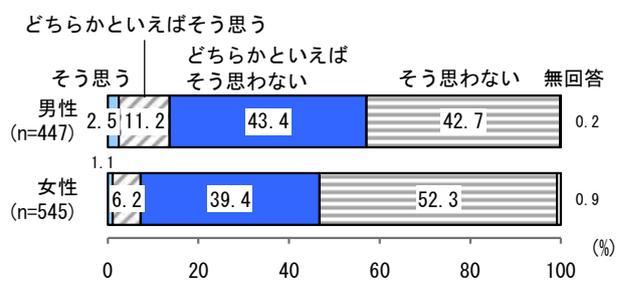
■ 社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある



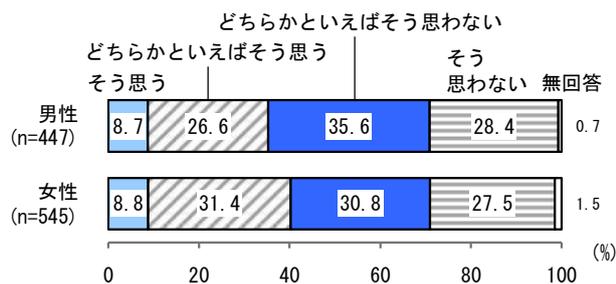
■ 差別するだけでなく、差別される人にも問題がある



■ 人権問題とは、差別されている人の問題であって、自分とは関係がない



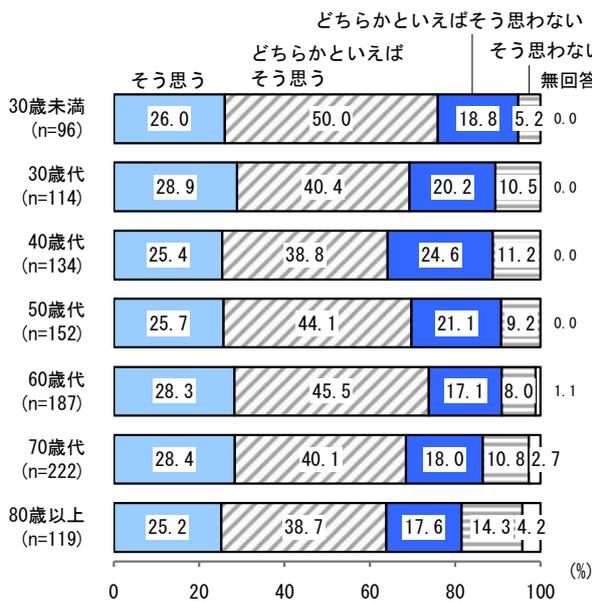
■ 同和地区出身者に対する差別は、今となってはたいした問題ではない



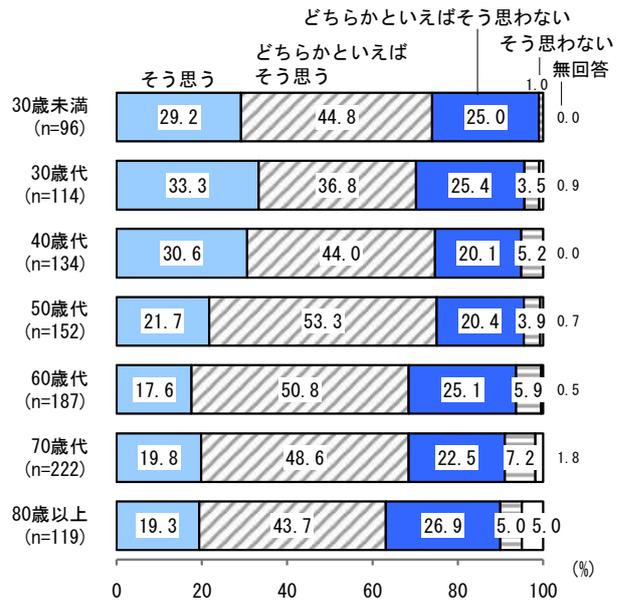
【年齢別①】

年齢別でみると、『そう思う』の割合は、“思いやりや優しさをみんなが持てば人権問題は解決する”、“個人の権利より、みんなの利益が優先される必要がある”、“介護や介助を受ける立場にある人は、あまりたくさん自己主張しない方がよい”、“社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある”、“差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある”、“人権問題とは、差別されている人の問題であって、自分とは関係がない”、“同和地区出身者に対する差別は、今となってはたいした問題ではない” ではないずれも80歳以上が最も高くなっています。

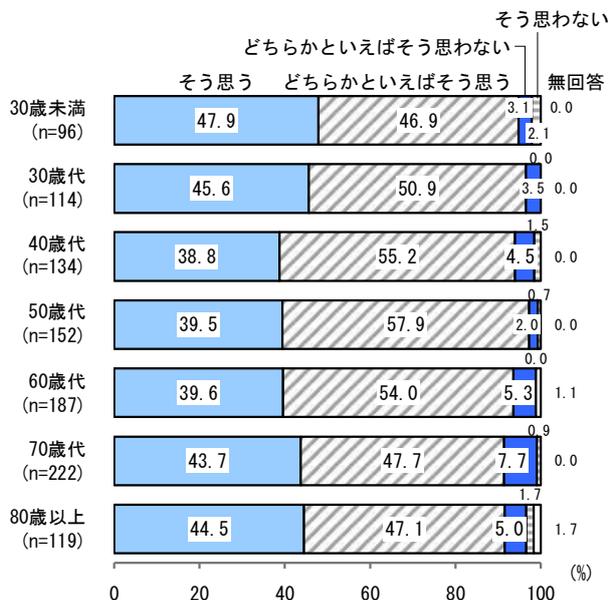
■差別は法律で禁止する必要がある



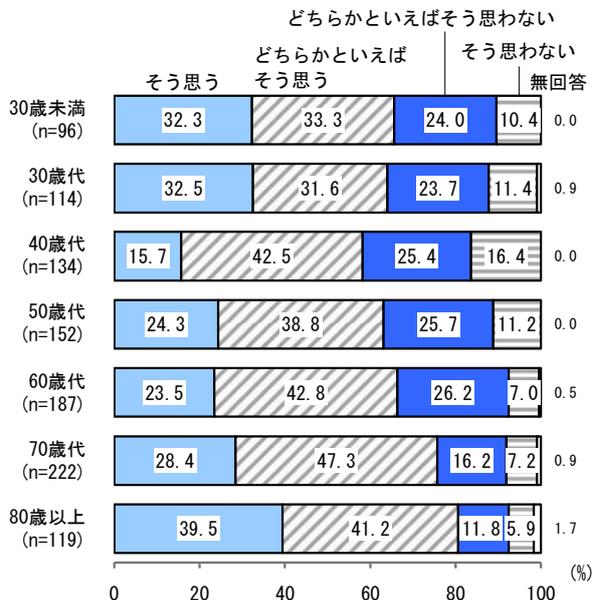
■平等であるからと過剰な要求をする一部の人の意見を、行政は聞きすぎだ



■差別されている人の声をきちんと聞く必要がある

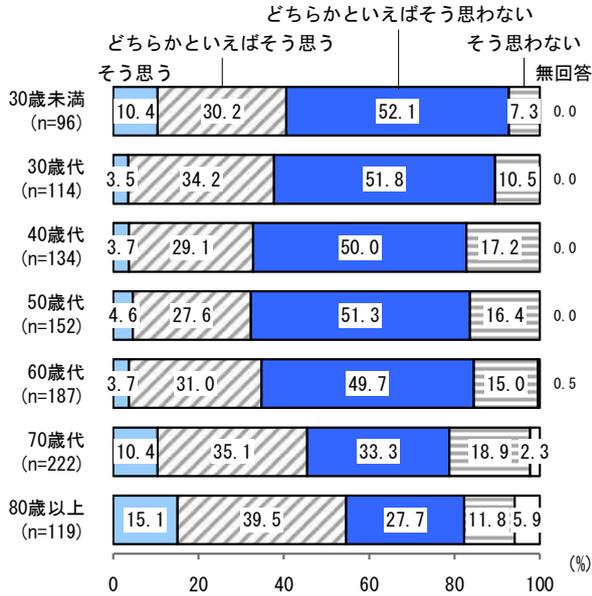


■思いやりや優しさをみんなが持てば人権問題は解決する

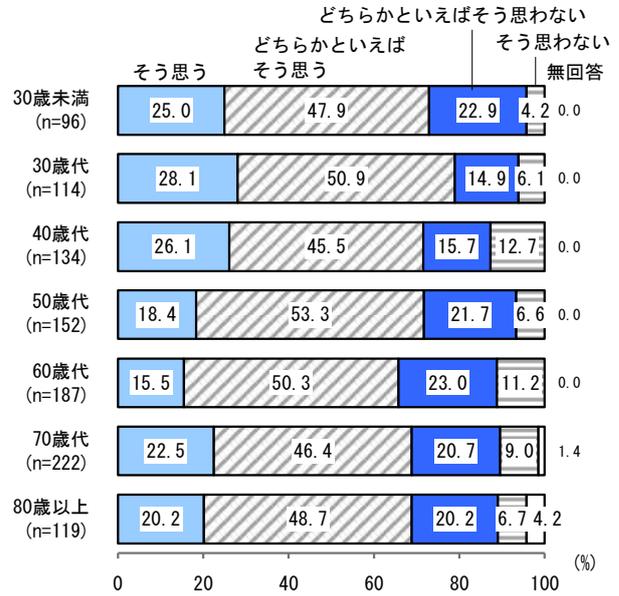


【年齢別②】

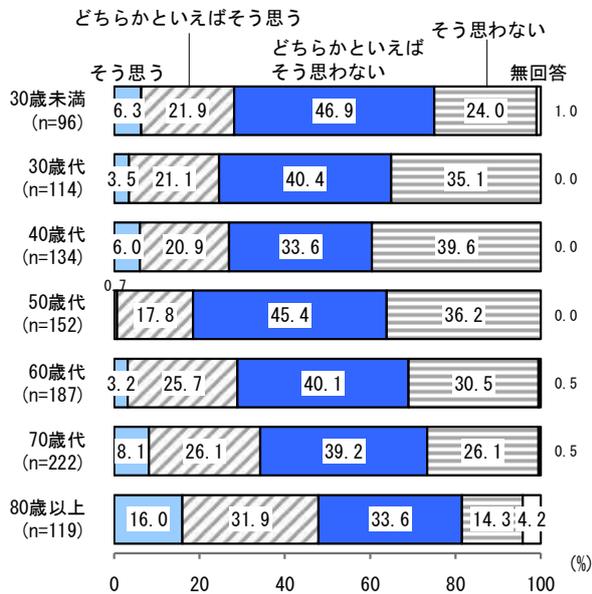
■個人の権利より、みんなの利益が優先される必要がある



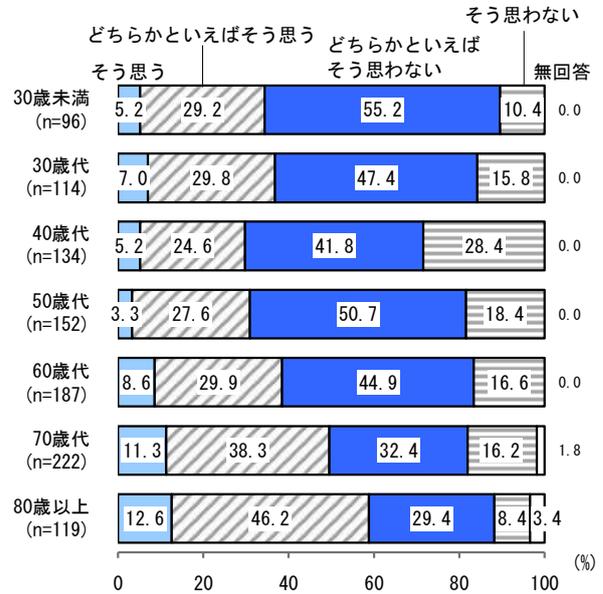
■義務を果たさない人は権利を制限されても仕方がない



■介護や介助を受ける立場にある人は、あまりたくさん自己主張しない方がよい

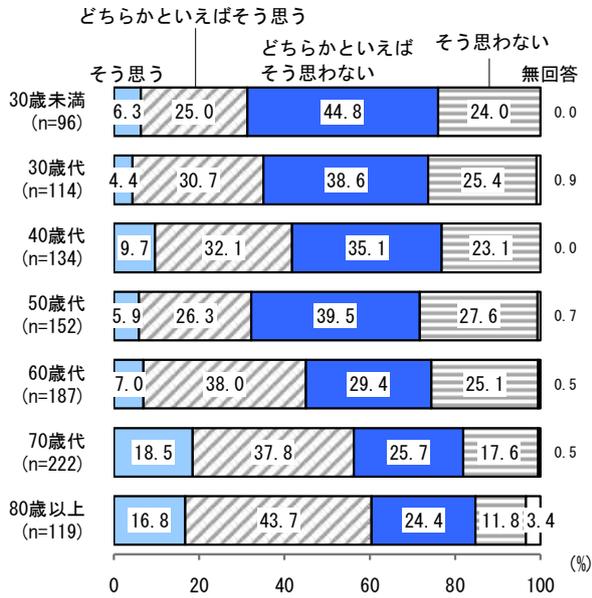


■社会福祉に頼るより、個人がもっと努力する必要がある

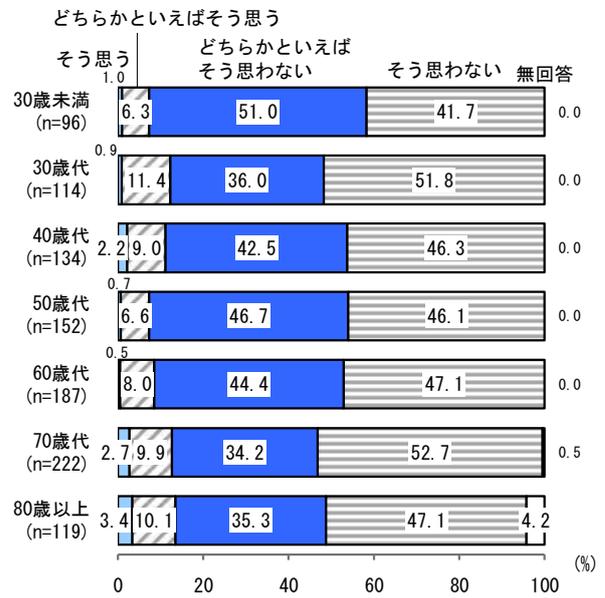


【年齢別③】

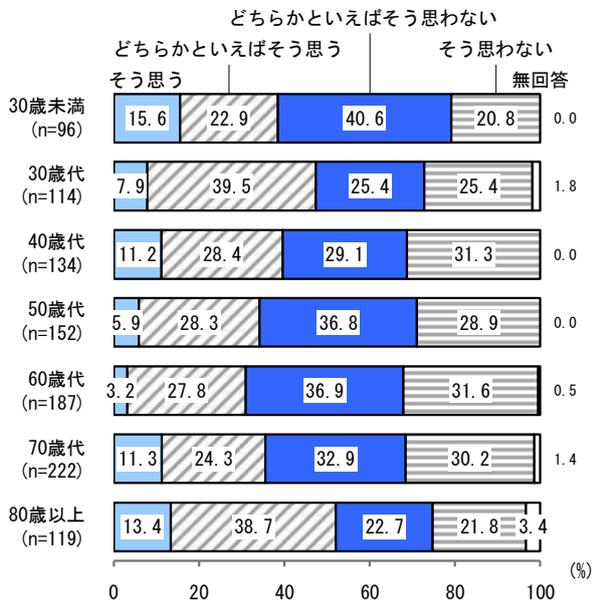
■差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある



■人権問題とは、差別されている人の問題であって、自分とは関係がない



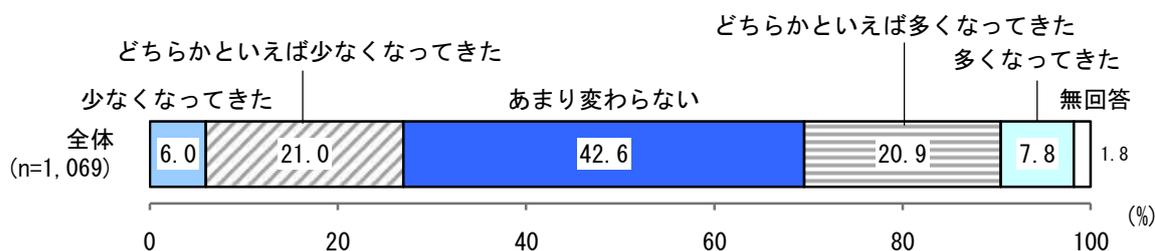
■同和地区出身者に対する差別は、今とってはたいした問題ではない



6. ここ5～6年間の日本での人権侵害における変化

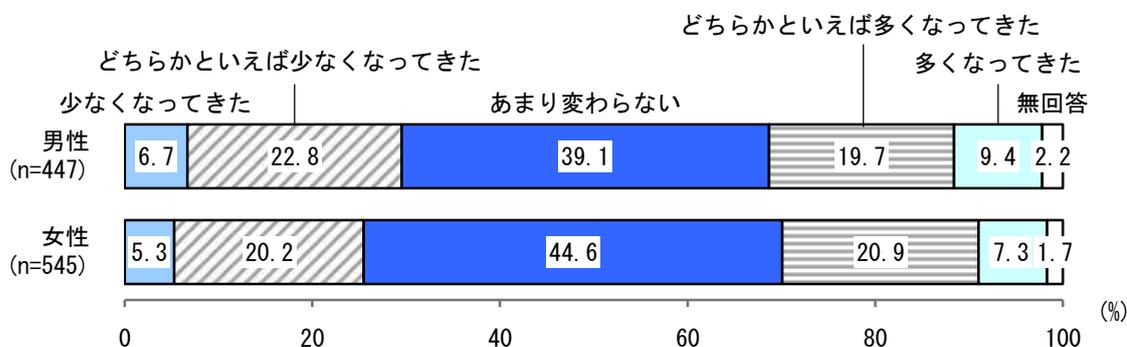
問5 新聞、テレビ、インターネットなどで「人権が侵害された」というニュースが報道されることがありますが、あなたは、ここ5～6年間に、日本で人権が侵害されるようなことについて、どのように変わってきたと思いますか。(○は1つ)

ここ5～6年間の日本での人権侵害における変化については、「あまり変わらない」が42.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば少なくなってきた」が21.0%、「どちらかといえば多くなってきた」が20.9%で、「少なくなってきた」と「どちらかといえば少なくなってきた」をあわせた『少なくなってきた』の割合は27.0%、「どちらかといえば多くなってきた」と「多くなってきた」をあわせた『多くなってきた』の割合は28.7%となっています。



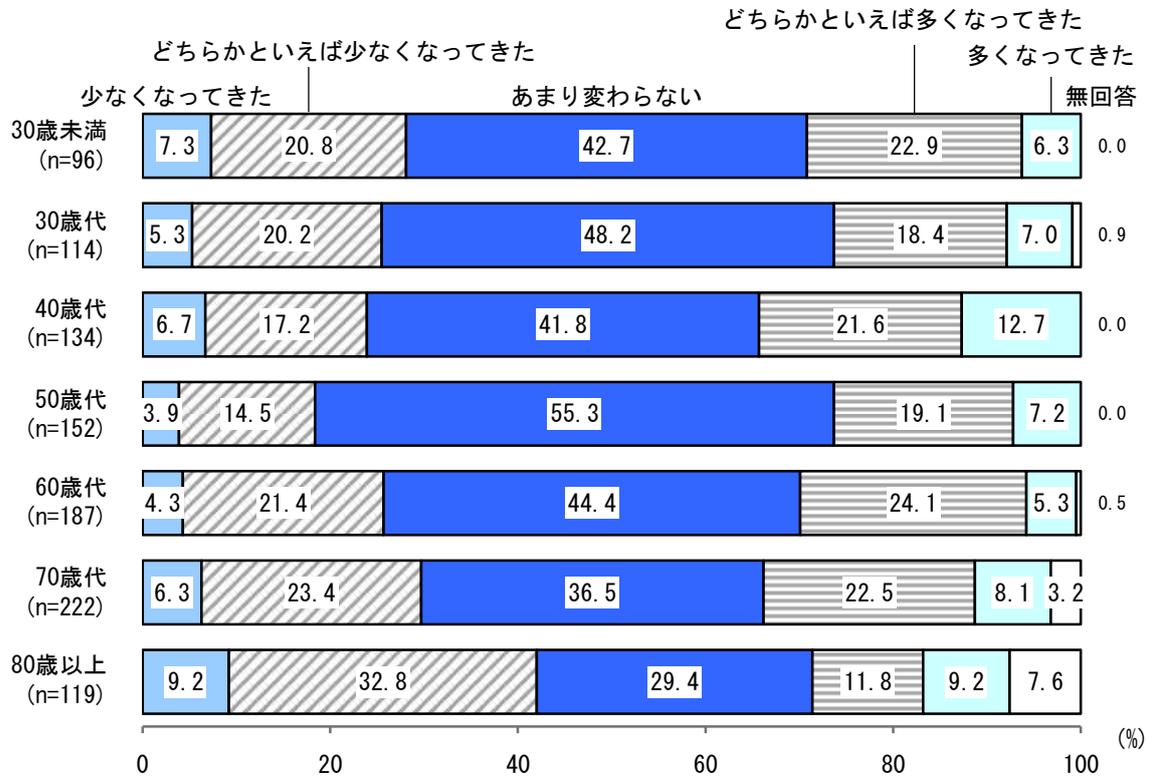
【性別】

性別で見ると、『少なくなってきた』の割合は、女性（25.5%）より男性（29.5%）のほうが4.0ポイント高くなっています。



【年齢別】

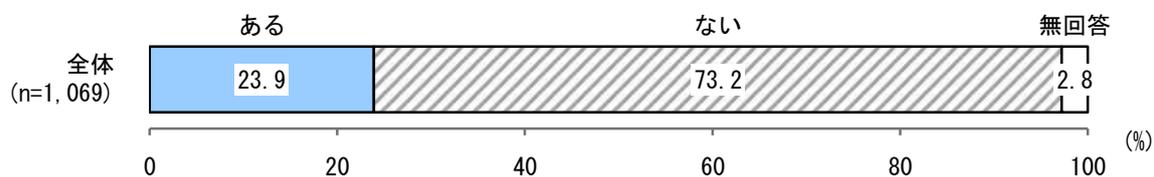
年齢別でみると、『少なくなってきた』の割合は、80歳以上が42.0%で最も高く、次いで70歳代が29.7%となっています。



7. 人権侵害の経験

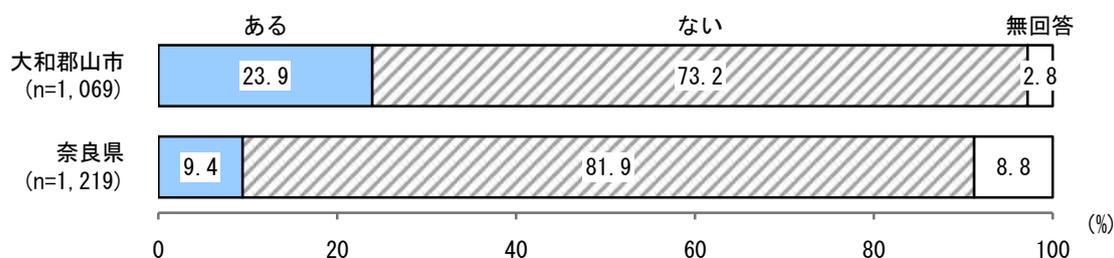
問6 あなたは、今までに自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。(○は1つ)

自分の人権が侵害されたと思ったことは、「ある」が23.9%、「ない」が73.2%となっています。



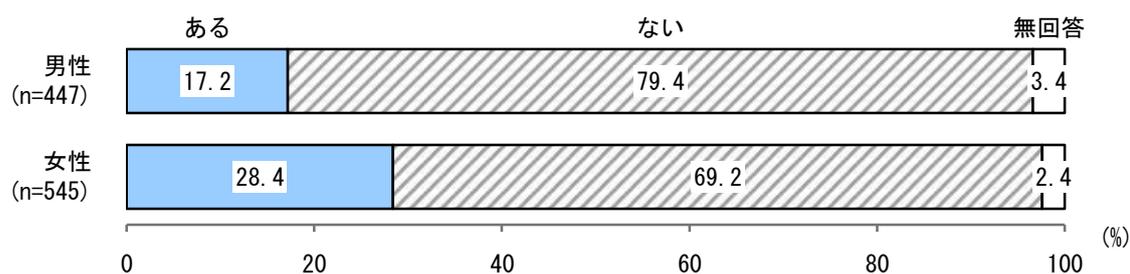
【奈良県との比較】

「ある」の割合は、奈良県（9.4%）より14.5ポイント高くなっています。



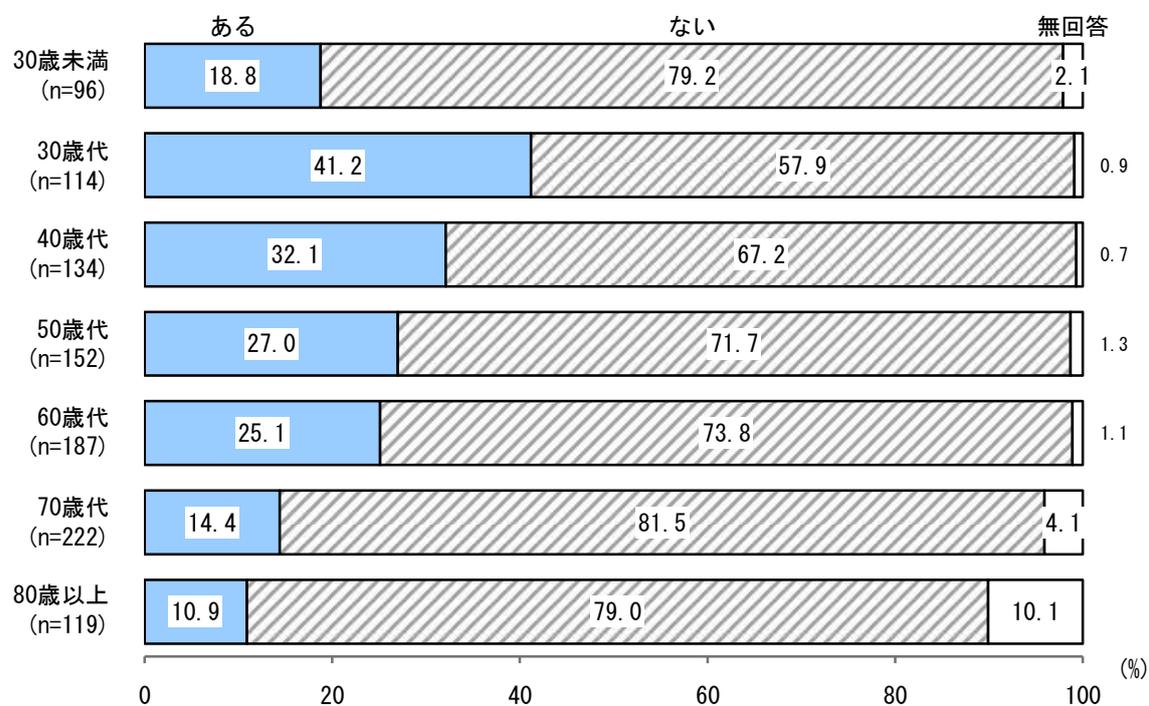
【性別】

性別で見ると、「ある」の割合は男性（17.2%）より女性（28.4%）のほうが11.2ポイント高くなっています。



【年齢別】

年齢別でみると、「ある」の割合は30歳代が41.2%で最も高く、40歳以降、高齢になるほど割合が低くなっています。

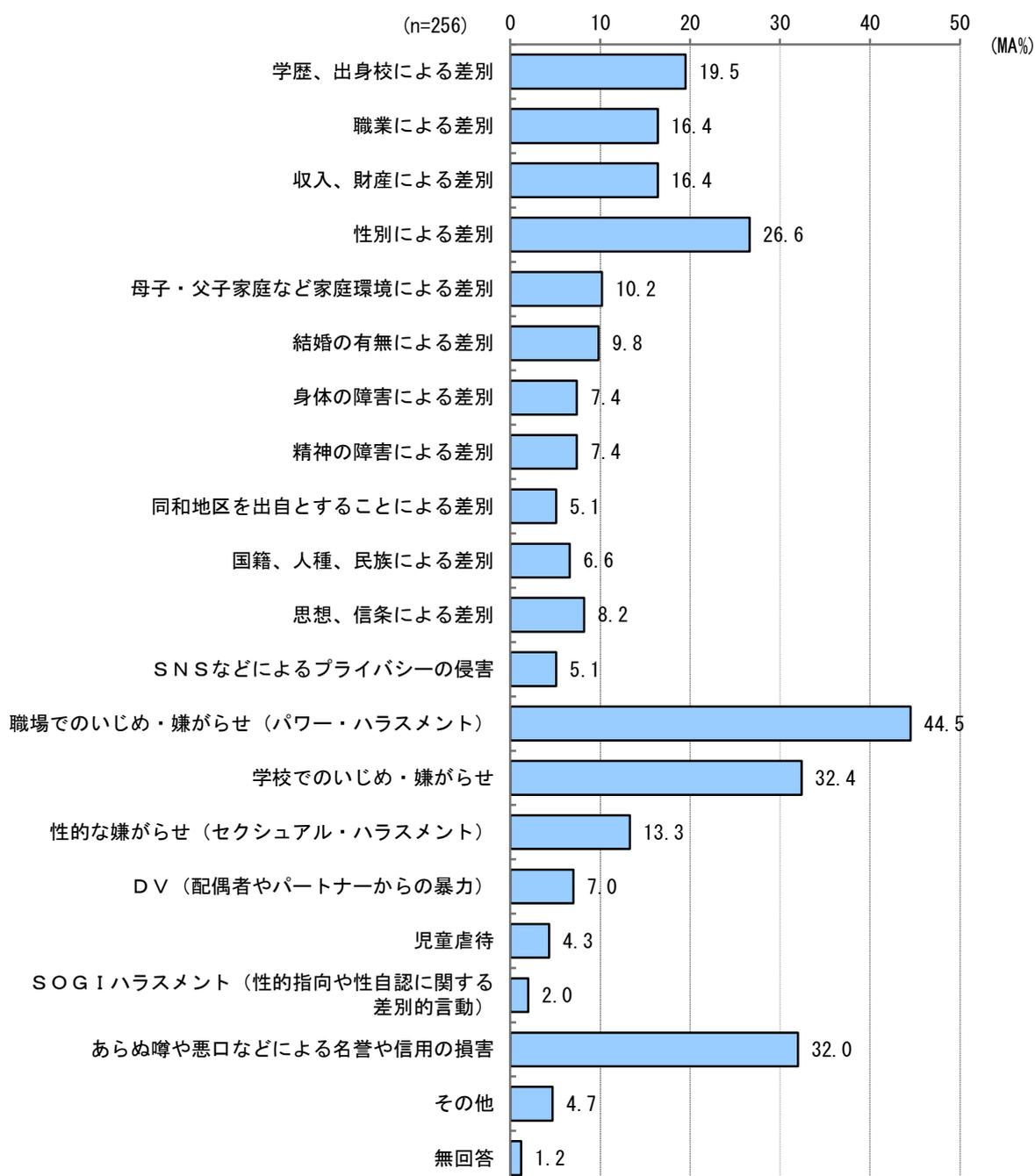


7-1. 人権侵害された事由

【問6で「1 ある」とお答えいただいた方にお聞きします】

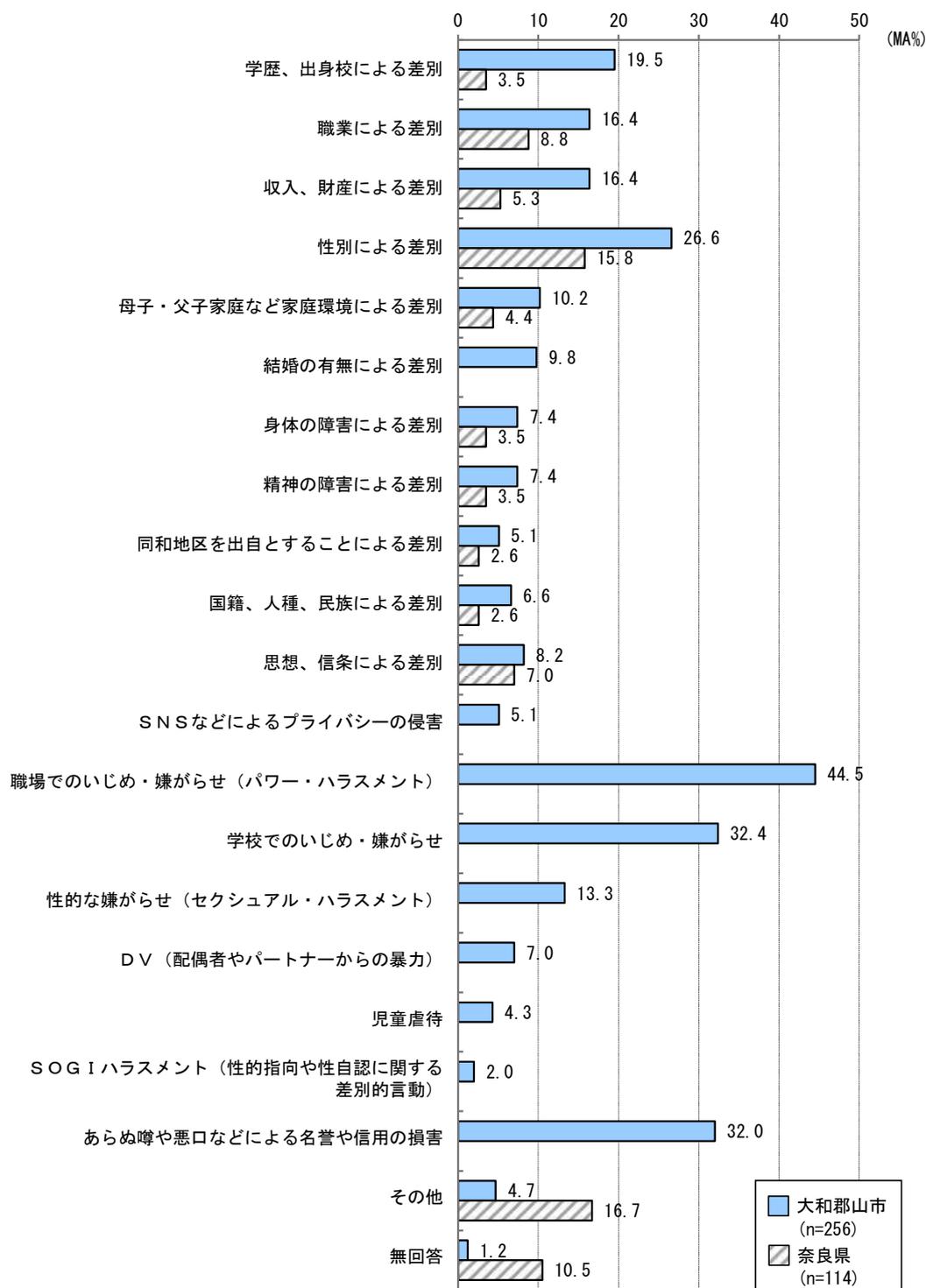
問6-1 ご自分の人権が侵害されたと思ったのは、どのような場合ですか。(〇はいくつでも)

人権が侵害されたと思ったことがあると回答した人に、どのような場合であったかをたずねると、「職場でのいじめ・嫌がらせ(パワー・ハラスメント)」が44.5%で最も多く、次いで「学校でのいじめ・嫌がらせ」が32.4%、「あらぬ噂や悪口などによる名誉や信用の損害」が32.0%となっています。



【奈良県との比較】

「学歴、出身校による差別」の割合は、奈良県（3.5%）より16.0ポイント、「収入、財産による差別」は奈良県（5.3%）より11.1ポイント、それぞれ高くなっています。

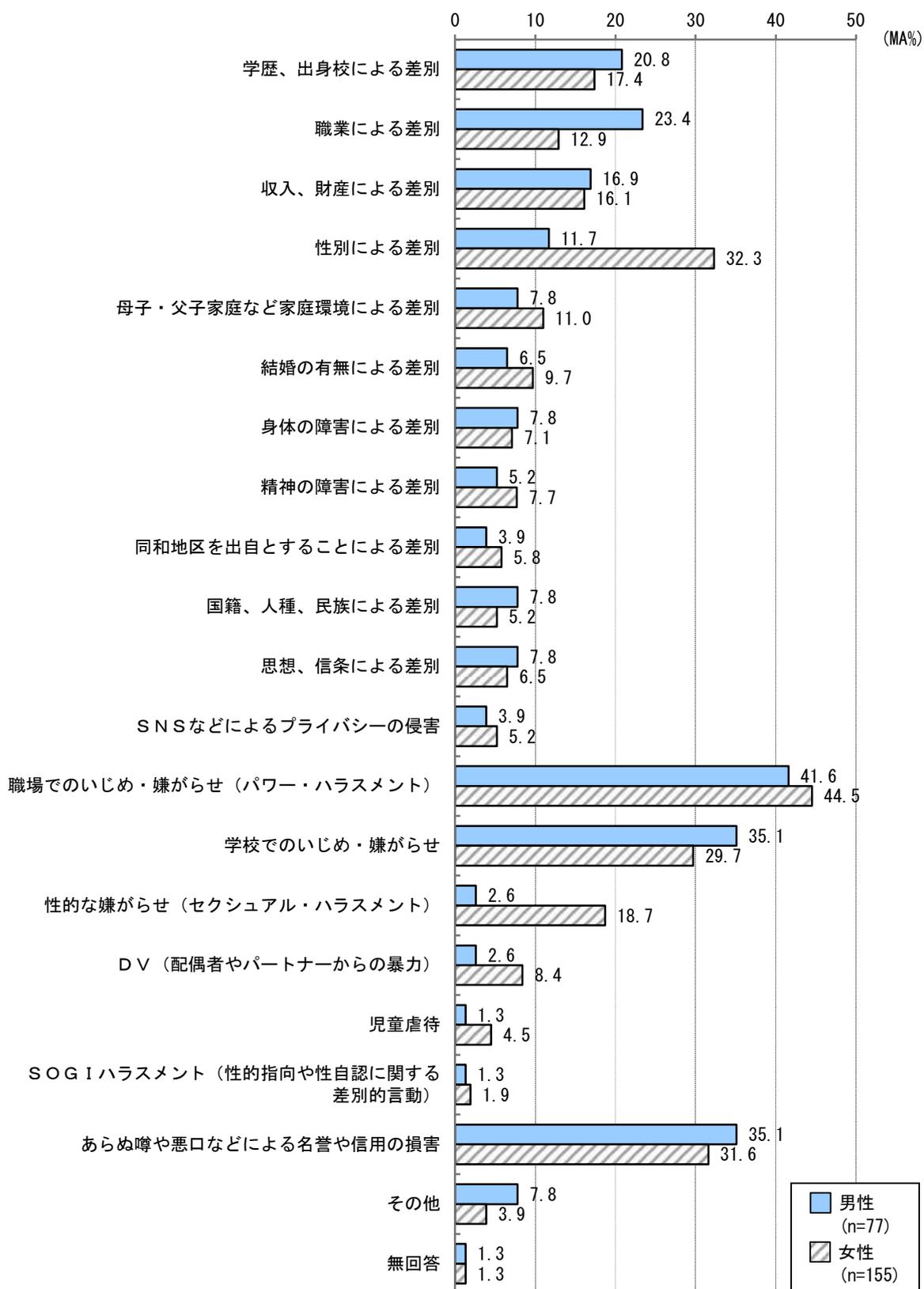


※奈良県調査では、「結婚の有無による差別」、「SNSなどによるプライバシーの侵害」、「職場でのいじめ・嫌がらせ（パワー・ハラスメント）」、「学校でのいじめ・嫌がらせ」、「性的な嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）」、「DV（配偶者やパートナーからの暴力）」、「児童虐待」、「SOGIハラスメント（性的指向や性自認に関する差別的言動）」、「あらぬ噂や悪口などによる名誉や信用の損害」の選択肢はありませんでした。

また、奈良県調査の「知的障害」、「病歴」、「宗教」、「逮捕・犯罪歴」、「理由は分からない」は、本市調査ではありません。

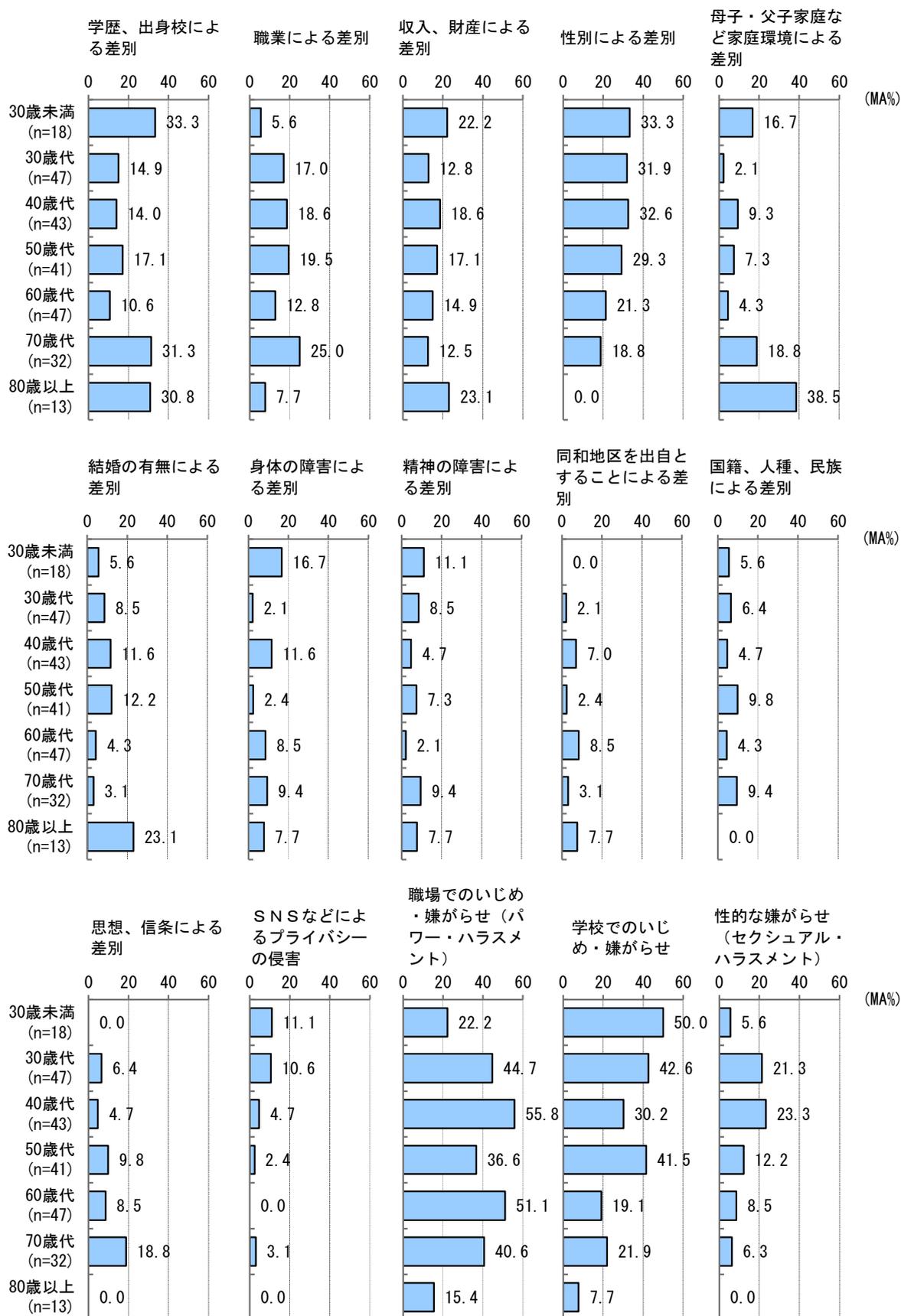
【性別】

性別でみると、男女とも「職場でのいじめ・嫌がらせ（パワー・ハラスメント）」が4割台で最も多く、次いで男性では「学校でのいじめ・嫌がらせ」と「あらぬ噂や悪口などによる名誉や信用の損害」がともに35.1%で続いており、女性では「性別による差別」が32.3%となっています。

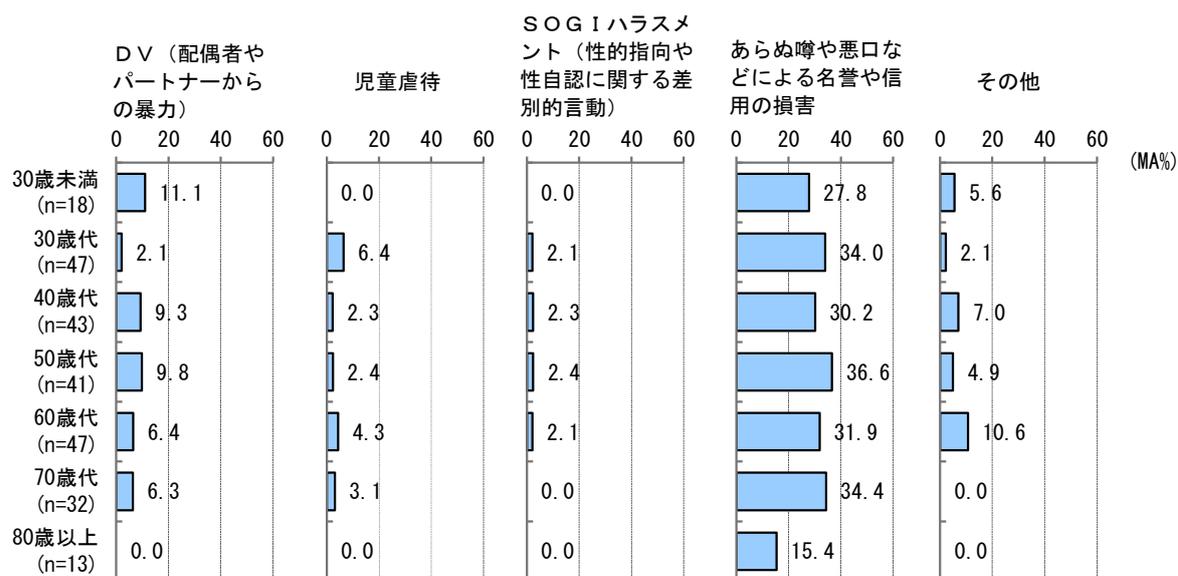


【年齢別①】

年齢別でみると、30歳未満と50歳代は「学校でのいじめ・嫌がらせ」が最も多く、80歳以上では「母子・父子家庭など家庭環境による差別」、それ以外の年代では「職場でのいじめ・嫌がらせ（パワー・ハラスメント）」が最も多くなっています。



【年齢別②】

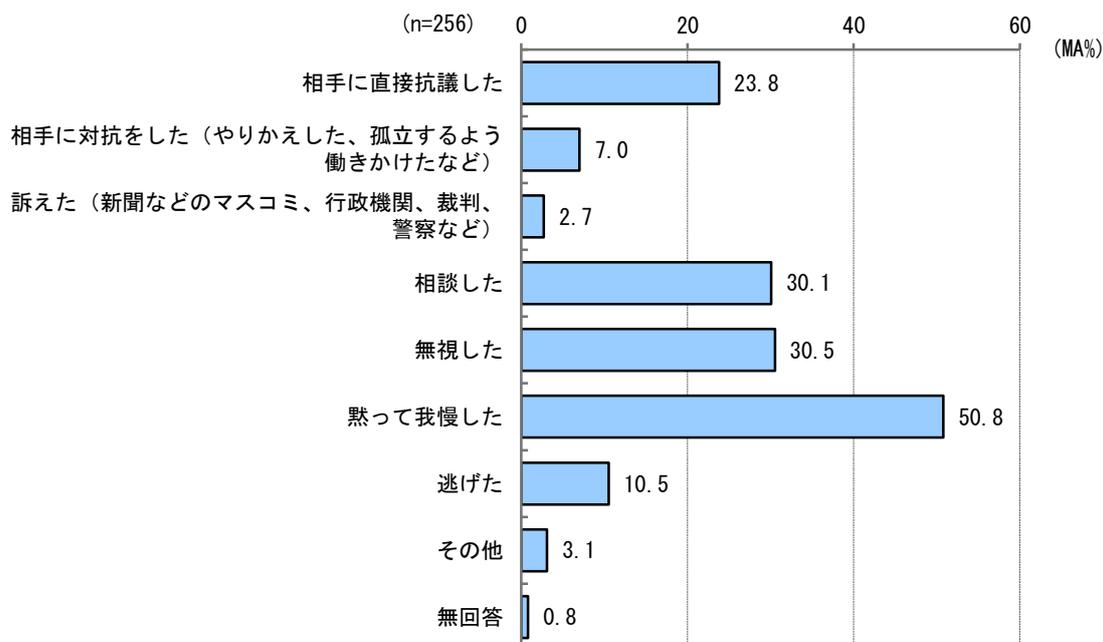


7-2. 人権侵害への対応

【問6で「1 ある」とお答えいただいた方にお聞きします】

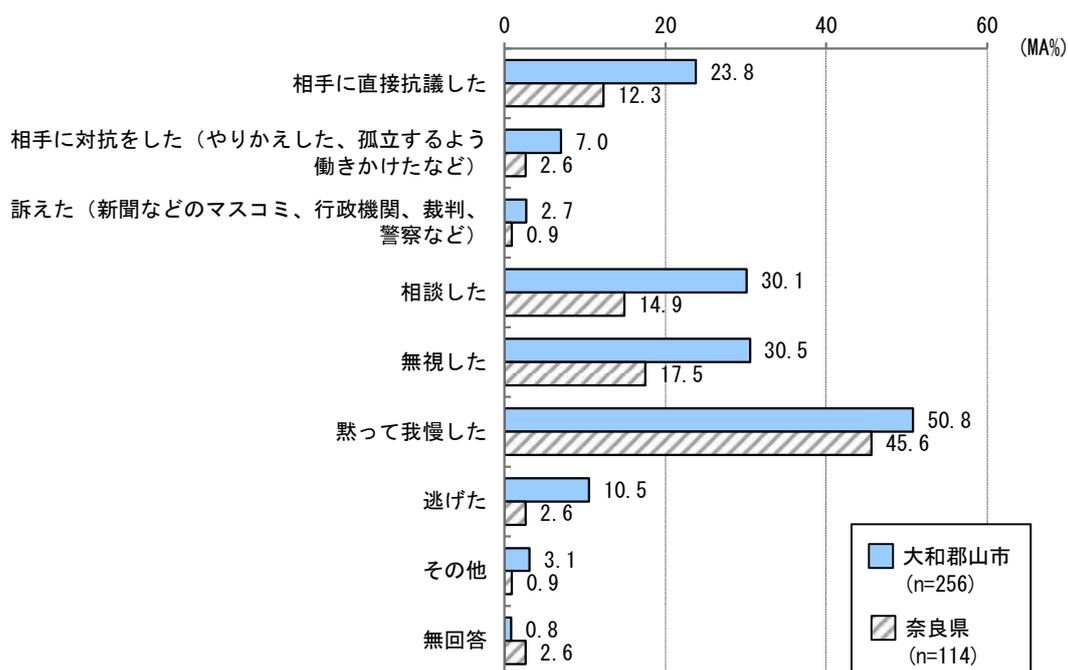
問6-2 そのとき、どのように対応しましたか。(〇はいくつでも)

人権が侵害されたと思ったことがあると回答した人に、そのときの対応についてたずねると、「黙って我慢した」が50.8%で最も多く、次いで「無視した」が30.5%、「相談した」が30.1%、「相手に直接抗議した」が23.8%となっています。



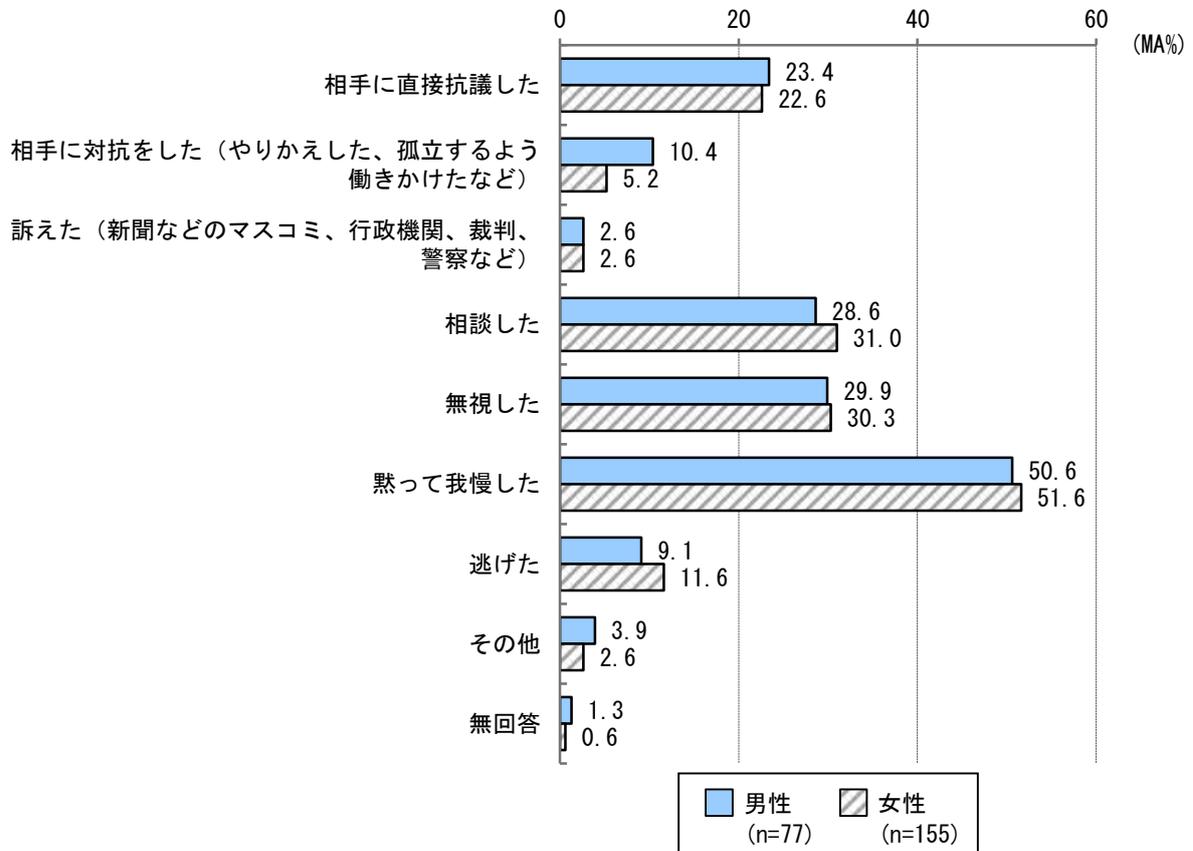
【奈良県との比較】

「相談した」の割合は、奈良県 (14.9%) より15.2ポイント、「無視した」の割合は奈良県 (17.5%) より13.0ポイント、それぞれ高くなっています。



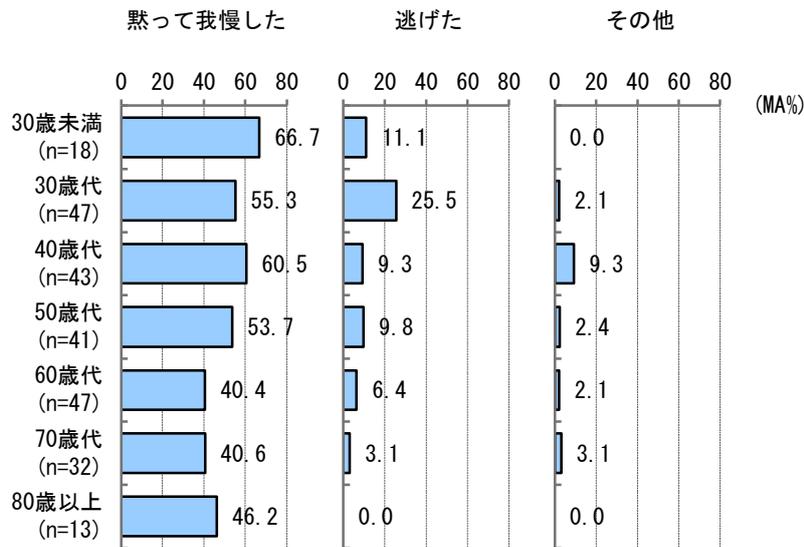
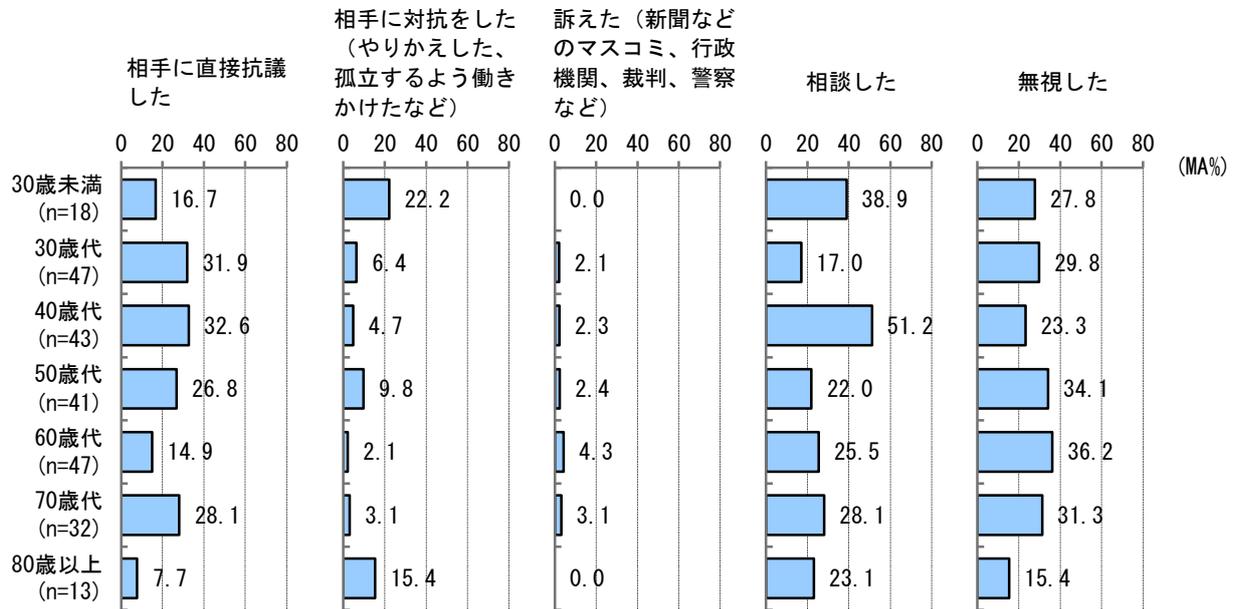
【性別】

性別でみると、「相手に対抗をした（やりかえした、孤立するよう働きかけたなど）」は女性（5.2%）より男性（10.4%）のほうが5.2ポイント高くなっています。



【年齢別】

年齢別でみると、母数が少ないため一概にはいえませんが、いずれの年代も「黙って我慢した」が最も多く、30歳未満が66.7%で最も高くなっています。

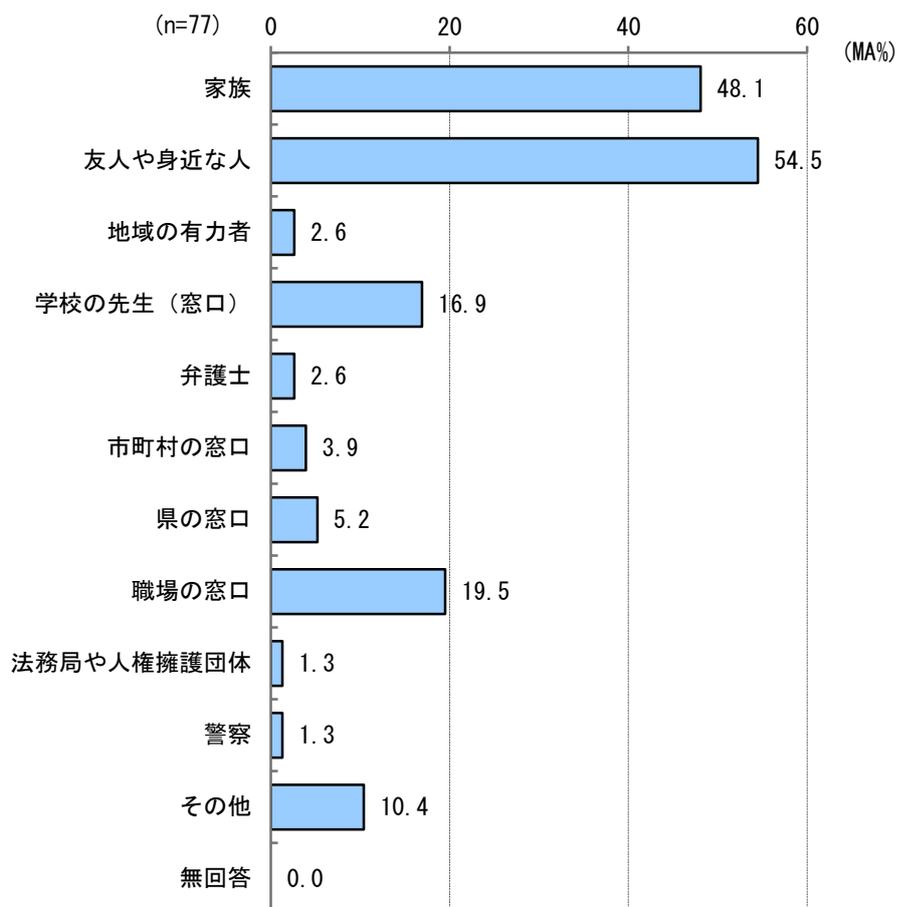


7-3. 人権侵害された時の相談相手

【問6-2で「4 相談した」とお答えいただいた方にお聞きします】

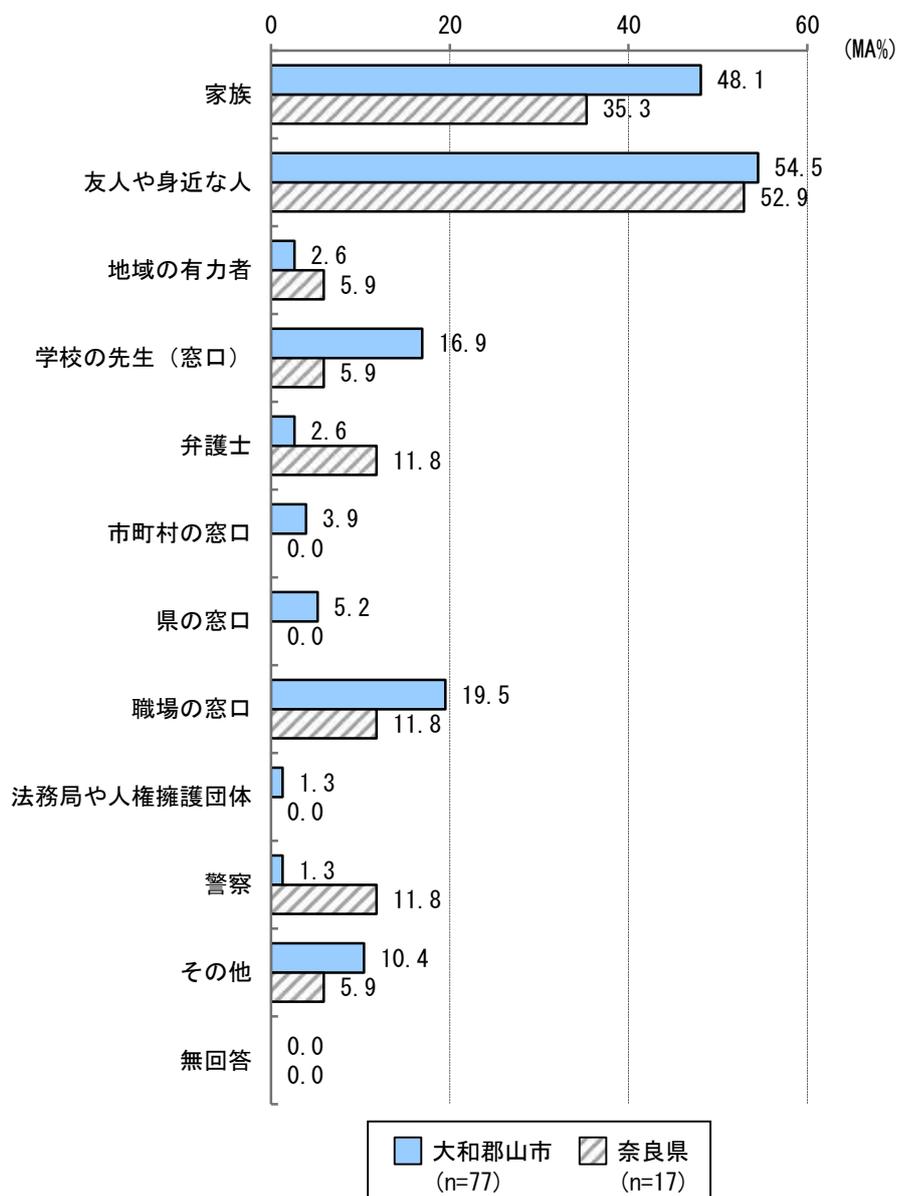
問6-3 誰に相談されましたか。相談された人や組織について教えてください。(〇はいくつでも)

人権侵害されたときに相談したと回答した人に、誰に相談したかをたずねると、「友人や身近な人」が54.5%で最も多く、次いで「家族」が48.1%、「職場の窓口」が19.5%となっています。



【奈良県との比較】

奈良県の母数が17人と少ないため、一概にはいえませんが、「家族」の割合は、奈良県（35.3%）より12.8ポイント、「学校の先生（窓口）」の割合は、奈良県（5.9%）より11.0ポイント、それぞれ高くなっています。



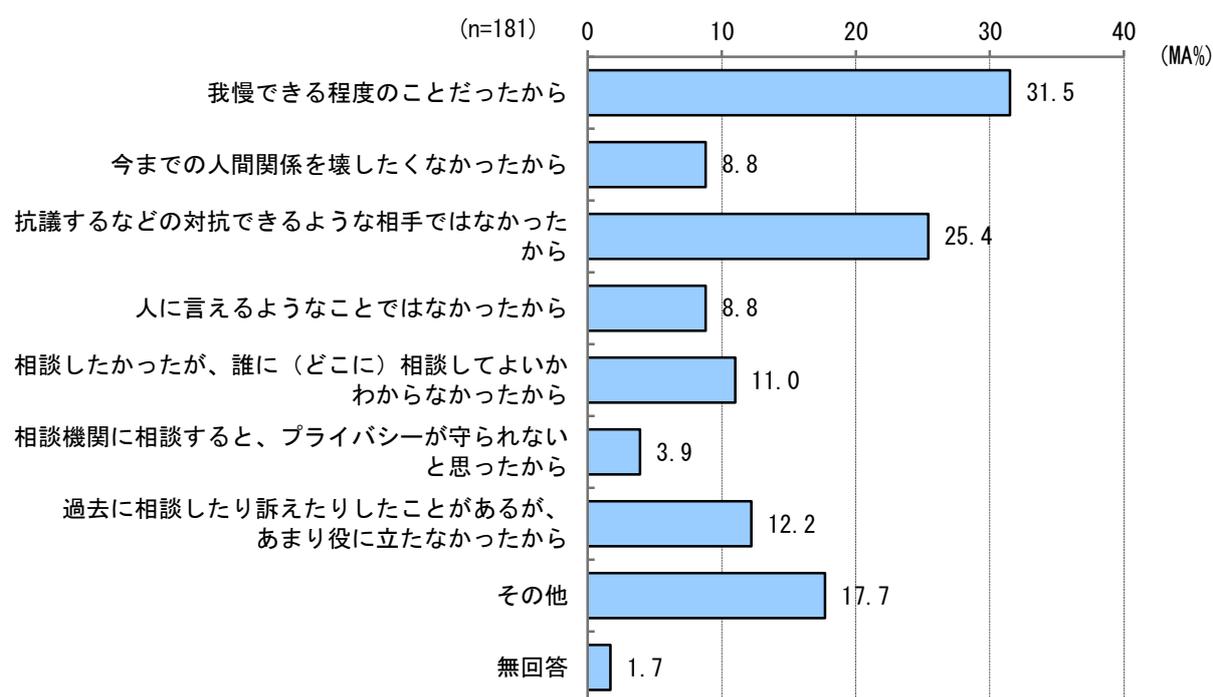
※奈良県調査の「議員や政党」、「民間の人権団体」、「新聞などマスコミ」の選択肢は、本市調査ではありません。

7-4. 人権侵害されたときに無視、我慢、逃げた理由

【問6-2で「5」～「7」とお答えいただいた方にお聞きします】

問6-4 そのようにした理由は何ですか。一番あてはまるものを1つだけ選んでください。
(○は1つ)

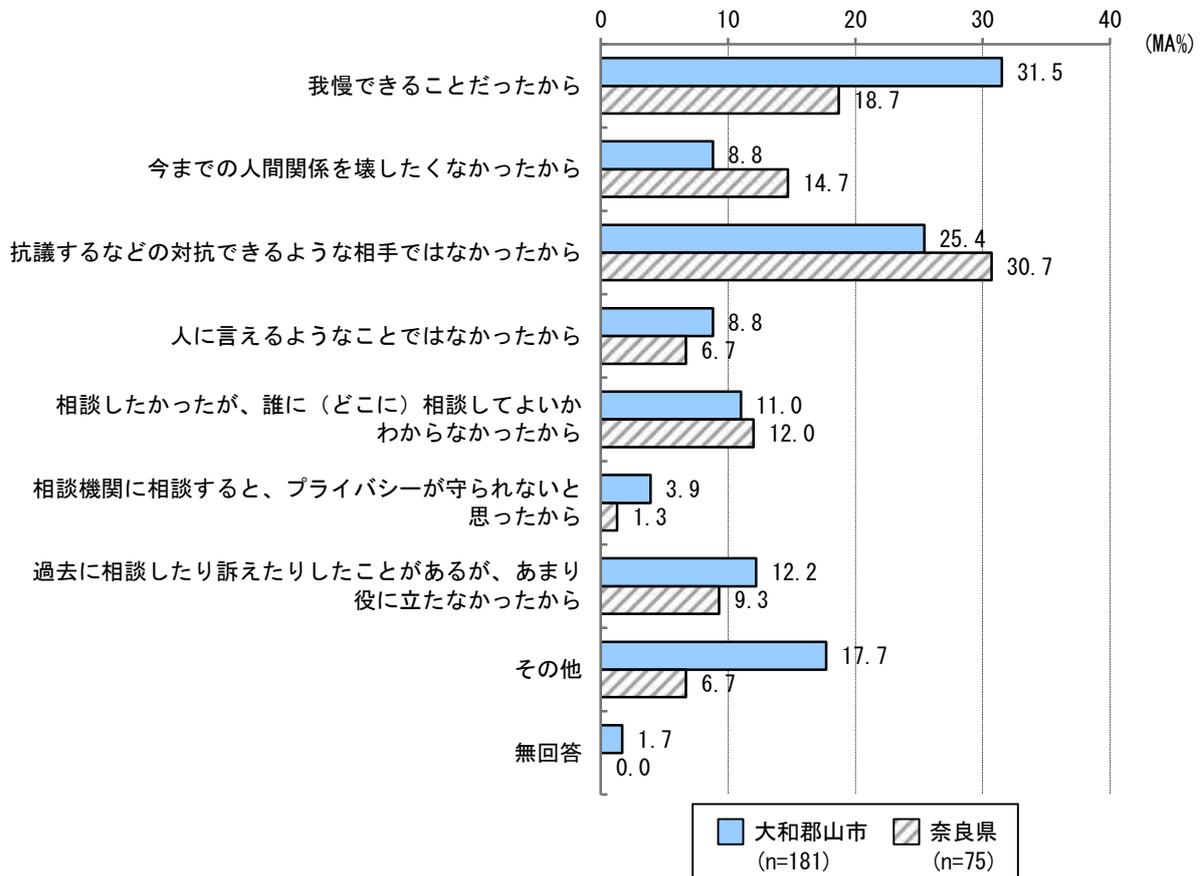
人権侵害されたときに無視した、黙って我慢した、逃げたと回答した人に、その理由をたずねると、「我慢できる程度のことだったから」が31.5%で最も多く、次いで「抗議するなどの対抗できるような相手ではなかったから」が25.4%、「過去に相談したり訴えたりしたことがあるが、あまり役に立たなかったから」が12.2%となっています。



※複数回答に変更しています。

【奈良県との比較】

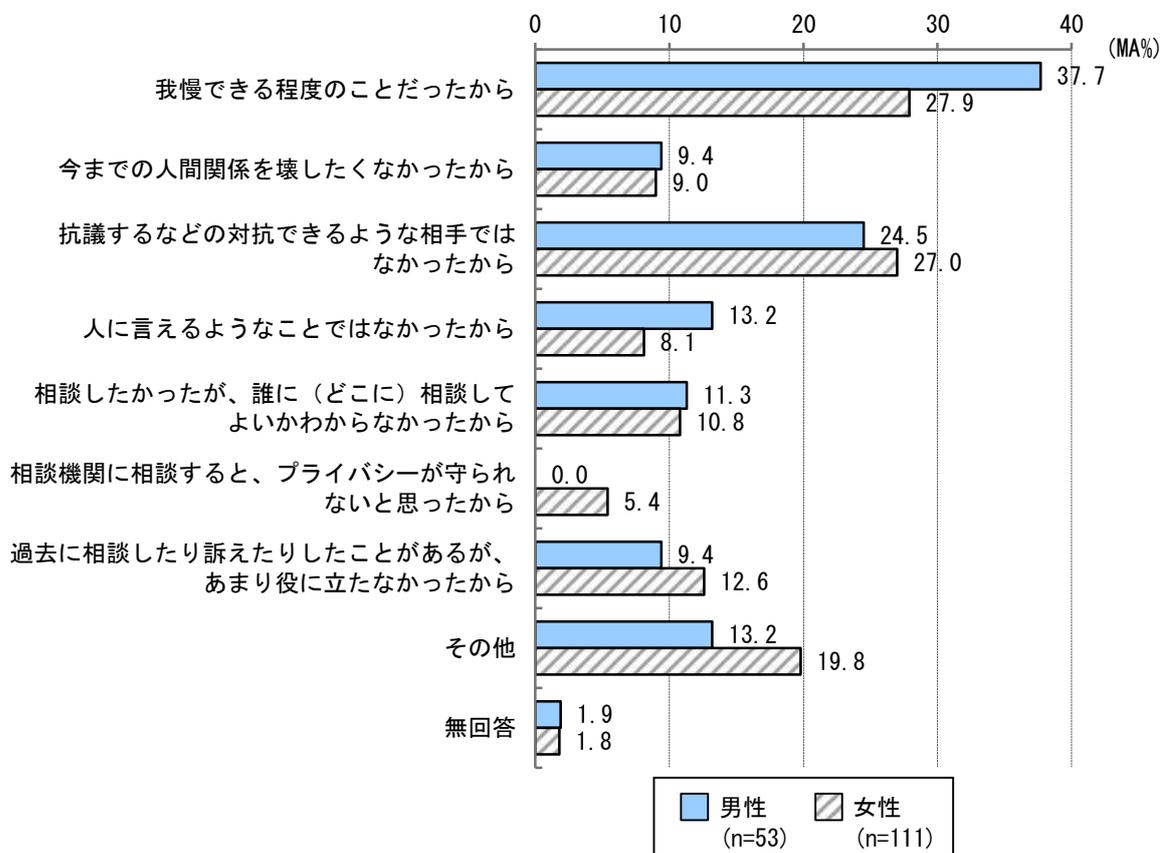
「我慢できることだったから」の割合は、奈良県（18.7%）より12.8ポイント高くなっています。



※奈良県調査では単一回答でしたが、本市調査では複数回答に変更しています。

【性別】

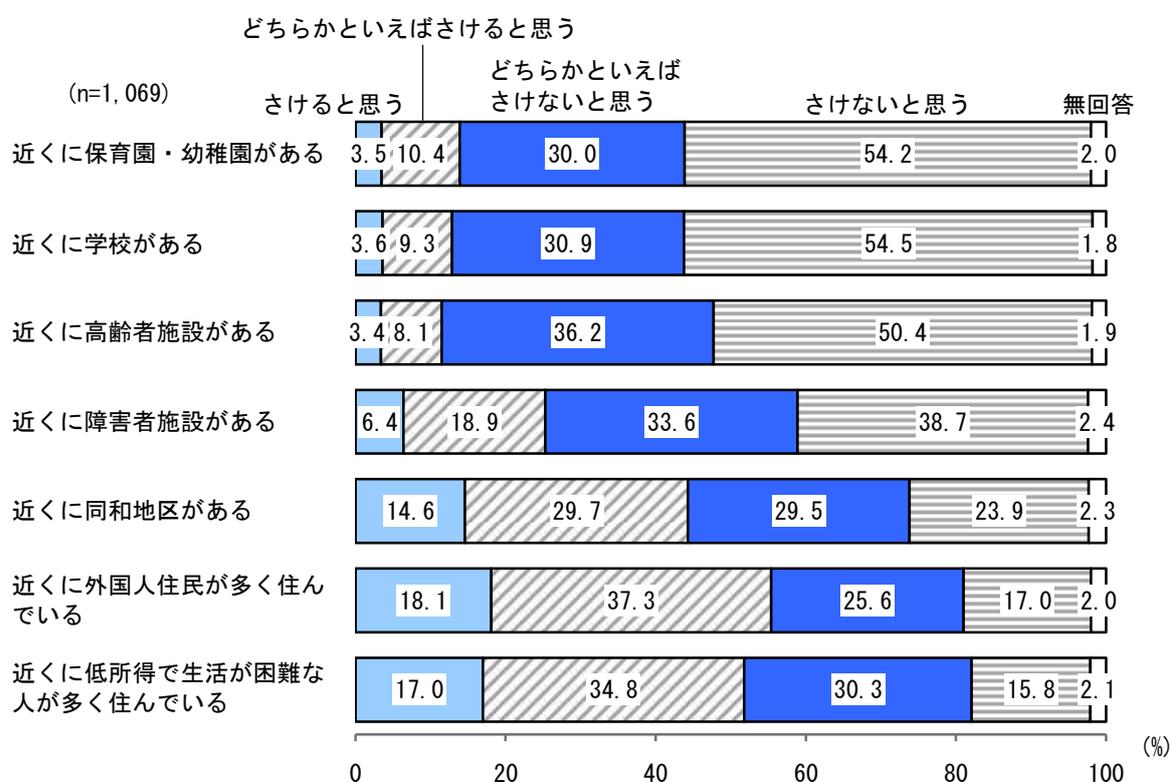
性別でみると、「我慢できる程度のことだったから」の割合は、女性(27.9%)より男性(37.7%)のほうが9.8ポイント、「人に言えるようなことではなかったから」の割合は、女性(8.1%)より男性(13.2%)のほうが5.1ポイント、それぞれ高くなっています。



8. 住宅を選ぶ際にさける条件

問7 あなたは、家を購入したりマンションを借りたりするなどの住宅を選ぶ際に、価格や立地条件などが希望にあっても、次のような条件の物件の場合、選ぶのをさけると思いますか。(〇はそれぞれ1つつ)

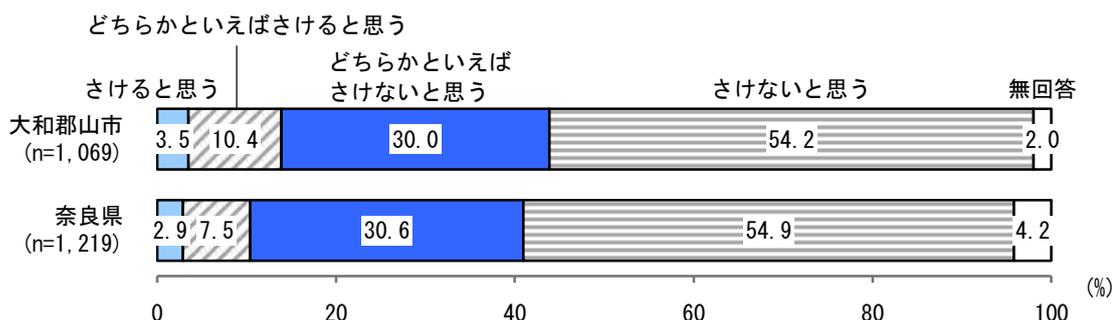
住宅を選ぶ際にさける条件についてたずねたところ、「さけると思う」は“近くに外国人住民が多く住んでいる”が18.1%で最も高く、次いで“近くに低所得で生活が困難な人が多く住んでいる”が17.0%となっており、「どちらかといえばさけると思う」をあわせた『さける』も“近くに外国人住民が多く住んでいる”が55.4%で最も高く、次いで“近くに低所得で生活が困難な人が多く住んでいる”が51.8%、“近くに同和地区がある”が44.3%となっています。



【奈良県との比較】

■近くに保育園・幼稚園がある

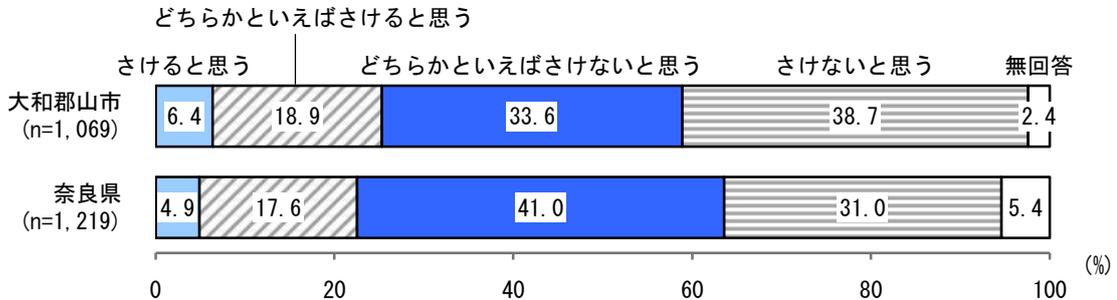
『さける』の割合は、奈良県（10.4%）より3.5ポイント高くなっています。



【奈良県との比較】

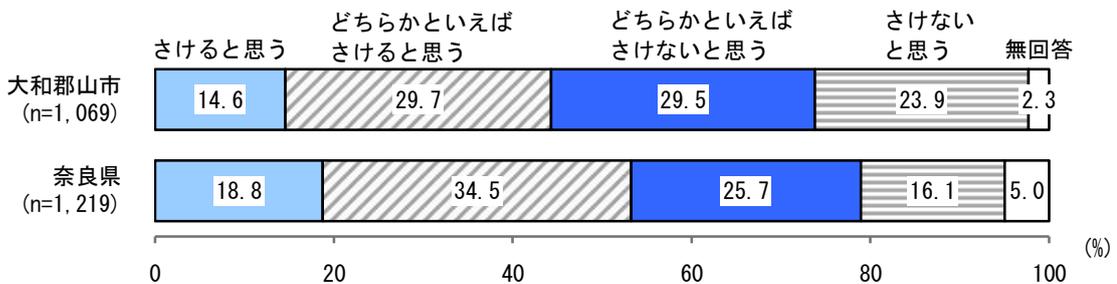
■近くに障害者施設がある

『さける』の割合は、奈良県（22.5%）より2.8ポイント高くなっています。



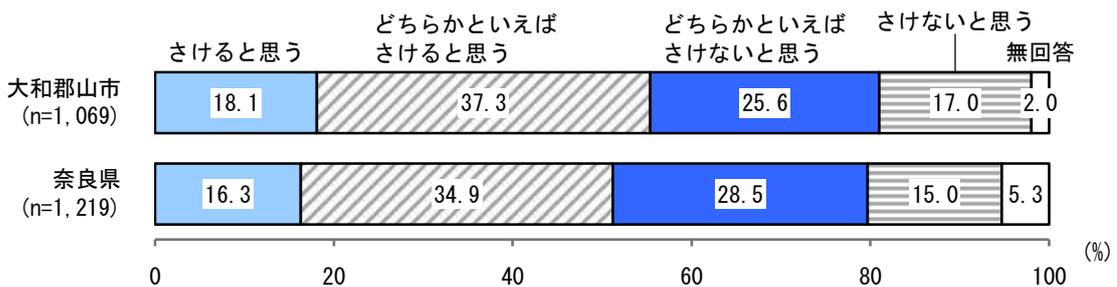
■近くに同和地区がある

『さける』の割合は、奈良県（53.3%）より9.0ポイント低くなっています。



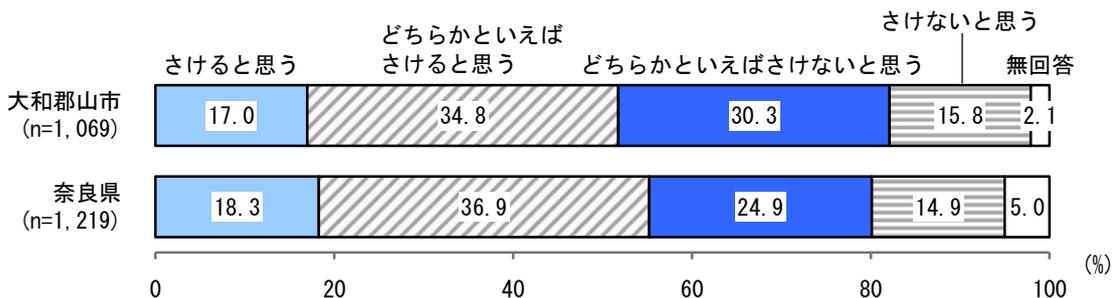
■近くに外国人住民が多く住んでいる

『さける』の割合は、奈良県（51.2%）より4.2ポイント高くなっています。



■近くに低所得で生活が困難な人が多く住んでいる

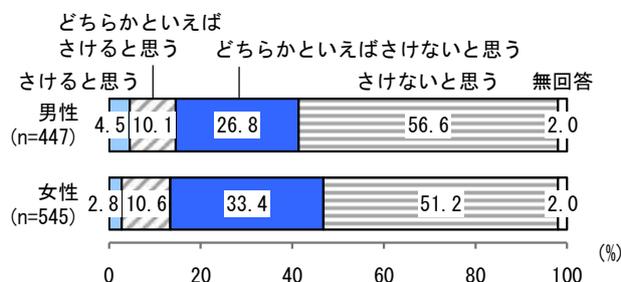
『さける』の割合は、奈良県（55.2%）より3.4ポイント低くなっています。



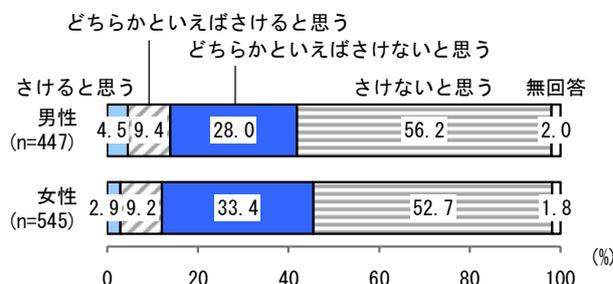
【性別】

性別でみると、『さける』の割合は、“近くに保育園・幼稚園がある”、“近くに学校がある”、“近くに外国人住民が多く住んでいる”では女性より男性のほうが高い割合となっています。

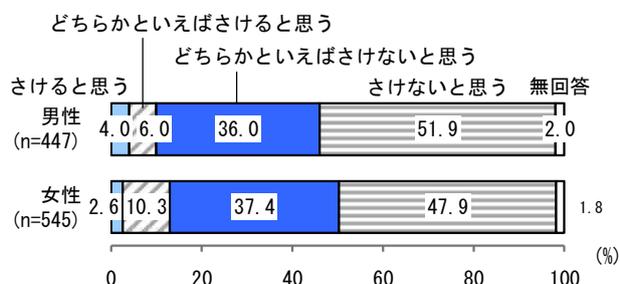
■近くに保育園・幼稚園がある



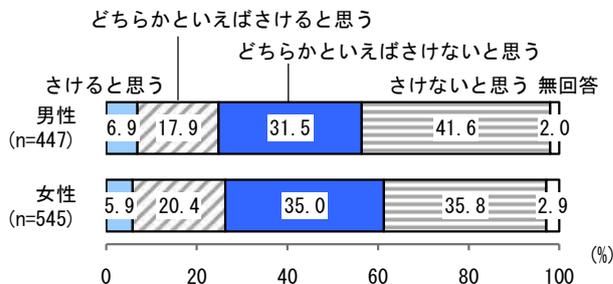
■近くに学校がある



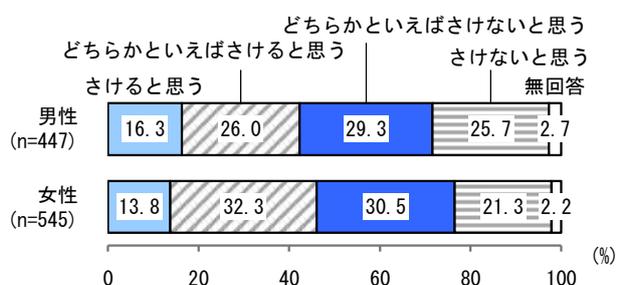
■近くに高齢者施設がある



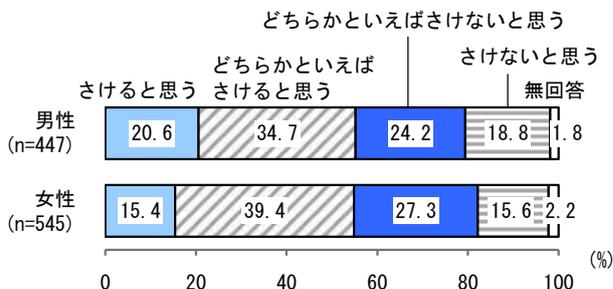
■近くに障害者施設がある



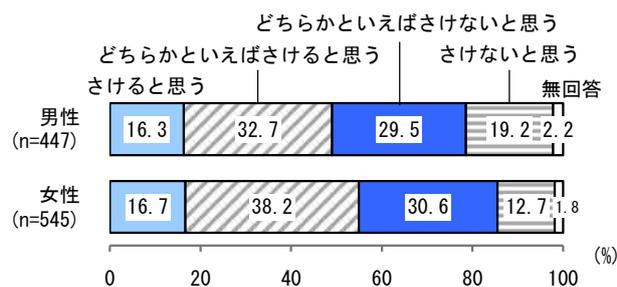
■近くに同和地区がある



■近くに外国人住民が多く住んでいる



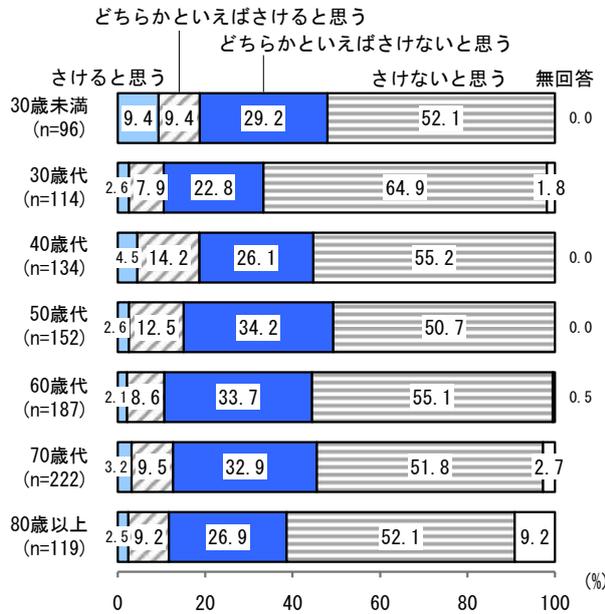
■近くに低所得で生活が困難な人が多く住んでいる



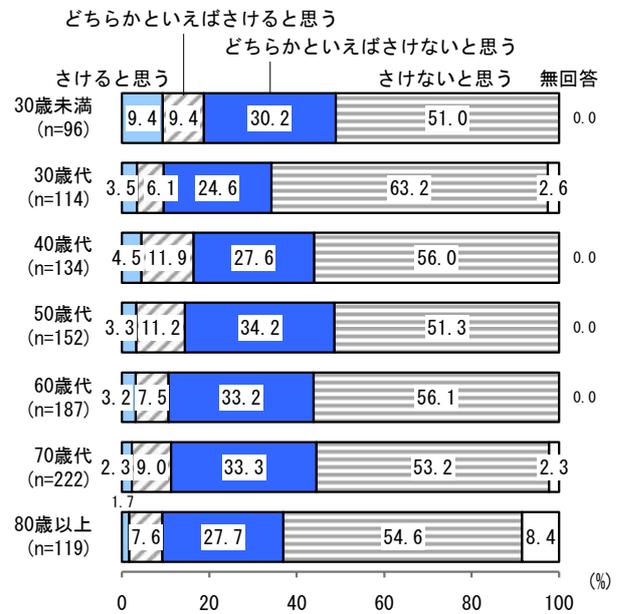
【年齢別①】

年齢別でみると、『さける』の割合は、“近くに保育園・幼稚園がある”、“近くに学校がある”、“近くに高齢者施設がある”では30歳未満が最も高いですが、それ以外の項目では40歳代が最も高い割合となっています。

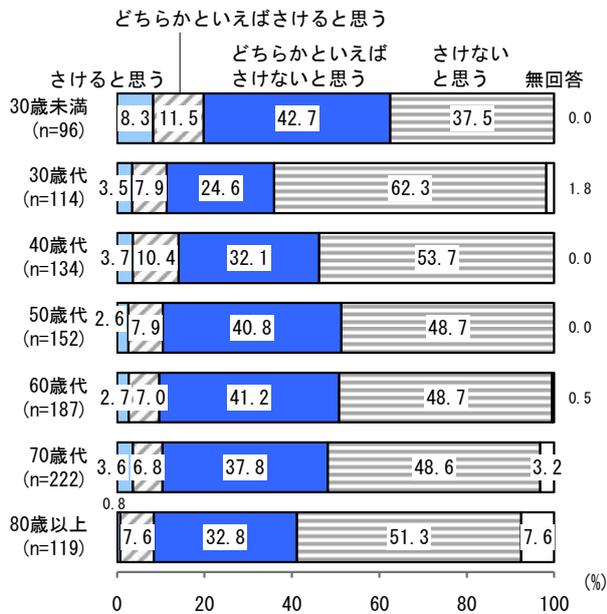
■近くに保育園・幼稚園がある



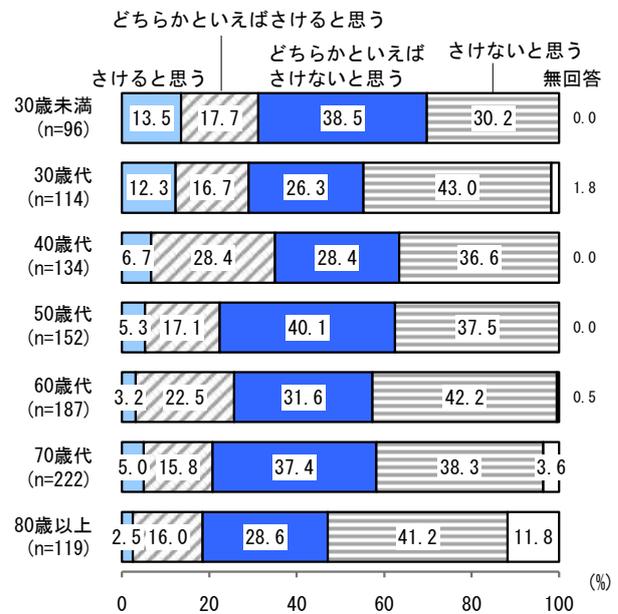
■近くに学校がある



■近くに高齢者施設がある

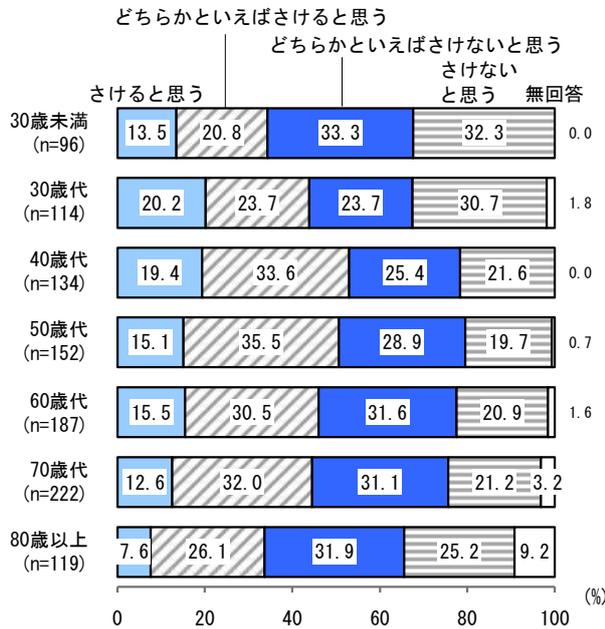


■近くに障害者施設がある

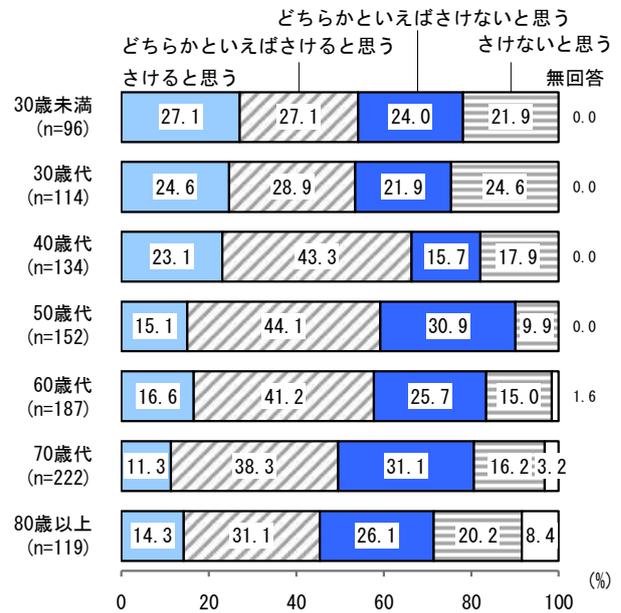


【年齢別②】

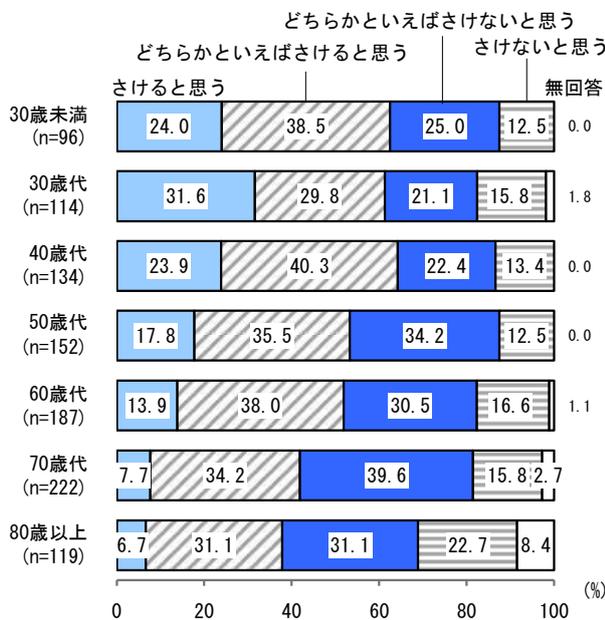
■近くに同和地区がある



■近くに外国人住民が多く住んでいる



■近くに低所得で生活が困難な人が多く住んでいる

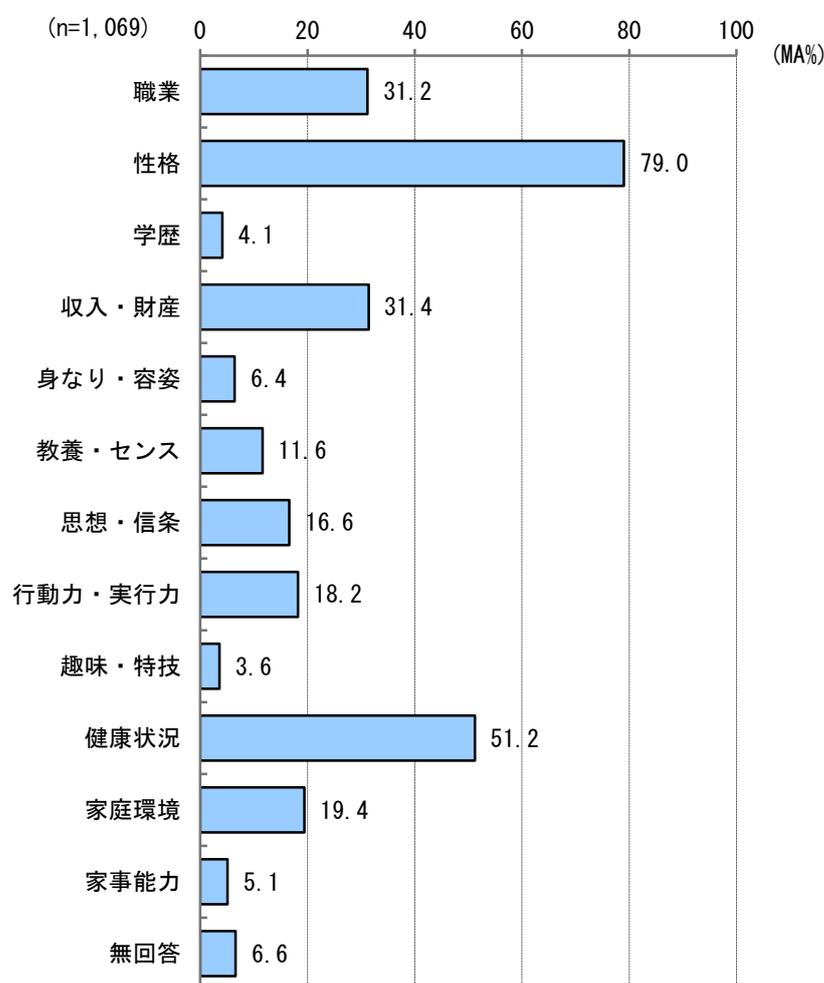


9. 子どもの結婚相手として重視するもの

問8 あなたにお子さんがいた場合、お子さんの結婚相手として、望ましいと思われる点はどうのようなものですか。相手が男性の場合と女性の場合の両方について、あなたが重視される項目を、3つまで選んでください。(〇はそれぞれ3つまで)

■相手が男性の場合

子どもの結婚相手が男性の場合に、結婚相手として重視するものについては、「性格」が79.0%で最も多く、次いで「健康状況」が51.2%、「収入・財産」が31.4%、「職業」が31.2%となっています。

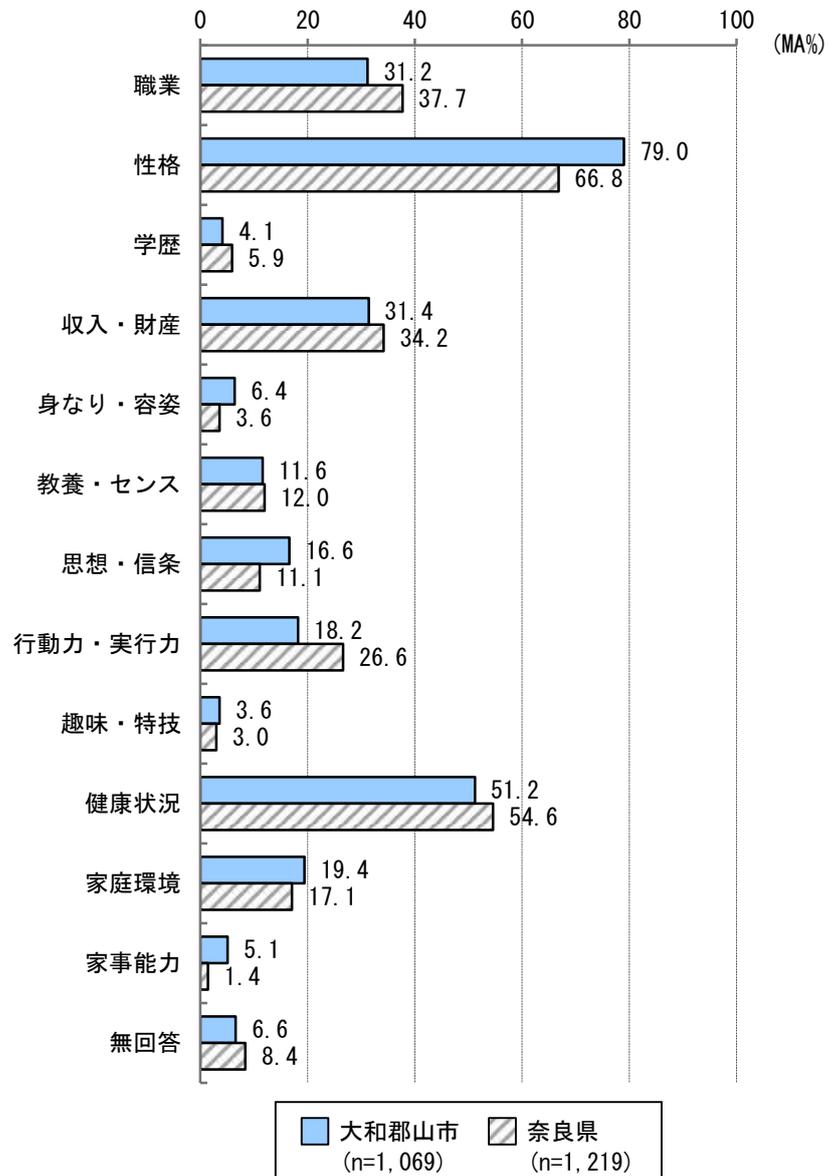


※3つまでの回答を複数回答に変更しています。

【奈良県との比較】

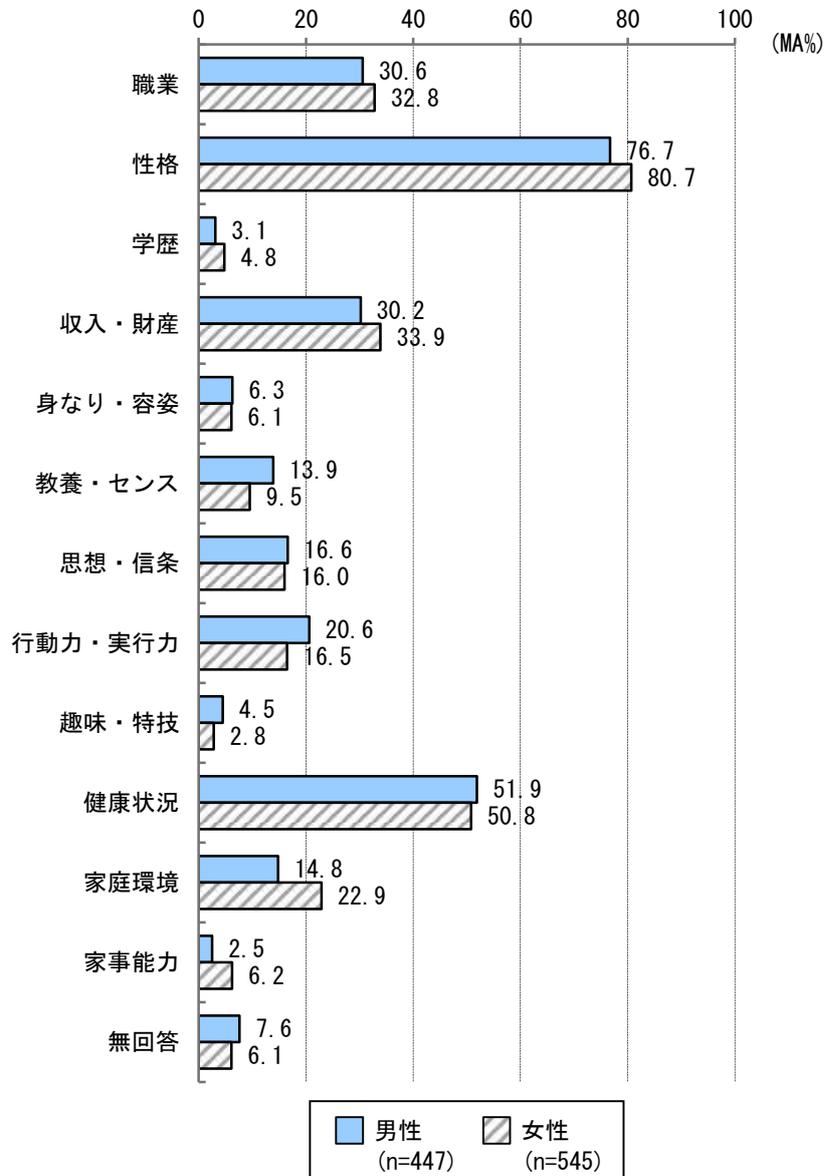
■相手が男性の場合

「性格」の割合は、奈良県（66.8%）より12.2ポイント高いですが、「行動力・実行力」は奈良県（26.6%）より8.4ポイント低くなっています。



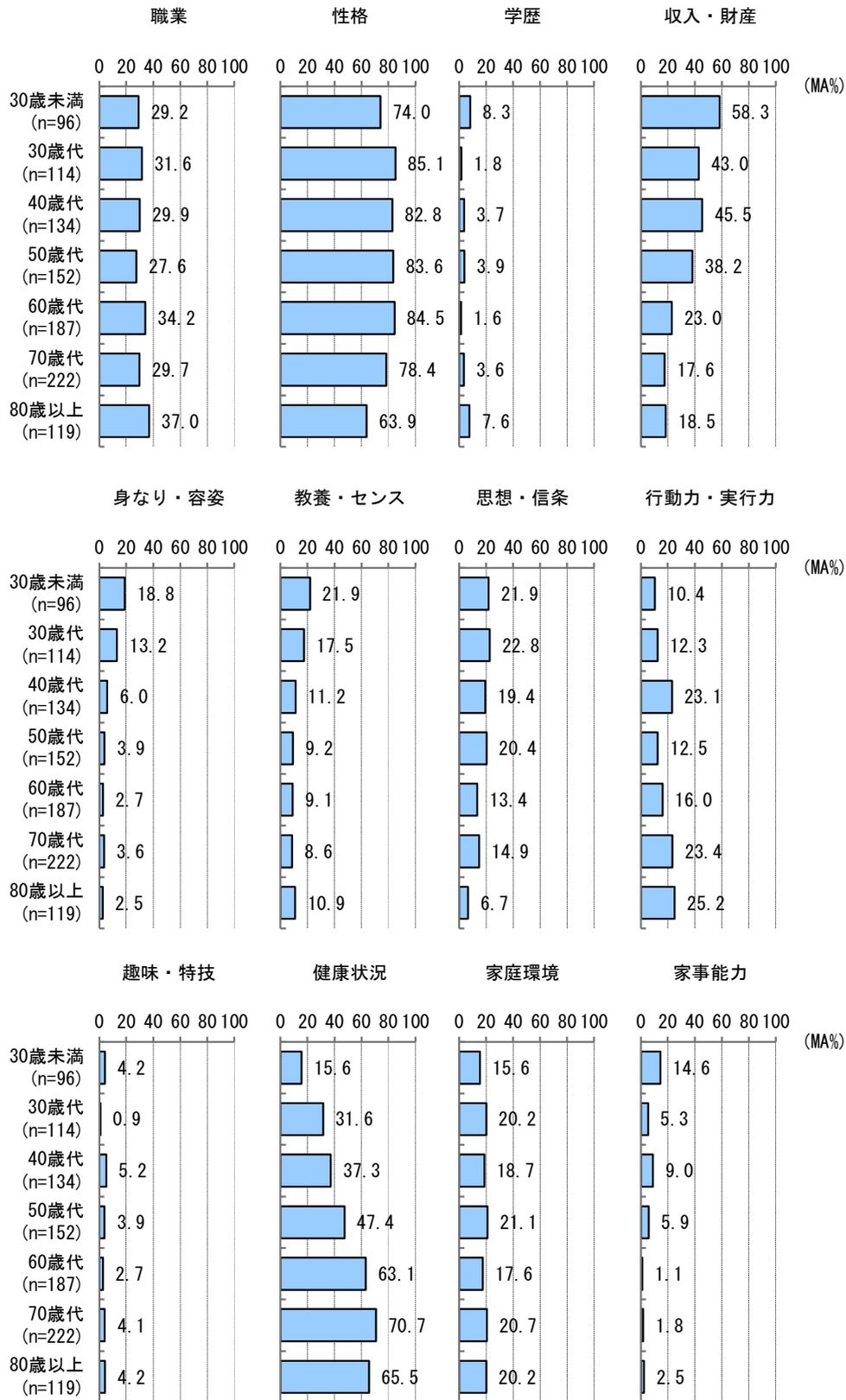
【性別】

性別でみると、「家庭環境」は男性（14.8%）より女性（22.9%）のほうが8.1ポイント高いですが、「教養・センス」は女性（9.5%）より男性（13.9%）のほうが4.4ポイント高くなっています。



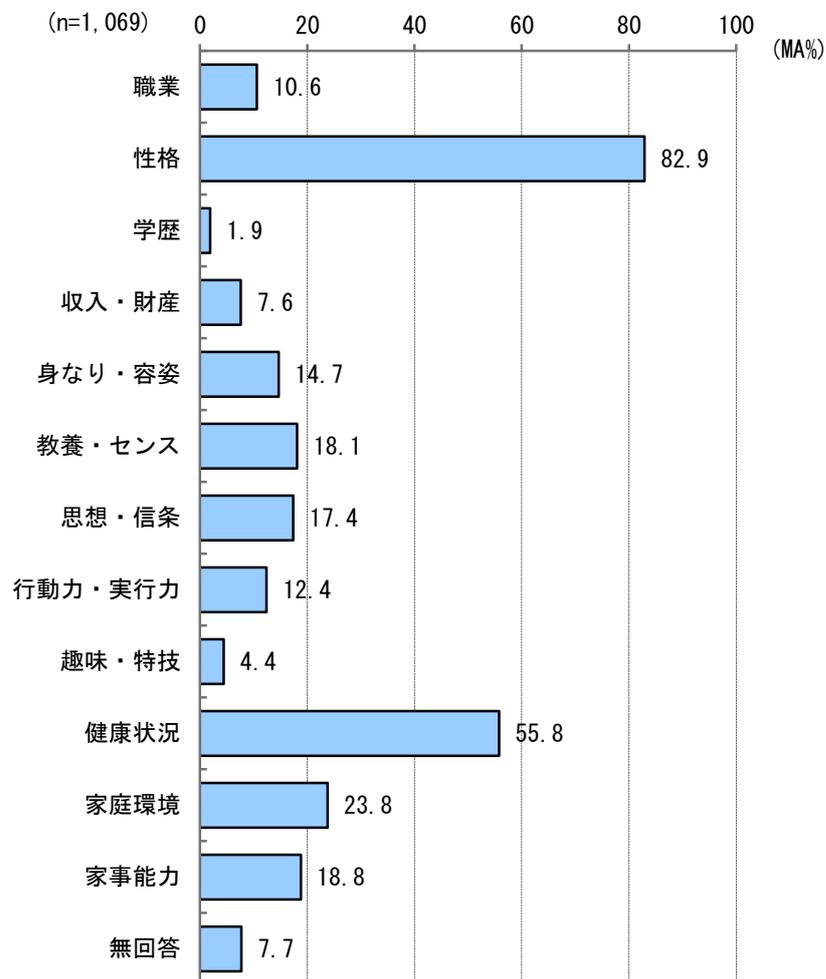
【年齢別】

年齢別でみると、「学歴」、「収入・財産」、「身なり・容姿」、「教養・センス」、「家事能力」の割合は30歳未満が最も高く、「性格」、「思想・信条」の割合は30歳代で最も高くなっています。



■相手が女性の場合

子どもの結婚相手が女性の場合に、結婚相手として重視するものについては、「性格」が82.9%で最も多く、次いで「健康状況」が55.8%、「家庭環境」が23.8%となっています。

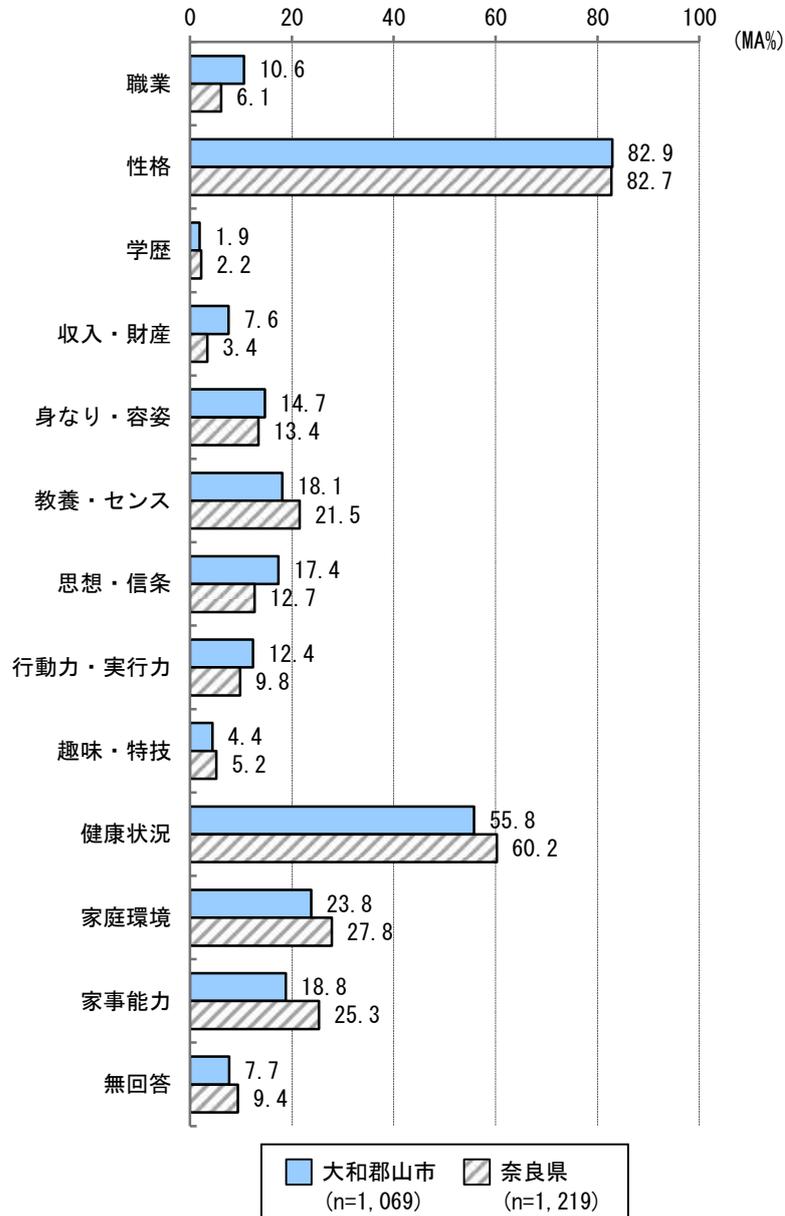


※3つまでの回答を複数回答に変更しています。

【奈良県との比較】

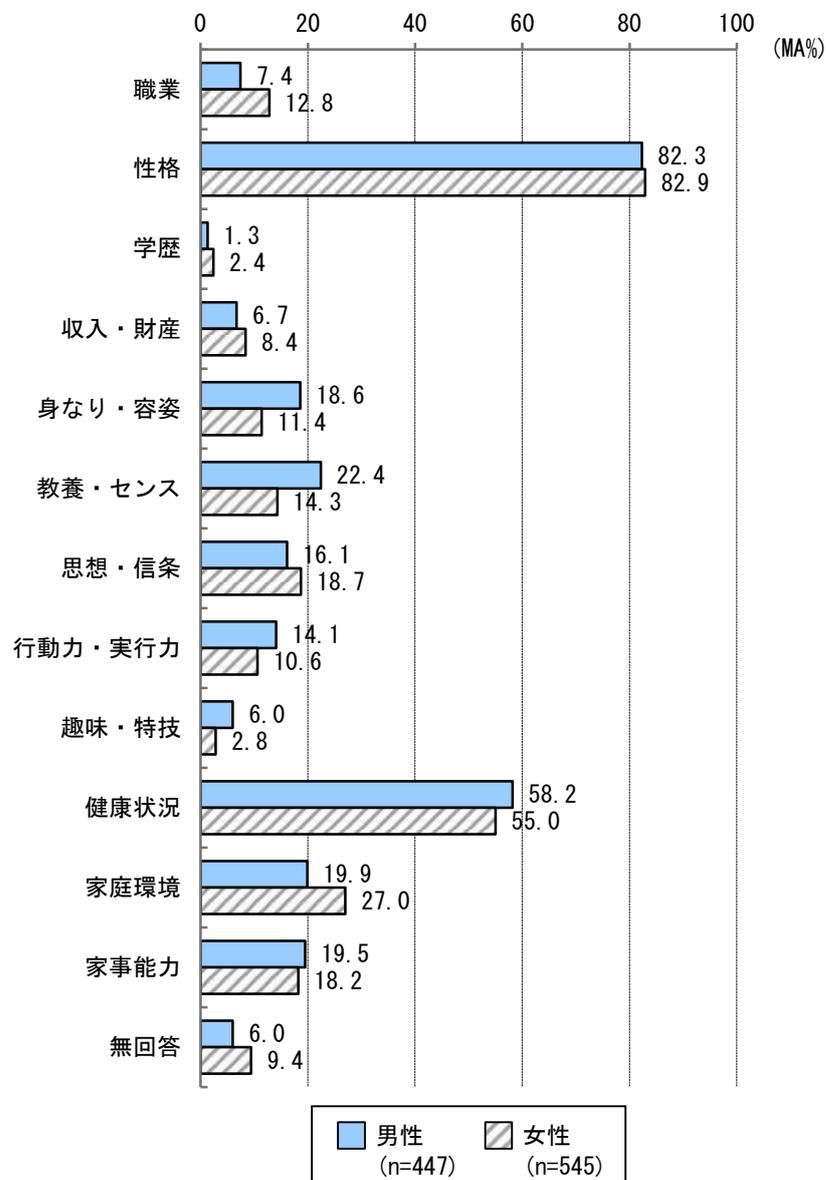
■相手が女性の場合

「家事能力」の割合は、奈良県（25.3%）より6.5ポイント、「健康状況」の割合は、奈良県（60.2%）より4.4ポイント、それぞれ低くなっています。



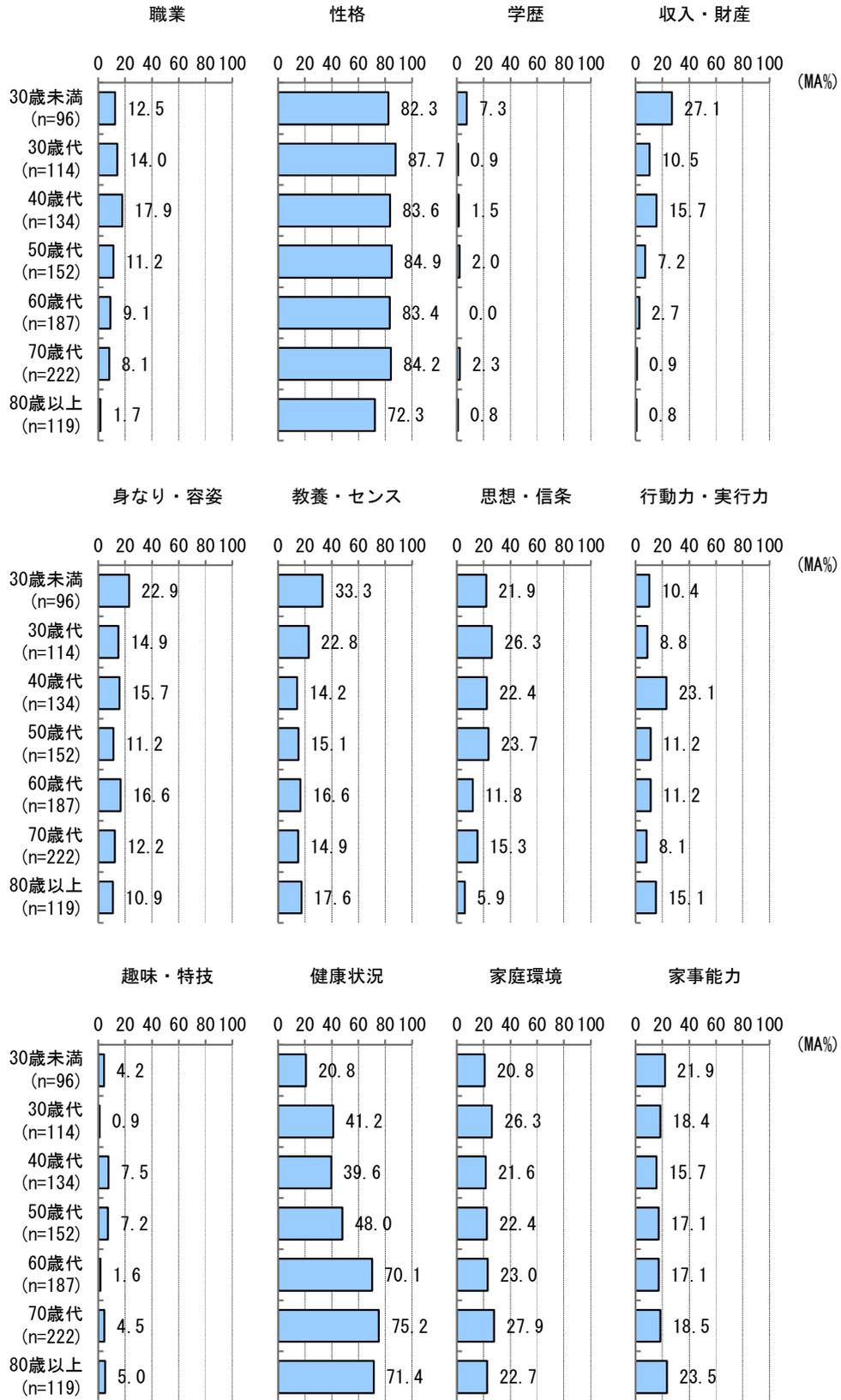
【性別】

性別でみると、「教養・センス」の割合は女性（14.3%）より男性（22.4%）のほうが8.1ポイント、「身なり・容姿」の割合は女性（11.4%）より男性（18.6%）のほうが7.2ポイント、それぞれ高くなっています。



【年齢別】

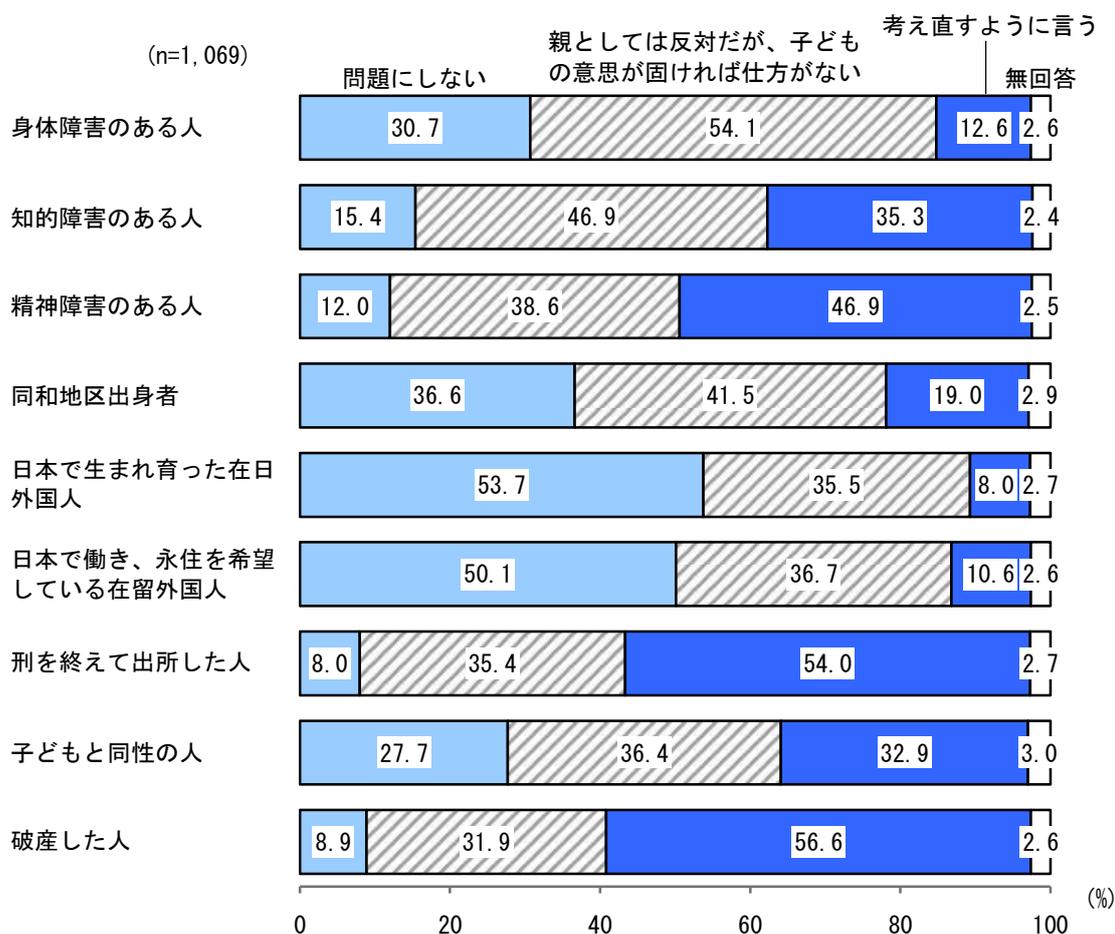
年齢別でみると、「学歴」、「収入・財産」、「身なり・容姿」、「教養・センス」はいずれも30歳未満で最も高い割合となっています。



10. 子どもの結婚相手や親が次のような人であった場合の態度

問9 問8で選んだ望ましいと思われる条件を備えているお子さんの結婚相手もしくはその親が、次のような人であった場合、あなたはどのような態度をとると思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

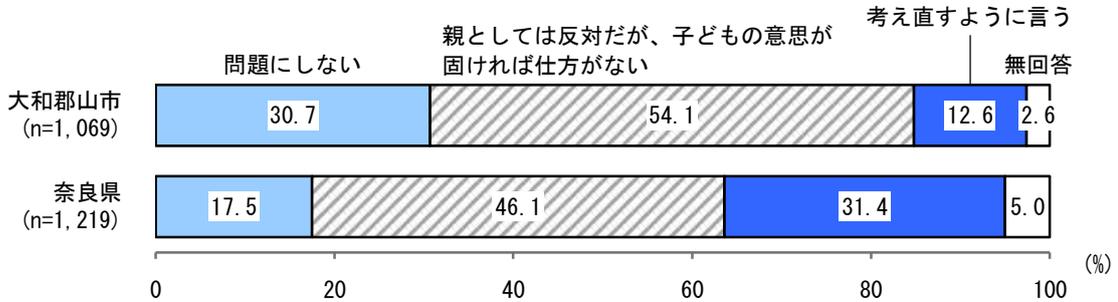
子どもの結婚相手や親が次のような人であった場合の態度についてたずねたところ、「考え直すように言う」は“破産した人”が56.6%で最も高く、次いで“刑を終えて出所した人”が54.0%、“精神障害のある人”が46.9%となっています。「親としては反対だが、子どもの意思が固ければ仕方がない」は“身体障害のある人”が54.1%で最も高く、次いで“知的障害のある人”が46.9%、“同和地区出身者”が41.5%となっています。



【奈良県との比較】

■身体障害のある人※

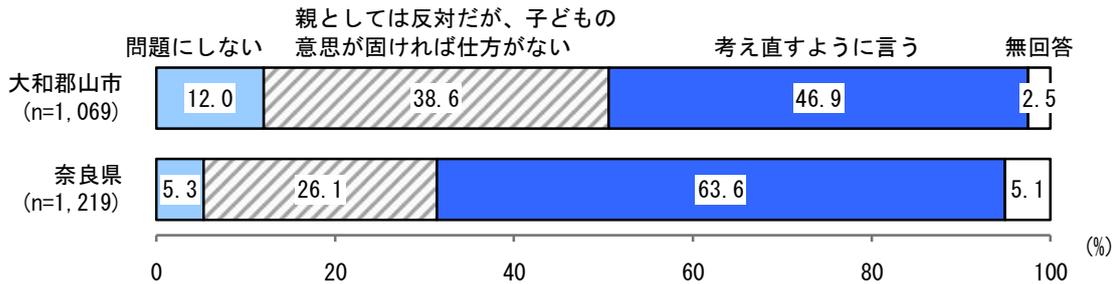
「考え直すように言う」の割合は、奈良県（31.4%）より18.8ポイント低くなっています。



※奈良県調査では、車椅子が必要な人。

■精神障害のある人※

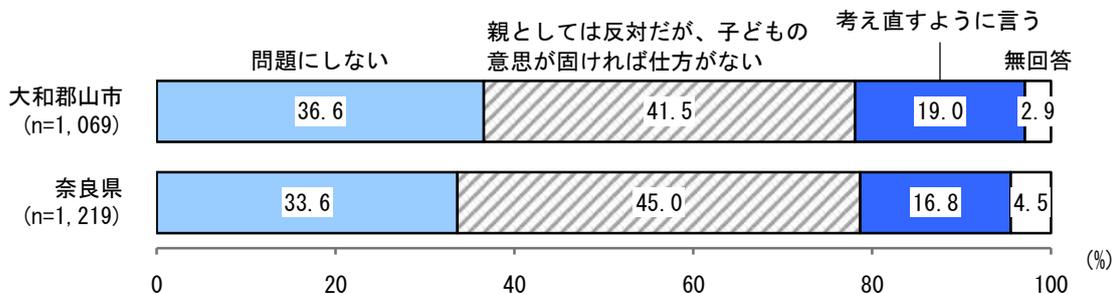
「考え直すように言う」の割合は、奈良県（63.6%）より16.7ポイント低くなっています。



※奈良県調査では、精神の障害で通院している人。

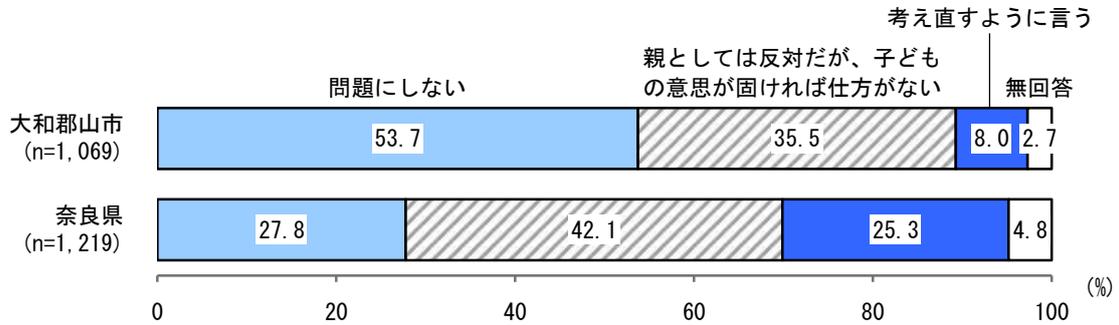
■同和地区出身者

「親としては反対だが、子どもの意思が固ければ仕方がない」の割合は、奈良県（45.0%）より3.5ポイント低くなっています。



■日本で生まれ育った在日外国人*

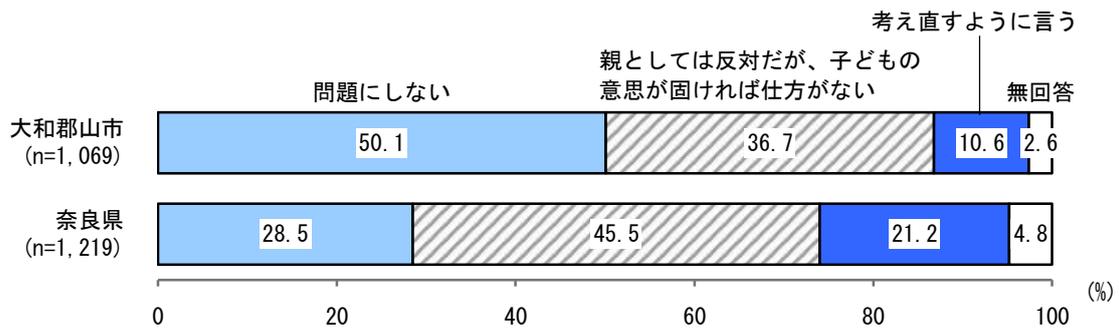
「考え直すように言う」の割合は、奈良県（25.3%）より17.3ポイント低くなっています。



※奈良県調査では、日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人。

■日本で働き、永住を希望している在留外国人*

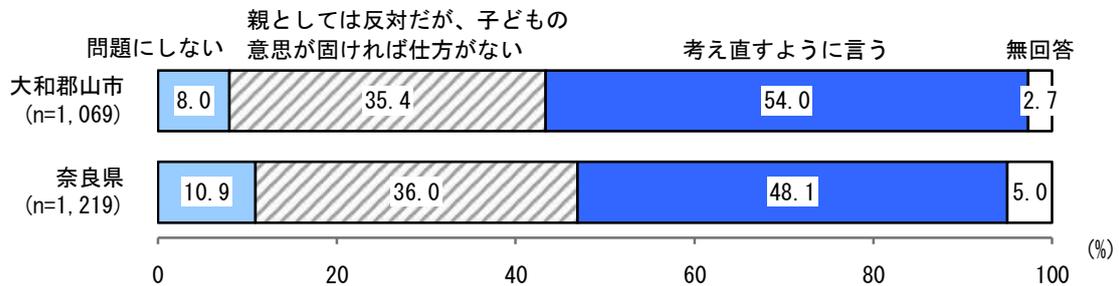
「問題にしない」の割合は、奈良県（28.5%）より21.6ポイント高くなっています。



※奈良県調査では、日本で働き、永住を希望している日系ブラジル人。

■刑を終えて出所した人*

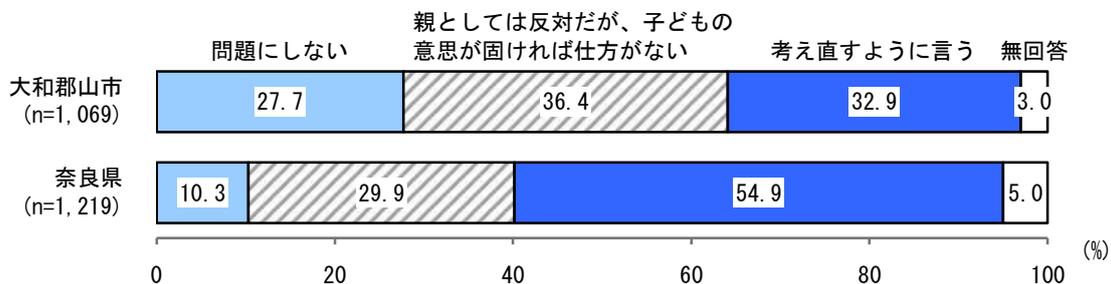
「考え直すように言う」の割合は、奈良県（48.1%）より5.9ポイント高くなっています。



※奈良県調査では、その親が刑を終えて出所した人。

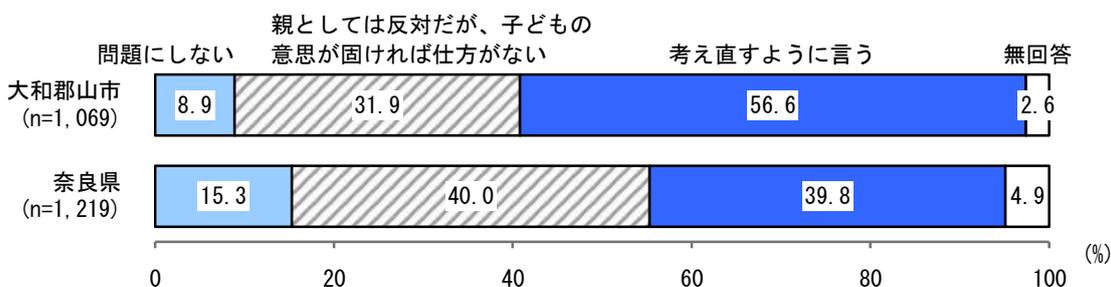
■子どもと同性の人

「考え直すように言う」の割合は、奈良県（54.9%）より22.0ポイント低くなっています。



■破産した人※

「考え直すように言う」の割合は、奈良県（39.8%）より16.8ポイント高くなっています。

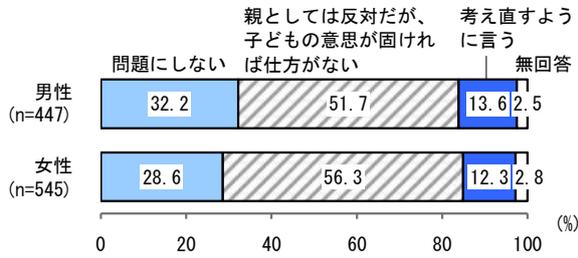


※奈良県調査では、その親が破産宣告を受けた人。

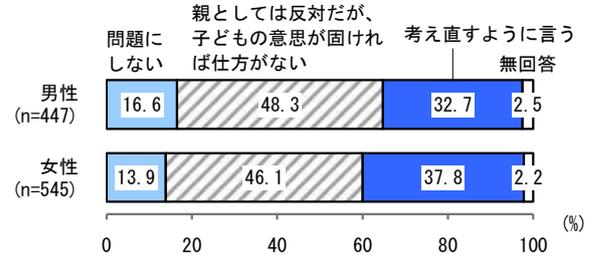
【性別】

性別で見ると、「考え直すように言う」は、“知的障害のある人”、“精神障害のある人”、“刑を終えて出所した人”、“破産した人”では男性より女性のほうが高い割合となっています。

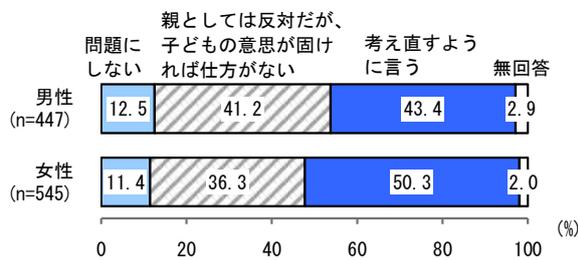
■身体障害のある人



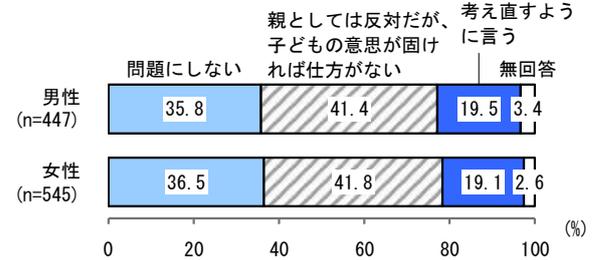
■知的障害のある人



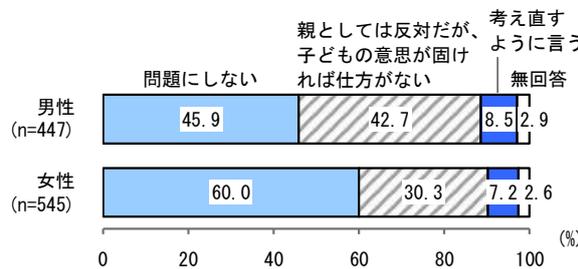
■精神障害のある人



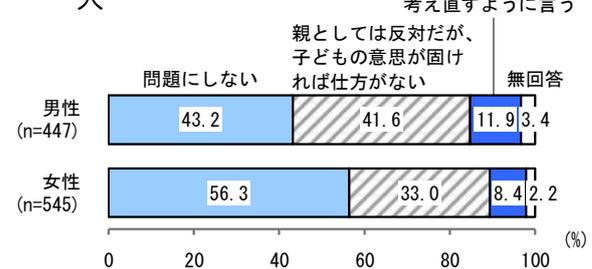
■同和地区出身者



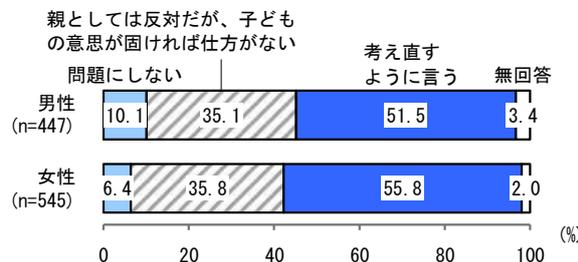
■日本で生まれ育った在日外国人



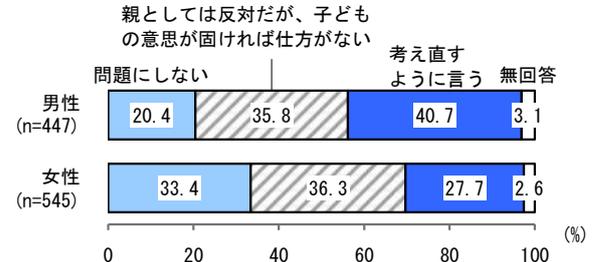
■日本で働き、永住を希望している在留外国人



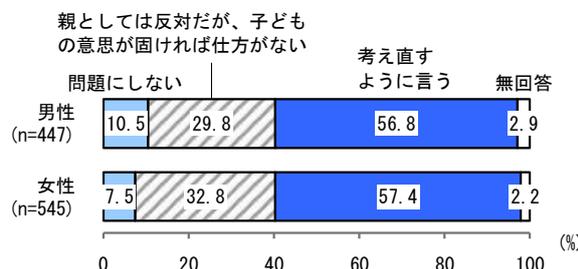
■刑を終えて出所した人



■子どもと同性的の人



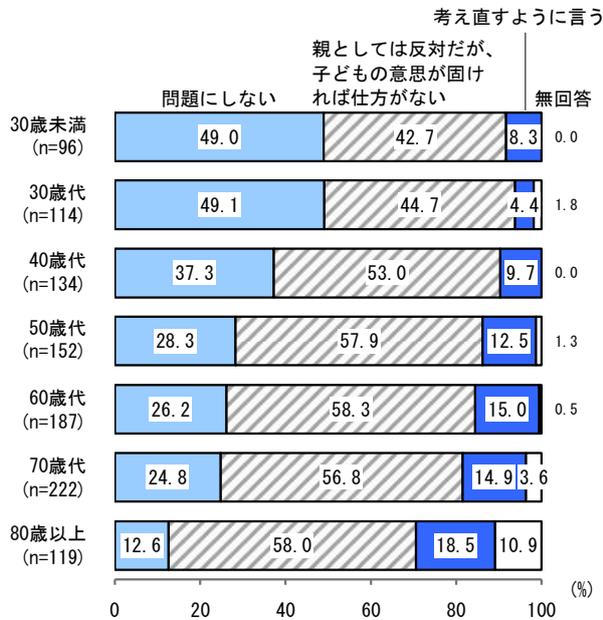
■破産した人



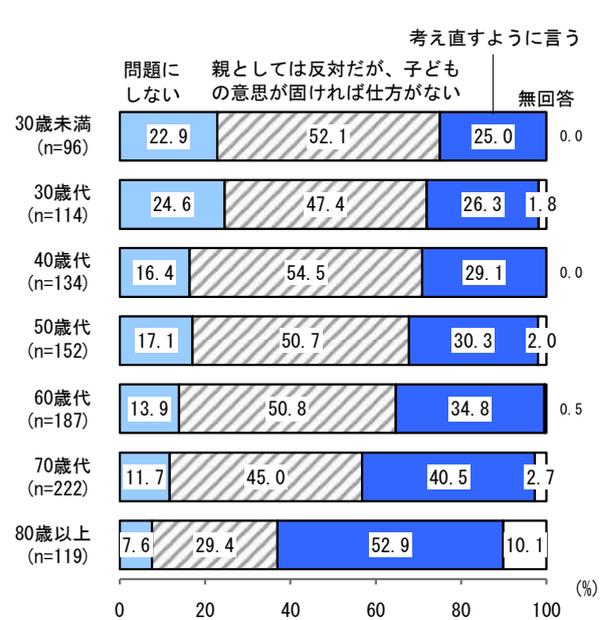
【年齢別①】

年齢別でみると、「考え直すように言う」の割合は、“身体障害のある人”、“知的障害のある人”、“精神障害のある人”、“日本で生まれ育った在日外国人”、“子どもと同姓の人”では80歳以上で最も高くなっています。

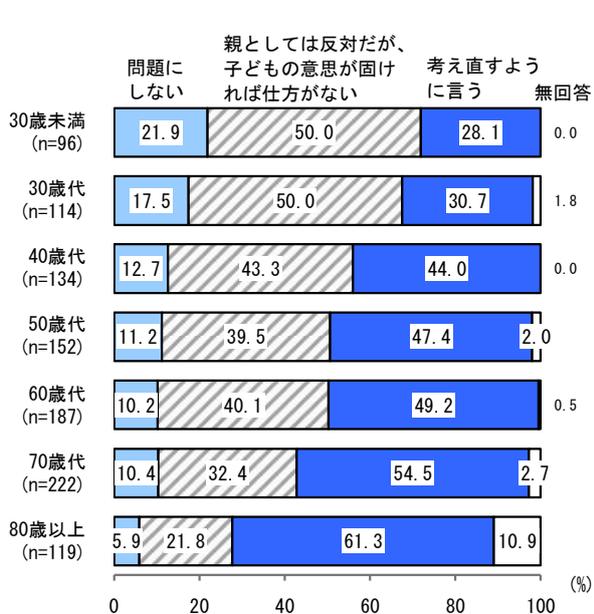
■身体障害のある人



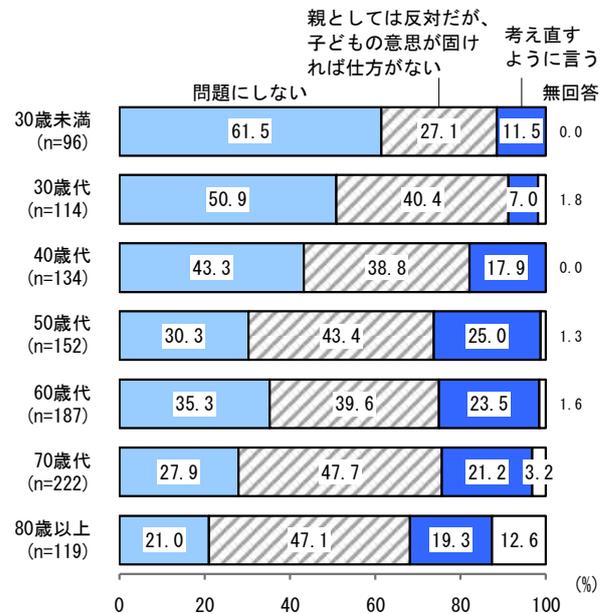
■知的障害のある人



■精神障害のある人

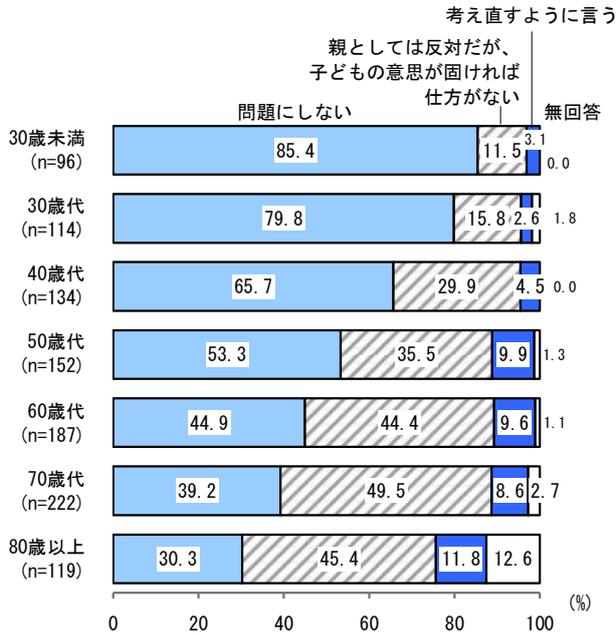


■同和地区出身者

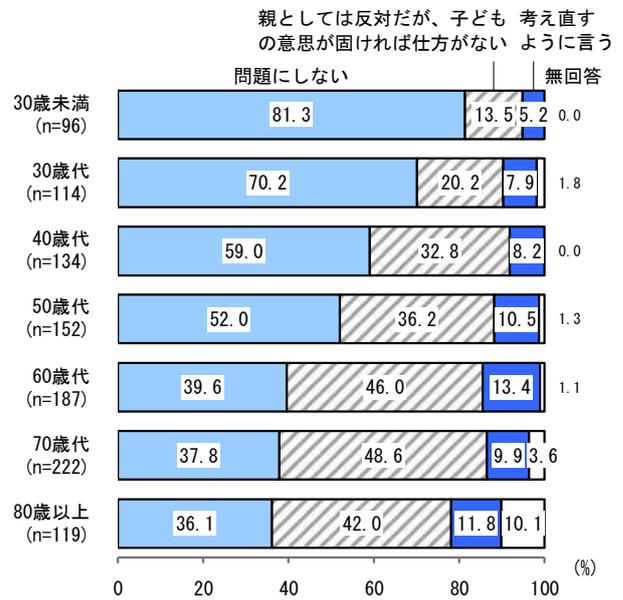


【年齢別②】

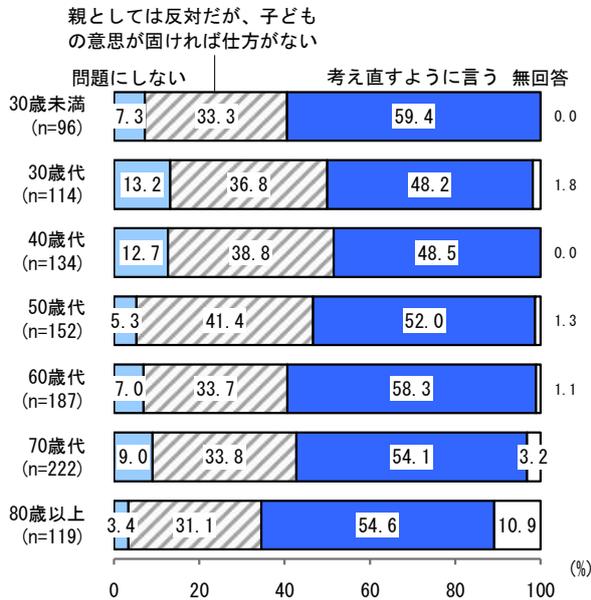
■日本で生まれ育った在日外国人



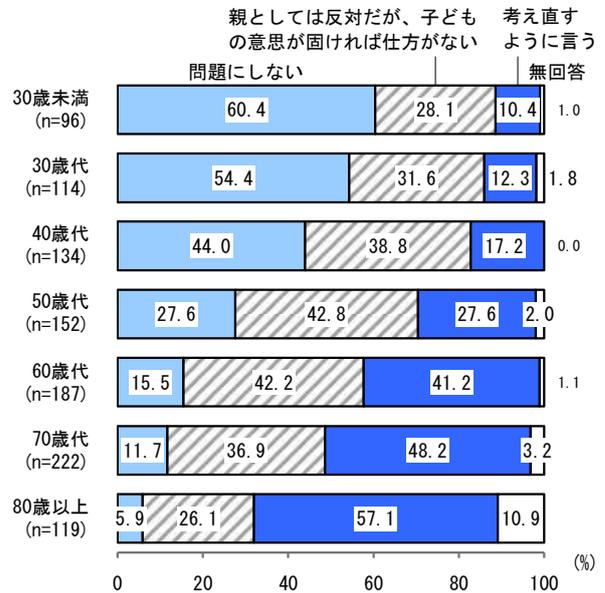
■日本で働き、永住を希望している在留外国人



■刑を終えて出所した人

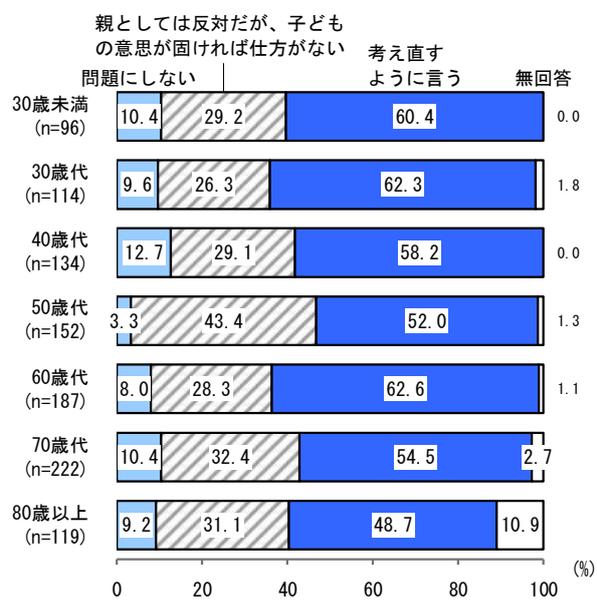


■子どもと同性的の人



【年齢別③】

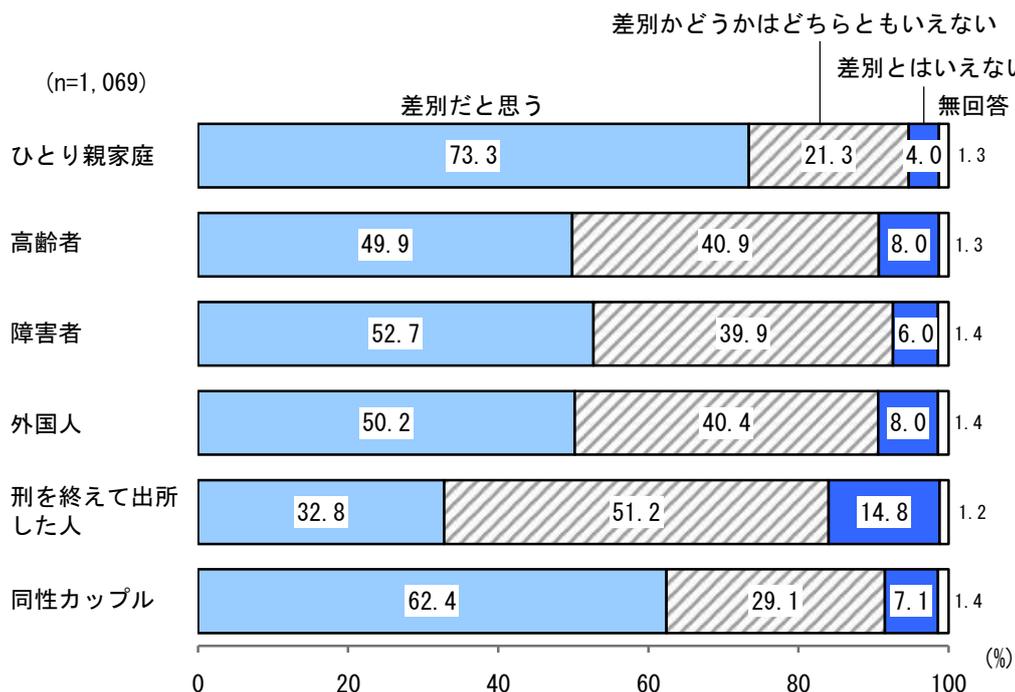
■破産した人



11. 入居拒否に対する意見

問10 賃貸マンションの家主が、仲介業者に、次のような人には貸さないようにと条件をつけることについて、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つずつ)

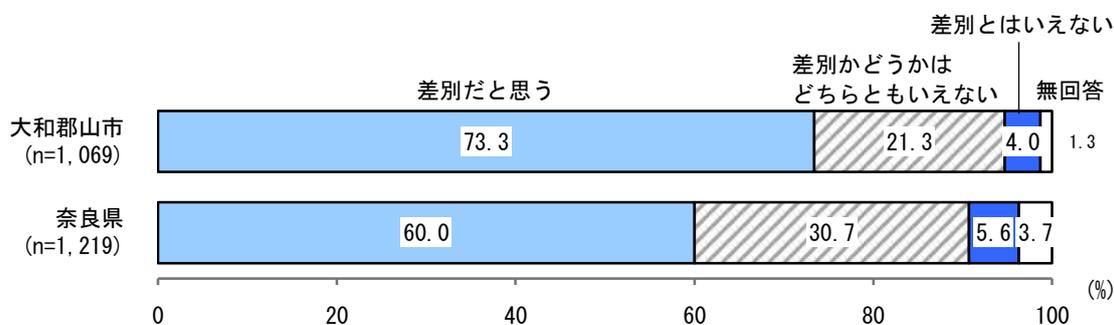
賃貸マンションの家主が入居に条件をつけることについてたずねたところ、「差別だと思う」は“ひとり親家庭”が73.3%で最も高く、次いで“同性カップル”が62.4%、“障害者”が52.7%となっています。一方で、“刑を終えて出所した人”は、「差別とはいえない」が14.8%で最も高く、「差別かどうかはどちらともいえない」も51.2%で最も高くなっています。



【奈良県との比較】

■ひとり親家庭※

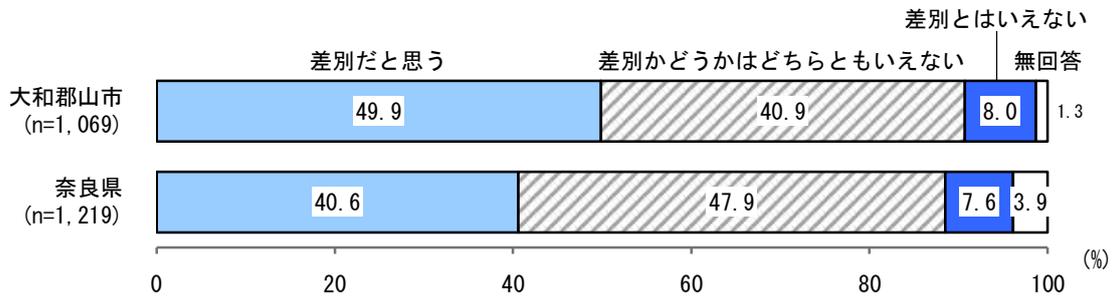
「差別だと思う」の割合は、奈良県（60.0%）より13.3ポイント高くなっています。



※奈良県調査では、母子・父子家庭。

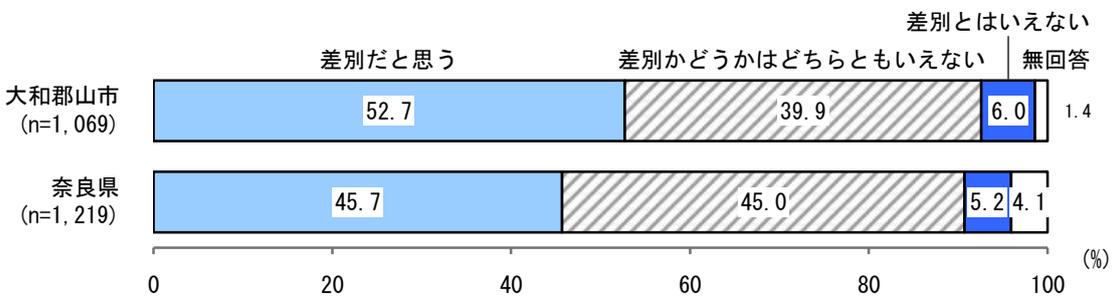
■高齢者

「差別だと思う」の割合は、奈良県（40.6%）より9.3ポイント高くなっています。



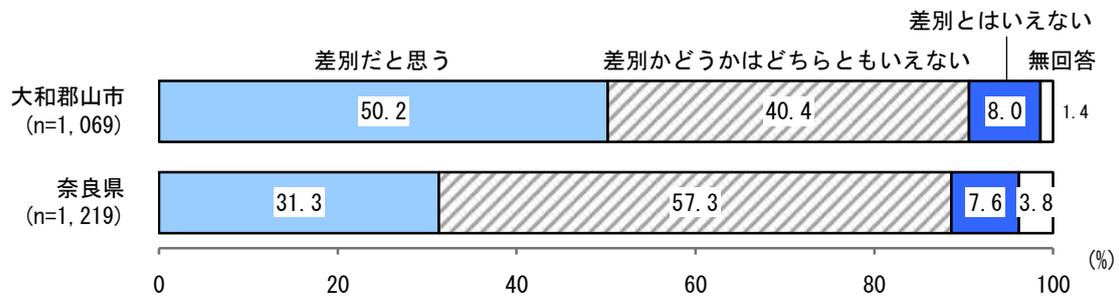
■障害者

「差別だと思う」の割合は、奈良県（45.7%）より7.0ポイント高くなっています。



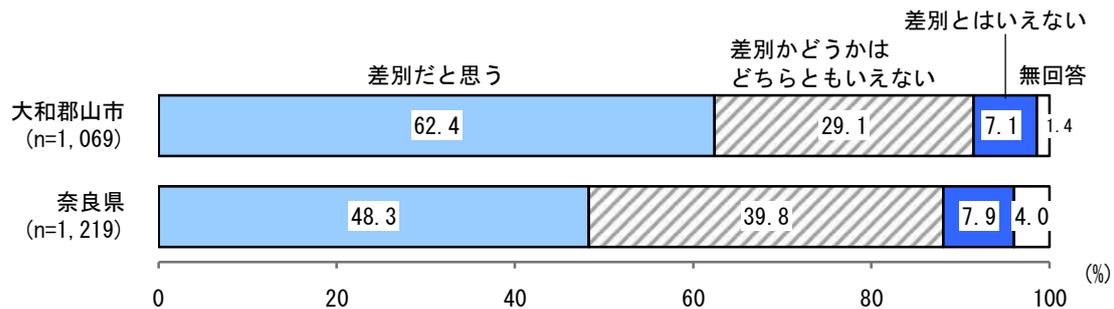
■外国人

「差別だと思う」の割合は、奈良県（31.3%）より18.9ポイント高くなっています。



■同性カップル※

「差別だと思う」の割合は、奈良県（48.3%）より14.1ポイント高くなっています。

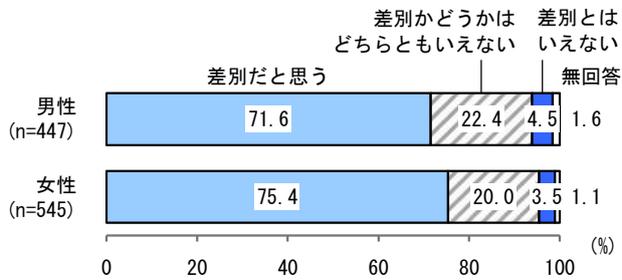


※奈良県調査では、同性愛のカップル。

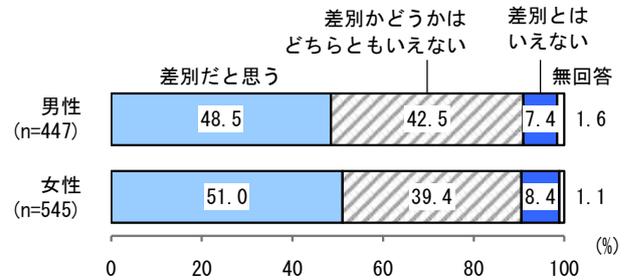
【性別】

性別でみると、「差別だと思う」の割合は、いずれも男性より女性のほうが高く、特に“同性カップル”では男性（55.7%）より女性（68.1%）のほうが12.4ポイント高く、差が最も大きくなっています。

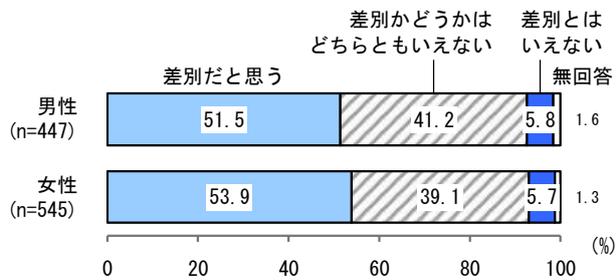
■ひとり親家庭



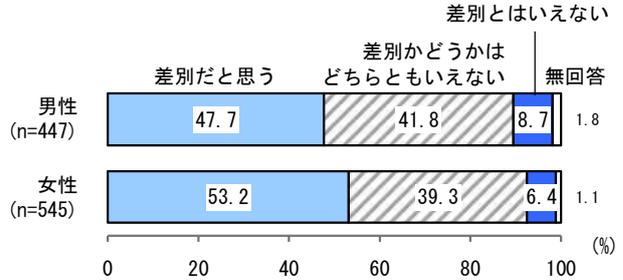
■高齢者



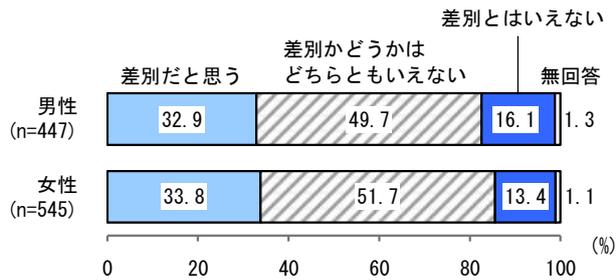
■障害者



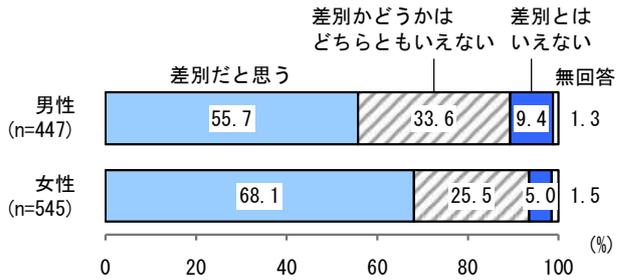
■外国人



■刑を終えて出所した人



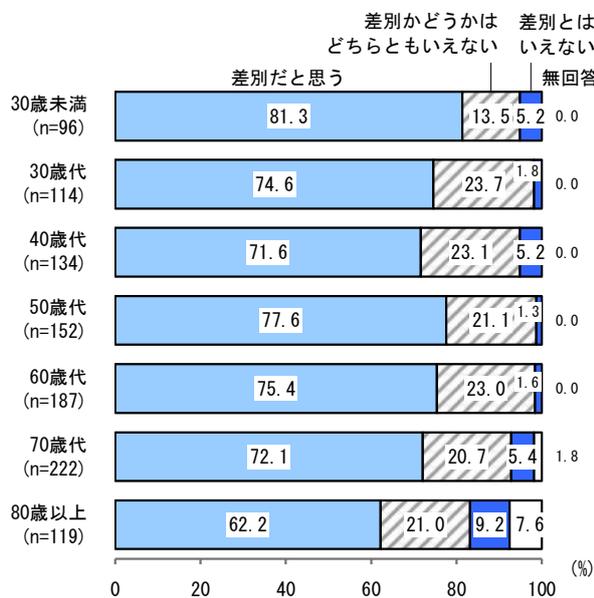
■同性カップル



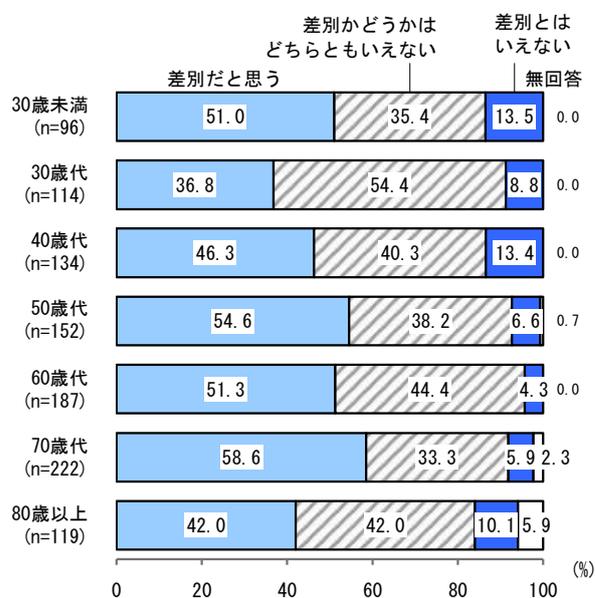
【年齢別①】

年齢別でみると、「差別だと思う」の割合は、“ひとり親家庭”、“障害者”、“外国人”では30歳未満で最も高く、“刑を終えて出所した人”、“同性カップル”では80歳以上で最も高くなっています。

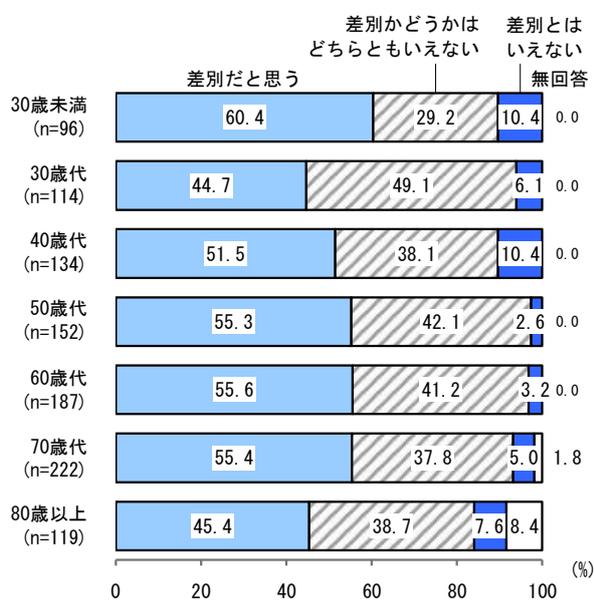
■ひとり親家庭



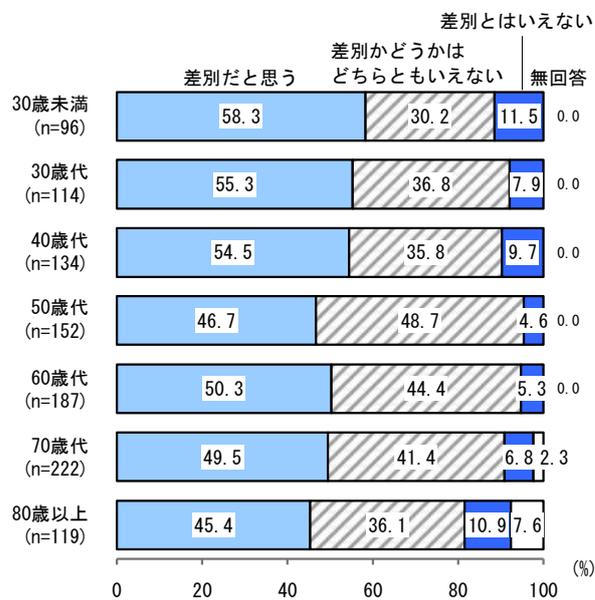
■高齢者



■障害者

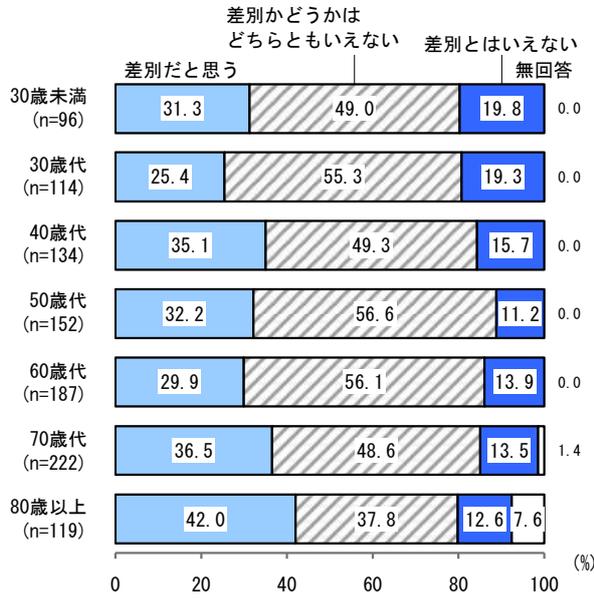


■外国人

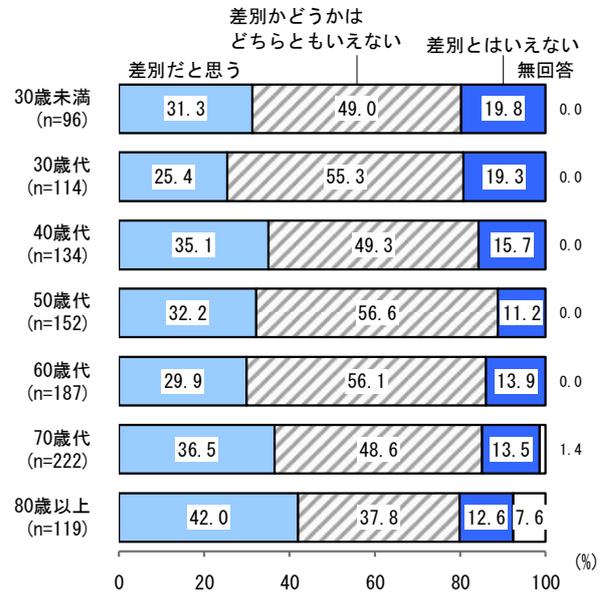


【年齢別②】

■刑を終えて出所した人



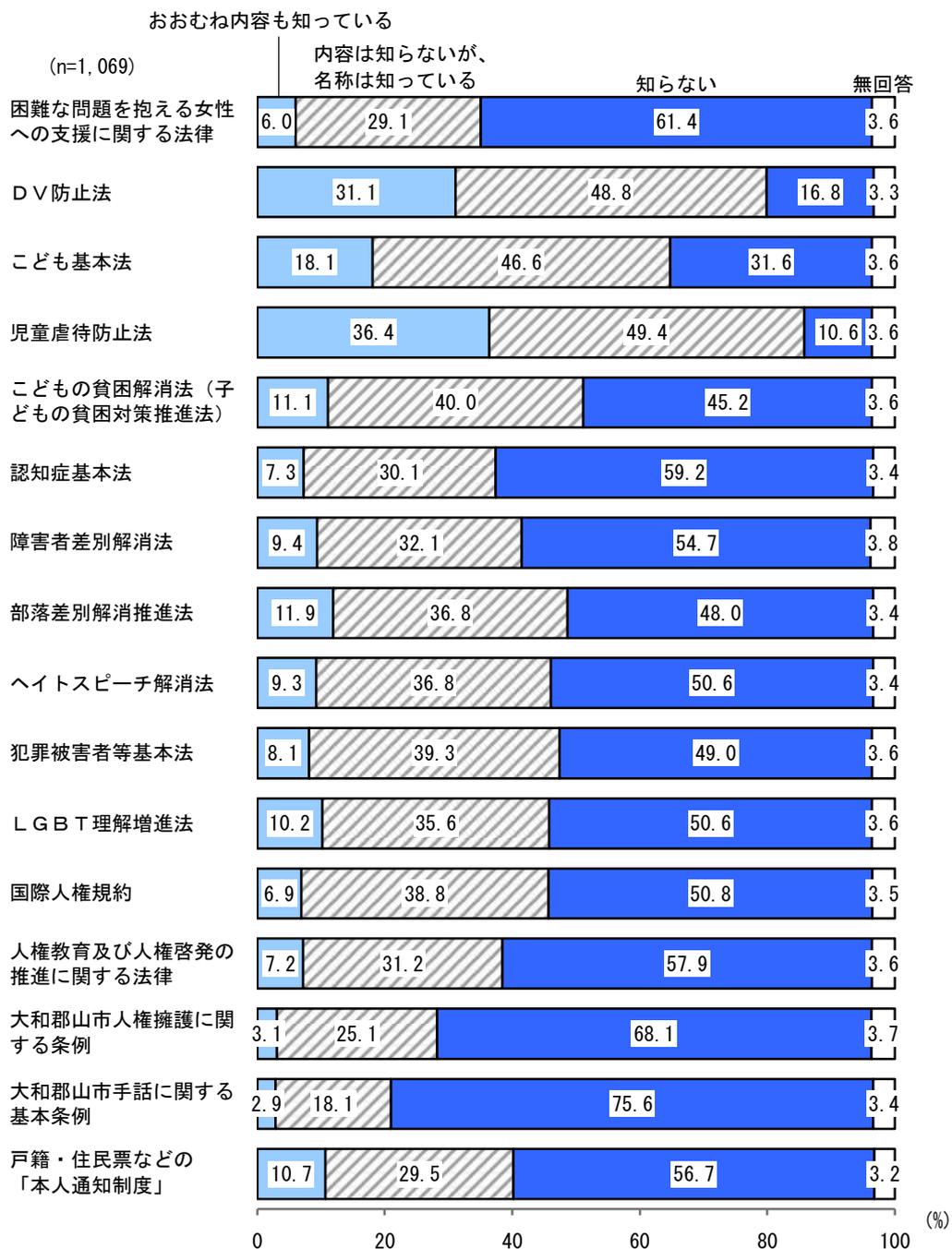
■同性カップル



12. 人権に関する条約・法律・制度の認知

問11 あなたは次の人権に関する条約・法律・制度などについてどの程度ご存知ですか。
 あてはまるものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

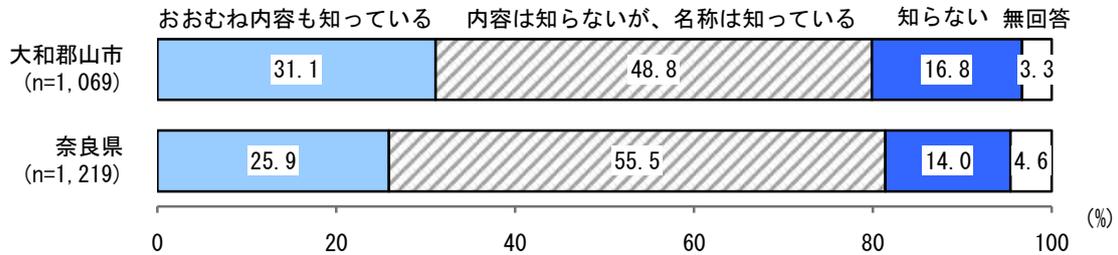
人権に関する条約・法律・制度の認知についてたずねたところ、「おおむね内容も知っている」は“児童虐待防止法”が36.4%で最も高く、次いで“DV防止法”が31.1%、“こども基本法”が18.1%で、「内容は知らないが、名称は知っている」をあわせた認知度は“児童虐待防止法”が85.8%で最も高く、次いで“DV防止法”が79.9%、“こども基本法”が64.7%となっています。一方で、「知らない」は“大和郡山市手話に関する基本条例”が75.6%で最も高く、次いで“大和郡山市人権擁護に関する条例”が68.1%、“困難な問題を抱える女性への支援に関する法律”が61.4%となっています。



【奈良県との比較】

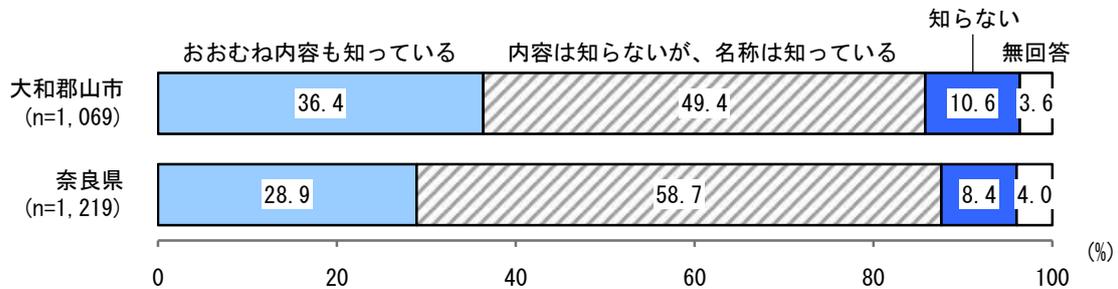
■DV防止法

「おおむね内容も知っている」の割合は、奈良県（25.9%）より5.2ポイント高くなっています。



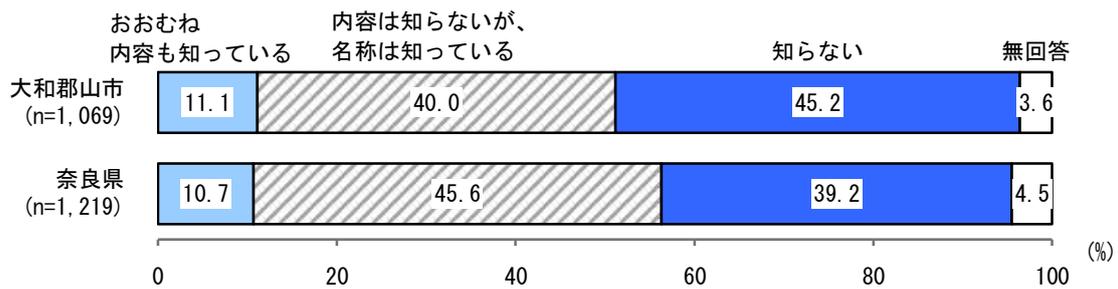
■児童虐待防止法

「おおむね内容も知っている」の割合は、奈良県（28.9%）より7.5ポイント高くなっています。



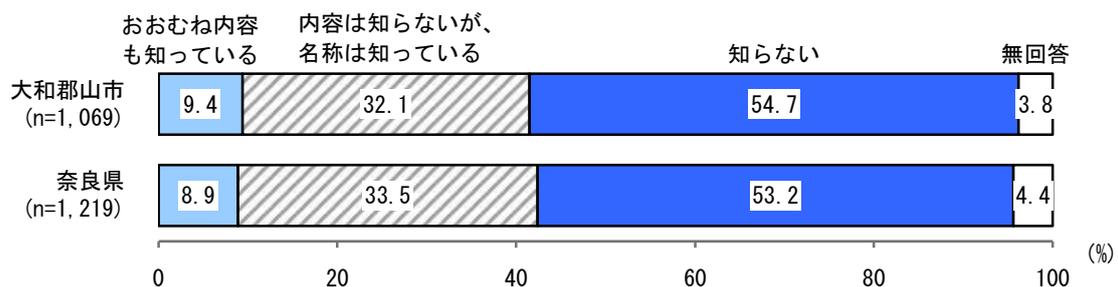
■こどもの貧困解消法（子どもの貧困対策推進法）

「知らない」の割合は、奈良県（39.2%）より6.0ポイント高くなっています。



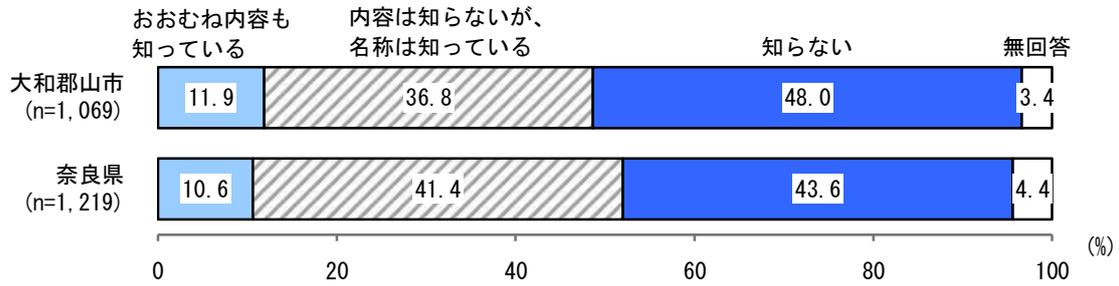
■障害者差別解消法

奈良県調査と比較しても、大きな差はみられません。



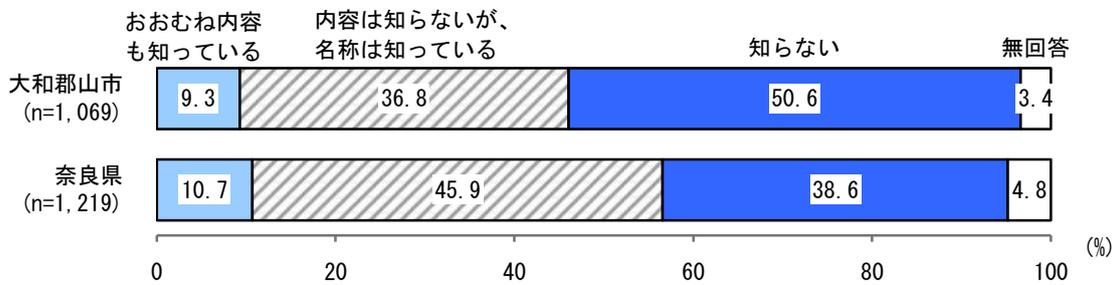
■部落差別解消推進法

「知らない」の割合は、奈良県（43.6%）より4.4ポイント高くなっています。



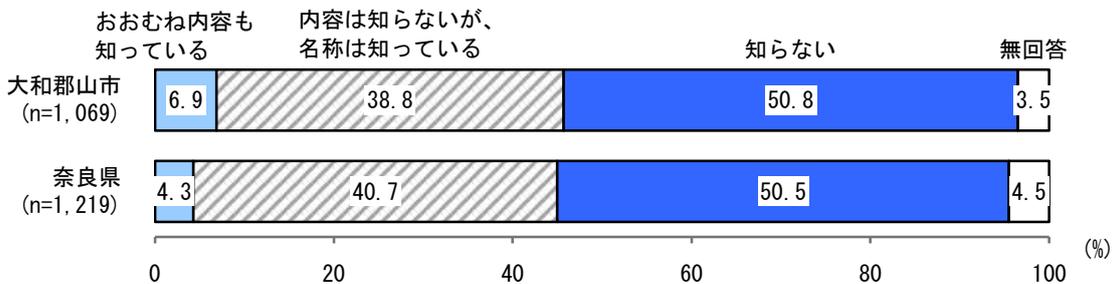
■ハイトスピーチ解消法

「知らない」の割合は、奈良県（38.6%）より12.0ポイント高くなっています。



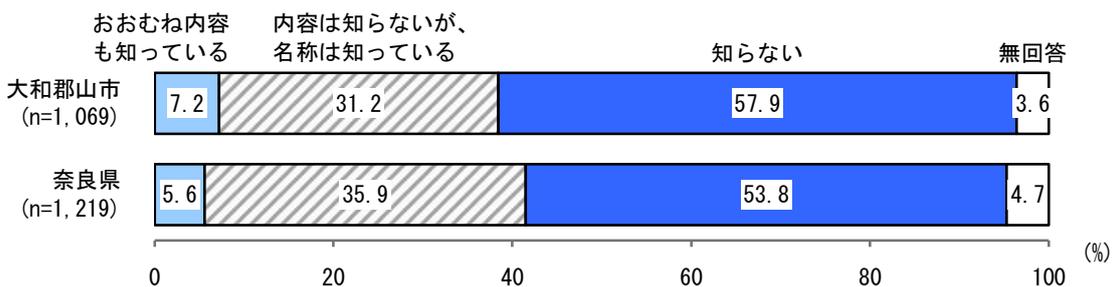
■国際人権規約

奈良県調査と比較しても、大きな差はみられません。



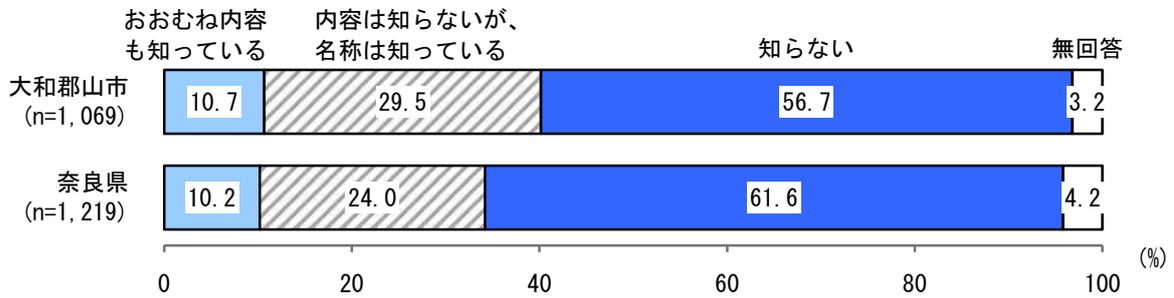
■人権教育及び人権啓発の推進に関する法律

「内容は知らないが、名称は知っている」の割合は、奈良県（35.9%）より4.7ポイント低くなっています。



■戸籍・住民票などの「本人通知制度」

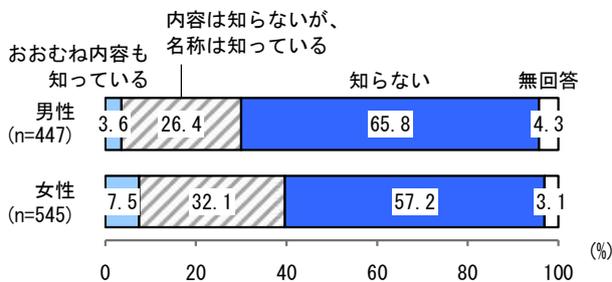
「知らない」の割合は、奈良県（61.6%）より4.9ポイント低くなっています。



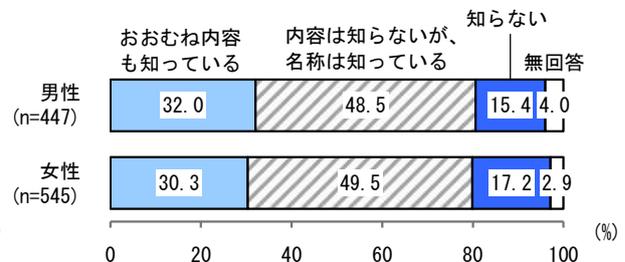
【性別①】

性別でみると、「知らない」の割合は、“困難な問題を抱える女性への支援に関する法律”、“子どもの貧困解消法（子どもの貧困対策推進法）”、“認知症基本法”、“人権教育及び人権啓発の推進に関する法律”、“戸籍・住民票などの「本人通知制度」”では女性より男性のほうが高い割合となっています。

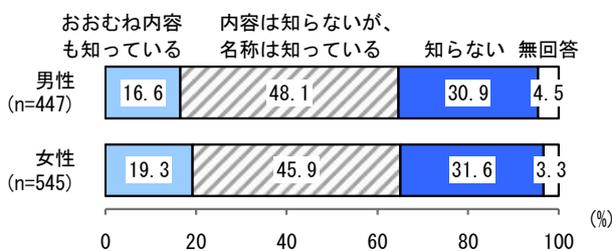
■困難な問題を抱える女性への支援に関する法律



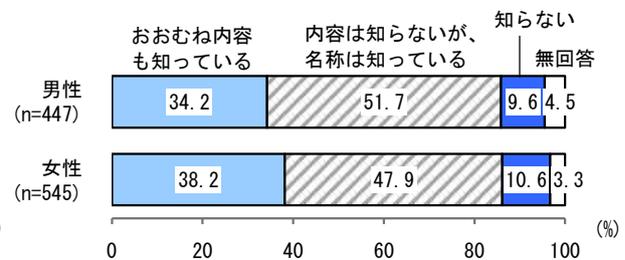
■DV防止法



■子ども基本法

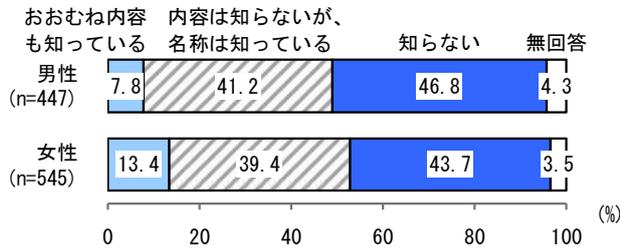


■児童虐待防止法

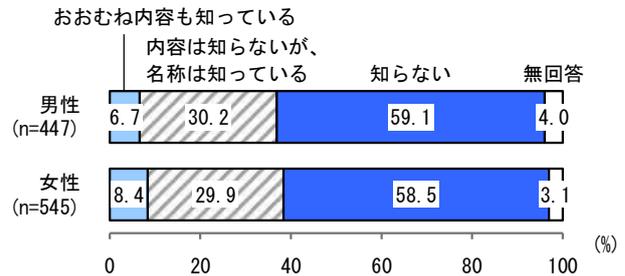


【性別②】

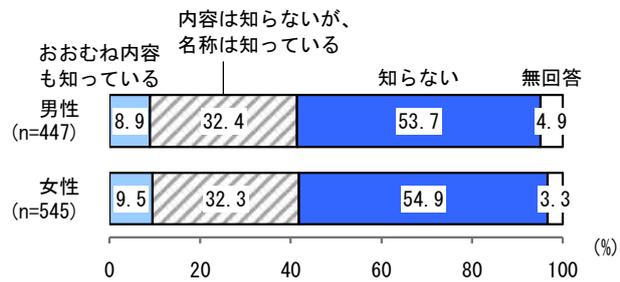
■こどもの貧困解消法（子どもの貧困対策推進法）



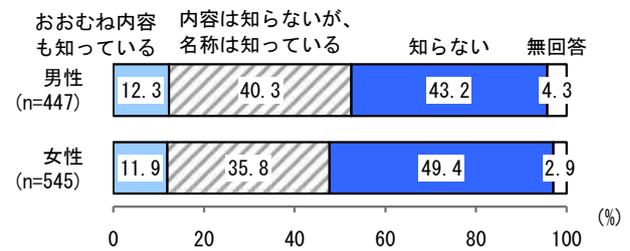
■認知症基本法



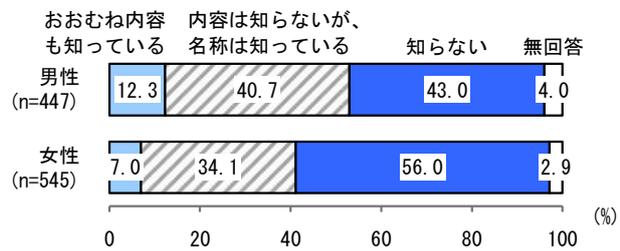
■障害者差別解消法



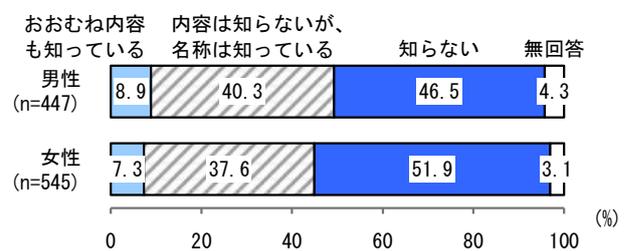
■部落差別解消推進法



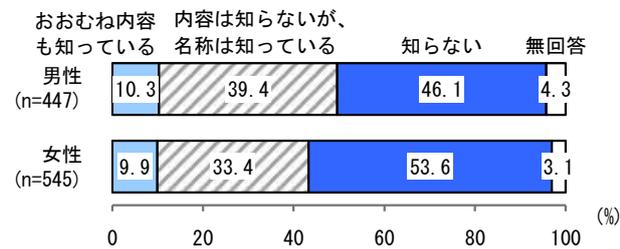
■ハイトスピーチ解消法



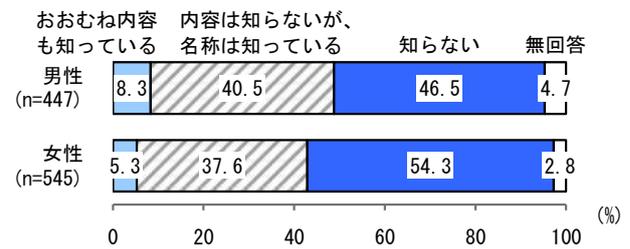
■犯罪被害者等基本法



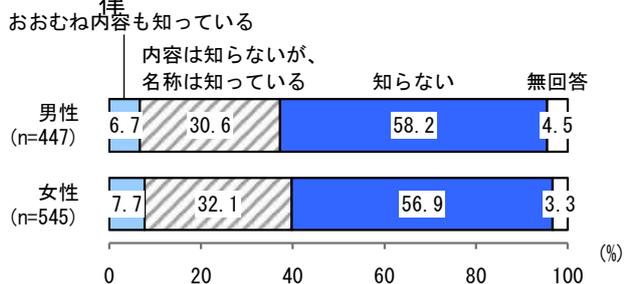
■LGBT理解増進法



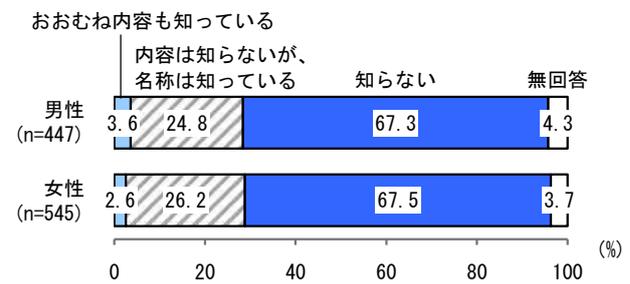
■国際人権規約



■人権教育及び人権啓発の推進に関する法律

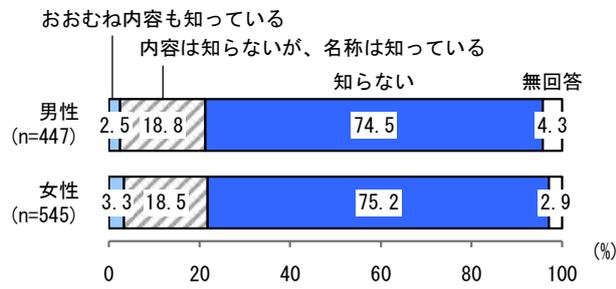


■大和郡山市人権擁護に関する条例

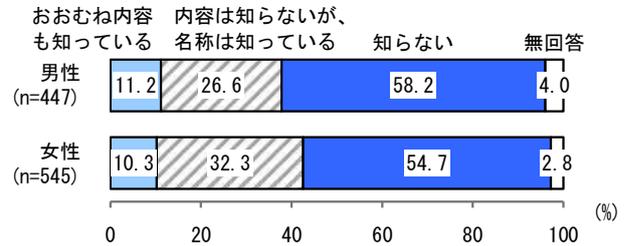


【性別③】

■大和郡山市手話に関する基本条例



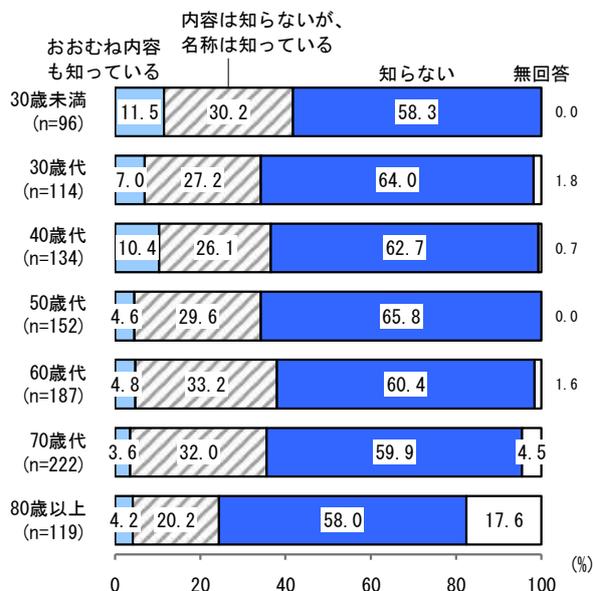
■戸籍・住民票などの「本人通知制度」



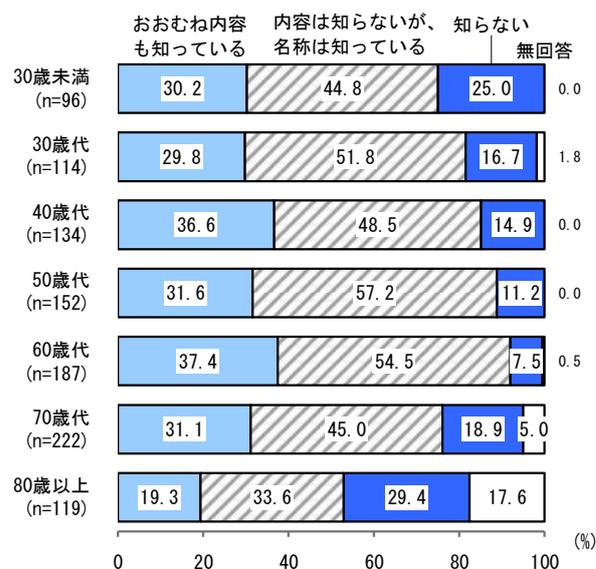
【年齢別①】

年齢別でみると、「知らない」の割合は、“DV防止法”、“こども基本法”、“児童虐待防止法”では80歳以上で最も高く、“LGBT理解増進法”、“国際人権規約”では70歳代で最も高くなっています。

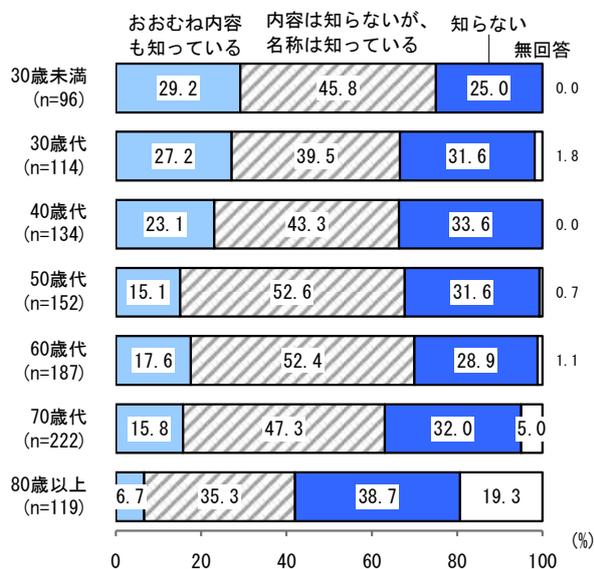
■ 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律



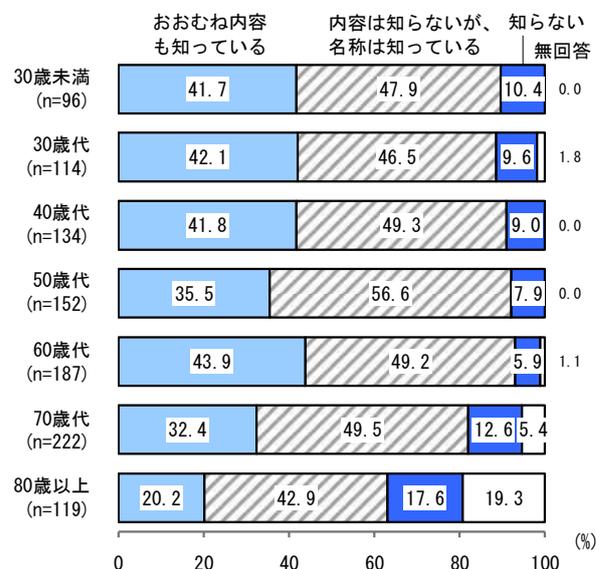
■ DV防止法



■ こども基本法

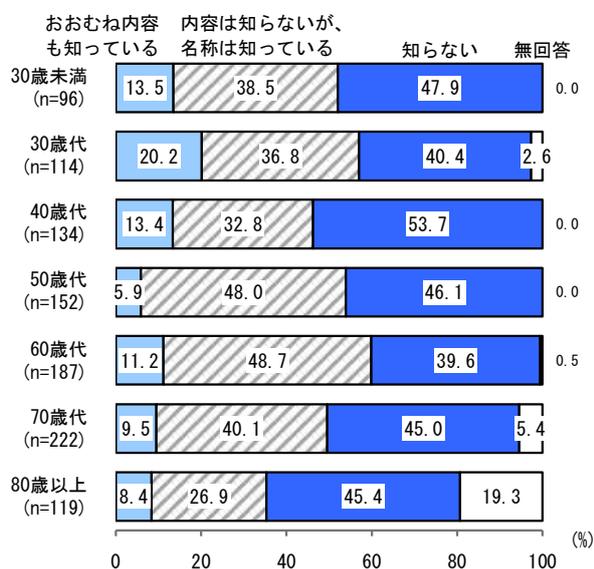


■ 児童虐待防止法

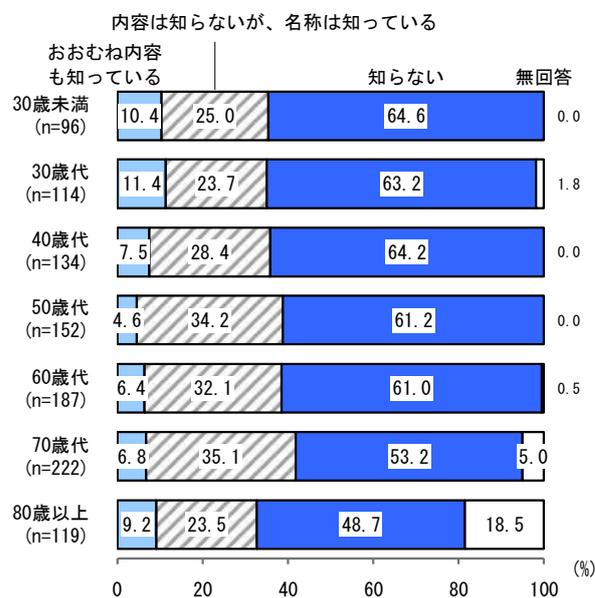


【年齢別②】

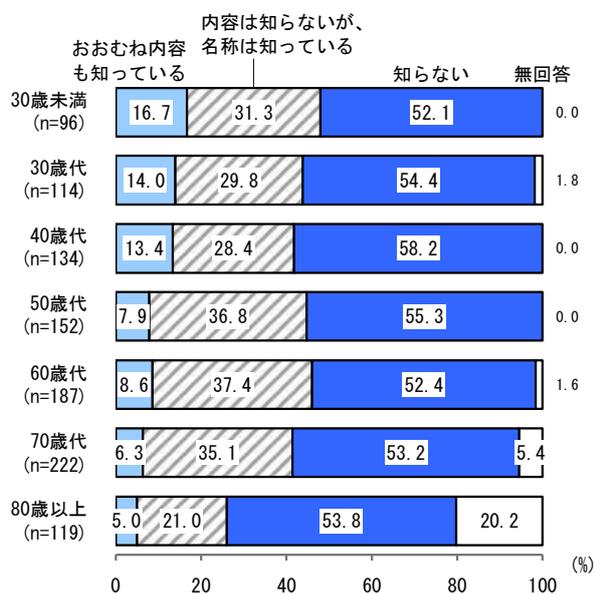
■こどもの貧困解消法（子どもの貧困対策推進法）



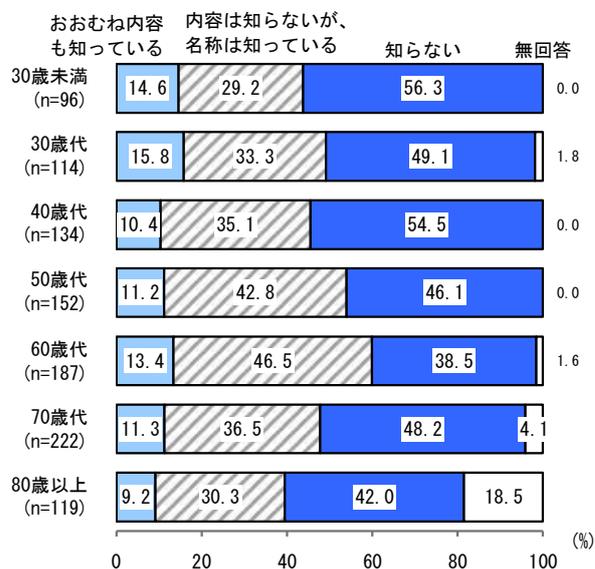
■認知症基本法



■障害者差別解消法

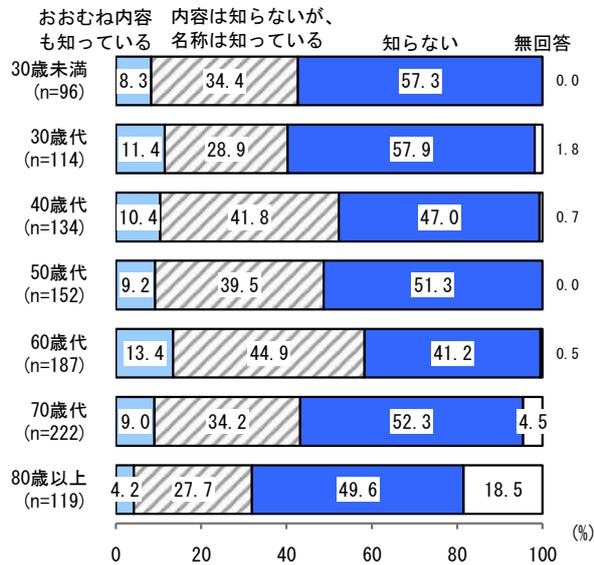


■部落差別解消推進法

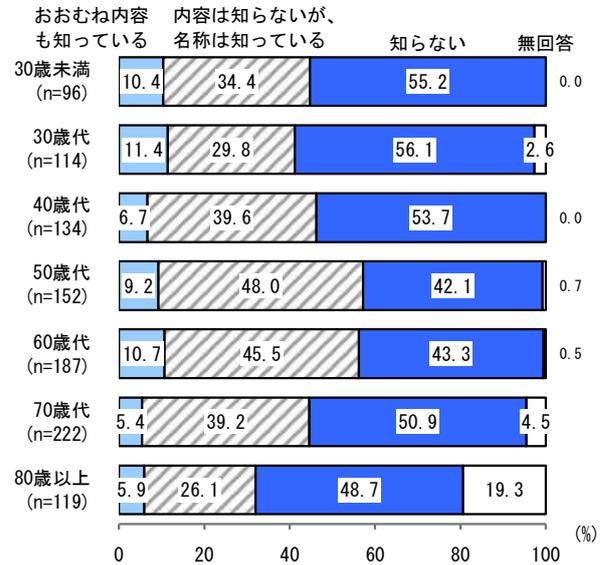


【年齢別③】

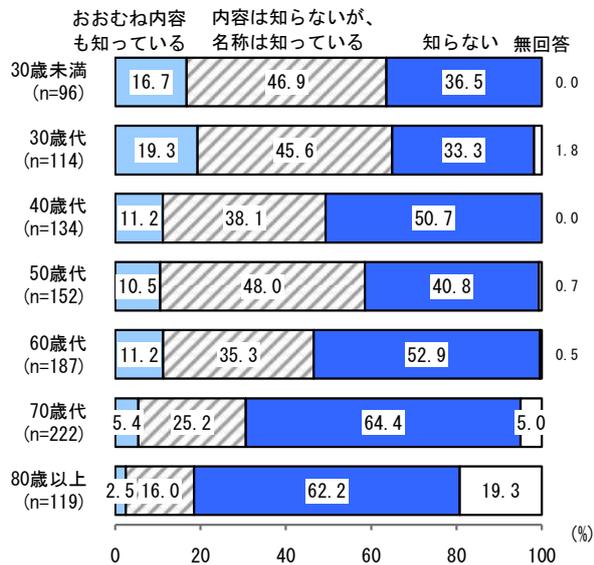
■ ハイトスピーチ解消法



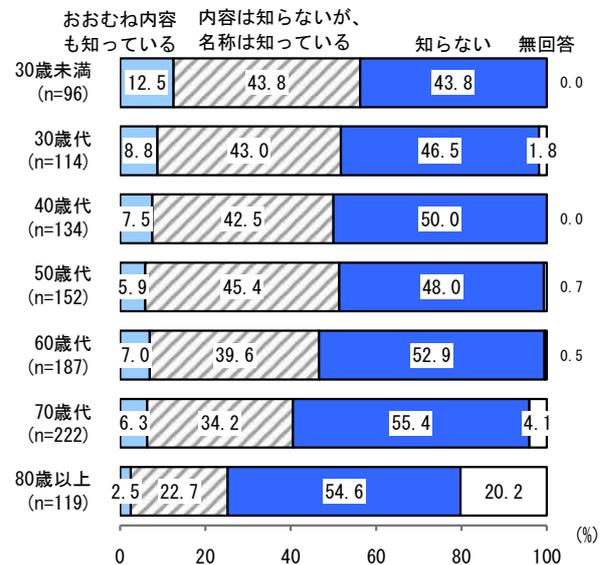
■ 犯罪被害者等基本法



■ LGBT理解増進法

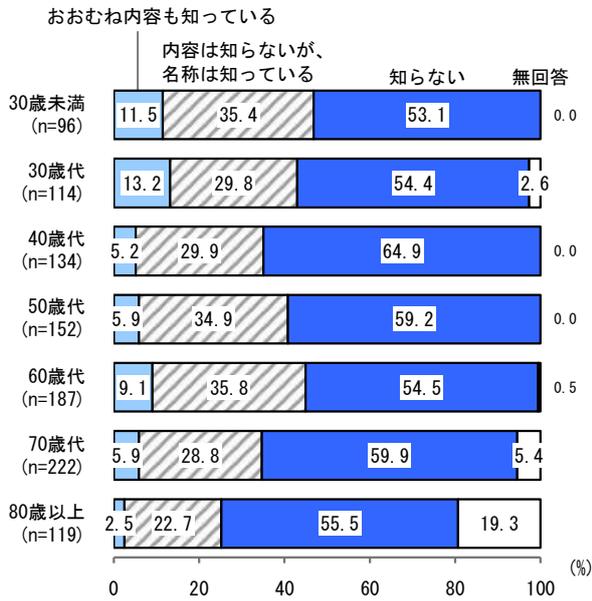


■ 国際人権規約

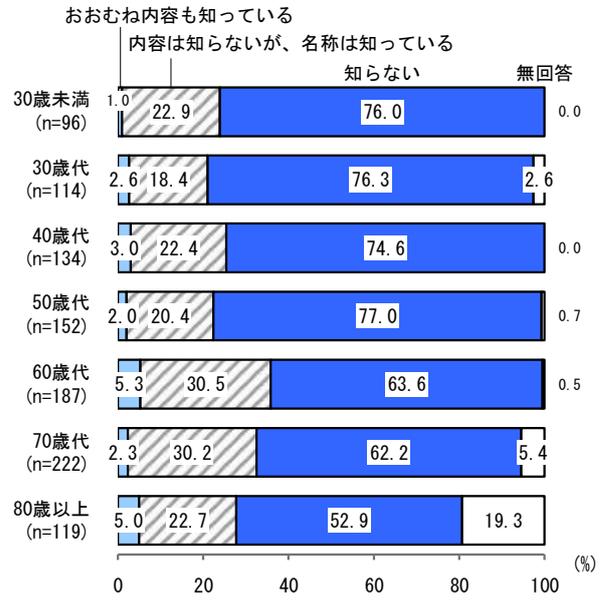


【年齢別④】

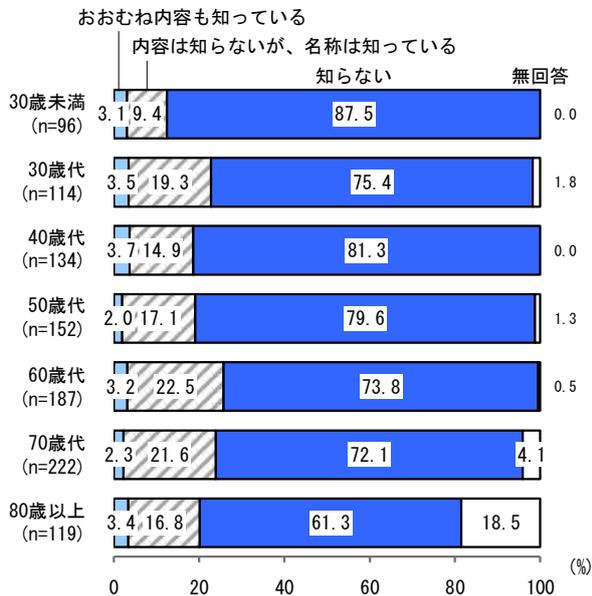
■ 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律



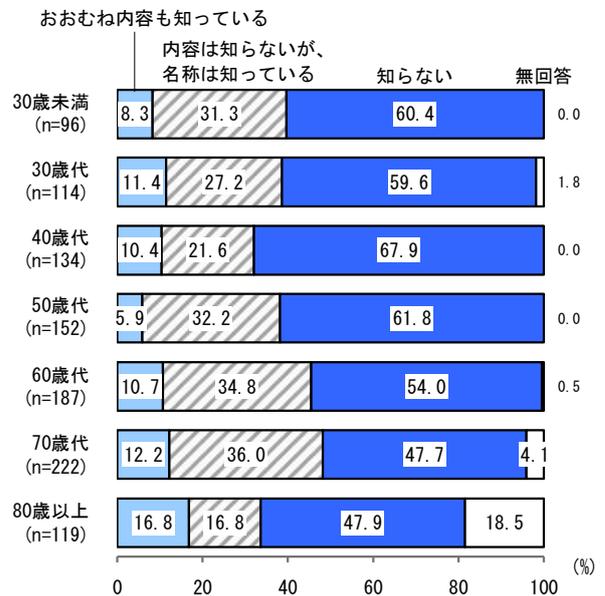
■ 大和郡山市人権擁護に関する条例



■ 大和郡山市手話に関する基本条例



■ 戸籍・住民票などの「本人通知制度」

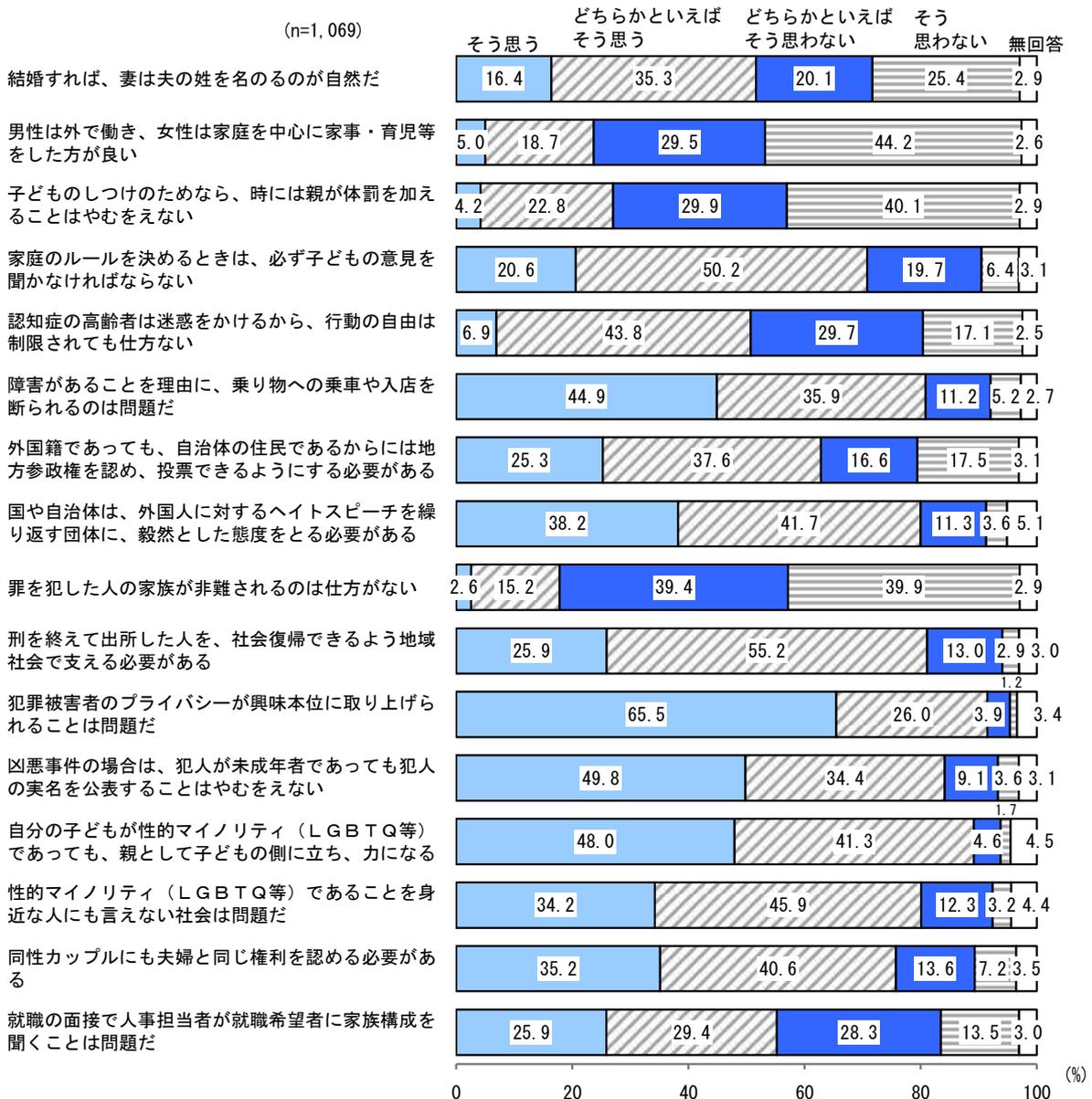


13. 人権に対する考え方

問12 次のような考え方について、あなたはどのように思われますか。
 あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

人権に対する考え方についてたずねたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた『そう思う』の割合は、“犯罪被害者のプライバシーが興味本位に取り上げられることは問題だ”が91.5%で最も高く、次いで“自分の子どもが性的マイノリティ（LGBTQ等）であっても、親として子どもの側に立ち、力になる必要がある”が89.3%、“凶悪事件の場合は、犯人が未成年者であっても犯人の実名を公表することはやむをえない”が84.2%となっています。

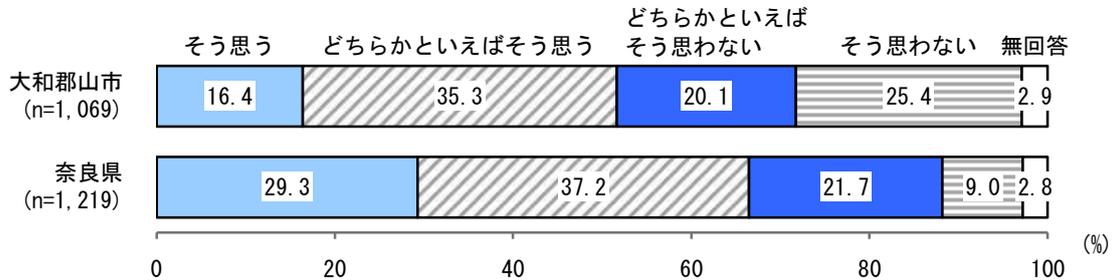
一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた『そう思わない』は“罪を犯した人の家族が非難されるのは仕方がない”が79.3%で最も高く、次いで“男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児等をした方が良い”が73.7%、“子どものしつけのためなら、時には親が体罰を加えることはやむをえない”が70.0%となっています。



【奈良県との比較】

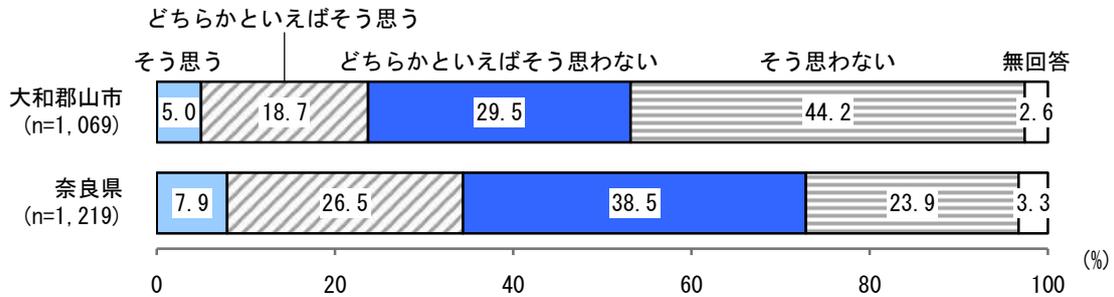
■結婚すれば、妻は夫の姓を名のるのが自然だ

『そう思う』の割合は、奈良県（66.5%）より14.8ポイント低くなっています。



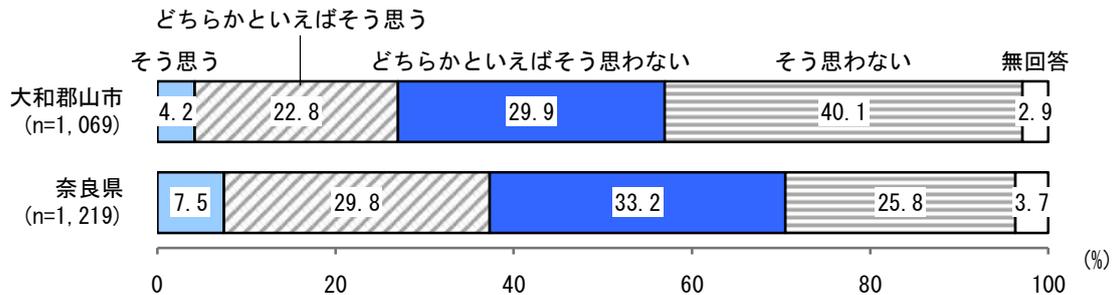
■男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児等をした方が良い

『そう思う』の割合は、奈良県（34.4%）より10.7ポイント低くなっています。



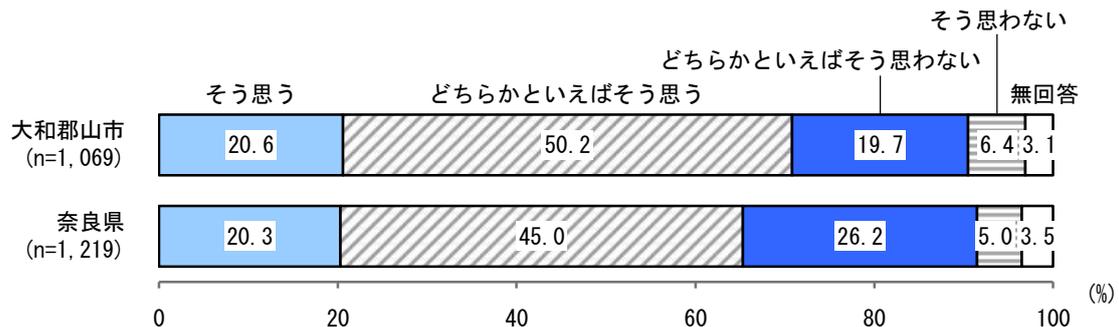
■子どものしつけのためなら、時には親が体罰を加えることはやむをえない

『そう思う』の割合は、奈良県（37.3%）より10.3ポイント低くなっています。



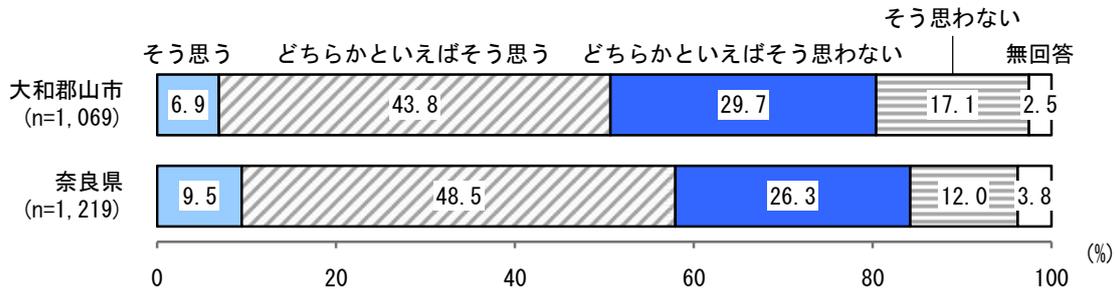
■家庭のルールを決めるときは、必ず子どもの意見を聞かなければならない

『そう思う』の割合は、奈良県（65.3%）より5.5ポイント高くなっています。



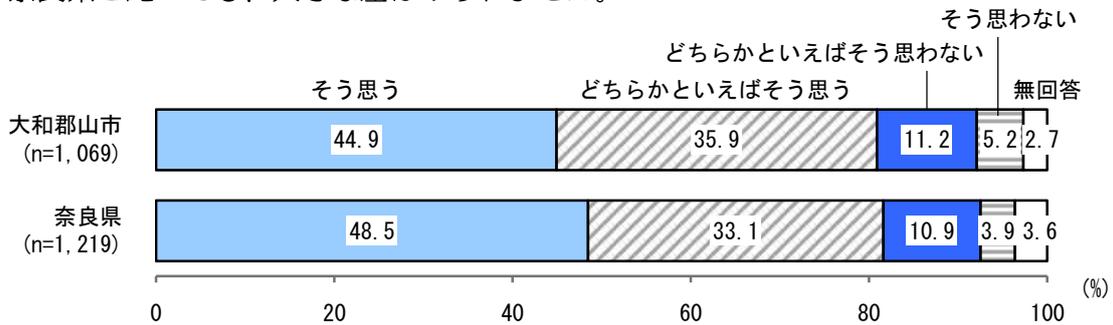
■認知症の高齢者は迷惑をかけるから、行動の自由は制限されても仕方ない

『そう思う』の割合は、奈良県（58.0%）より7.3ポイント低くなっています。



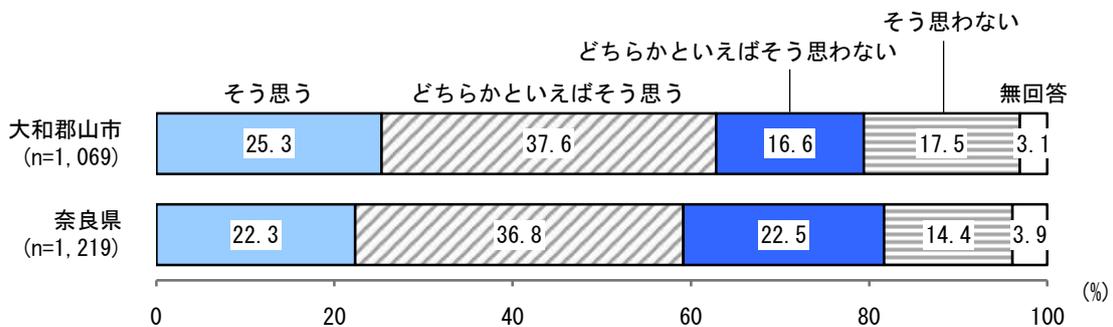
■障害があることを理由に、乗り物への乗車や入店を断られるのは問題だ

奈良県と比べても、大きな差はみられません。



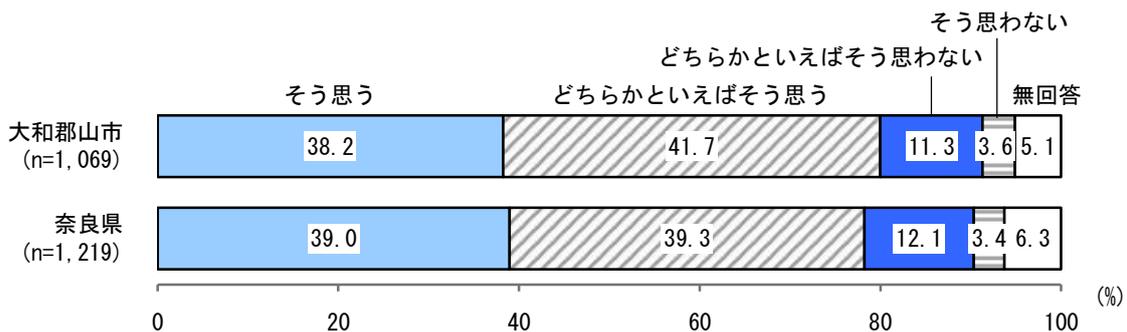
■外国籍であっても、自治体の住民であるからには地方参政権を認め、投票できるようにする必要がある

『そう思う』の割合は、奈良県（59.1%）より3.8ポイント高くなっています。

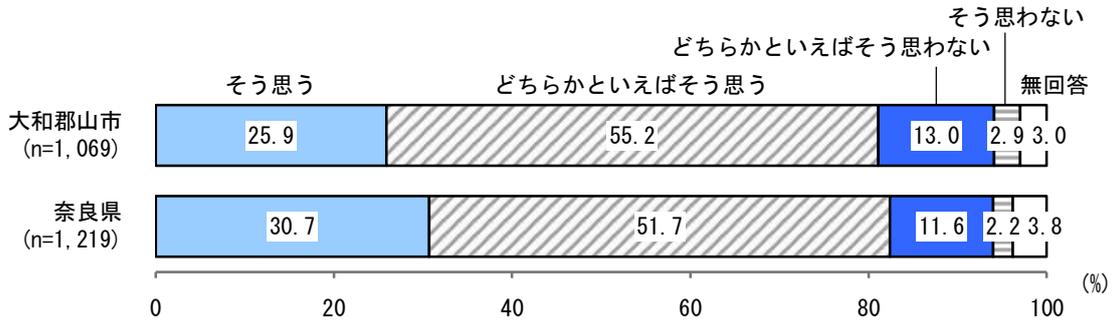


■国や自治体は、外国人に対するヘイトスピーチを繰り返す団体に、毅然とした態度をとる必要がある

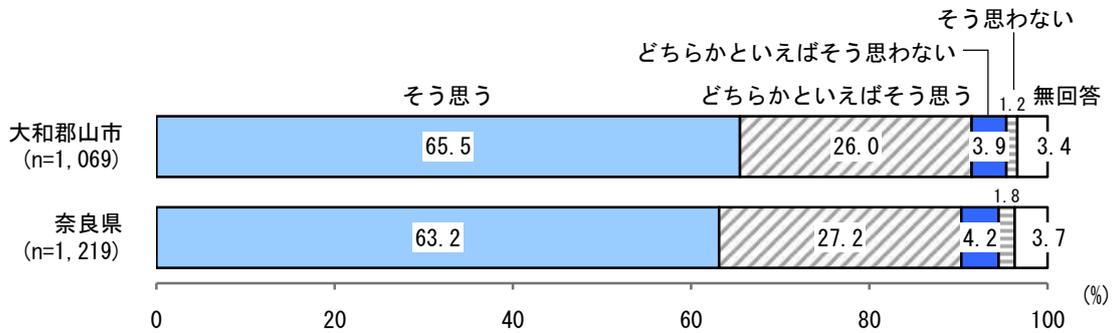
奈良県と比べても、大きな差はみられません。



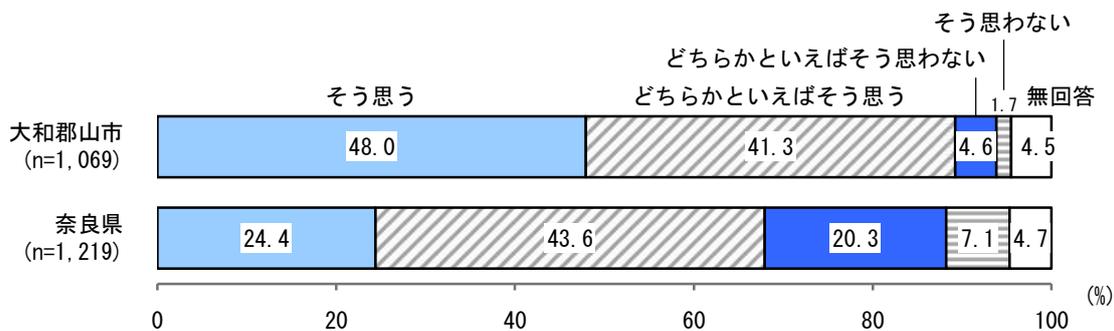
■刑を終えて出所した人を、社会復帰できるよう地域社会で支える必要がある
奈良県と比べても、大きな差はみられません。



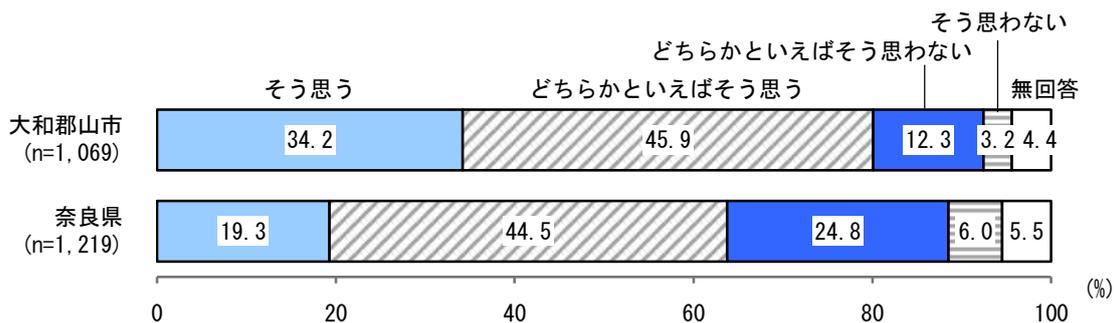
■犯罪被害者のプライバシーが興味本位に取り上げられることは問題だ
奈良県と比べても、大きな差はみられません。



■自分の子どもが性的マイノリティ（LGBTQ等）であっても、親として子どもの側に立ち、力になる必要がある
『そう思う』の割合は、奈良県（68.0%）より21.3ポイント高くなっています。

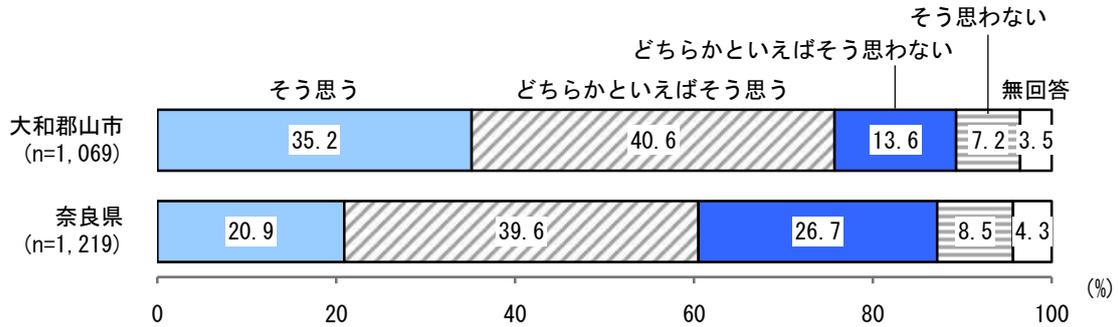


■性的マイノリティ（LGBTQ等）であることを身近な人にも言えない社会は問題だ
『そう思う』の割合は、奈良県（63.8%）より16.3ポイント高くなっています。



■同性カップルにも夫婦と同じ権利を認める必要がある

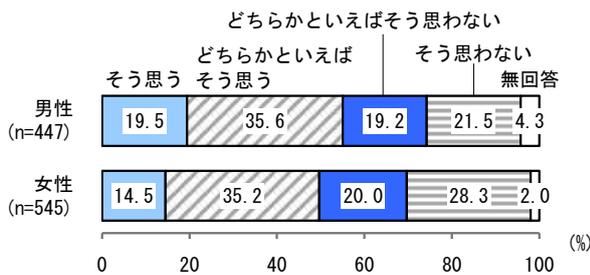
『そう思う』の割合は、奈良県（60.5%）より15.3ポイント高くなっています。



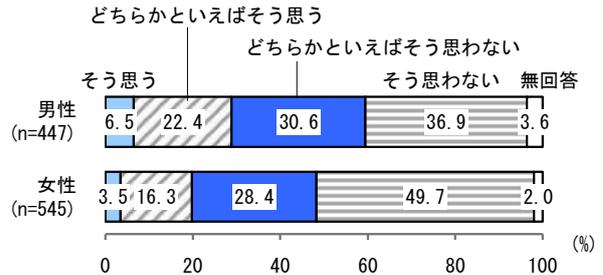
【性別①】

性別でみると、『そう思う』の割合は、“結婚すれば、妻は夫の姓を名のるのが自然だ”、“男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児等をした方が良い”、“子どものしつけのためなら、時には親が体罰を加えることはやむをえない”、“認知症の高齢者は迷惑をかけるから、行動の自由は制限されても仕方ない”、“罪を犯した人の家族が非難されるのは仕方ない”、“刑を終えて出所した人を、社会復帰できるように地域社会で支える必要がある”、“凶悪事件の場合は、犯人が未成年者であっても犯人の実名を公表することはやむをえない”では女性より男性のほうが高い割合となっています。

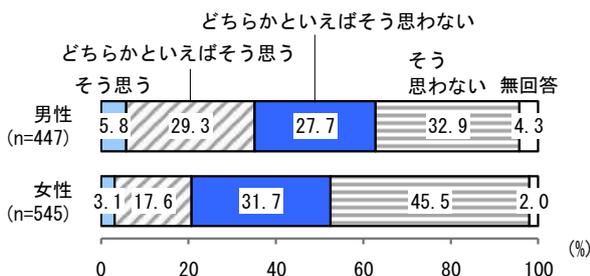
■結婚すれば、妻は夫の姓を名のるのが自然だ



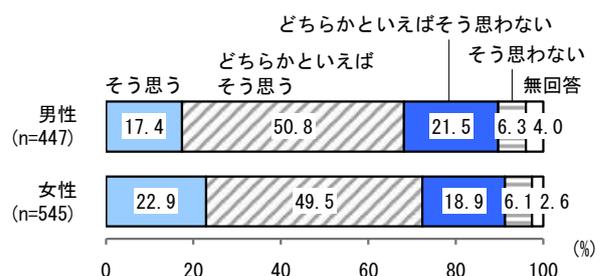
■男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児等をした方が良い



■子どものしつけのためなら、時には親が体罰を加えることはやむをえない

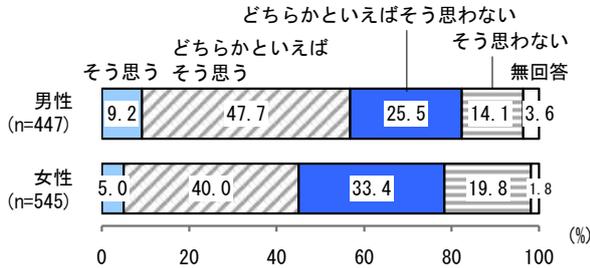


■家庭のルールを決めるときは、必ず子どもの意見を聞かなければならない

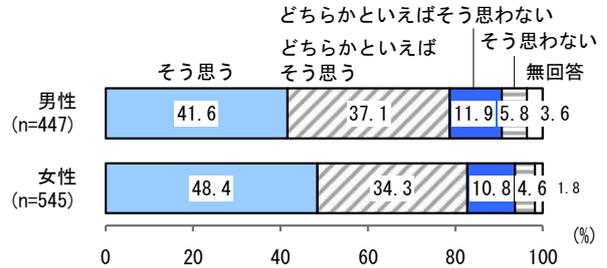


【性別②】

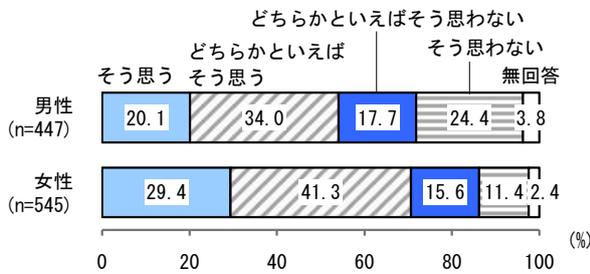
■認知症の高齢者は迷惑をかけるから、行動の自由は制限されても仕方ない



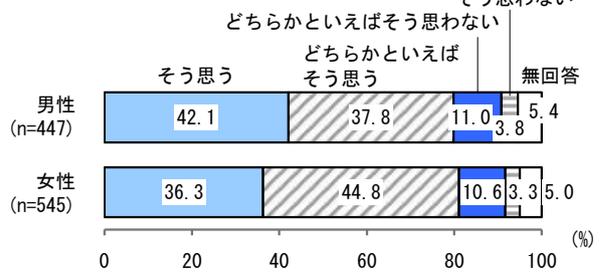
■障害があることを理由に、乗り物への乗車や入店を断られるのは問題だ



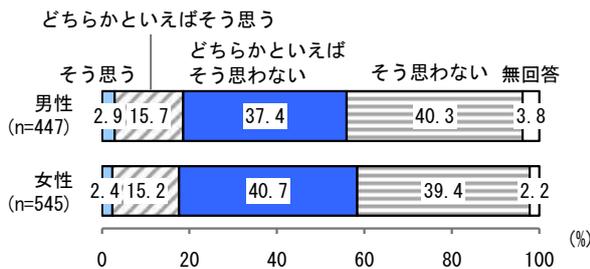
■外国籍であっても、自治体の住民であるからには地方参政権を認め、投票できるようにする必要がある



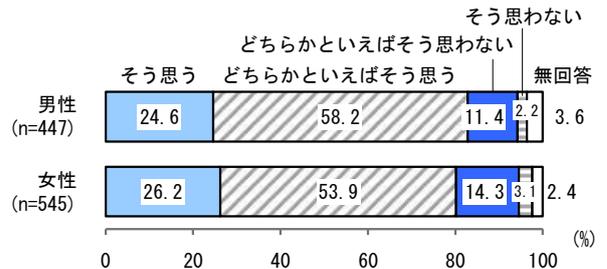
■国や自治体は、外国人に対するヘイトスピーチを繰り返す団体に、毅然とした態度をとる必要がある



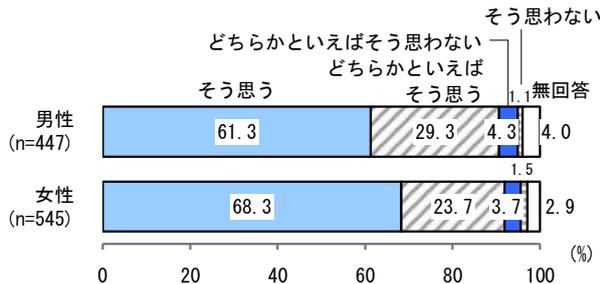
■罪を犯した人の家族が非難されるのは仕方ない



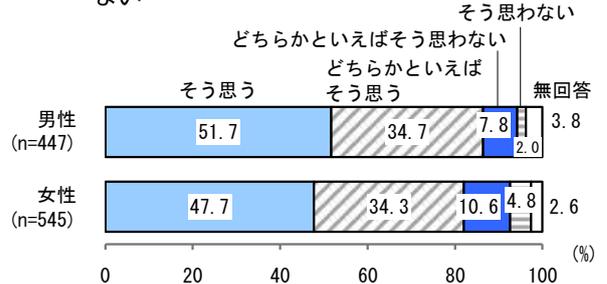
■刑を終えて出所した人を、社会復帰できるよう地域社会で支える必要がある



■犯罪被害者のプライバシーが興味本位に取り上げられることは問題だ

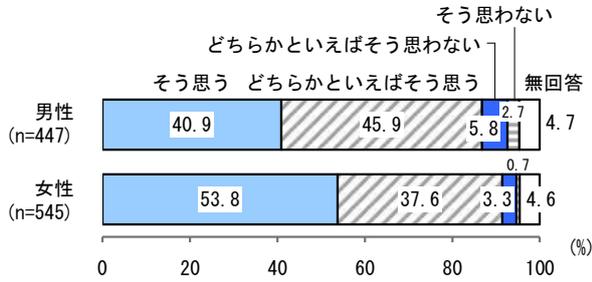


■凶悪事件の場合は、犯人が未成年者であっても犯人の実名を公表することはやむを得ない

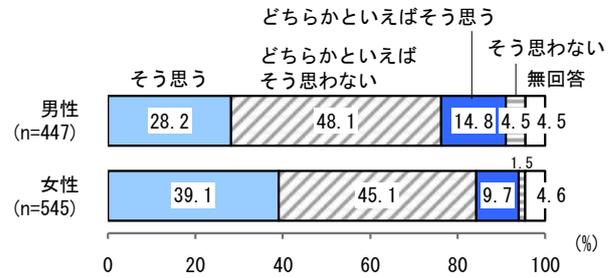


【性別③】

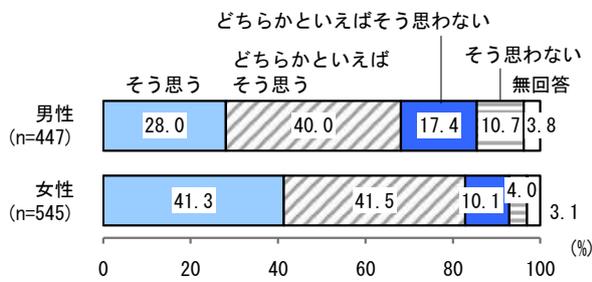
■自分の子どもが性的マイノリティ（LGBTQ等）であっても、親として子どもの側に立ち、力になる必要がある



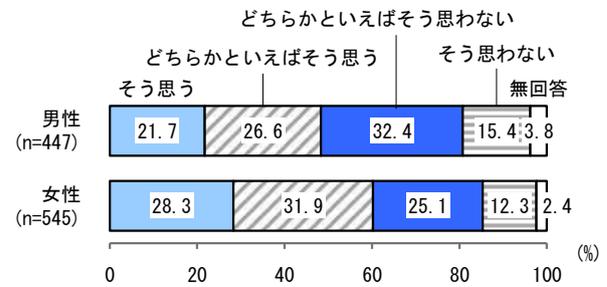
■性的マイノリティ（LGBTQ等）であることを身近な人にも言えない社会は問題だ



■同性カップルにも夫婦と同じ権利を認める必要がある



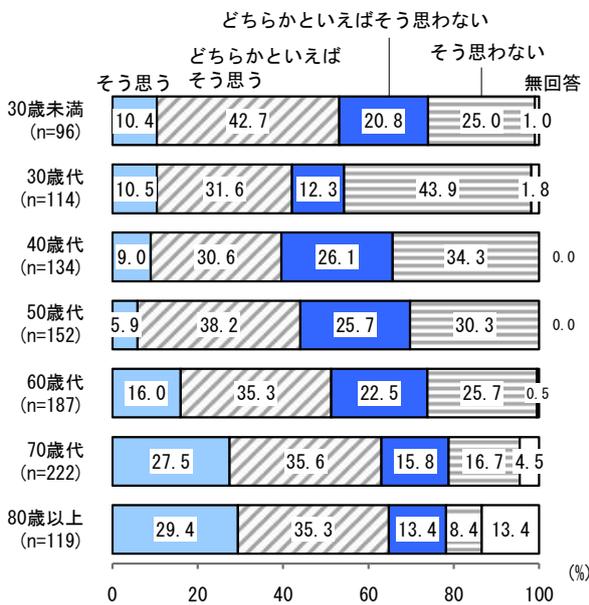
■就職の面接で人事担当者が就職希望者に家族構成を聞くことは問題だ



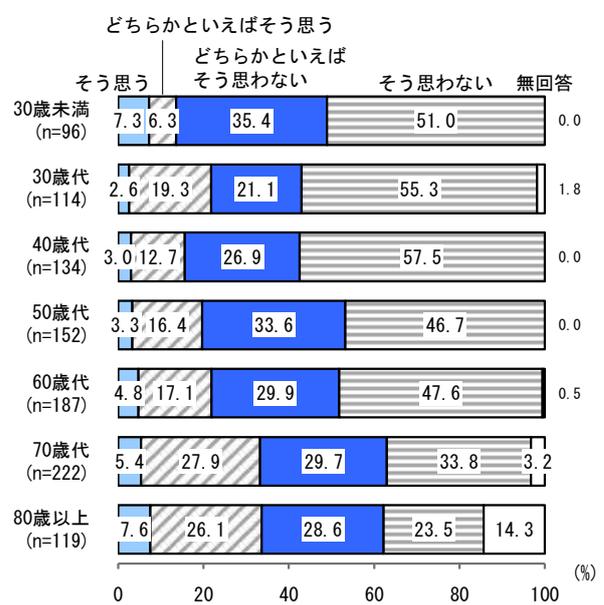
【年齢別①】

年齢別でみると、『そう思う』の割合は、“結婚すれば、妻は夫の姓を名のるのが自然だ”、“男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児等をした方が良い”、“子どものしつけのためなら、時には親が体罰を加えることはやむをえない”では80歳以上で最も高く、“家庭のルールを決めるときは、必ず子どもの意見を聞かなければならない”、“認知症の高齢者は迷惑をかけるから、行動の自由は制限されても仕方ない”、“外国籍であっても、自治体の住民であるからには地方参政権を認め、投票できるようにする必要がある”、“凶悪事件の場合は、犯人が未成年者であっても犯人の実名を公表することはやむをえない”、“就職の面接で人事担当者が就職希望者に家族構成を聞くことは問題だ”では30歳未満が最も高い割合となっています。

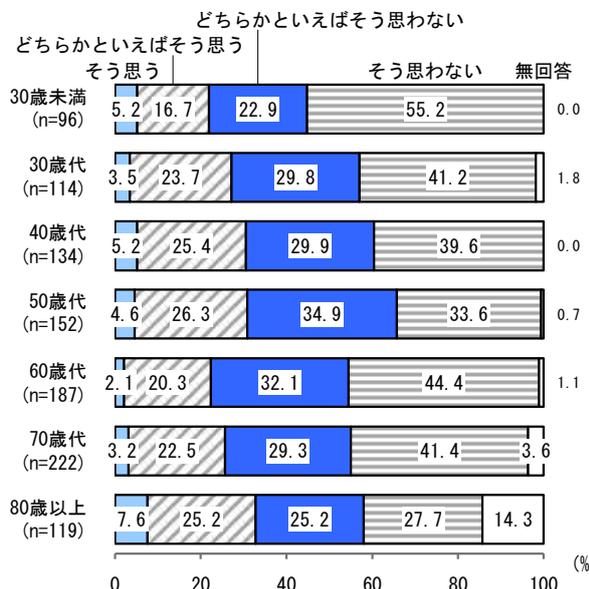
■結婚すれば、妻は夫の姓を名のるのが自然だ



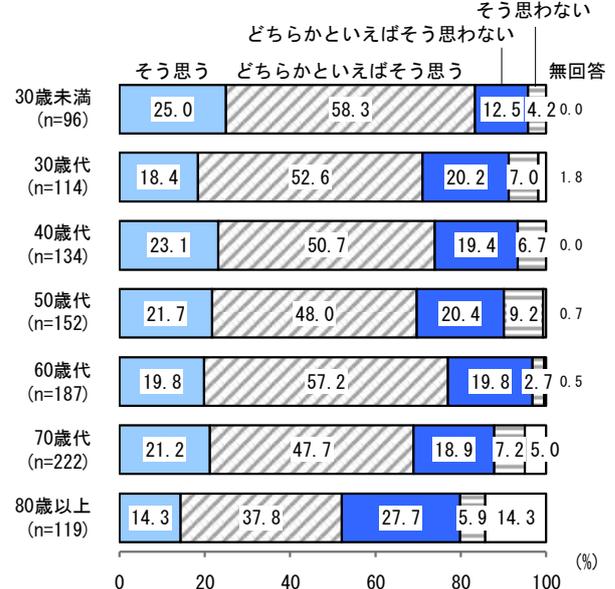
■男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児等をした方が良い



■子どものしつけのためなら、時には親が体罰を加えることはやむをえない

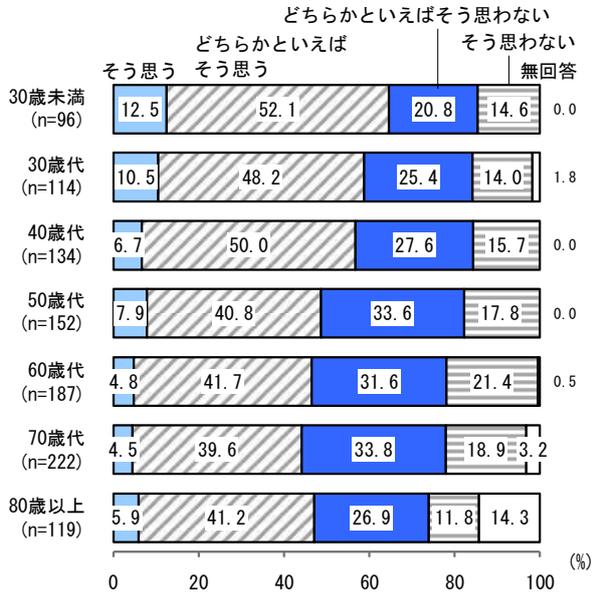


■家庭のルールを決めるときは、必ず子どもの意見を聞かなければならない

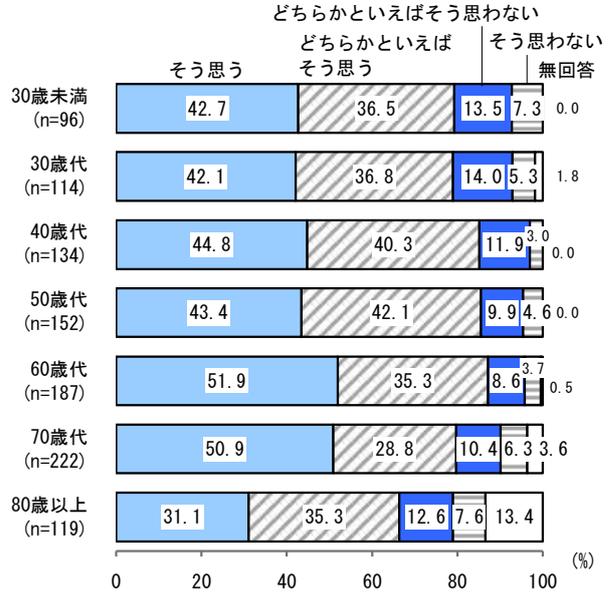


【年齢別②】

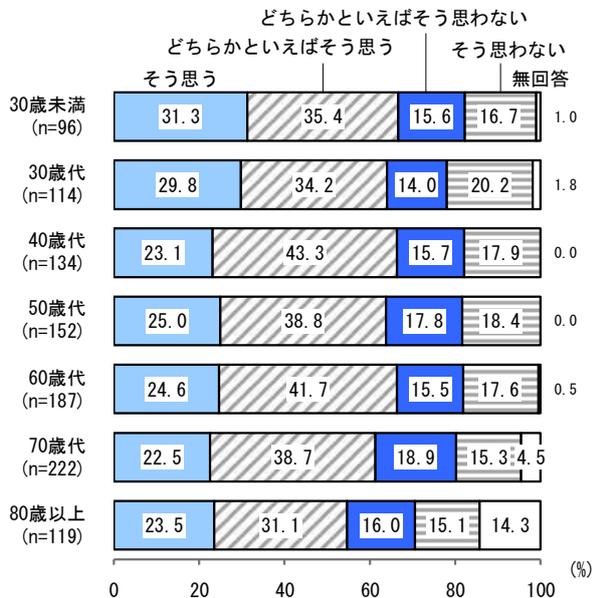
■認知症の高齢者は迷惑をかけるから、行動の自由は制限されても仕方ない



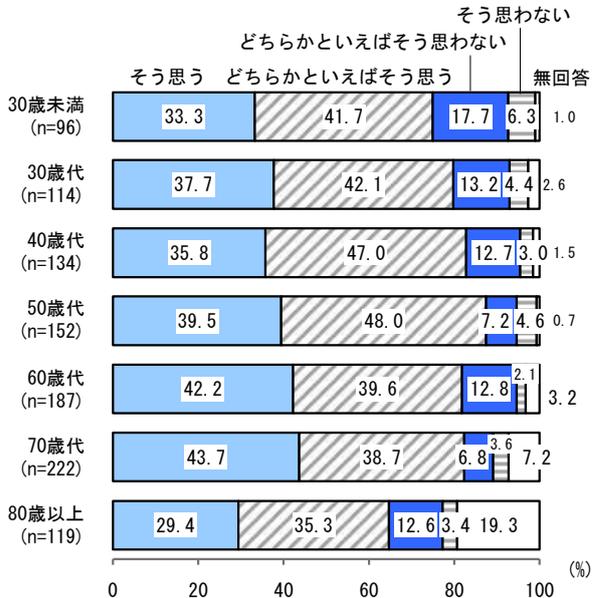
■障害があることを理由に、乗り物への乗車や入店を断られるのは問題だ



■外国籍であっても、自治体の住民であるからには地方参政権を認め、投票できるようにする必要がある

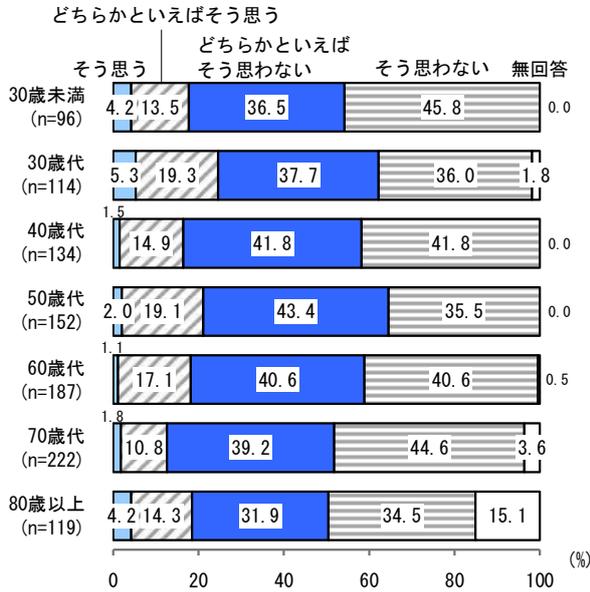


■国や自治体は、外国人に対するヘイトスピーチを繰り返す団体に、毅然とした態度をとる必要がある

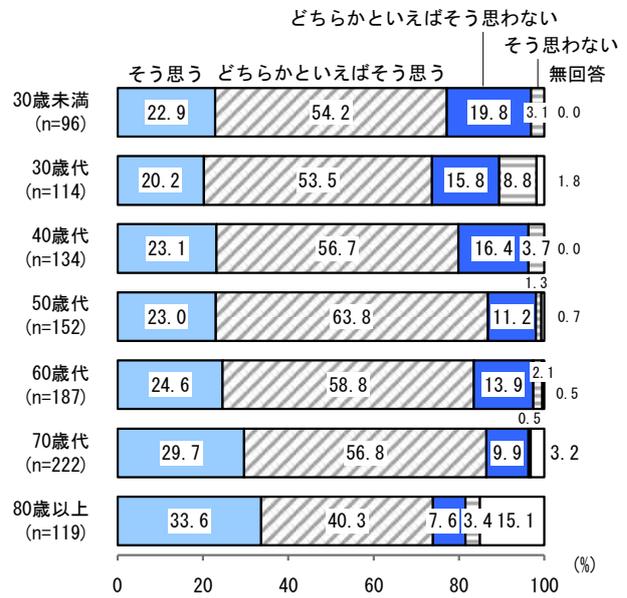


【年齢別③】

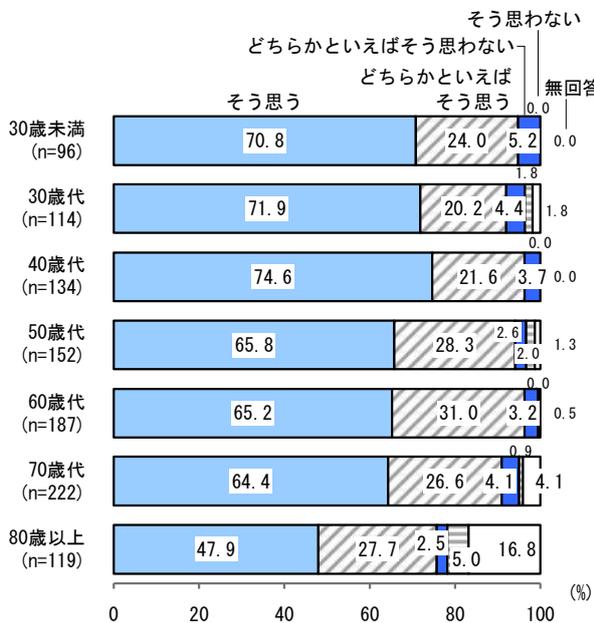
■ 罪を犯した人の家族が非難されるのは仕方がない



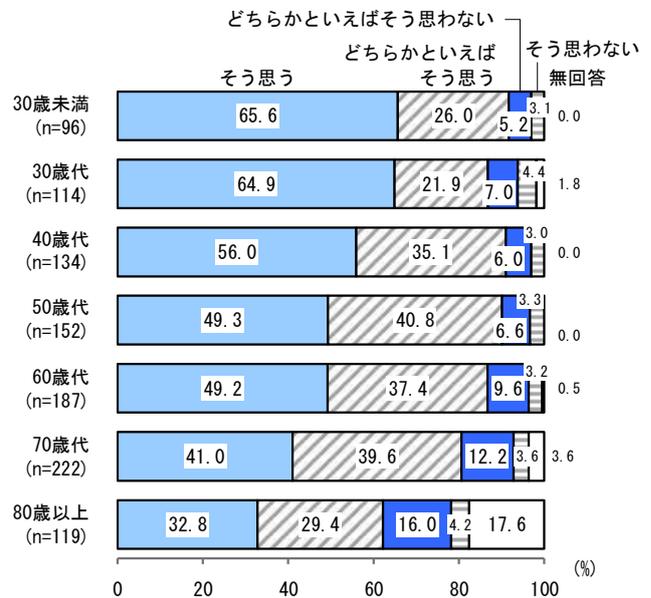
■ 刑を終えて出所した人を、社会復帰できるように地域社会で支える必要がある



■ 犯罪被害者のプライバシーが興味本位に取り上げられることは問題だ

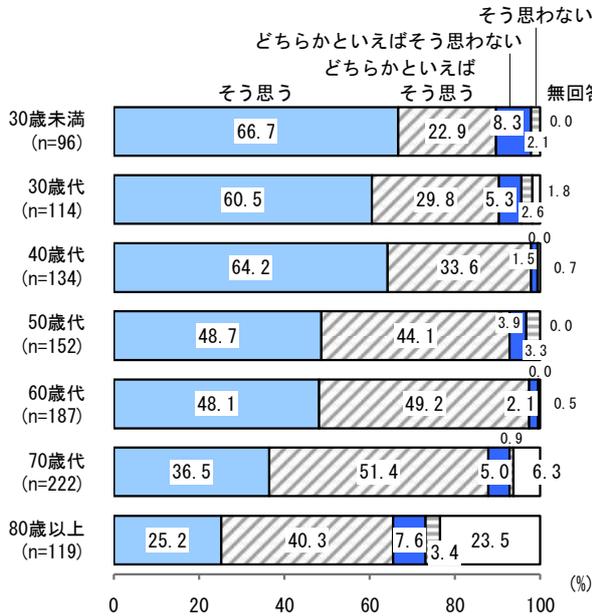


■ 凶悪事件の場合は、犯人が未成年者であっても犯人の実名を公表することはやむをえない

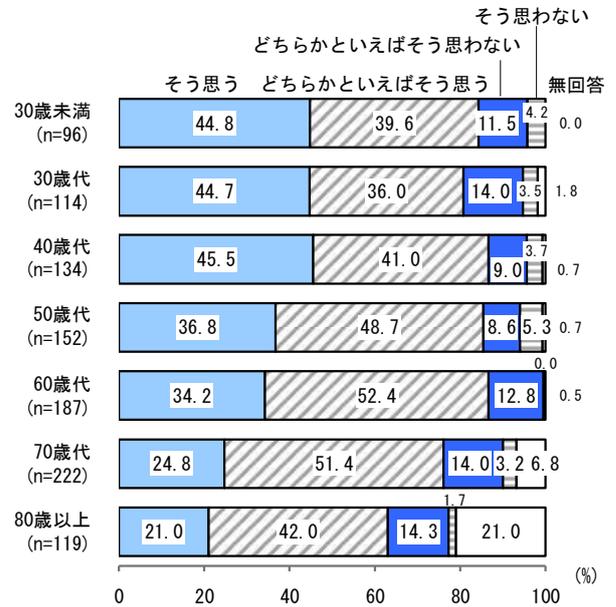


【年齢別④】

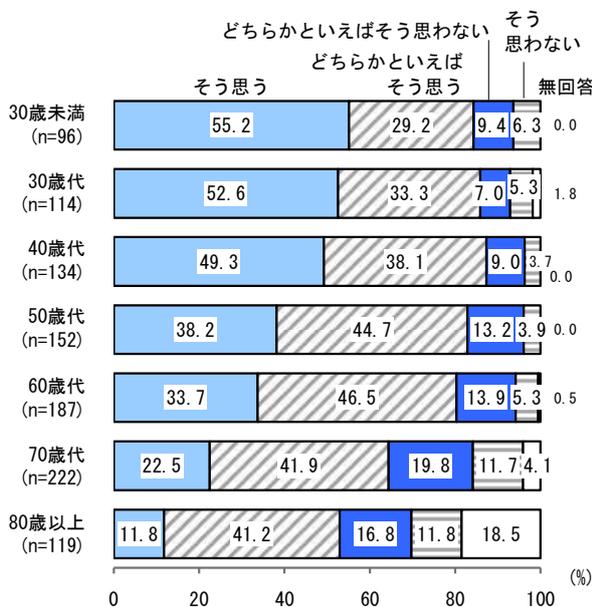
■自分の子どもが性的マイノリティ（LGBTQ等）であっても、親として子どもの側に立ち、力になる必要がある



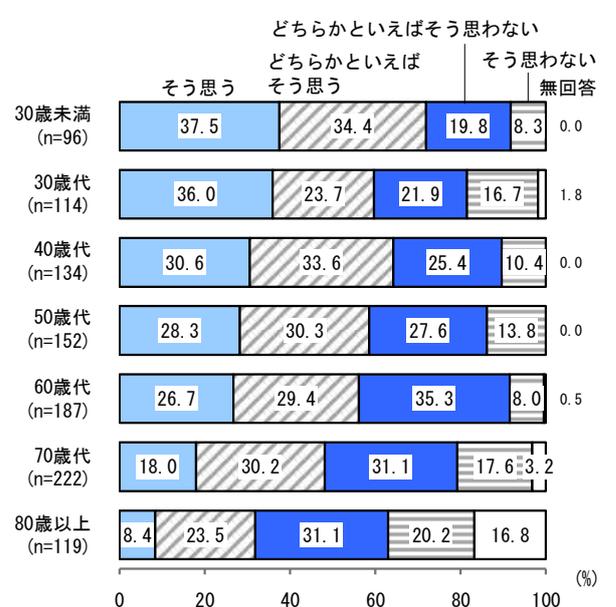
■性的マイノリティ（LGBTQ等）であることを身近な人にも言えない社会は問題だ



■同性カップルにも夫婦と同じ権利を認める必要がある



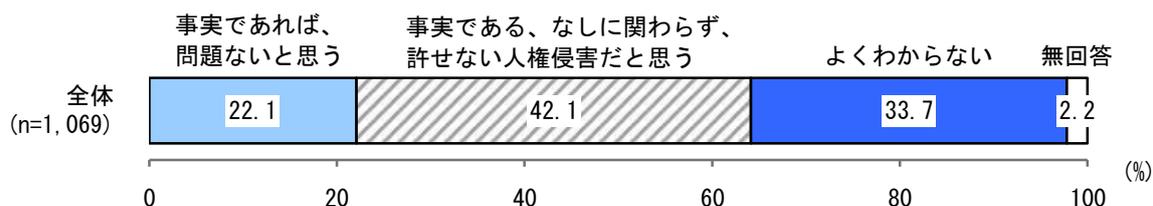
■就職の面接で人事担当者が就職希望者に家族構成を聞くことは問題だ



14. 有名人が在日外国人であると暴露する書き込みについて

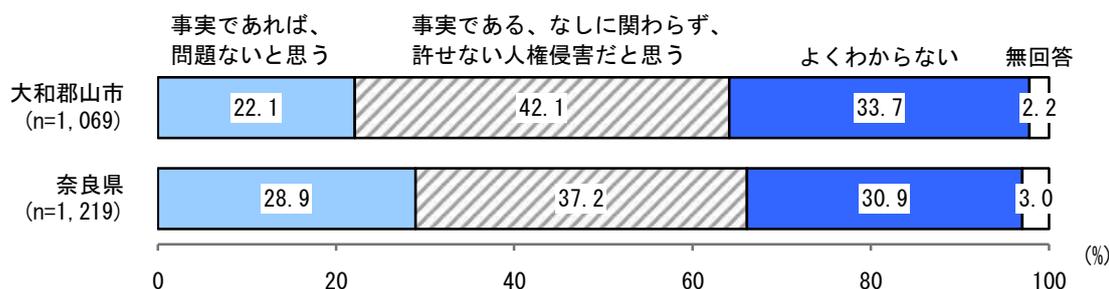
問13 インターネットやSNS等に、歌手、タレント、スポーツ選手などの有名人の名前をあげて、日本名を使っているが在日外国人であると暴露する書き込みがあることについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つだけ)

有名人が在日外国人であると暴露する書き込みについては、「事実である、なしに関わらず、許せない人権侵害だと思う」が42.1%で最も多く、次いで「よくわからない」が33.7%、「事実であれば、問題ないと思う」が22.1%となっています。



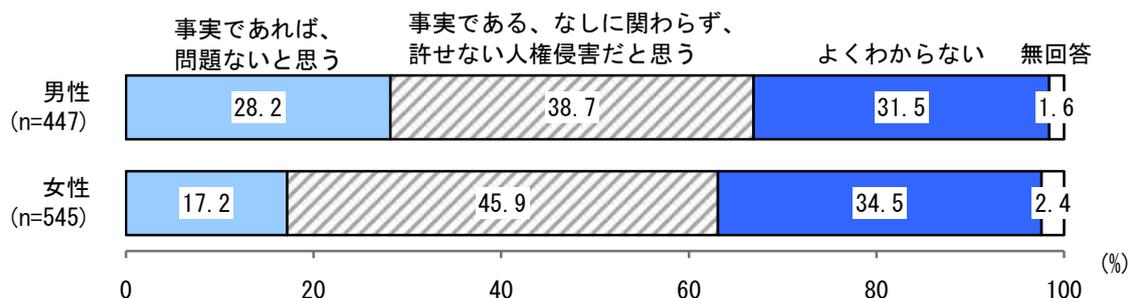
【奈良県との比較】

「事実であれば、問題ないと思う」の割合は、奈良県 (28.9%) より6.8ポイント低くなっています。



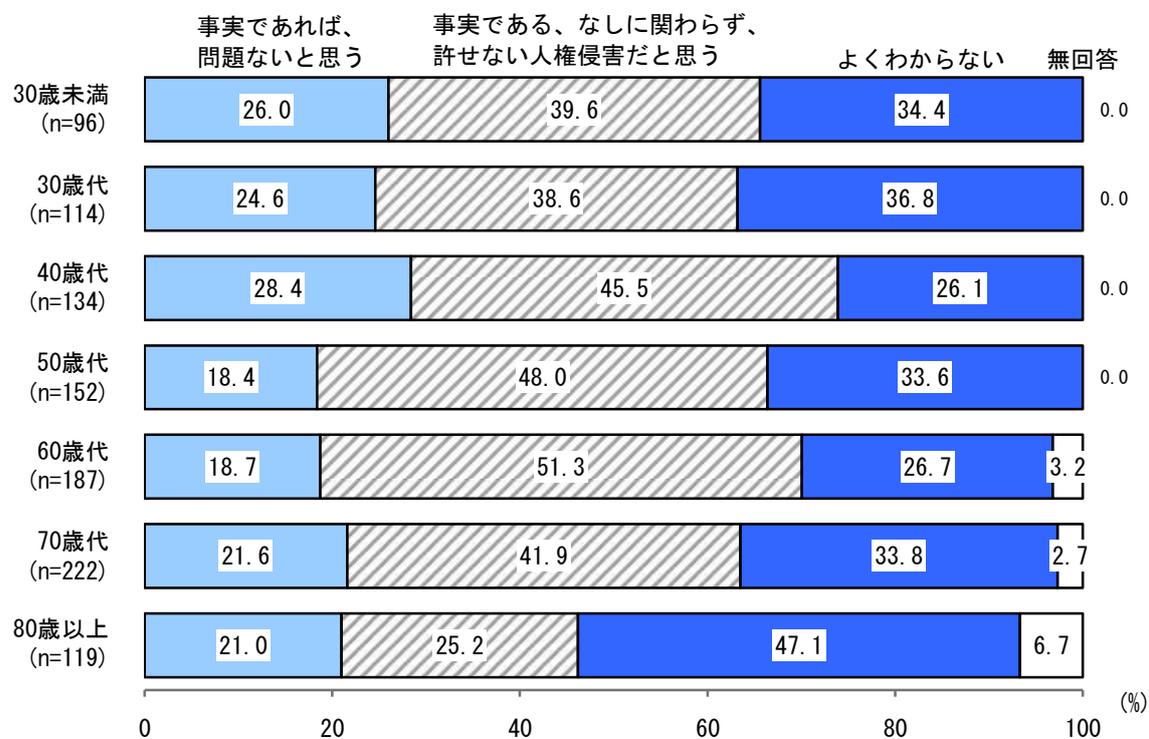
【性別】

性別でみると、「事実であれば、問題ないと思う」の割合は女性 (17.2%) より男性 (28.2%) のほうが11.0ポイント高くなっています。



【年齢別】

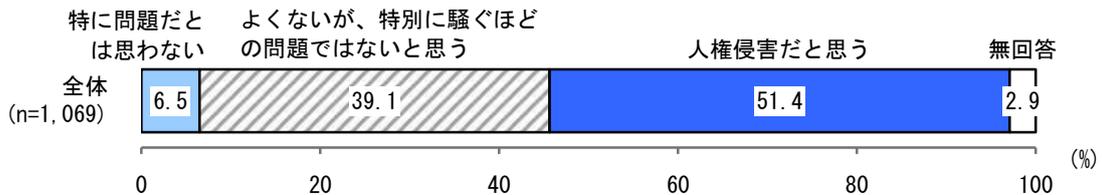
年齢別でみると、「事実であれば、問題ないと思う」は40歳代が28.4%で最も高く、次いで30歳未満が26.0%となっています。



15. 同和地区の所在地リストの掲載について

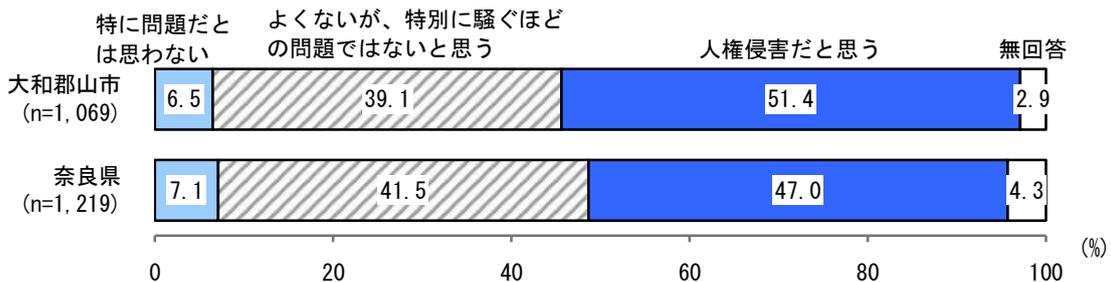
問14 最近、インターネットや YouTube、SNS等で「同和地区の所在地リスト」を掲載することが行われていることについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つだけ)

同和地区の所在地リストが掲載されていることについては、「人権侵害だと思う」が51.4%で最も多く、次いで「よくないが、特別に騒ぐほどの問題ではないと思う」が39.1%、「特に問題だとは思わない」が6.5%となっています。



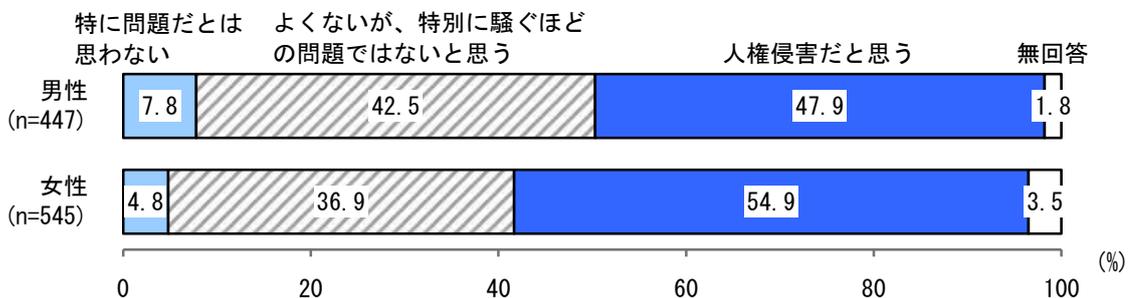
【奈良県との比較】

「人権侵害だと思う」の割合は、奈良県（47.0%）より4.4ポイント高くなっています。



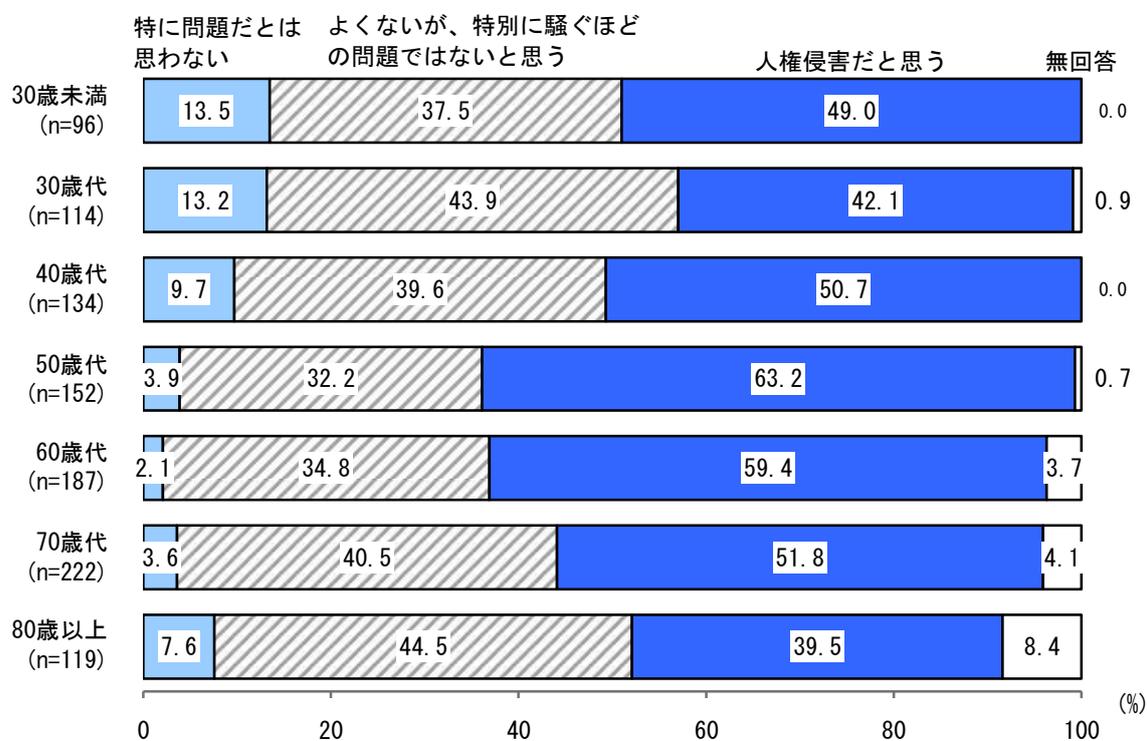
【性別】

性別で見ると、「人権侵害だと思う」の割合は、男性（47.9%）より女性（54.9%）のほうが7.0ポイント高くなっています。



【年齢別】

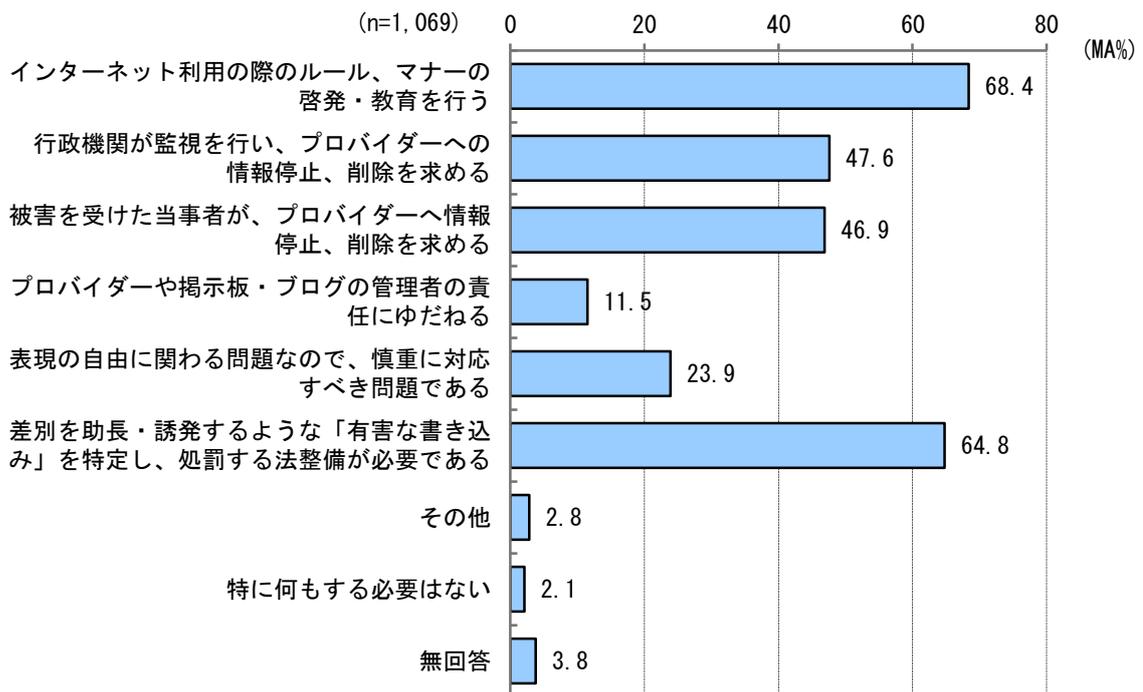
年齢別でみると、「人権侵害だと思う」は50歳代が63.2%で最も高く、次いで60歳代が59.4%、70歳代が51.8%となっています。



16. インターネットでの人権が守られるために必要なこと

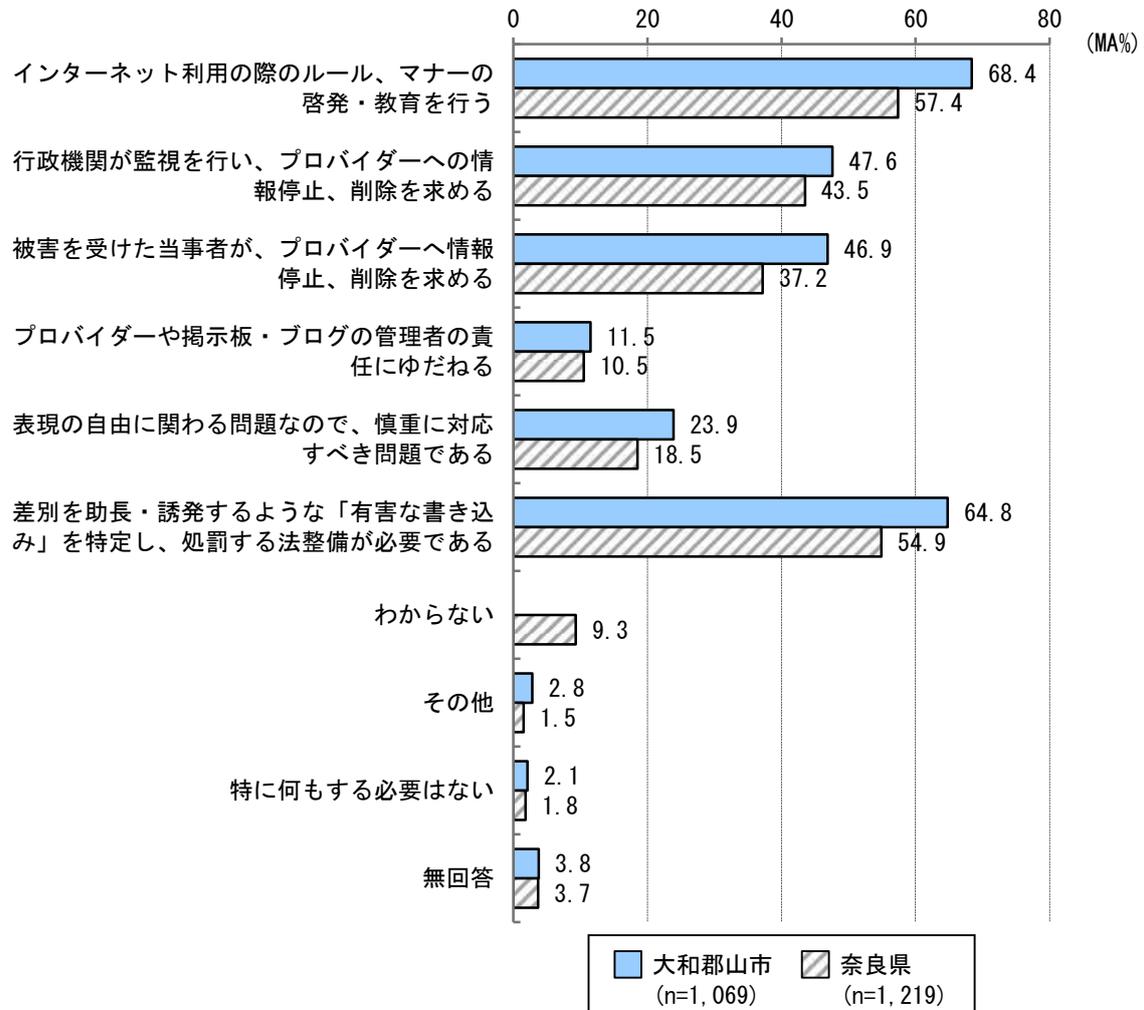
問15 インターネットでの人権が守られるためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

インターネットでの人権が守られるために必要なことについては、「インターネット利用の際のルール、マナーの啓発・教育を行う」が68.4%で最も多く、次いで「差別を助長・誘発するような「有害な書き込み」を特定し、処罰する法整備が必要である」が64.8%、「行政機関が監視を行い、プロバイダーへの情報停止、削除を求める」が47.6%、「被害を受けた当事者が、プロバイダーへ情報停止、削除を求める」が46.9%、「プロバイダーや掲示板・ブログの管理者の責任にゆだねる」が11.5%、「表現の自由に関わる問題なので、慎重に対応すべき問題である」が23.9%、「差別を助長・誘発するような「有害な書き込み」を特定し、処罰する法整備が必要である」が64.8%、「その他」が2.8%、「特に何もする必要はない」が2.1%、「無回答」が3.8%となっています。



【奈良県との比較】

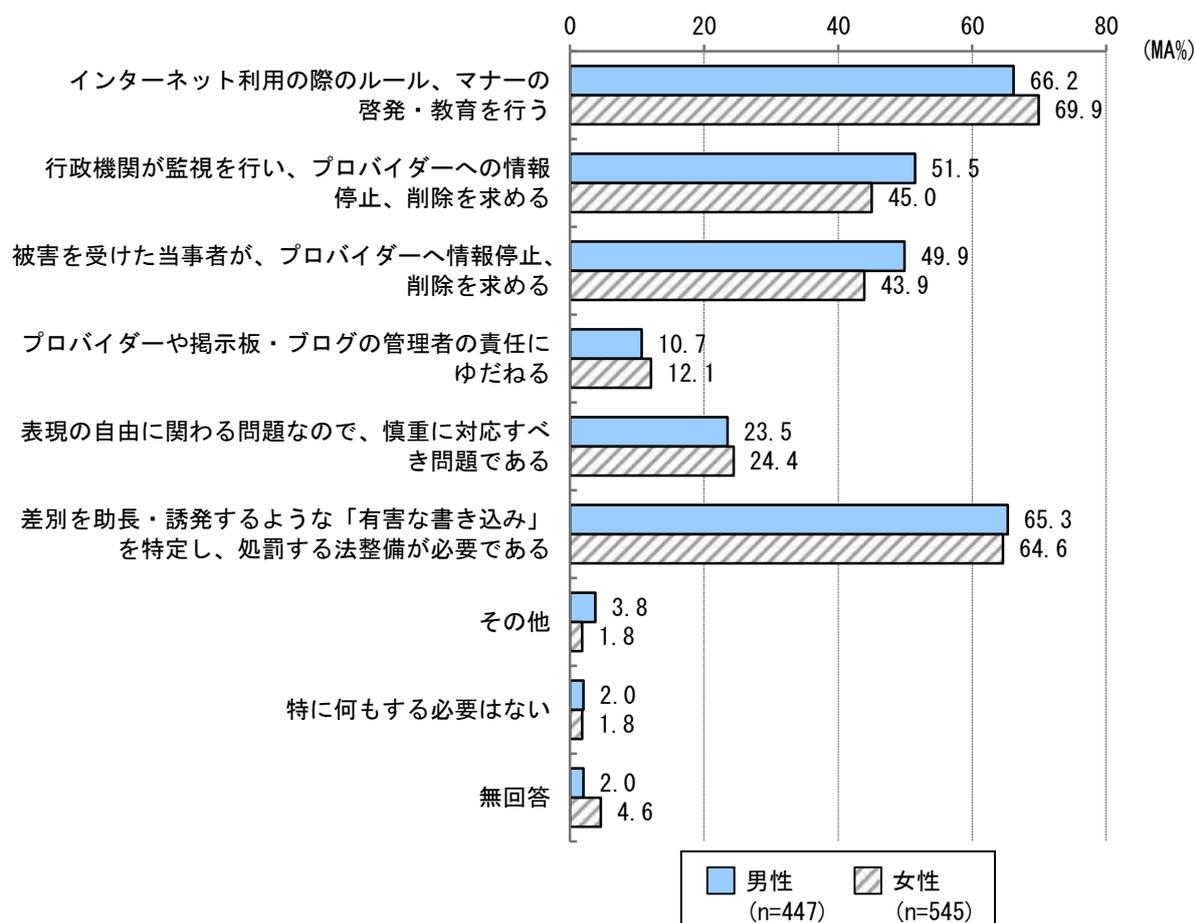
「インターネット利用の際のルール、マナーの啓発・教育を行う」の割合は、奈良県（57.4%）より11.0ポイント、「差別を助長・誘発するような「有害な書き込み」を特定し、処罰する法整備が必要である」は奈良県（54.9%）より9.9ポイント、それぞれ高くなっています。



※奈良県調査の「わからない」の選択肢は、本市調査ではありません。

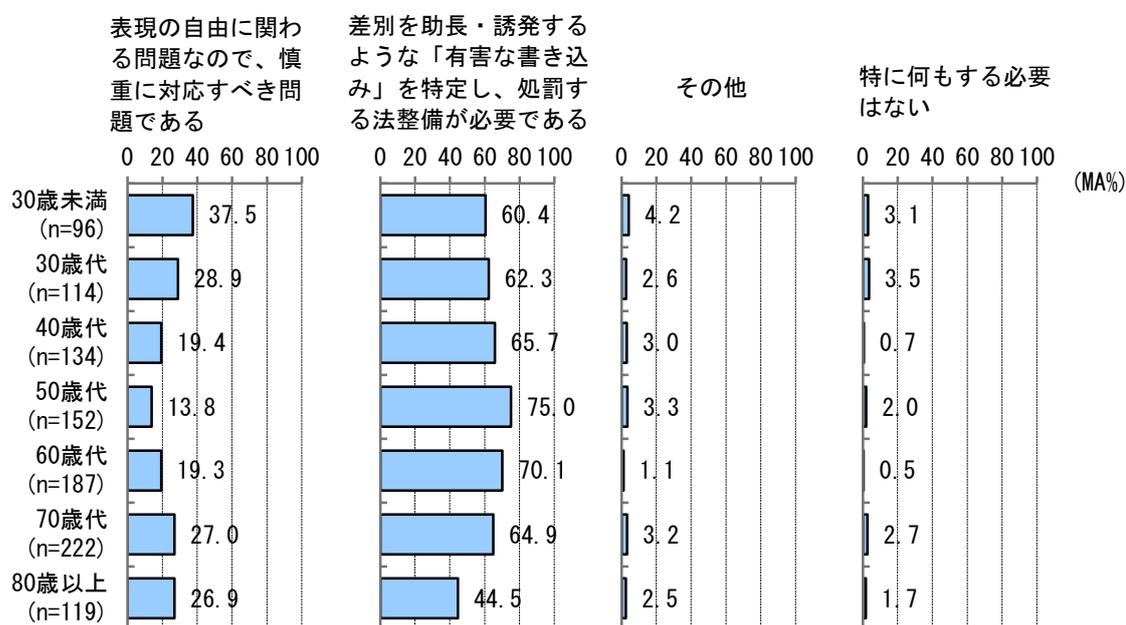
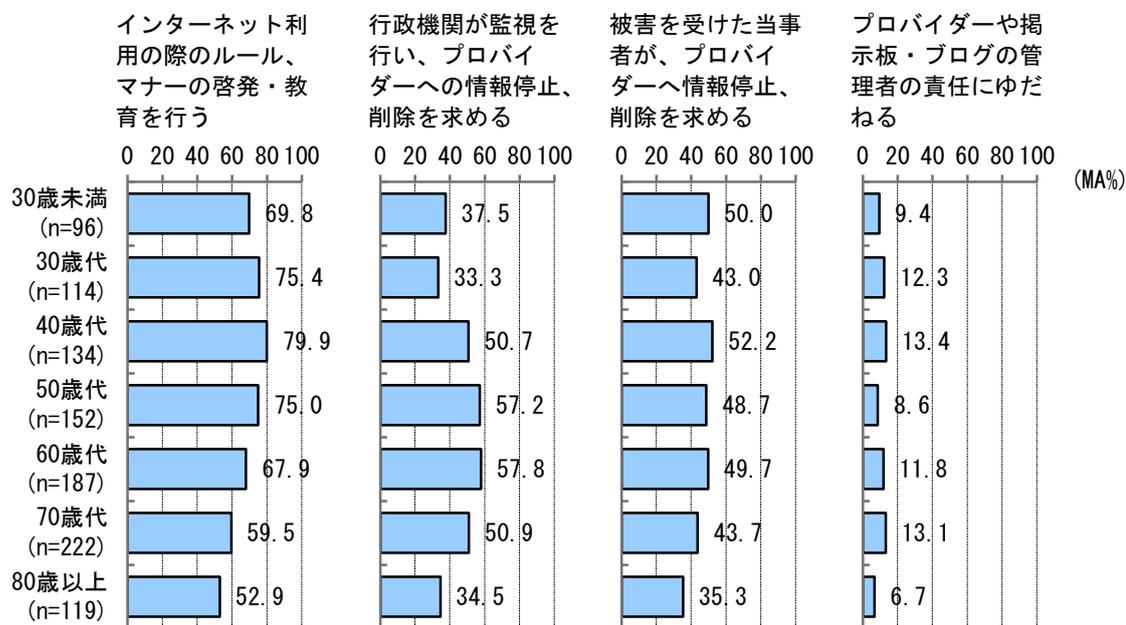
【性別】

性別で見ると、「行政機関が監視を行い、プロバイダーへの情報停止、削除を求める」の割合は女性（45.0%）より男性（51.5%）のほうが6.5ポイント、「被害を受けた当事者が、プロバイダーへ情報停止、削除を求める」も女性（43.9%）より男性（49.9%）のほうが6.0ポイント、それぞれ高くなっています。



【年齢別】

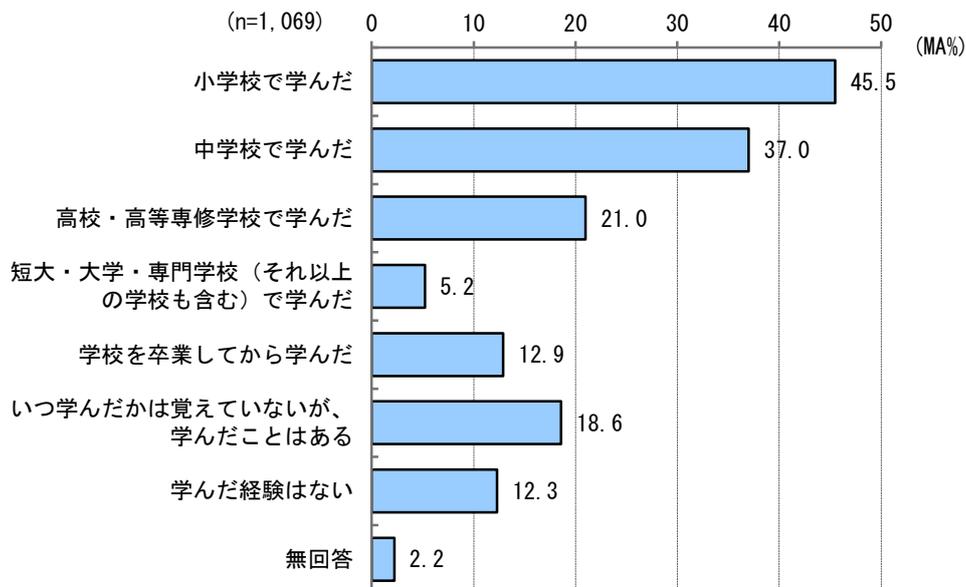
年齢別でみると、「インターネット利用の際のルール、マナーの啓発・教育を行う」、「被害を受けた当事者が、プロバイダーへ情報停止、削除を求める」、「プロバイダーや掲示板・ブログの管理者の責任にゆだねる」はいずれも40歳代で最も高い割合となっています。



17. 同和問題や人権問題の学習経験

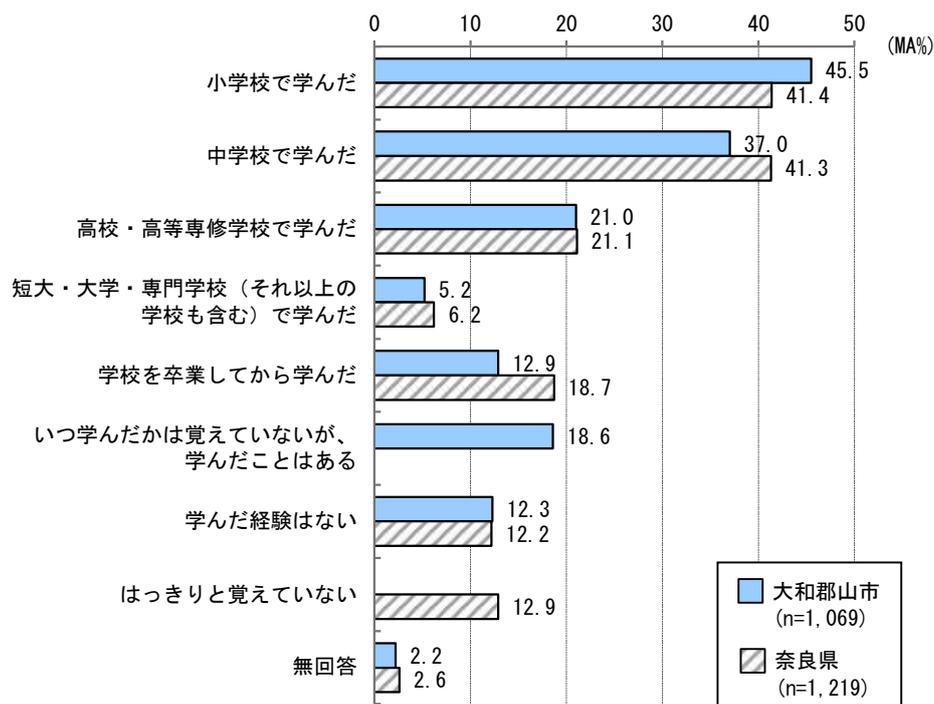
問16 あなたは、同和問題や人権問題について、学校の授業で学んだことはありますか。
(〇はいくつでも)

同和問題や人権問題について、学校の授業で学んだ経験については、「小学校で学んだ」が45.5%で最も多く、次いで「中学校で学んだ」が37.0%、「高校・高等専修学校で学んだ」が21.0%となっています。



【奈良県との比較】

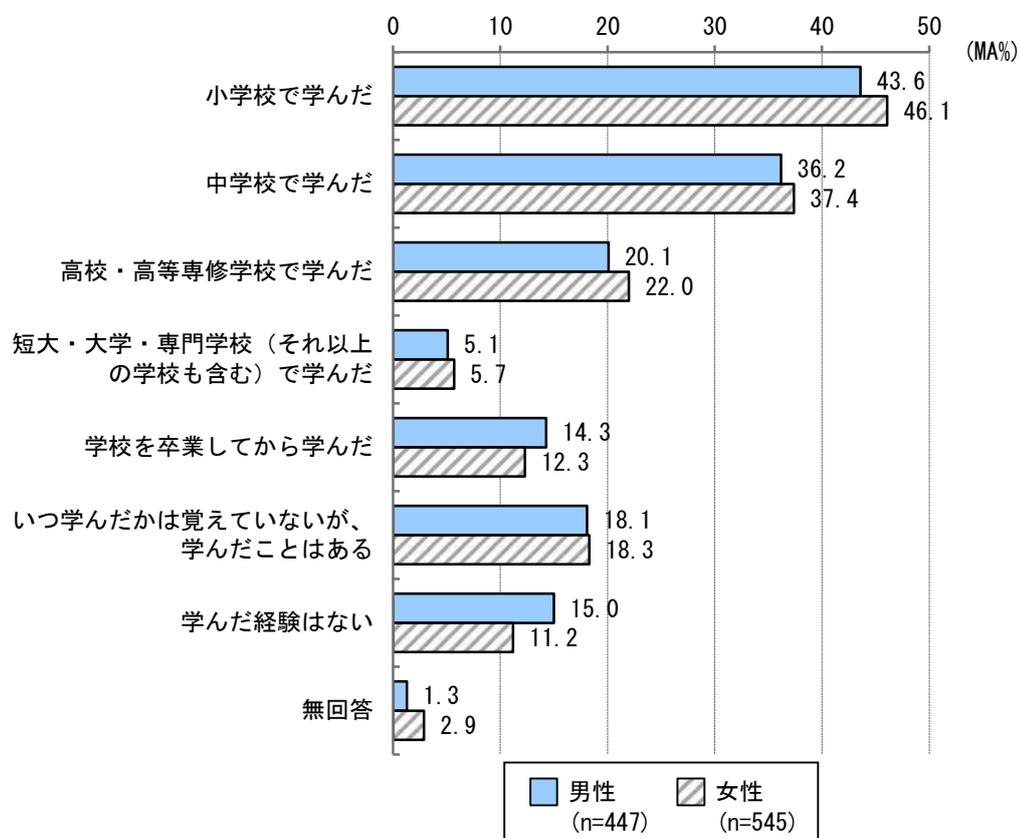
「小学校で学んだ」の割合は、奈良県（41.4%）より4.1ポイント高くなっています。



※奈良県では、「いつ学んだかは覚えていないが、学んだことはある」の選択肢はありませんでした。
また、奈良県の「はっきりと覚えていない」は、本市調査ではありません。

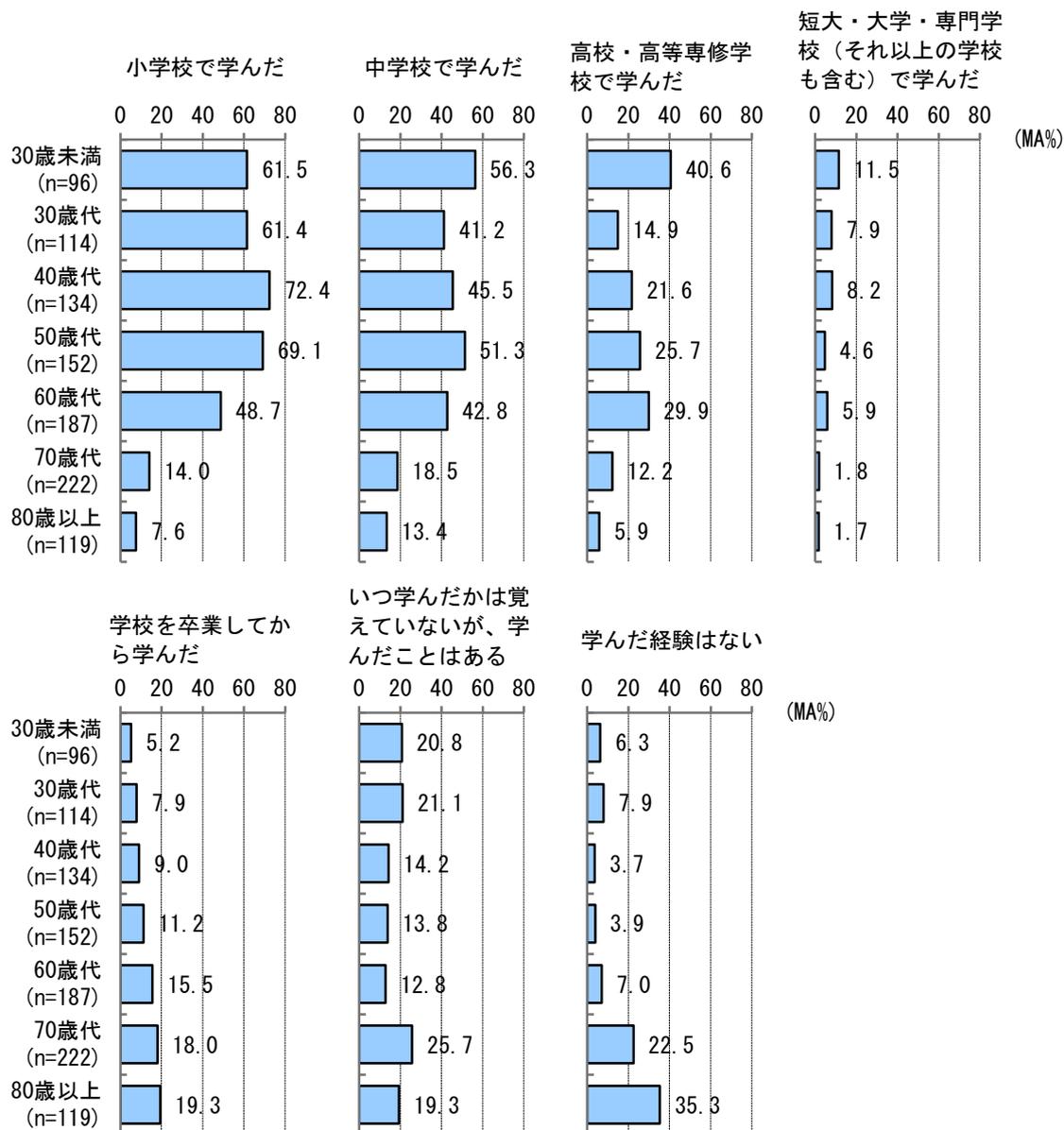
【性別】

性別で見ると、「学んだ経験はない」の割合は女性（11.2%）より男性（15.0%）のほうが3.8ポイント高くなっています。



【年齢別】

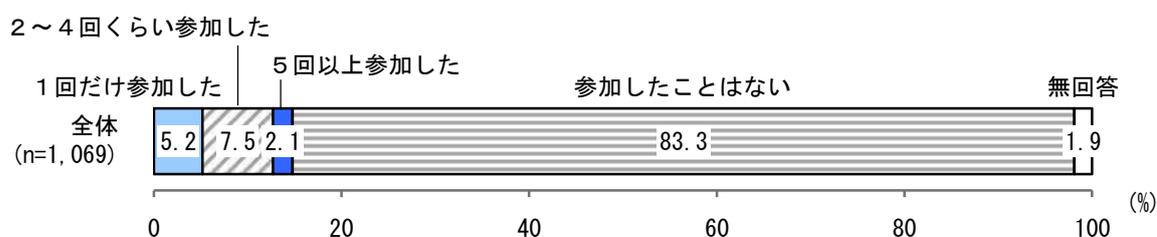
年齢別でみると、「中学校で学んだ」、「高校・高等専修学校で学んだ」、「短大・大学・専門学校（それ以上の学校も含む）で学んだ」はいずれも30歳未満が最も高い割合となっています。一方、「学んだ経験はない」は70歳代、80歳以上で2割を超えています。



18. 人権問題に関するイベント等参加経験

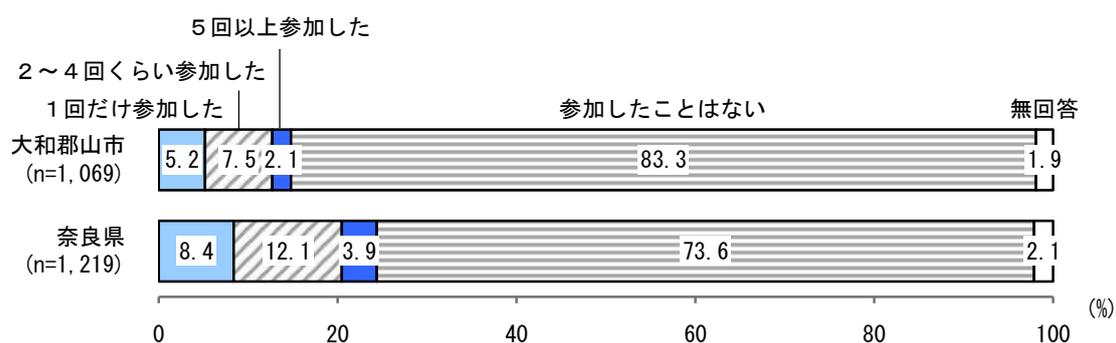
問17 最近（3年程度）、人権問題に関するイベントや講演会、研修会、学習会などに参加したことがありますか。（○は1つ）

最近、人権問題に関するイベントなどの参加状況は、「参加したことはない」が83.3%で最も多く、次いで「2～4回くらい参加した」が7.5%、「1回だけ参加した」が5.2%となっています。



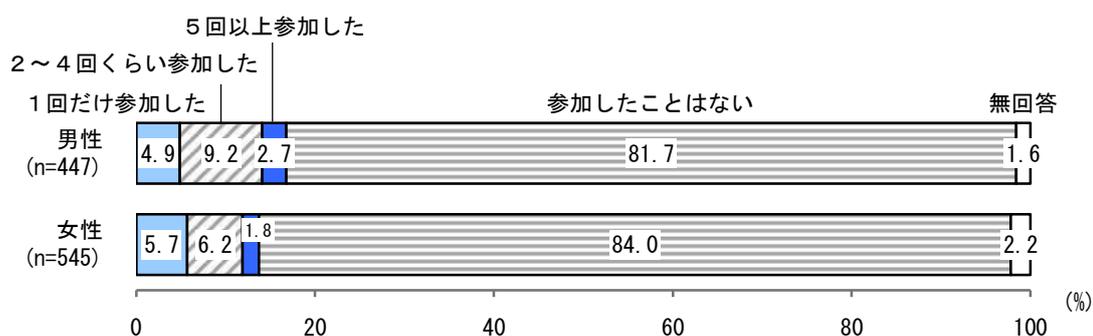
【奈良県との比較】

「参加したことはない」の割合は、奈良県（73.6%）より9.7ポイント高くなっています。



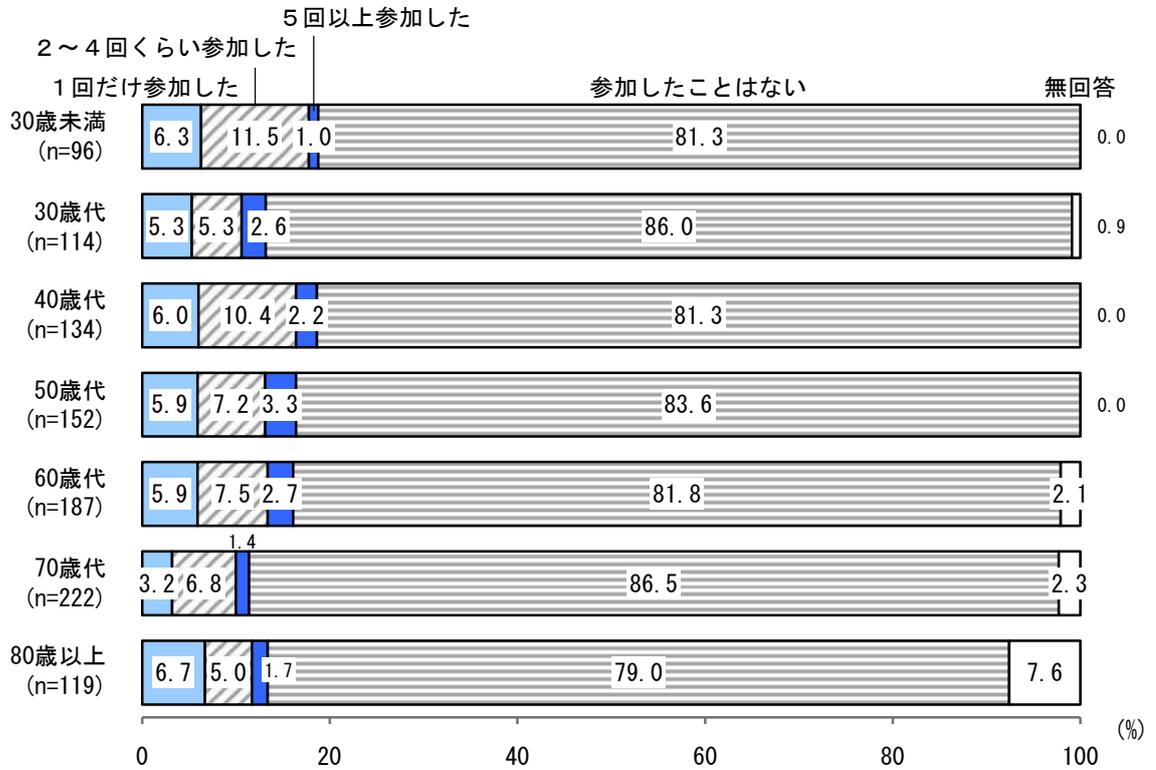
【性別】

性別で見ると、「参加したことはない」の割合は、男性（81.7%）より女性（84.0%）のほうが2.3ポイント高くなっています。



【年齢別】

年齢別でみると、「参加したことはない」の割合は、70歳代が86.5%で最も高く、次いで30歳代（86.0%）となっています。

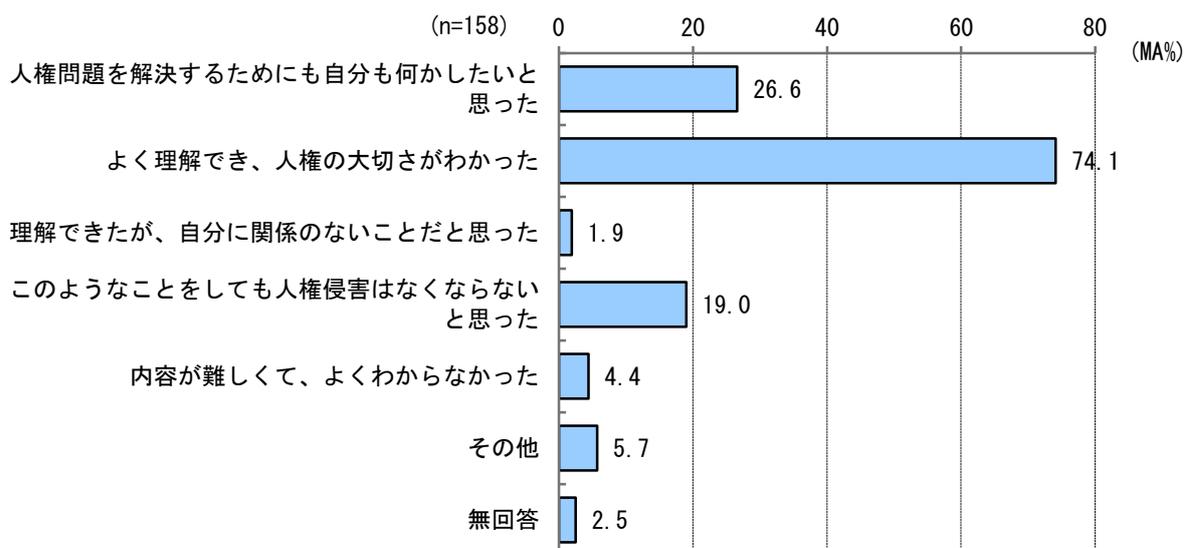


18-1. 人権問題に関するイベント等に参加した感想

問【問17で「1」～「3」とお答えいただいた方にお聞きします】

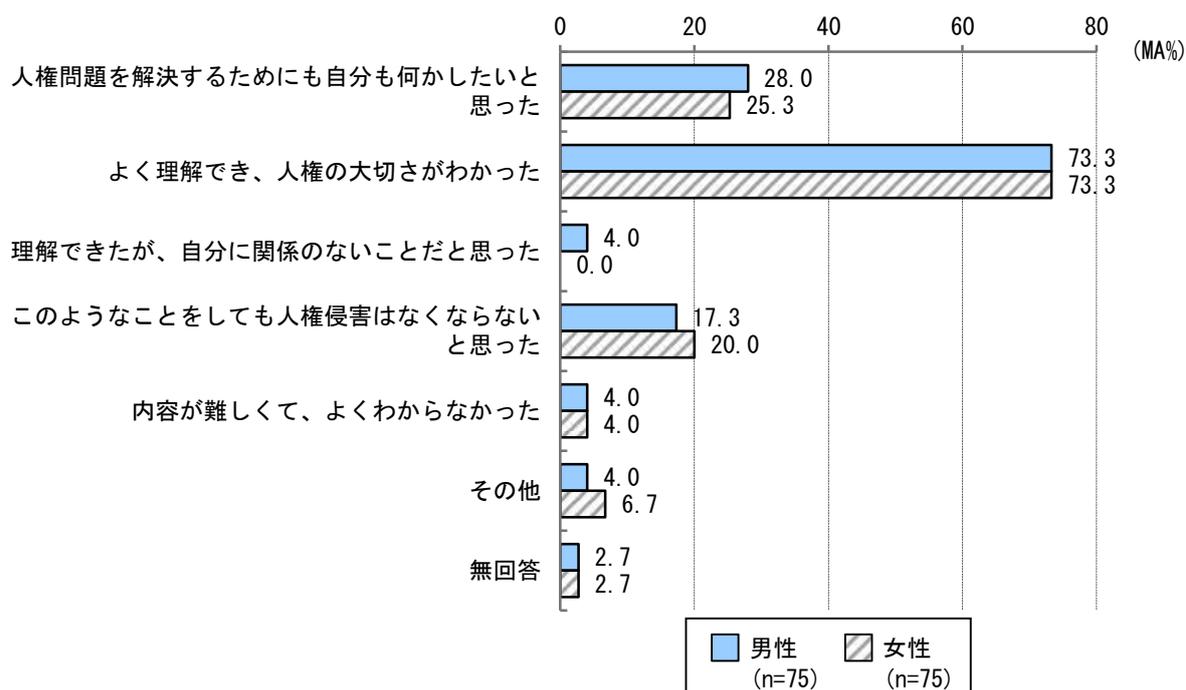
問17-1 人権問題に関するイベントや講演会、研修会、学習会に参加して、どのような印象や感想を持ちましたか。(〇はいくつでも)

人権問題に関するイベントなどに参加したと回答した人に、その印象や感想をたずねると、「よく理解でき、人権の大切さがわかった」が74.1%で最も多く、次いで「人権問題を解決するためにも自分も何かしたいと思った」が26.6%、「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」が19.0%となっています。



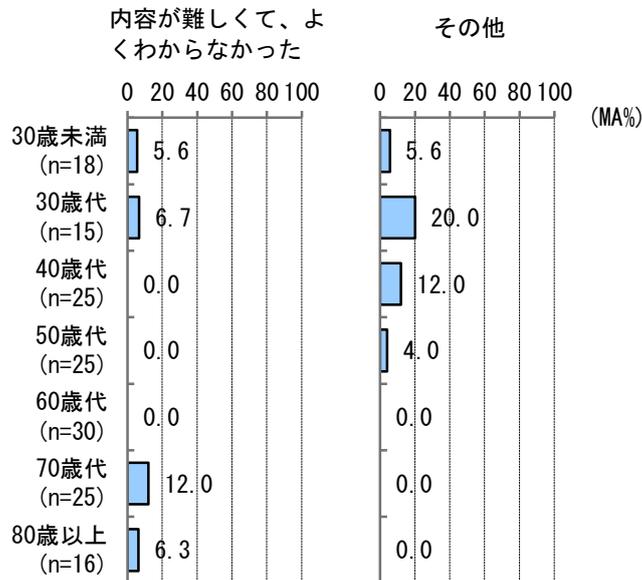
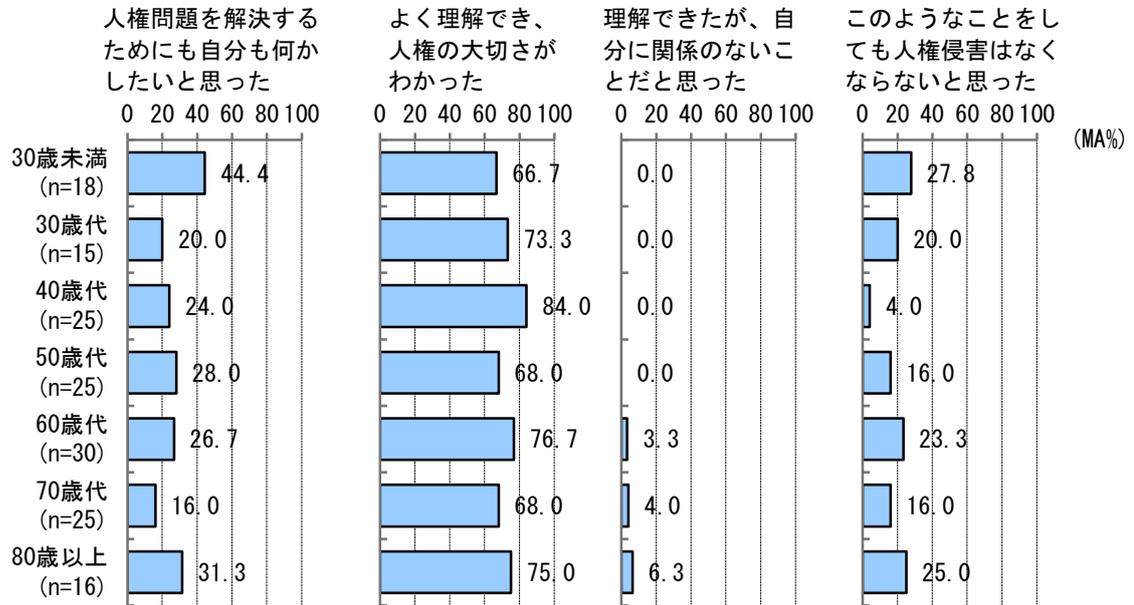
【性別】

性別でみると、「理解できたが、自分に関係のないことだと思った」の割合は、女性(0.0%)より男性(4.0%)のほうが4.0ポイント高くなっています。



【年齢別】

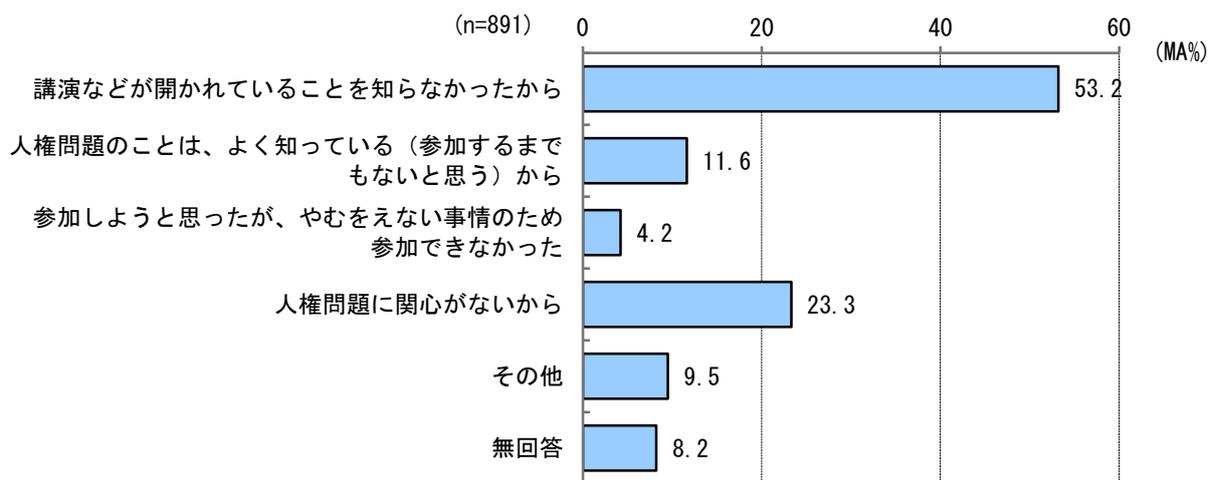
年齢別でみると、母数が少ないため一概にはいえませんが、「人権問題を解決するためにも自分も何かしたいと思った」は30歳未満が44.4%（8人）で最も高く、「よく理解でき、人権の大切さがわかった」は40歳代が84.0%（21人）で最も高い割合となっています。



18-2. 人権問題に関するイベント等に参加していない理由

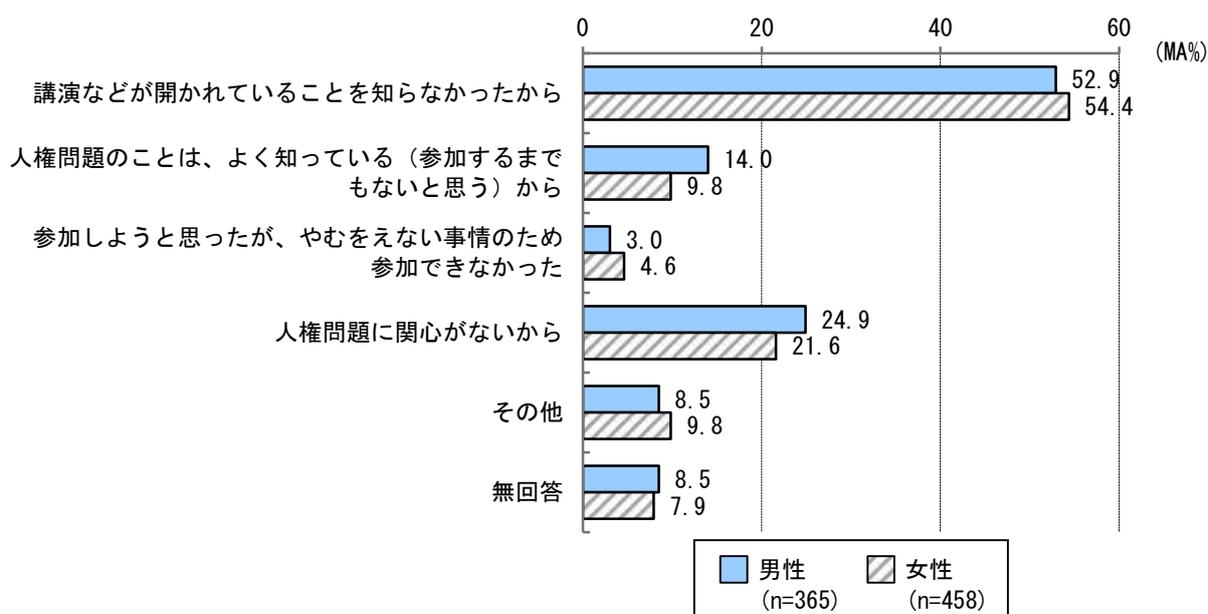
【問17で「4 参加したことはない」とお答えいただいた方にお聞きします】
 問17-2 どのような理由から参加しませんでしたか。(〇はいくつでも)

人権問題に関するイベント等に参加したことはないと回答した人に、その理由をたずねると、「講演などが開かれていることを知らなかったから」が53.2%で最も多く、次いで「人権問題に関心がないから」が23.3%、「人権問題のことは、よく知っている（参加するまでもないと思う）から」が11.6%となっています。



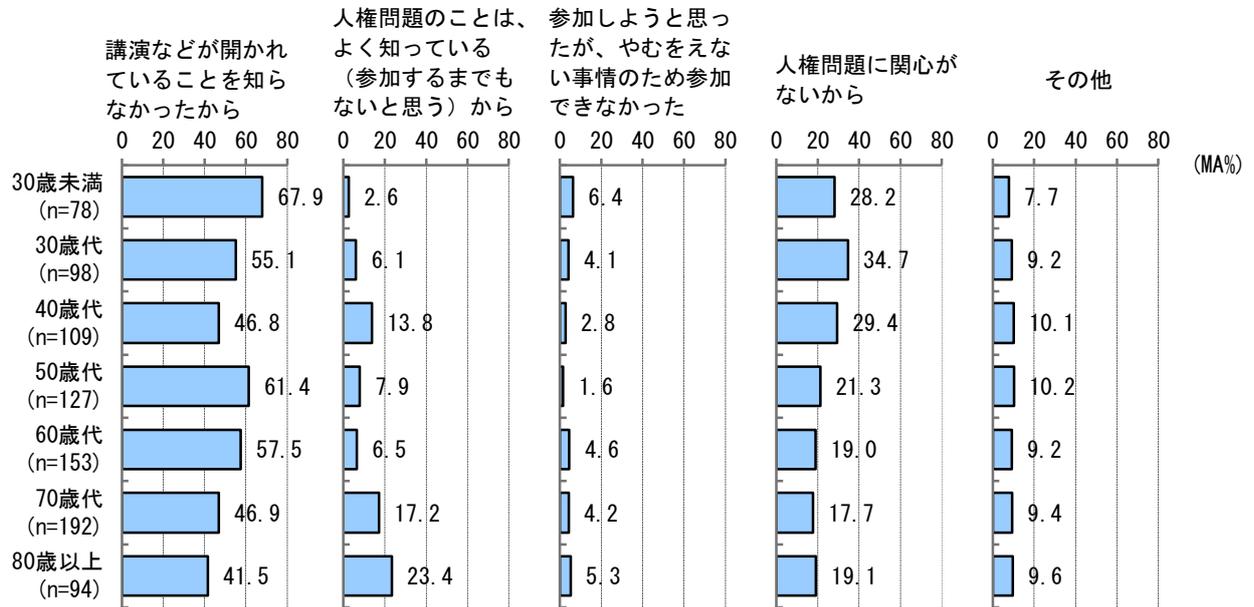
【性別】

性別でみると、「人権問題のことは、よく知っている（参加するまでもないと思う）から」の割合は、女性（9.8%）より男性（14.0%）のほうが4.2ポイント高くなっています。



【年齢別】

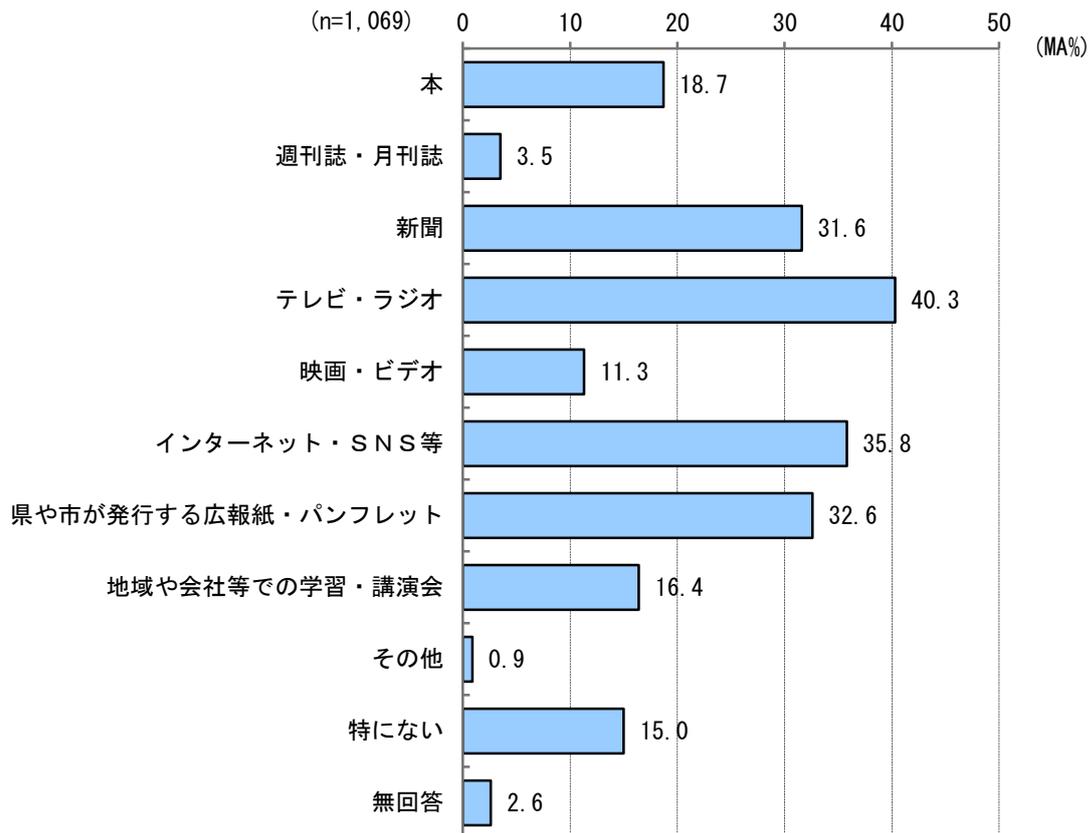
年齢別でみると、いずれの年齢も「講演などが開かれていることを知らなかったから」が最も多く、なかでも30歳未満が67.9%で最も高い割合となっています。



19. 人権問題についての情報収集や学習のために利用するもの

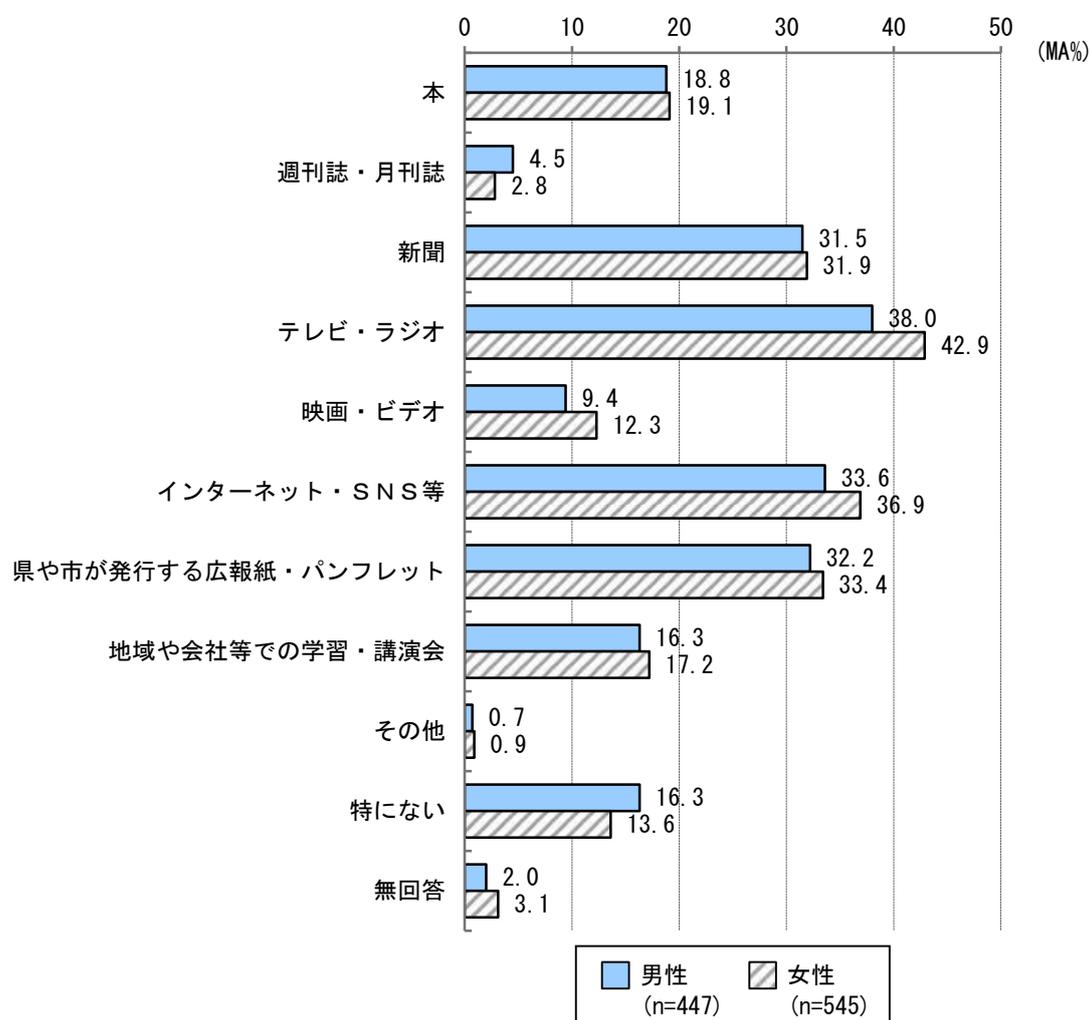
問18 人権問題について情報を得たり、学習したりするために利用するものは何ですか。
(〇はいくつでも)

人権問題についての情報収集や学習のために利用するものは、「テレビ・ラジオ」が40.3%で最も多く、次いで「インターネット・SNS等」が35.8%、「県や市が発行する広報紙・パンフレット」が32.6%、「新聞」が31.6%となっています。



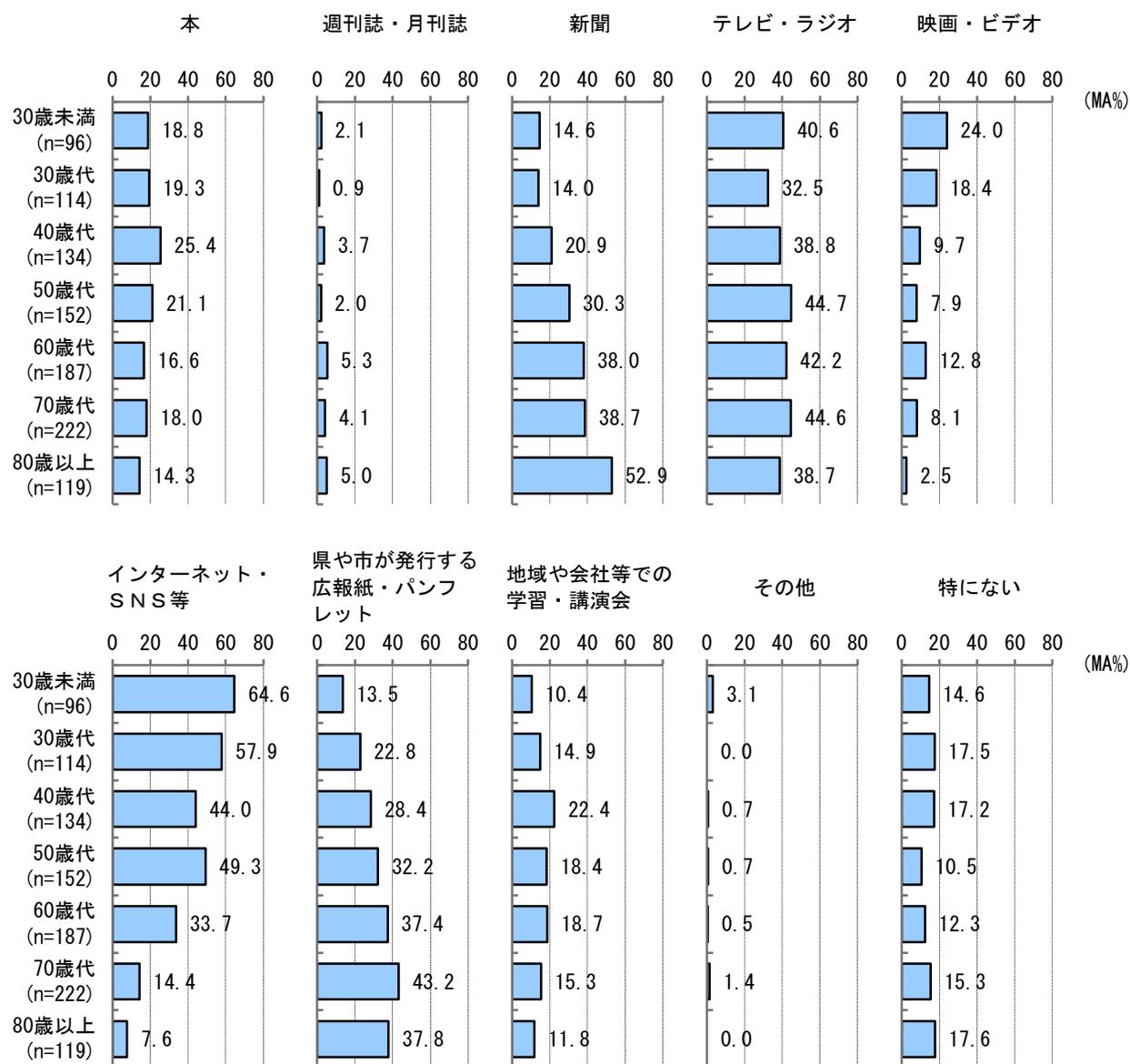
【性別】

性別で見ると、「週刊誌・月刊誌」を除くすべての項目で、男性より女性のほうが高い割合となっています。



【年齢別】

年齢別でみると、「新聞」、「テレビ・ラジオ」、「県や市が発行する広報紙・パンフレット」は、50歳以上の年代で3割以上と高くなっていますが、「映画・ビデオ」、「インターネット・SNS等」では30歳未満が最も高い割合となっています。

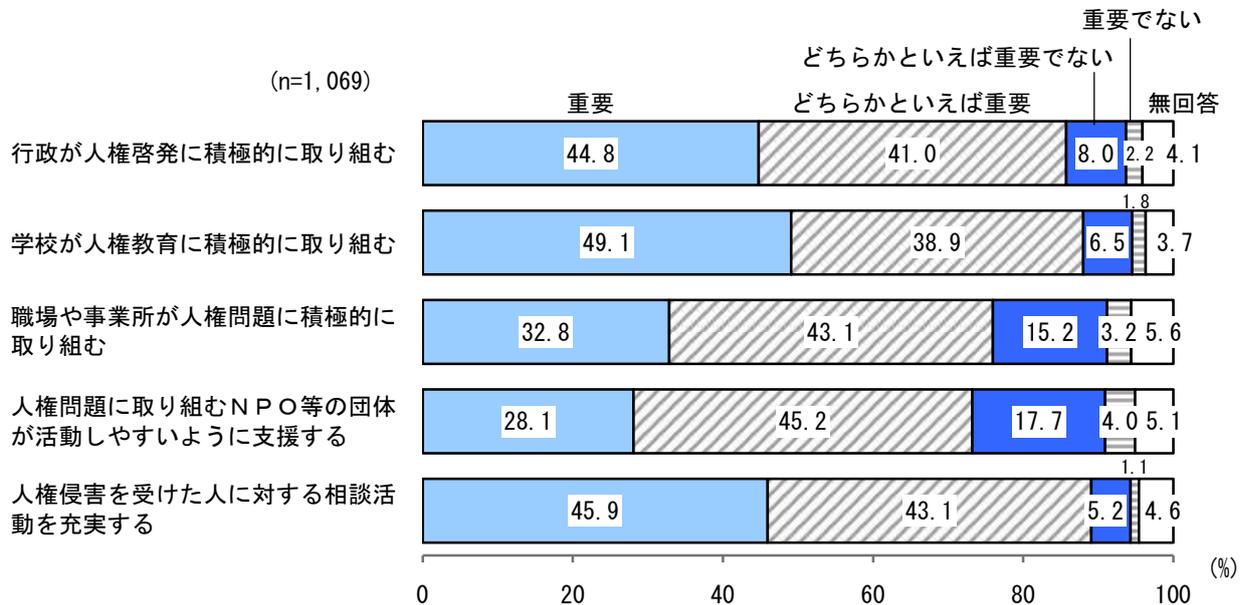


20. 人権尊重社会をつくるための取り組みについて

問19 人権の尊重された社会をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

人権尊重社会をつくるための取り組みについてたずねたところ、「重要」は“学校が人権教育に積極的に取り組む”が49.1%で最も高く、「どちらかといえば重要」を合わせた『重要』は“人権侵害を受けた人に対する相談活動を充実する”が89.0%で最も高く、次いで“学校が人権教育に積極的に取り組む”が88.0%、“行政が人権啓発に積極的に取り組む”が85.8%となっており、いずれの項目も7割以上を占めています。

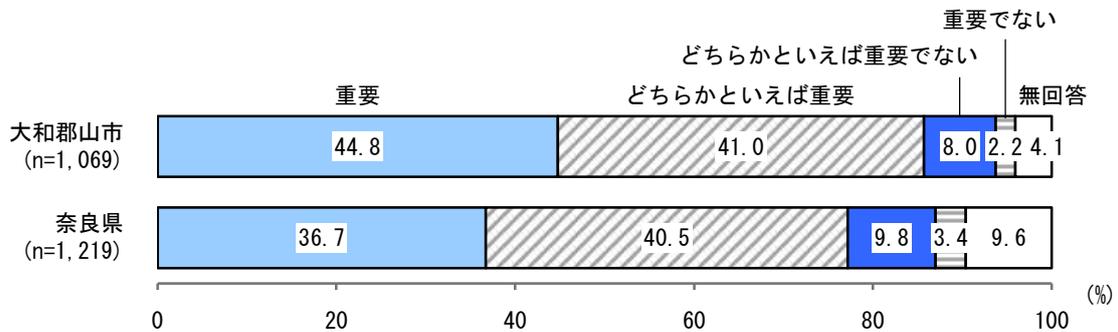
一方、「どちらかといえば重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“人権問題に取り組むNPO等の団体が活動しやすいように支援する”が21.7%で最も高くなっています。



【奈良県との比較】

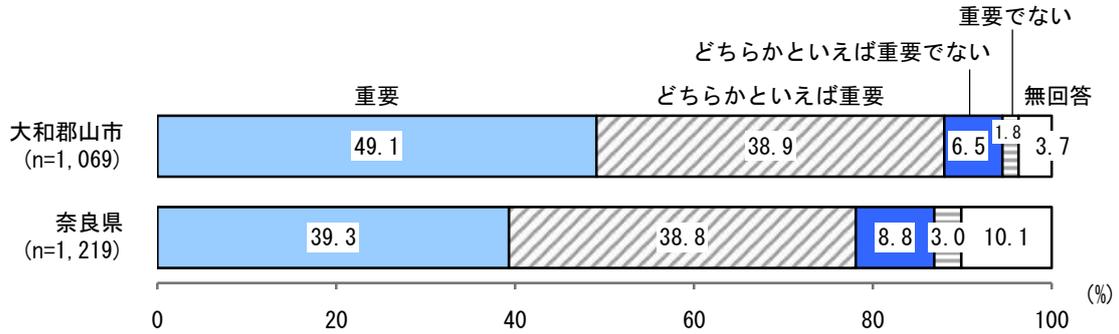
■行政が人権啓発に積極的に取り組む

『重要』の割合は、奈良県（77.2%）より8.6ポイント高くなっています。



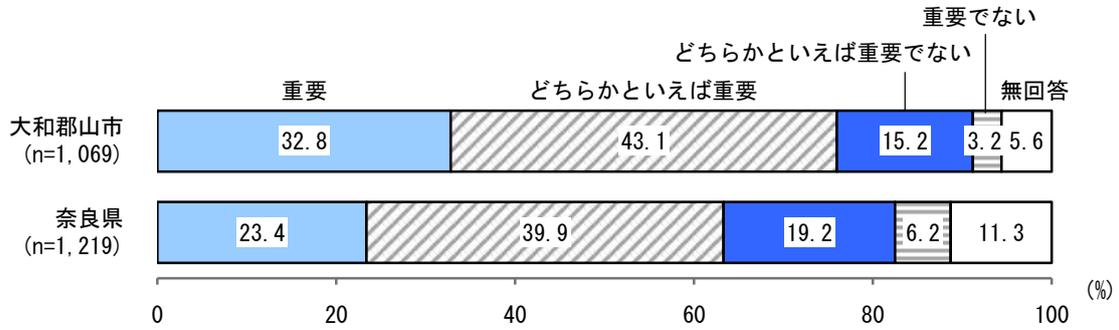
■学校が人権教育に積極的に取り組む

『重要』の割合は、奈良県（78.1%）より9.9ポイント高くなっています。



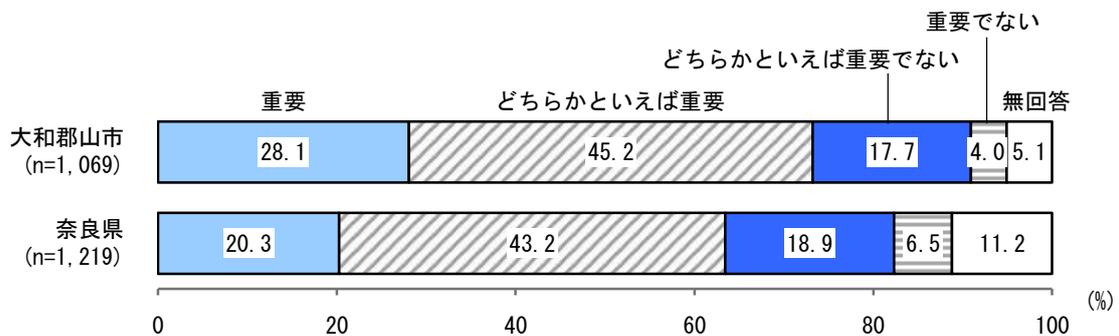
■職場や事業所が人権問題に積極的に取り組む

『重要』の割合は、奈良県（63.3%）より12.6ポイント高くなっています。



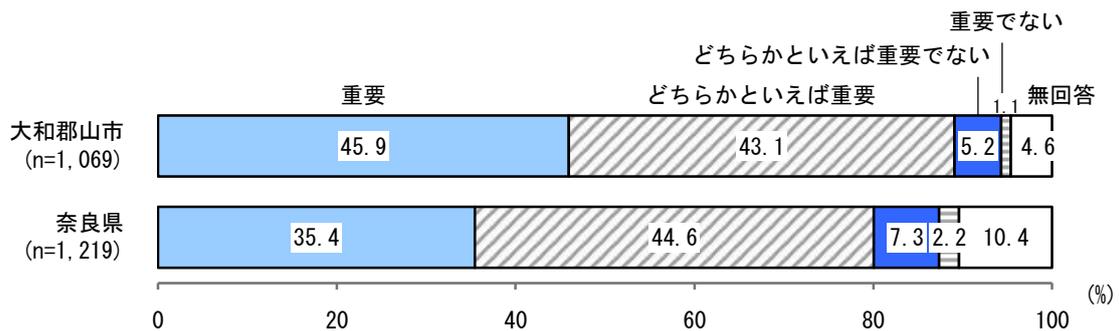
■人権問題に取り組むNPO等の団体が活動しやすいように支援する

『重要』の割合は、奈良県（63.5%）より9.8ポイント高くなっています。



■人権侵害を受けた人に対する相談活動を充実する

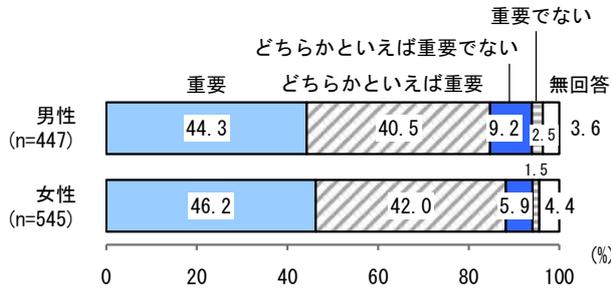
『重要』の割合は、奈良県（80.0%）より9.0ポイント高くなっています。



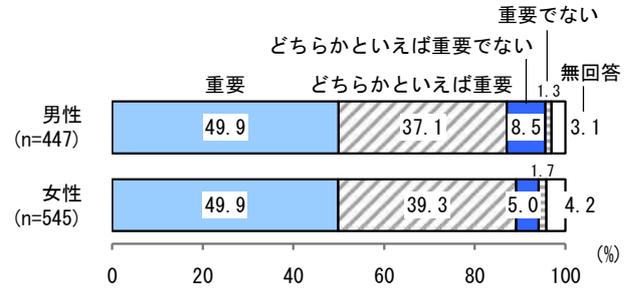
【性別】

性別でみると、『重要』の割合は、いずれも男性より女性のほうが高くなっています。

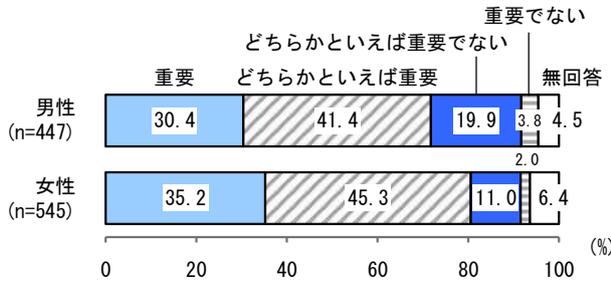
■行政が人権啓発に積極的に取り組む



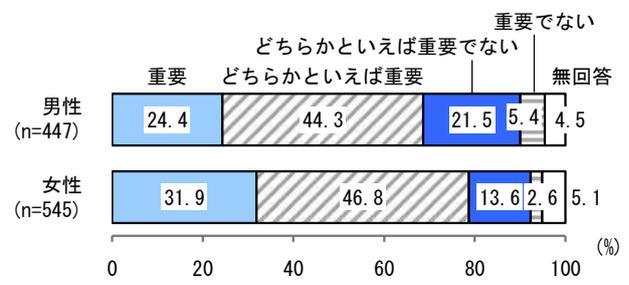
■学校が人権教育に積極的に取り組む



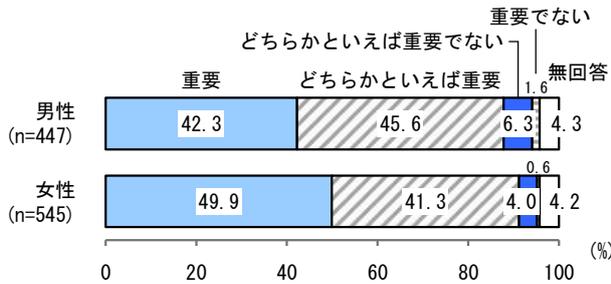
■職場や事業所が人権問題に積極的に取り組む



■人権問題に取り組むNPO等の団体が活動しやすいように支援する



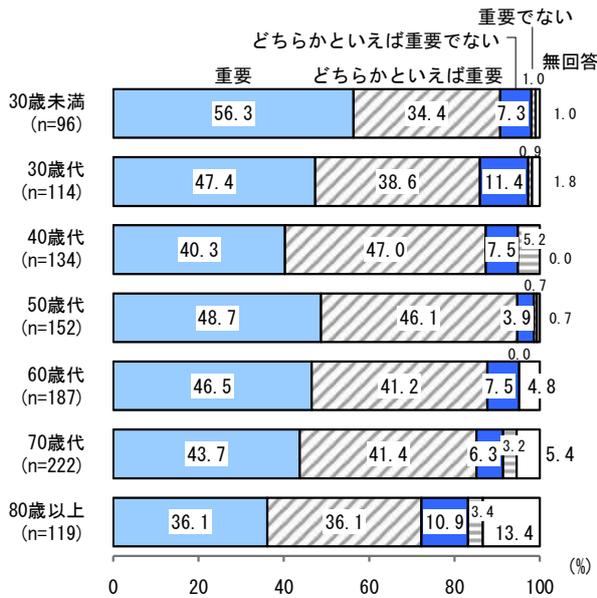
■人権侵害を受けた人に対する相談活動を充実する



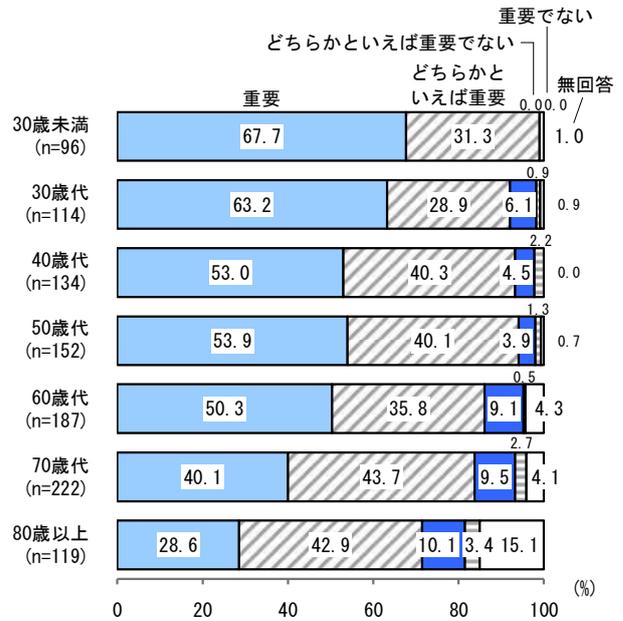
【年齢別①】

年齢別でみると、『重要』の割合は、“学校が人権教育に積極的に取り組む”、“職場や事業所が人権問題に積極的に取り組む”、“人権侵害を受けた人に対する相談活動を充実する”ではいずれも30歳未満が最も高いですが、“行政が人権啓発に積極的に取り組む”と“人権問題に取り組むNPO等の団体が活動しやすいように支援する”は50歳代が最も高くなっています。

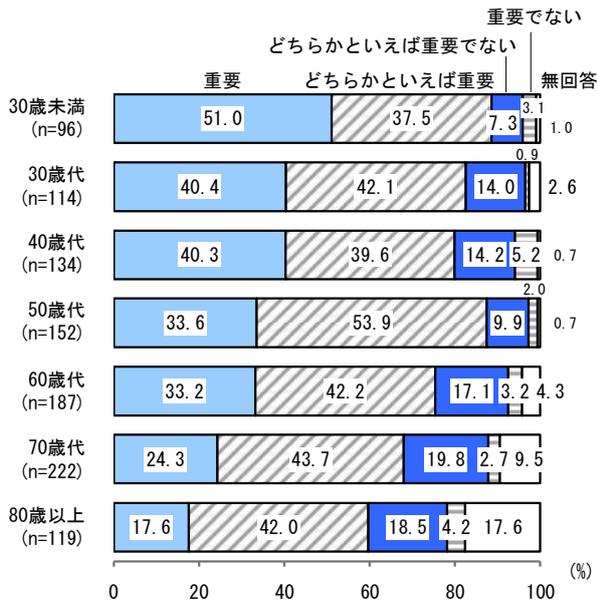
■行政が人権啓発に積極的に取り組む



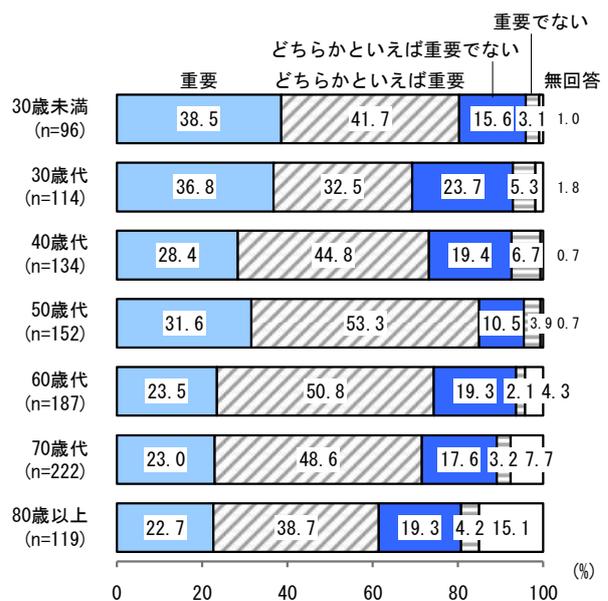
■学校が人権教育に積極的に取り組む



■職場や事業所が人権問題に積極的に取り組む



■人権問題に取り組むNPO等の団体が活動しやすいように支援する



【年齢別②】

■人権侵害を受けた人に対する相談活動を 充実する

